

# 2015年度放送大学大学院開設予定授業科目講義内容

2014年11月発行

第 14 版

放送大学学園  
学務部教務課

# 目 次

## 1. 生活健康科学プログラム

		頁	メディア	単位
番号				
1	生活ガバナンス研究（'15） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">環</span> ..... (2015年度開設科目).....	1	R	2
2	家族生活研究（'15） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">文</span> ..... (2015年度開設科目).....	5	R	2
3	食健康科学（'15） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">環</span> ..... (2015年度開設科目).....【自然環境科学プログラムと共通】..	8	TV	2
4	健康科学（'15） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">環</span> ..... (2015年度開設科目).....	11	R	2
5	生活リスクマネジメント（'11） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">文</span> ..... (2015年度開設科目).....	14	R	2
6	精神医学特論（'10） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">環</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">臨</span> .....【臨床心理学プログラムと共通】..	17	R	2
7	ヘルスリサーチの方法論（'13） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">文</span> ..... (2015年度開設科目).....	20	R	2
8	スポーツ・健康医科学（'15） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">教</span> ..... (2015年度開設科目).....	23	R	2
9	発達運動論（'11） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">教</span> ..... (2015年度開設科目).....	26	R	2
10	福祉政策の課題（'14）—人権保障への道— <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">政</span> ..... (2015年度開設科目).....	29	R	2
11	生活支援の社会福祉（'14） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">政</span> ..... (2015年度開設科目).....	32	R	2

文 旧カリキュラム「総合文化プログラム（文化情報学群）」の科目です。

環 旧カリキュラム「総合文化プログラム（環境システム科学群）」の科目です。

政 旧カリキュラム「政策経営プログラム」の科目です。

教 旧カリキュラム「教育開発プログラム」の科目です。

臨 旧カリキュラム「臨床心理プログラム」の科目です。

## 2. 人間発達科学プログラム

		頁	メディア	単位
12	人間発達論特論（'15） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">教</span> ..... (2015年度開設科目).....	35	R	2
13	教育行政と学校経営（'12） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">教</span> ..... (2015年度開設科目).....	38	R	2
14	新時代の社会教育（'15） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">教</span> ..... (2015年度開設科目).....	41	R	2
15	海外の教育改革（'15） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">教</span> ..... (2015年度開設科目).....	44	R	2
16	カリキュラム編成論（'13） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">教</span> ..... (2015年度開設科目).....	47	R	2
17	教育文化論特論（'11） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">教</span> ..... (2015年度開設科目).....	50	TV	2
18	道徳性形成・徳育論（'11） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">教</span> ..... (2015年度開設科目).....	53	R	2
19	生涯発達心理学研究（'11） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">教</span> ..... (2015年度開設科目).....	56	R	2
20	現代社会心理学特論（'15） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">教</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">臨</span> ..... (2015年度開設科目).....【臨床心理学プログラムと共通】..	59	R	2
21	教育心理学特論（'12） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">教</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">臨</span> .....【臨床心理学プログラムと共通】..	63	R	2
22	学校臨床心理学・地域援助特論（'15） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">教</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">臨</span> (2015年度開設科目).....【臨床心理学プログラムと共通】..	66	TV	2
23	心理・教育統計法特論（'15） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">教</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">臨</span> ..... (2015年度開設科目).....【臨床心理学プログラムと共通】..	69	R	2
24	発達心理学特論（'15） <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">教</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">臨</span> ..... (2015年度開設科目).....【臨床心理学プログラムと共通】..	72	TV	2

教 旧カリキュラム「教育開発プログラム」の科目です。

臨 旧カリキュラム「臨床心理プログラム」の科目です。

### 3. 臨床心理学プログラム

		頁	メディア	単位
25	臨床心理学特論（'11） <sup>臨</sup> .....	75	R	4
26	臨床心理面接特論（'13）－心理療法の世界－ <sup>臨</sup> .....	80	R	4
27	臨床心理学研究法特論（'12） <sup>臨</sup> .....	86	R	2
28	心理・教育統計法特論（'15） <sup>教臨</sup> .....（2015年度開設科目）.....【人間発達科学プログラムと共通】..	(69)	R	2
29	発達心理学特論（'15） <sup>教臨</sup> .....（2015年度開設科目）.....【人間発達科学プログラムと共通】..	(72)	TV	2
30	教育心理学特論（'12） <sup>教臨</sup> .....	(63)	R	2
31	現代社会心理学特論（'15） <sup>教臨</sup> .....（2015年度開設科目）.....【人間発達科学プログラムと共通】..	(59)	R	2
32	家族心理学特論（'14） <sup>臨</sup> .....	89	TV	2
33	精神医学特論（'10） <sup>環臨</sup> .....	(17)	R	2
34	障害児・障害者心理学特論（'13） <sup>臨</sup> .....	92	R	2
35	学校臨床心理学・地域援助特論（'15） <sup>教臨</sup> .....（2015年度開設科目）.....【人間発達科学プログラムと共通】..	(66)	TV	2
36	投影査定心理学特論（'15） <sup>臨</sup> .....（2015年度開設科目）.....	95	R	2

<sup>教</sup> 旧カリキュラム「教育開発プログラム」の科目です。

<sup>臨</sup> 旧カリキュラム「臨床心理プログラム」の科目です。

### 4. 社会経営科学プログラム

		頁	メディア	単位
37	公共哲学（'10） <sup>政</sup> .....	98	R	2
38	日本の技術・政策・経営（'13） <sup>政</sup> .....	101	R	2
39	行政裁量論（'11） <sup>政</sup> .....	104	R	2
40	20世紀中国政治史研究（'11） <sup>政</sup> .....	107	R	2
41	地域の発展と産業（'15） <sup>政</sup> .....（2015年度開設科目）.....	111	R	2
42	産業立地と地域経済（'12） <sup>政</sup> .....	114	TV	2
43	自治体ガバナンス（'13） <sup>政</sup> .....	117	TV	2
44	パーソナル・ネットワーク論（'12） <sup>政</sup> .....	120	R	2
45	環境工学（'13） <sup>環政</sup> .....	123	TV	2
46	人的資源管理（'14） <sup>政</sup> .....	126	TV	2
47	社会的協力論（'14） <sup>政</sup> .....	129	R	2
	－協力はいかに生成され、どこに限界があるか－			

<sup>環</sup> 旧カリキュラム「総合文化プログラム（環境システム科学群）」の科目です。

<sup>政</sup> 旧カリキュラム「政策経営プログラム」の科目です。

## 5. 人文学プログラム (※旧文化情報学プログラム)

		頁	メディア	単位
48	国文学研究法 ('15) (文) ..... (2015年度開設科目) .....	133	R	2
49	人類学研究 ('10) -環境問題の文化人類学- (文) .....	136	TV	2
50	哲学史における生命概念 ('10) (文) .....	139	R	2
51	美学・芸術学研究 ('13) (文) .....	142	TV	2
52	日本史史料論 ('15) (文) ..... (2015年度開設科目) .....	145	R	2
53	東アジアの歴史と社会 ('10) (文) .....	148	TV	2
54	アフリカ世界の歴史と文化 ('13) -ヨーロッパ世界との関わり- (文) .....	151	R	2
55	中世・ルネサンス文学 ('14) (文) .....	154	R	2
56	ことばとメディア ('13) -情報伝達の系譜- (文) .....	157	R	2

(文) 旧カリキュラム「総合文化プログラム (文化情報科学群)」の科目です。

## 6. 情報学プログラム

		頁	メディア	単位
57	21世紀メディア論 ('14) .....	160	TV	2
58	音楽・情報・脳 ('13) .....	163	TV	2
59	ソフトウェア工学 ('13) .....	166	R	2
60	研究のためのICT活用 ('13) .....	169	R	2
61	情報学の展開 ('12) .....	172	R	2
62	データベースと情報管理 ('12) .....	175	TV	2
63	eラーニングの理論と実践 ('12) .....	178	TV	2
64	コンピューティング ('15) -原理とその展開- (環) (2015年度開設科目) .....【自然環境科学プログラムと共通】..	181	R	2
65	知的創造サイクルの法システム ('14) .....	184	R	2

(環) 旧カリキュラム「総合文化プログラム (環境システム科学群)」の科目です。

## 7. 自然環境科学プログラム

		頁	メディア	単位
66	現代生物科学 ('14) -生物多様性の理解- (環) .....	187	TV	2
67	現代物理学の論理と方法 ('13) (環) .....	190	R	2
68	物質環境科学 ('14) (環) .....	193	TV	2
69	宇宙・自然システムと人類 ('14) (環) .....	196	TV	2
70	現代地球科学 ('11) (環) .....	199	TV	2
71	数理科学 ('15) -離散モデル- (環) ..... (2015年度開設科目) .....	203	R	2
72	計算論 ('10) (環) .....	206	R	2
73	コンピューティング ('15) -原理とその展開- (環) (2015年度開設科目) .....【情報学プログラムと共通】..(181)	181	R	2
74	食健康科学 ('15) (環) ..... (2015年度開設科目) .....【生活健康科学プログラムと共通】..(8)	8	TV	2
75	環境工学 ('13) (環)(政) .....【社会経営科学プログラムと共通】..(123)	123	TV	2

(環) 旧カリキュラム「総合文化プログラム (環境システム科学群)」の科目です。

(政) 旧カリキュラム「政策経営プログラム」の科目です。



事務局 記載欄	開講 年度	2015年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8910650	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 生活ガバナンス研究 ('15) = (R)

英文名 = [ Studies on Lifeworld Governance ('15) ]

[主任講師 (現職名) : 宮本 みち子 (放送大学副学長) ]

[主任講師 (現職名) : 奈良 由美子 (放送大学教授) ]

【本学担当専任教員 : 】

**講義概要**

現代社会においては従来の方法では対応できない生活課題が急増している。とくに社会的ニーズが増大しているため、公共的領域への生活者の主体的参加によるガバナンスが生活の質を高めるため欠くことのできない条件となっている。本科目では、生活に対する深い配慮をもった生活者の価値を、個人や家族を超えたより社会的次元に浸透を図りながら、新たな公共性をつくるにはどうしたらよいかを考える。

**授業の目標**

生活ガバナンスの意味と手法と展開を理解し、生活に関連する諸領域において、さまざまな立場で生活ガバナンスを発展させ、実践する力を身につける。

**履修上の留意点**

関連する科目として、「家族生活研究('15)」、「生活リスクマネジメント('11)」、「パーソナル・ネットワーク論('12)」(大学院科目)の履修により、本科目の内容についての理解と考察が一層進むと思われる。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	生活ガバナンスとは何か	生活ガバナンスの定義と本書のねらいを述べる。リスク社会、リキッド・モダニティという面から現代社会の特徴を理解し、なぜ生活ガバナンスという概念が登場するのかを理解する。また、公共空間で住民が主体的に参加して生活の課題に取り組む活動を概観する。 <b>【キーワード】</b> リスク社会、リキッド・モダニティ、生活ガバナンス、ライフ・ポリティクス、ライブリィ・ポリティクス、エンパワメント、住民参加、地域コミュニティ	宮本 みち子 (放送大学副学長)	宮本 みち子 (放送大学副学長)
2	生活者と生活ガバナンス	私たちは毎日当たり前で生活をしているが、本当に誰もが安心して幸福になる生活が保障されているだろうか。生活基盤である収入を得る拠り所は非正規化が進み不安定さを増している。悪化する財政事情の転嫁による社会保障の後退、グローバル化による生活拠点の空洞化、新たな貧困の問題化、など生活し難い状況のなかでもがき続けているのが現実ではないだろうか。本章では、改めて生活とは何かを問うところから論を始め、生活ガバナンスの主人公である生活者に焦点をあてることで、生活ガバナンスの可能性を考察する。 <b>【キーワード】</b> 生活、生活者、生活経営、枠組みの変化、個人のネットワーク、幸福度、生活の質、生活ガバナンス	赤塚 朋子 (宇都宮大学教授)	赤塚 朋子 (宇都宮大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	生活教育と生活ガバナンス	生活を成り立たせるためには様々な要素が必要であることを前章でみてきた。本章では、生活するための術、生活的自立、生きていく力、生活力に関わる生活教育と生活ガバナンスをテーマとする。 生活教育とは何か、生活教育の種類や教育内容、生活教育のあり方、生活ガバナンスに必要な力とは何かという観点から生活教育を考える。  【キーワード】 生活教育、生活的自立、生活力、生活ガバナンス力、政治的リテラシー、シチズンシップ教育、人間開発、エンパワメント	赤塚 朋子 (宇都宮大学 教授)	赤塚 朋子 (宇都宮大学 教授)
4	消費者と生活ガバナンス	生活者の一側面である消費者は、消費者問題に直面したとき、消費者運動を展開し、消費者にかかわる法律や制度を創ってきた歴史がある。これはまさに生活ガバナンスの具体例である。生活ガバナンスの視点から、消費社会の様相をとらえ直し、持続可能な社会形成を実現するためになにが必要かを考える。  【キーワード】 消費者、消費者問題、消費者運動、消費者関連法、消費者団体、協同組合、消費社会、持続可能な社会	赤塚 朋子 (宇都宮大学 教授)	赤塚 朋子 (宇都宮大学 教授)
5	子どもと生活ガバナンス	子どもの生活環境はどう変わり、子どもの遊びをはじめ生活や行動、意識にどのような影響を与えているかといった課題を考える。ここでは、子どもの生活ガバナンスの主体として子どもも含め、身近な生活環境を子どもとともに改善していくまちづくりの生活ガバナンスと、そのための大人の役割を考える。  【キーワード】 遊び、子どもの参画、居場所(時間と空間)、まちづくり、自己形成空間、ソーシャルキャピタル(社会関係資本)	木下 勇 (千葉大学大 学院教授)	木下 勇 (千葉大学大 学院教授)
6	若者と生活ガバナンス	若者による生活ガバナンスは、若者の社会的包摂を図る上での鍵であると位置づけられる。本章では、若者の能動的市民性が脱工業社会において求められるようになったことを理解した上で、それを契機に展開された欧州の若者政策の流れを理解する。さらに、若者によるガバナンスのチャンネルに、余暇活動の延長と、身近な場(地域や学校)における意思決定の二つがあることを理解し、さらに、ガバナンスの質を捉える枠組みについて知る。  【キーワード】 社会的排除、社会的包摂、能動的市民性、アクティベーション、若者、欧州若者白書、若者政策、参加、ノンフォーマル教育、参画のはしご、余暇活動、ユースセンター、意思決定、若者議会、全国生徒会、e-participation、e-democracy	津富 宏 (静岡県立大 学教授)	津富 宏 (静岡県立大 学教授)
7	高齢期と生活ガバナンス	高齢期に焦点を当てて、現代の特徴を理解する。また、高齢者の意識やライフスタイルの変化を述べ、主体的・能動的に生きようとする高齢者が増加していることを、実態をもとに述べる。高齢期の生き方や暮らし方の多様化の実例を紹介し、QOLの高い高齢期を実現するための生活ガバナンスを考える。  【キーワード】 生涯現役時代、サクセスフル・エイジング、グループリビング、葬送	宮本 みち子 (放送大学副 学長)	宮本 みち子 (放送大学副 学長)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
8	犯罪と生活ガバナンス	<p>犯罪にかかわる生活ガバナンスにおいては、犯罪に対する嫌悪や不安を乗り越え、対等性に基づく社会を創ることが重要であることを理解する。具体的には、一般市民による防犯のためのガバナンスにおいては(まちの当事者としての)市民間の対話が重要であり、また、犯罪を犯した者による再犯から離脱のためのガバナンスにおいては当事者間、さらには、当事者と非当事者の間の対話が重要であることを理解する。</p> <p>【キーワード】 犯罪、防犯、メディア報道、犯罪に対する恐れ、他者への信頼、地域における相互信頼、対話、対等性、共生社会、社会解体理論、ラベリング、犯罪を犯した者、当事者、言いつばなし聞きつばなし、利用者</p>	津富 宏 (静岡県立大学教授)	津富 宏 (静岡県立大学教授)
9	災害と生活ガバナンス	<p>自然災害は個人の生命と生活を脅かす。生活主体が災害対策を講じようとするとき、その営為は社会のなかにあり、より効果的で環境適合的な災害対策の実現にはガバナンスが欠かせない。この回では、災害対策という私的で公的な問題における生活ガバナンスの意義、手法および課題を検討する。</p> <p>【キーワード】 自然災害、災害対策基本法、公助・共助・自助、レジリエンス、自主防災、地域への信頼</p>	奈良 由美子 (放送大学教授)	奈良 由美子 (放送大学教授)
10	食と生活ガバナンス	<p>食は重要な生活課題のひとつである。この回では、現代社会にあって食の安全・安心の本質に信頼の存在があることをふまえたうえで、食をめぐる生活者による主体的なとりくみを生活ガバナンスの観点から考える。</p> <p>【キーワード】 システムに対する信頼、人に対する信頼、食品安全基本法、参加型リスクガバナンス、顔の見える生産者、CSA(地域支援型農業)、生活者のセルフ・エンパワメント</p>	奈良 由美子 (放送大学教授)	奈良 由美子 (放送大学教授)
11	住まいと生活ガバナンス	<p>持家政策を背景に庭付き一戸建て等のマイホームイメージは、高度経済成長を牽引する役割を果たしてきた。だが今日、家族の変容とともに、シェアハウス等賃貸での新たな居住の形態や、コレクティブハウス等の新たな共助と絆を形成する集合住宅の試みも増えつつある。住まいは商品を買うかのような宣伝も見られるなか、住み手が主体としてより積極的に住み方を考えていくこれからの時代の住まいの生活ガバナンスを考える。</p> <p>【キーワード】 住宅、家族、近隣、主体、場所、縁側、イエ、ニワ、コモン、コーポラティブハウス、コレクティブハウス</p>	木下 勇 (千葉大学大学院教授)	木下 勇 (千葉大学大学院教授)
12	仕事と生活ガバナンス	<p>グローバル経済競争とIT化にともなって、労働現場では格差が拡大し、一方で非正規雇用者や失業者が増加し、他方で長時間労働による心身の不調に悩む労働者が増加している。そこで、労働の意味を問い直し、個人の生活や社会生活と職業労働とのバランスがとれ、若者・女性・高齢者・障がい者などすべての人々が参加できる仕事の世界をどうつくるかを、生活ガバナンスという観点で考える。</p> <p>【キーワード】 ワークライフバランス、労働者保護、社会的企業、男女共同参画、労働者協同組合、ディーセント・ワーク</p>	宮本 みち子 (放送大学副学長)	宮本 みち子 (放送大学副学長)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
13	環境と生活ガバナンス	<p>地球規模で考えて、身近な地域で実践する(Think Globaly, Act Localy)という取組みは、高まる地球環境の危機からもますます重要な課題となっている。環境問題を考慮した時に生活のガバナンスは個人から地域、団体等さまざまな主体の連携したマネジメントが重要となっている。ここでは持続可能な環境と経済性も含めた生活とのバランスをとった生活のマネジメントをはじめ変貌する家族や地域の実態に合わせた生活ガバナンスのあり方を考える。</p> <p><b>【キーワード】</b> 環境マネジメント(PDCA)、地球温暖化、気候変動、持続可能性(サステナビリティ)、高度情報・消費社会、グローバル化、エコロジカル・フットプリント、生物多様性、アーバン・ハズバンドリー(まち育て)</p>	木下 勇 (千葉大学大学院教授)	木下 勇 (千葉大学大学院教授)
14	社会的排除と生活ガバナンス	<p>社会的排除の本質に、社会的相互承認からの排除があることを踏まえ、日本の社会的排除の根幹に、ネガティブなラベリングに対する忌避があることを確認する。それを生活ガバナンスによって乗り越える鍵概念としてのリカバリーと、リカバリーを支える要素であるエンパワメントとレジリエンスについて把握する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 社会的排除、生活困窮者、生活保護、障害者、アイデンティティ、ラベリング、ストーリー、リカバリー、エンパワメント、レジリエンス、障がいの社会モデル、べてるの家、連帯経済、社会的経済</p>	津富 宏 (静岡県立大学教授)	津富 宏 (静岡県立大学教授)
15	生活ガバナンスの要素と展開	<p>この回ではこれまでの議論の総括として、第14回までにとりあげてきた生活の諸領域に対応したガバナンスの具体的な事例を俯瞰しながら、生活ガバナンスの諸要素(扱う問題、主体、方法)を整理する。抽出された要素から生活ガバナンスの独自性をおさえ、今後の課題を考える。</p> <p><b>【キーワード】</b> 生活の総合性、生活ガバナンスの主体、人的資源と社会関係資本、主体性と当事者性、参加・連携・協働、チャンネル、ツール、リテラシー、中間集団、信頼、生活知、自己効力感、セルフ・エンパワメント</p>	奈良 由美子 (放送大学教授)	奈良 由美子 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2015年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8910669	履修 制限	有	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 家族生活研究 ('15) - 家族の景色とその見方 - = (R)

英文名 = [ Contemporary Family Life ('15) ]

: Emerging Family Scenes and Research Approaches

[主任講師 (現職名) : 清水 新二 (放送大学客員教授、奈良女子大学名誉教授) ]

[主任講師 (現職名) : 宮本 みち子 (放送大学副学長) ]

※この科目は「家族生活研究('09)」の一部改訂科目です。  
改訂回は1, 2, 3, 5, 6, 7, 9回です。

### 講義概要

現代の家族変動は大きく、21世紀のゆくえは家族のあり方を抜きにしては論じられないといわれるほど、その動向は重要テーマとなっている。講義では家族社会学の立場を基本として、現代家族の実態と変化を社会の急速な変動を視野に置きながら整理し理解する。また、現代家族の実態と共に、理論的アプローチの方法についても述べる。各章は家族理論と家族の実態を、研究の具体例を紹介しながら整理する。

### 授業の目標

家族現象に関して、生活者として、また、民間NPO団体や地域あるいは行政・企業で家族や人間生活にかかわる仕事をしている担当者が、動きつつある家族の実態を多角的視点から柔軟に認識し、科学的知識や理論を修得し、家族をミクロ・マクロの両レベルから理解できることをねらいとする。また、個人・地域・公共の場で必要とされる家族をめぐる問題理解を深め、その対応についても社会的サービスや行政政策の観点から視野を広げる。

### 履修上の留意点

学部開講科目の「人口減少社会のライフスタイル('11)」「臨床家族社会学('14)」を合わせて学習すると理解が深まる。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	現代社会と家族状況	家族のありようは、社会構造の影響を受けるとともに、家族のありようが社会構造に変化をもたらし、ひいては社会制度の変革も促す。本章では社会－家族－個人の相互関連性の中で、家族のありようないしは景色をマクロとミクロの両側面から検討し、複合的に概観する。さらに旧版と本改訂版刊行の間に生じた、最近のいくつかの顕著な社会経済的な状況変化を取り上げつつ、現在とこれからの家族生活を考える場合に関心を向けるべき家族の景色について説明して理解を広げる。 【キーワード】 社会変動、少子高齢化、グローバル化、格差社会	清水 新二 (奈良女子大学名誉教授)	清水 新二 (奈良女子大学名誉教授)
2	家族発達とライフコース	人、成長、成熟、老衰、死亡など生命現象によって規定された一生のコースを生活現象として捉え直し、その規則的な推移に注目するライフサイクル論について解説するとともに、平均的ライフサイクルとその変化を、統計データを用いて具体的に概観する。ライフサイクル論の限界を踏まえつつ、ライフコースアプローチの理論的枠組みをその古典的研究を紹介しながら概説する。 【キーワード】 通過儀礼、年齢規範、ライフサイクル論、家族周期、ライフコース論	吉原 千賀 (高千穂大学准教授)	吉原 千賀 (高千穂大学准教授)
3	老いと家族	誰もが避けることのできない「老い」のプロセスにおける家族との関わりやそこで浮かび上がってくる現代的諸問題について再考するとともに、「長期化するモデルなき高齢期を、誰と、どのように生きていくのか」は、今や高齢者だけの問題ではなく、若年世代にとっても高齢期に入る前から考え、備えるべき問題であることを学習する。 【キーワード】 大衆長寿、アイデンティティ、コンボイ、2030年問題、無縁社会、絆	吉原 千賀 (高千穂大学准教授)	吉原 千賀 (高千穂大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	社会システムとしての家族	近代から現代へ社会の変化にともなう家族システム一般にみられる変化の大きな特徴を、社会中心の家族観から生活者中心の家族観への変化として捉え、現代社会における生活システムと家族システムとの相互関連について解説する。具体的な事例をもとに、生活者としての夫と妻とが家族システムを形成する過程、変容させる過程について理解をはかりたい。さらに、生活主体としての子どもの育ちを支える子育て支援システムとそこでの家族(保護者)の責任について問題提起をおこなう。 <b>【キーワード】</b> 生活システム、家族システム、子育て支援システム	神原 文子 (神戸学院大学教授)	神原 文子 (神戸学院大学教授)
5	相互作用としての家族	家族社会学では家族を小集団とみなし、その中で展開される家族成員間の相互作用に焦点を合わせて内部構造研究を展開させてきた。一方外部社会への関心が希薄になりがちなことから、家族システム論やジェンダー論から批判的見解も寄せられた。また最近では構築主義などの解釈学的アプローチからも再度家族相互作用が研究されている。これらの理論枠組みの展開と系譜について具体的研究成果を紹介しながら理解を深める。 <b>【キーワード】</b> 象徴的相互作用論、役割、家族内部構造研究、家族ストレス論、ABC-Xモデル、構築主義アプローチ	清水 新二 (奈良女子大学名誉教授)	清水 新二 (奈良女子大学名誉教授)
6	ネットワークのなかの家族	個人をとりまくネットワークの一部として家族をとらえる。個人のアイデンティティが固定化されるにはネットワークが供給する「重要な他者」が不可欠であり、重要な他者の供給装置としての家族の意義を概説する。そして家族ネットワークからのインターネットを利用したサポートの動員などについてもみていく。 <b>【キーワード】</b> 個人のネットワーク、アイデンティティ、オンライン・ネットワーク	上野 加代子 (徳島大学教授)	上野 加代子 (徳島大学教授)
7	グローバル化のなかの家族	グローバル化が家族生活に及ぼす影響を概説する。国境を越えたひとやものの往来が日常化している時代において、ひとつの国土に照準した家族研究の方法論には限界がある。ここでは主に移民研究からの方法論を借りて、再生産労働のグローバル化、個人のライフコースのトランスナショナル化、そしてこれらと関連している家族のトランスナショナル化について具体的に説明する。 <b>【キーワード】</b> トランスナショナル・ライフコース、トランスナショナル・ファミリー、国際退職移動	上野 加代子 (徳島大学教授)	上野 加代子 (徳島大学教授)
8	家族の個人化	家族の個人化という観点から動きつつある現代家族の実態とその背景を説明する。「家族の個人化」研究を紹介すると共に、単に理論的紹介にとどまらず近代から現代家族への推移を、わが国の歴史的現実 に即して家族の個人化、個別化、私事化などの傾向と関連させつつ述べる。 <b>【キーワード】</b> 家族の個人化、個別化、私事化、近代家族、個人単位の世界	清水 新二 (奈良女子大学名誉教授)	清水 新二 (奈良女子大学名誉教授)
9	生活者と家族ライフスタイル	生活者にとっての家族ライフスタイルの多様なとらえ方と、家族ライフスタイルが多様化することの意味を解説するとともに、家族ライフスタイルの多様化を左右するライフチャンスについて問題提起する。子つれシングルの多くが生きづらい状況にある現実をふまえて、社会的排除によりライフチャンスが制限されている現状について問題提起する。また、だれもが生きやすく、生きる権利を尊重されるためのライフチャンスの条件整備を喚起したい。 <b>【キーワード】</b> 生活者、家族ライフスタイル、ライフチャンス	神原 文子 (神戸学院大学教授)	神原 文子 (神戸学院大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	ジェンダーと家族	近代化にともなう「近代家族」の誕生が、ジェンダー関係にどのような影響を及ぼしたかをみる。また、子育てや介護などのケア・ワークに焦点を当てて、ジェンダーの視点からみる。最後に、家族の仕事・時間・お金を、ジェンダーの切り口で整理する。 <b>【キーワード】</b> ジェンダー、性役割分業、家父長制、近代家族、アンペイド・ワーク	宮本 みち子 (放送大学副 学長)	宮本 みち子 (放送大学副 学長)
11	家族と病い	病いが決して個人的事柄ではなく周囲をも含めた社会的な事柄、とりわけ家族にとってしばしば大きな生活上の出来事となって影響をおよぼすことを確認する。そのうえで病者本人と周囲の相互作用について学び、これを家族の生活に当てはめて考えるとどうなるかを検討する。 <b>【キーワード】</b> 欲求充足の相互規定性、分配正義、疾病利得と病者役割、共依存、アダルト・チルドレン	清水 新二 (奈良女子大 学名誉教授)	清水 新二 (奈良女子大 学名誉教授)
12	別れと遺族支援	家族生活に焦点をあわせながら、別れと悲嘆、そしてそこから回復について、自死(自殺)遺族の場合を取り上げ、東日本大震災の経験も含めてその実態、直面する苦悩、課題を理解する。その上でそうした家族問題への社会的対応一般について学び考える機会とする。 <b>【キーワード】</b> 喪失と悲嘆、あいまいな別れ、封印された死、自死遺族、自殺対策基本法、東日本大震災	清水 新二 (奈良女子大 学名誉教授)	清水 新二 (奈良女子大 学名誉教授)
13	職業と家族	家族は職業・労働を通して所得を得て家族生活を再生産している。この回では家族と職業・労働をどのように結びつけて捉えるかを整理する。さらに、時代の推移とともに、職業と労働とがどのように発展し、そのことが家族にどのような影響を及ぼしてきたかをみていく。 <b>【キーワード】</b> 職業分類、職業、家族経営、雇用システム、日本型雇用、女性労働	宮本 みち子 (放送大学副 学長)	宮本 みち子 (放送大学副 学長)
14	人口構造と家族	わが国の人口構造は、少産少死という歴史的な転換期の最終段階にあるが、「超少子化」といわれる低い出生率の状態が続いている。このような少子高齢化は社会の様相を大きく変えつつある。その実態をおさえ、少子高齢化がマクロレベルとミクロレベルでどのような世代間関係と関わっていくのかを整理する。 <b>【キーワード】</b> 人口高齢化、人口転換、合計特殊出生率、第2の人口転換、少子化対策	宮本 みち子 (放送大学副 学長)	宮本 みち子 (放送大学副 学長)
15	社会政策と家族	家族にかかわる社会政策の構成と、それが家族とどのような関連性を有しているのか、近年の社会政策の特徴をみていく。また、現代家族が生活保障システムとどのようにかわりながら変容を遂げ、そこにどのような課題があるのかを検討する。併せてこれからの家族政策の方向性、あり様についても解説する。 <b>【キーワード】</b> 社会政策、家族政策、福祉国家、脱商品化、脱家族化、稼ぎ手モデル、個人モデル、ジェンダー政策	宮本 みち子 (放送大学副 学長)	宮本 みち子 (放送大学副 学長)

事務局 記載欄	開講 年度	2015年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8910677	履修 制限	有	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 食健康科学 ('15) = (TV)

英文名 = [ Food, Nutrition, and Health ('15) ]

[主任講師 (現職名) : 小城 勝相 (放送大学教授) ]

[主任講師 (現職名) : 清水 誠 (東京大学名誉教授、東京農業大学教授) ]

【本学担当専任教員 : 】

### 講義概要

高齢化した日本の社会において「健康」は最も関心の高い課題のひとつである。食生活は人間の生命と活動、健康を支えるもっとも基本的で重要な生活行為である。本科目ではヒトの健康の基盤となる重要な食品成分を解説し、生活の質“QOL”の向上に寄与することを目指した食の科学を論ずる。具体的には食品の機能(栄養機能、嗜好機能、生体調節機能)を概説し、食品素材に含まれる各機能を有する成分について解説し、動脈硬化、糖尿病、がんなどいわゆる生活習慣病やアレルギー／感染症の予防、食習慣の改善、機能性を発揮する食品(特定保健用食品、機能性食品など)について論ずる。あわせて大きな社会的脅威と不安を与えた食品の安全性に関する問題と食環境の重要性を論ずる。(従来通り、看護師など医療関係者)

### 授業の目標

健康を目指した食生活を構築するためには食物に含まれる成分の構造と機能を理解する必要がある。栄養素の化学と機能を習得し、さらに多種類の食材に含まれる微量な非栄養素の生体に有効にはたらく機能成分の理解を目標とする。あわせて嗜好性を豊かにする食品成分を知る。生活習慣病の発症と食生活による疾病予防についても学ぶ。

### 履修上の留意点

化学と生物学の基礎を学んでおくこと、さらに栄養学、生化学関連の科目を履修していることが望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	食品の機能と健康	人間生活のなかで「食」はヒトの健康を支える最も重要な位置を占める。生命の維持、活動エネルギーの補給に食物(食品)を摂取する。食品には3つの機能(栄養機能、嗜好機能、生体調節機能)があり、食品に含まれる成分が機能を発現する。これら機能成分について概説する。また、日本人の食生活はどのように変化してきたのか。健康の維持・増進に関する研究を行う科学にはどのような種類があるのか、その成果を学び体の仕組みを理解するためにはどのような基礎知識が必要なのかについて述べる。 【キーワード】 細胞、栄養素、分子、ネットワーク	小城 勝相 (放送大学教授)	小城 勝相 (放送大学教授)
2	糖質の科学	糖質(炭水化物)はヒトが摂取する栄養素の中で最も摂取量の多い栄養素であり、重要なエネルギー源である。糖質は単糖類、少糖類(オリゴ糖)、多糖類に分類される。糖質の化学構造と化学的特性を解説するとともに、栄養機能をはじめとする機能性について概説する。 【キーワード】 糖質、単糖類、少糖類、多糖類、グルコース、スクロース、デンプン、食物繊維	菊崎 泰枝 (奈良女子大学大学院教授)	菊崎 泰枝 (奈良女子大学大学院教授)
3	脂質の科学	脂質は水に難溶で、有機溶媒に溶解する特徴を持つ脂溶性食品成分であり、高エネルギー源である。脂質には中性脂肪、リン脂質、糖脂質などがある。脂質の化学構造と化学的特性を解説するとともに、栄養機能をはじめとする機能性について概説する。 【キーワード】 脂質、脂肪酸、中性脂肪、リン脂質、コレステロール、油脂の酸化	菊崎 泰枝 (奈良女子大学大学院教授)	菊崎 泰枝 (奈良女子大学大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	タンパク質の科学	<p>タンパク質は生命を維持する上で重要な機能を担う。タンパク質を構成するのは20種類のアミノ酸であり、遺伝子情報に基づくその配列がタンパク質の構造や特性を主に決定するが、翻訳後に行われる様々な化学修飾等も大きな影響を持つ。食品に含まれるタンパク質の栄養価や加工学的性質の多彩さも、それぞれが持つユニークな構造に依存している。このようなタンパク質の構造や特性の基本について解説する。</p> <p>【キーワード】 アミノ酸、タンパク質、一次構造、二次構造、三次構造、酵素</p>	清水 誠 (東京大学名誉教授、東京農業大学教授)	清水 誠 (東京大学名誉教授、東京農業大学教授)
5	ビタミンとミネラルの科学	<p>これらは体内では合成できず、食物から摂取する必要がある栄養素である。ビタミンは、化学的性質はそれぞれ異なるが、すべて微量成分で、生命の維持・調節に不可欠な役割を持っている。ミネラルは1日あたり100 mg以上摂取すべきマクロミネラルと必要量がそれ以下のマイクロミネラルに分類できる。体の中で1 kgも存在するカルシウムから、極微量しか存在しないセレンやコバルトまで多彩である。これらの化学と機能を解説する。特にカルシウムの機能と骨の健康について解説する。</p> <p>【キーワード】 ビタミン、ミネラル、カルシウム、鉄、コバルト、セレン</p>	小城 勝相 (放送大学教授)	小城 勝相 (放送大学教授)
6	食品の嗜好成分	<p>「おいしさ」は食品、ヒト、環境などの因子によって決定される。それらの相互関係を概説するとともに、食品由来の因子である嗜好成分、すなわち色素、呈味成分、香り成分の化学構造、化学的特性、機能性について解説する。</p> <p>【キーワード】 おいしさを決定する因子、色素、呈味成分、香り成分</p>	菊崎 泰枝 (奈良女子大学大学院教授)	菊崎 泰枝 (奈良女子大学大学院教授)
7	生体内酸化の科学	<p>地球上のほとんどの生物は酸素を使ってエネルギーを得ている。エネルギーを使って生命は高い秩序を維持する。さらに環境汚染物質や医薬品などは肝臓で酸素を使う酸化反応によって解毒しているし、体内に侵入した病原菌などは酸素を使って殺す。一方、酸素は細胞内で活性酸素になって、老化、癌、動脈硬化などいわゆる生活習慣病を引き起こすと考えられている。望ましい酸化と望ましくない酸化、両方について化学的に解説する。</p> <p>【キーワード】 ATP、恒常性、ミトコンドリア、酸化的リン酸化、ラジカル反応、活性酸素、酸化ストレス、生活習慣病</p>	小城 勝相 (放送大学教授)	小城 勝相 (放送大学教授)
8	消化・吸収・代謝系	<p>経口摂取された食品成分は、消化管内で各種酵素により消化・分解される。分解産物であるブドウ糖、アミノ酸、ペプチド、脂肪酸などは主に小腸で吸収される。腸管におけるこれらの成分の輸送には多様な能動輸送系、受動輸送系が関わっている。吸収された成分は、腸管上皮や肝臓においてさまざまな代謝を受け、その後、各組織へ運ばれて利用されることになる。摂取された食品成分が体内でどのような変化をするか(動態変化)、その意義も含めて説明する。</p> <p>【キーワード】 消化酵素、能動輸送、受動輸送、トランスポーター、代謝酵素</p>	清水 誠 (東京大学名誉教授、東京農業大学教授)	清水 誠 (東京大学名誉教授、東京農業大学教授)
9	食と糖尿病	<p>代表的な生活習慣病である糖尿病(2型糖尿病)は世界的に急増しており、その合併症により人々の生命と生活の質の低下をもたらす悪影響をおよぼしている。2型糖尿病発症の予防には、生活習慣の改善が欠かせず、特に食生活の質を向上させることが望まれる。</p> <p>【キーワード】 インスリン、HbA1C、インスリン抵抗性、GLP-1、運動</p>	佐藤 隆一郎 (東京大学大学院教授)	佐藤 隆一郎 (東京大学大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	食と動脈硬化	<p>虚血性心疾患や脳血管障害などの動脈硬化性疾患は日本人の死亡原因1位の癌と同程度を占める。血管の疾患である動脈硬化症の発症には血液成分の影響が強く、コレステロールもその一つである。食生活の改善によりリスクファクターを軽減し、血管寿命を長らえることが必要である。本章では、脂質異常症と動脈硬化発症について学び、食との関係を解説する。</p> <p>【キーワード】 コレステロール、動脈硬化、リポタンパク質、LDL、HDL、胆汁酸</p>	佐藤 隆一郎 (東京大学大学院教授)	佐藤 隆一郎 (東京大学大学院教授)
11	食と肥満、メタボリックシンドローム	<p>糖尿病、脂質異常症、高血圧、肥満症は代表的な生活習慣病である。それぞれ独立した疾患と長い間考えられてきたが、これら疾患は一個人に重積しやすく、そのことが動脈硬化性疾患の高いリスクとなることが次第に明らかになってきた。このような背景から、メタボリックシンドロームという名称の新たな疾患概念が提案され、生活習慣の改善によりこれら疾患を未然に予防するという考え方が広く受け入れられるようになった。肥満、メタボリックシンドロームと食の関係を解説する。</p> <p>【キーワード】 肥満、メタボリックシンドローム、内臓脂肪、褐色脂肪組織</p>	佐藤 隆一郎 (東京大学大学院教授)	佐藤 隆一郎 (東京大学大学院教授)
12	食品と免疫	<p>病原菌などの異物を認識し、それを排除する仕組みの一つが免疫系である。特に、腸管には「腸管免疫系」という特殊な免疫系がある。病原体などの侵入に対して、腸管免疫系がそれらを認識してIgA抗体をはじめとする防御因子を生産して生体を守る。一方で、腸管免疫系は経口的に摂取した食品などに対する過剰反応を抑制する仕組みを持っている。このような腸管での免疫応答反応のメカニズムや食品によるその制御について解説する。</p> <p>【キーワード】 感染防御、抗原、抗体、抗原提示、腸管免疫系、IgA、IgE、肥満細胞</p>	下条 直樹 (千葉大学教授)	下条 直樹 (千葉大学教授)
13	食品とアレルギー	<p>食品成分は基本的には人体にとっては異物であるが、生命維持に重要なため食物には過剰な免疫応答を起こさない仕組みが存在している。これを免疫寛容と呼ぶが、時にこのシステムがうまく誘導されなかったり破綻することがあり、食物アレルギーが発症する。食物アレルギー患者が食品に対して示す症状とその成因、わが国におけるアレルギー患者の増加とその対策に対して、臨床の立場から解説する。</p> <p>【キーワード】 アレルギー、抗体、腸管免疫系、IgA、IgE、免疫寛容、肥満細胞、ヒスタミン</p>	下条 直樹 (千葉大学教授)	下条 直樹 (千葉大学教授)
14	機能性食品	<p>動脈硬化による脳卒中や心臓病、糖尿病、脂質異常症(高脂血症)、高血圧の進行などの生活習慣病、また感染症やアレルギーなどの疾患には、食習慣が深く関与している。食生活を改善するための手段として、基本的な栄養バランスの改善に加えて、これらの疾病に予防的な効果が期待される食品、すなわち機能性食品の開発が近年進められるようになった。機能性食品の開発において必要なこと、その効能や安全性の評価の仕方について解説する。</p> <p>【キーワード】 生活習慣病、ポリフェノール、腸内細菌、特定保健用食品</p>	清水 誠 (東京大学名誉教授、東京農業大学教授)	清水 誠 (東京大学名誉教授、東京農業大学教授)
15	食品のリスクと安全性確保に向けた取り組み	<p>食品には様々なリスクが存在する。キノコや魚介類などの自然毒、病原菌や毒素、寄生虫、有害化学物質、放射性物質などに加えて、加工や調理の段階で生成する有害物質も存在する。健康によいとされる成分の中にも、薬剤との相互作用による有害作用が懸念される場合もある。これらのリスクを整理するとともに、そのリスクを低減化するための取り組みについて考える。</p> <p>【キーワード】 食性病害、ヘテロサイクリックアミン、シトクロムP450</p>	清水 誠 (東京大学名誉教授、東京農業大学教授)	清水 誠 (東京大学名誉教授、東京農業大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2015年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8910685	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名（メディア）＝ 健康科学 （'15）＝ （R）

英文名 ＝ [ Health Science ('15) ]

〔主任講師（現職名）：田城 孝雄（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：星 旦二（首都大学東京大学院教授）〕

【本学担当専任教員：】

### 講義概要

近年の社会の多様性は、健康を支える基盤を、医学だけでは対応できない時代としてしまった。したがって、新しい健康の科学を構築する必要が生じてきた。新しい科学としての役割として「健康科学」を開設することとした。ここでは、人々の多様な健康状態を支えるという観点から、どのような方向を目指すべきか、何を重要視すべきかを考えることとした。人々の健康維持増進を支援する各フィールド活動を対象として、科学の視点を導入し、具体的な調査研究方法を学習し、より科学的なエビデンスを明確にする能力を身につける。

### 授業の目標

近代、健康問題が多様化しているが、これに対してその問題点を明らかにし、健康科学の目指すべき方向性について考える力を習得する。

### 履修上の留意点

学部の専門科目、「公衆衛生」の内容を理解しておくこと、この科目の内容がより理解しやすくなるものと思われる。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	健康科学の意義と必要性—健康を科学する—	人々の健康維持増進を支援する各フィールド活動を対象として、科学の視点を導入し、具体的な調査研究方法を学習し、より科学的なエビデンスを明確にする能力を身につける。また、科学的なエビデンスを基にして、その後の健康を支援する政策改善に活かしていく具体的なプロセスと実践的な健康支援方法を学習する。 【キーワード】 健康の定義、科学、科学的研究法	田城 孝雄 (放送大学教授)	田城 孝雄 (放送大学教授)
2	新しい健康の概念	WHOが示した、健康の定義に対して、1991年には、新しい視点が導入されている。ここでは、WHOが検討した新しい健康の概念として、spiritual dynamic の意味づけを明確にする。特に高齢者や障害者に於ける健康の定義を踏まえ、一病息災的な健康、健康を受容する意義について学習する。 【キーワード】 WHO、健康の定義、一病息災、spiritual dynamic	星 旦二 (首都大学東京大学院教授)	星 旦二 (首都大学東京大学院教授)
3	国際生活機能分類	全ての人を対象とした国際生活機能分類の概要を学修する。特に、住民の参画と支援環境の整備を重視する視点の理解を深める。また、このモデルを活用した、生活機能を維持するための、住民参加、機能維持のための支援環境を整備するという視点から、様々な事例を提示し、個別の健康支援環境整備活動とその効果について考究する。 【キーワード】 国際生活機能分類、住民参画、生活機能、健康支援環境整備活動	星 旦二 (首都大学東京大学院教授)	星 旦二 (首都大学東京大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	健康水準	都道府県別にみた健康水準を平均寿命や要介護認定割合を見てみよう。また、視覚化するために、図表やマップづくりを習得しよう。健康度には、様々な較差が見られるが、ここではそれらの実態を把握すると共に、それらの関連要因について、医療整備状況、地域の特性などについて、関連性を学習する。 【キーワード】 健康水準、平均寿命、要介護認定割合、地域特性	星 旦二 (首都大学東京大学院教授)	星 旦二 (首都大学東京大学院教授)
5	健康規定要因	健康を規定する要因について、WHOが示した概要を学修する。また、健康を規定する要因として幅広い分野が提示されていることを学修する。さらに、健康を規定する要因の各寄与割合について、米国の健康づくり報告書の理解を深める。さらに、疾病を予防し、健康の維持増進のための医療の歴史的な役割と、その意義についても、考究する。 【キーワード】 健康規定要因、健康維持増進、疾病予防	星 旦二 (首都大学東京大学院教授)	星 旦二 (首都大学東京大学院教授)
6	ヘルスプロモーション	WHOが提示したヘルスプロモーションを学修する。ここでは、その定義、主な活動の特性を学ぶ。また、対応する分野、その評価方法、活動戦略について、理解を深める。さらに、各地で推進されている健康づくり活動の実践事例を紹介すると共に、その成果についても評価してみる。 【キーワード】 WHO、ヘルスプロモーション、健康づくり活動	星 旦二 (首都大学東京大学院教授)	星 旦二 (首都大学東京大学院教授)
7	健康日本21	日本の厚生労働省が示した、健康日本21について、その概要と、推進方法、活動分野、そして評価の概要と、次の目標設定について学修する。ここでは、各地での優れた事例を学び、その特性と推進要因について、考究する。また、評価結果を踏まえた、新しい目標の設定についても学修する。 【キーワード】 健康日本21、目標設定、推進要因	星 旦二 (首都大学東京大学院教授)	星 旦二 (首都大学東京大学院教授)
8	健康づくりを支援する理念と方法及び支援環境整備	健康を支援する方法について、その方法、技法、推進方法、戦略について、学修する。また、対象の特性に応じた、実践内容の評価についても学修する。特に活動を推進したその効果を明確にする評価デザインをバリエーションを含めて提示する。具体的な評価についても考究する。 【キーワード】 健康支援方法、推進方法、評価デザイン	星 旦二 (首都大学東京大学院教授)	星 旦二 (首都大学東京大学院教授)
9	調査研究	人々の健康維持増進を支援する各フィールド活動を対象として、科学の視点を導入し、具体的な調査研究方法を学修し、より科学的なエビデンスを明確にする能力を身につける。また、科学的なエビデンスを基にして、その後の健康を支援する政策改善に活かしていく具体的なプロセスと実践的な健康支援方法を学修する。 【キーワード】 調査研究方法、科学的エビデンス、政策改善、実践的健康支援方法	星 旦二 (首都大学東京大学院教授)	星 旦二 (首都大学東京大学院教授)
10	量的な調査研究	より客観的な調査研究方法は、量的研究である。疫学的手法を紹介すると共に、いくつかの事例を提示する。特に、追跡研究による因果構造を明確にする研究を紹介する。 【キーワード】 量的研究、疫学、疫学的手法、追跡研究、因果構造	星 旦二 (首都大学東京大学院教授)	星 旦二 (首都大学東京大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	質的な調査研究— 住民活動の分析—	<p>地域保健活動は、住民の自治意識をいかに向上させるかが鍵である。行政と住民の活動を、社会的視点から歴史的経過を分析した質的な調査研究を紹介する。市の市政開始からヘルスプロモーションの具現化である協働型まちづくりに至った事例の分析を通して、学修する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 質的研究、ヘルスプロモーション、協働型まちづくり</p>	櫻井 尚子 (東京慈恵会 医科大学大学 院教授)	櫻井 尚子 (東京慈恵会 医科大学大学 院教授)
12	市町村における地域 活動の連携要因— ヘルスプロモーション の視点からの分析—	<p>多数の事例を対象にして、研究の間を明らかにする質的な調査研究を紹介する。市町村において地域保健と職域保健の連携に必要な要因を明らかにし、連携に有用な具体的な方策を理解する。各地の先駆的地域保健活動事例をヘルスプロモーションの5行動戦略の視点から分析した研究である。理論枠組みを使用した実践に寄与する地域保健活動の研究方法を学修する。</p> <p><b>【キーワード】</b> ヘルスプロモーション、地域保健、産業保健、連携</p>	櫻井 尚子 (東京慈恵会 医科大学大学 院教授)	櫻井 尚子 (東京慈恵会 医科大学大学 院教授)
13	住民参加による保健 計画策定と健康づく り活動—参加型研究—	<p>市町村の健康づくり推進員が健康づくりの核になり、行政とパートナーになって保健計画を策定し、評価し実施計画を再検討しながら活動を進めている。その活動を、協働して行う参加型研究として紹介し、Healthy city を意識した市民活動の推進要因を学修する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 保健計画、ヘルスプロモーション、Healthy city</p>	櫻井 尚子 (東京慈恵会 医科大学大学 院教授)	櫻井 尚子 (東京慈恵会 医科大学大学 院教授)
14	健康づくりを支援する 保健師機能に関する 研究—ミクストメソ ッド—	<p>健康科学分野の多様で複雑な社会現象を捉え、実践に結びつけるためには、研究目的であるリサーチクエストに基づき多様な方法を組み合わせることが求められる。健康づくりを支援する保健師機能に関する質的研究と量的研究を用いたミクストメソッドの研究を紹介する。</p> <p><b>【キーワード】</b> ミクストメソッド、保健師、住民との協働</p>	櫻井 尚子 (東京慈恵会 医科大学大学 院教授)	櫻井 尚子 (東京慈恵会 医科大学大学 院教授)
15	未来の健康科学	<p>健康科学の領域は、アクションリサーチ、ICTの活用、ウェアラブルセンサーやナノテクノロジーによるマイクロセンサーによる生体データの収集、ビッグデータ解析などを行うことにより、さらに進歩し、新たな局面を迎えている。未来の健康科学として、科学技術振興機構・社会技術研究開発センターの「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」の取り組みと、文部科学省「革新的イノベーション創出プログラム」から、例を挙げる。</p> <p><b>【キーワード】</b> アクションリサーチ、ICT、ビッグデータ</p>	田城 孝雄 (放送大学教 授)	田城 孝雄 (放送大学教 授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8910600	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 生活リスクマネジメント ('11) = (R)

[主任講師 (現職名) : 奈良 由美子 (放送大学教授) ]

### 講義概要

生活の質を高めるうえで生活リスクを理解し低減することは不可欠である。このことは生活者自身はもちろん、地域、企業、行政といったリスク管理主体を含めた社会全体の課題といえる。本科目では、リスクの様相の局面、リスクの認識の局面、そしてリスクへの対処の局面から、生活リスクマネジメントの理論と実践についての講義を行う。

### 授業の目標

リスクの増大化・複雑化する現代において、生活上のリスクを把握し管理することが社会的にも求められている。本科目では、喫緊の課題ともいえる生活リスクマネジメントについて、知識の提供と実践能力の育成を行うことを目的とする。その際、生活者自身はもちろん、地域、企業、行政といった立場の異なるリスク管理主体の協働までを射程に入れた検討を行いたい。

### 履修上の留意点

生活の総合性や現代的課題を理解するために、「生活ガバナンス研究('15)」を履修することがのぞましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	リスク研究へのいざない	科目全体の導入回として、この回では、現代社会にあってリスクを理解しこれを管理することの意義についての問題提起を行う。その際に、生活あるいは生活者の視点からリスクをとらえる本書の立場を示しておきたい。また、リスク研究についての関連学問領域におけるアプローチを紹介する。 <b>【キーワード】</b> リスク、生活、生活者、リスク研究、リスク社会、安全と安心	奈良由美子 (放送大学教授)	奈良由美子 (放送大学教授)
2	リスク概念	リスクの本質は不確実性にある。リスクとは何であるかを理解するためには、リスクの特性と不確実性とのかかわり、また不確実性から生じる評価の問題、認識の問題、さらには対応の問題を理解することが必要となる。これらの内容を中心に、リスクの定義、リスクの成分といった項目についても見ていく。 <b>【キーワード】</b> 不確実性、確率、望ましくない結果、頻度、強度、ハザード、ペリル、ダメージ	奈良由美子 (放送大学教授)	奈良由美子 (放送大学教授)
3	リスクの実際	この回のねらいは、わたしたちの生活にどのようなリスクがどの程度の大きさで存在しているのかを把握することによって、リスクの様相の局面を理解することである。具体的には、人間の死亡についての統計データをみることで、いくつかのリスクの大きさをとらえる。また、現代社会および一人の人間の生活に発生するリスクについての分類を提示する。 <b>【キーワード】</b> 平均寿命、年間死亡リスク、生涯死亡リスク、リスクの分類	奈良由美子 (放送大学教授)	奈良由美子 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	リスク認知とバイアス	<p>リスクの本質は不確実性にあり、これに人間の認知能力の制約が関わることで、リスク情報の処理の過程には認知バイアスが生じる。この認知のゆがみが、主観リスクと客観リスクとの乖離をうむ。この回では、リスク認知のバイアスとは何かについて、具体的ないくつかの認知バイアスを取りあげながら説明する。</p> <p>【キーワード】</p> <p>リスク認知、客観リスク、主観リスク、認知バイアス、ヒューリスティック、リスク情報、正常性バイアス</p>	奈良由美子 (放送大学教授)	奈良由美子 (放送大学教授)
5	リスクイメージとリスクの受容	<p>わたしたちはリスクについてのイメージを形成し、そのイメージによってリスクを判断している。ひとびとのリスクイメージとリスク認知について見ていく。また、ひとびとのリスクの受容の実態とその要因について、もっとも低いレベルでのリスク受容すなわちゼロリスク要求にも言及しながら考える。</p> <p>【キーワード】</p> <p>リスクイメージ、リスクの認知地図、リスク受容、便益、自発性、ゼロリスク</p>	奈良由美子 (放送大学教授)	奈良由美子 (放送大学教授)
6	社会のなかのリスク	<p>リスクについての認識はひとによって違う。これは、各個人がおかれている社会的コンテキストが異なるためである。この回では、リスクに対する見方や考え方がどのように社会的に構成されるのかについて考える。日本におけるリスク観の特徴やその背景にも触れる。</p> <p>【キーワード】</p> <p>社会的コンテキスト、個体的要因、文化的・環境的要因、国際比較、日本人のリスク観</p>	奈良由美子 (放送大学教授)	奈良由美子 (放送大学教授)
7	リスクマネジメントの基本	<p>リスクを低減するための管理手法であるリスクマネジメントに関して、その意義と基本を提示する。リスクの分析や評価、リスク処理の手法を含む具体的なリスクマネジメントプロセスについて述べる。また、生活者が自らの生活にリスクマネジメントを導入する際の留意点や積極性についても言及する。</p> <p>【キーワード】</p> <p>コスト、PDCAサイクル(PDSサイクル)、リスクマネジメントプロセス、リスク分析、リスク評価、リスク処理技術</p>	奈良由美子 (放送大学教授)	奈良由美子 (放送大学教授)
8	リスクコミュニケーション	<p>あるリスクについて立場の異なる複数の主体が関係するとき、リスクについての問題解決が困難になることが多い。リスクに対する考え方や意見の違いがあるとき、リスクコミュニケーションが必要となる。この回では、リスクコミュニケーションについて、その意義と基本的な方法を考える。</p> <p>【キーワード】</p> <p>リスクコミュニケーション、生活者、専門家、専門家バイアス、欠如モデル、相互作用プロセス</p>	奈良由美子 (放送大学教授)	奈良由美子 (放送大学教授)
9	自然災害	<p>わが国は世界有数の自然災害国である。自然災害は生活に大きな損害をもたらす。この回では自然災害について、その様相、認識、対処の局面を考える。とくに地震災害に焦点をすえながら、社会と生活者にとっての対処の方法と課題を検討する。</p> <p>【キーワード】</p> <p>自然災害、地震、公助、自助、共助、時間</p>	奈良由美子 (放送大学教授)	奈良由美子 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	犯罪	わが国の安全神話の崩壊が指摘されて久しい。この回では、生活の安全・安心を脅かす犯罪について、リスクの様相、認識、対処の局面からアプローチする。具体的には、犯罪の認知件数や被害状況等から犯罪の実際をおさえるとともに、生活者の体感治安と犯罪不安の様子を見ることが、犯罪に対する安全と安心の阻害状況を理解する。そのうえで、犯罪への対処の方策について考えていきたい。 【キーワード】 犯罪、認知件数、犯罪被害、体感治安、犯罪不安、犯罪者、ターゲット、環境、地域	奈良由美子 (放送大学教授)	奈良由美子 (放送大学教授)
11	製品安全	科学技術が進展し消費者のニーズも多様化する現代社会にあって、さまざまな製品が開発・販売され、生活の利便性を高めている。同時に、その使用による被害も指摘されている。この回では、日常生活で使用する製品をとりあげ、事故や被害実態を見たうえで、製品安全に対する生活者の認識をおさえ、さらにこれへの対処を行政、事業者、そして消費者の立場から考えていく。 【キーワード】 消費者、製品事故、製品評価技術基盤機構(NITE)、警告表示、消費生活用製品安全法、製造物責任法(PL法)、責任、誤使用と正常使用、製品の不確実性	奈良由美子 (放送大学教授)	奈良由美子 (放送大学教授)
12	食品安全	食の安全・安心に対するひとびとの関心は高い。この回では食品の安全性について、客観的な様相を具体的なデータによっておさえ、これとひとびとの主観的な認識との差がどうであるか、さらにはその差の要因は何かを考察する。総じて、現代社会にあってわたしたちが食品リスクに向かい合うための手がかりを考えていきたい。 【キーワード】 食の安全・安心、食中毒、食品添加物、食品安全委員会、BSE問題、遺伝子組換え食品、中国製冷凍ギョーザ事件、マスコミ報道	奈良由美子 (放送大学教授)	奈良由美子 (放送大学教授)
13	信頼とリスク	現代社会においてリスクを考えると、重要な分析概念のひとつとなるのが「信頼」である。この回では、まず信頼の意味ならびに生活の安全・安心と信頼との関わりをおさえる。そのうえで、リスクをめぐる複数の主体のあいだで信頼を構築することの意義と可能性について、主要モデルや具体的事例を示しながら考えていく。 【キーワード】 信頼、生活の外部依存、安全の外部依存、伝統的な信頼モデル、主要価値類似性モデル、専門的能力、姿勢、誠実さ、参加の重要性、第三者	奈良由美子 (放送大学教授)	奈良由美子 (放送大学教授)
14	生活者の主体性とリスクガバナンス	この回では、生活者がリスク社会に主体的に関わることの意義と可能性を検討する。具体的には、ソーシャル・キャピタルの醸成とリスクガバナンスの展開をとりあげ、そこに生活者が能動的に参加することでもたらされる新たなリスク対処資源や問題解決手法について検討していく。 【キーワード】 主体性、参加、ソーシャル・キャピタル、信頼、ネットワーク、互酬性の規範、リスクガバナンス、フレーミングの多角化	奈良由美子 (放送大学教授)	奈良由美子 (放送大学教授)
15	安全と安心、そして信頼の構築にむけて	これまでに現代社会における生活リスクについて、その様相、認識、対処の局面から述べてきた。最終回では、それらの内容を①ゼロリスクを前提としない実際的なリスクマネジメントの導入、②安全に裏付けられた安心の実現、③生活者のリスク管理の主体としての復権の観点から総括することで、本書全体のまとめを行う。 【キーワード】 リスクマネジメントのクライテリア、ゼロリスク、安全と安心、不安、生活全体への満足、主体性、セルフエンパワメント、信頼	奈良由美子 (放送大学教授)	奈良由美子 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8910553	履修 制限	有	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名（メディア）＝ 精神医学特論 （'10）＝（R）

〔主任講師（現職名）：石丸 昌彦（放送大学教授）〕  
 〔主任講師（現職名）：仙波 純一（さいたま市立病院精神科部長）〕

### 講義概要

精神医学は、頭や心の働きの変調や障害に関する知識の集大成であり、精神疾患の診断や治療のあり方を検討する深く広い学問である。本科目は臨床心理士養成コース大学院の科目であるので、専門的な医学的な知識がなくとも理解できるよう工夫がなされている。今日見られる代表的な疾患を広くとりあげて事例をあげつつ紹介し、診断ばかりでなく治療の基本的な流れを解説することに力点が置かれている。

### 授業の目標

主な精神疾患について、症状・経過・診断・治療など基本的なことがらを正しく理解習得する。そのことを通じ、精神障害をもつ人々がどんな困難を抱えているかを知るとともに、適切な援助を行うにはどうすればよいか具体的に工夫できる力を養う。また、医学・医療において精神医学が担っている役割を理解し、今日の社会において精神障害者福祉が抱えている課題や将来展望を自ら考える姿勢を身につける。

### 履修上の留意点

あらかじめ学んでおく科目として特に指定するものはないが、日頃から健康や医学の問題に関心を持ち、家庭医学書や新聞・書籍などを通じて心身の健康についての基礎知識を養っておくことが望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	精神医学とは何か	医学において精神医学の占める位置を確認しつつ、精神医学の歴史と現状を展望する。精神症状を把握するための面接法、臨床検査法、診断法についての基本的な考え方を学ぶ。  【キーワード】 精神医学、従来診断、DSM-IV、ICD-10	石丸 昌彦 (放送大学教授)	石丸 昌彦 (放送大学教授)
2	気分障害(1)	従来の診断名では躁うつ病と呼ばれる気分障害をとりあげ、その疫学、症状、推定されている成因などについて学ぶ。今日の精神医療において最も重要なテーマのひとつである。  【キーワード】 気分障害、躁うつ病、うつ病	仙波 純一 (さいたま市立病院精神科部長)	仙波 純一 (さいたま市立病院精神科部長)
3	気分障害(2)	気分障害の治療法を構成する薬物療法と精神療法の役割を述べる。抗うつ薬・気分安定薬など主な治療薬の特徴と注意点、精神療法の基本原則のほか、電撃療法や認知療法などにも言及する。  【キーワード】 抗うつ薬、気分安定薬、認知療法	仙波 純一 (さいたま市立病院精神科部長)	仙波 純一 (さいたま市立病院精神科部長)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	統合失調症(1)	かつて精神分裂病と呼ばれていた統合失調症は、現在でも精神医療の大きな課題である。その概念、疫学、症状、診断基準、成因仮説、最近の動向などについて学ぶ。  【キーワード】 統合失調症、精神分裂病、ドーパミン仮説	石丸 昌彦 (放送大学教授)	石丸 昌彦 (放送大学教授)
5	統合失調症(2)	統合失調症の治療法すなわち、薬物療法、精神療法、作業療法、SSTなどについて述べる。抗精神病薬の作用・副作用と使用の意義を理解するとともに、疾患の特徴を踏まえた援助のあり方について考える。  【キーワード】 抗精神病薬、作業療法、SST	石丸 昌彦 (放送大学教授)	石丸 昌彦 (放送大学教授)
6	不安障害と関連事項 (1)	従来診断名では神経症と呼ばれる疾患群を不安障害としてとりあげ、その主なものについて、疫学、症状、治療法などを述べる。本章ではパニック障害、強迫性障害、恐怖症などを扱う。  【キーワード】 神経症、不安障害、パニック障害、強迫性障害、恐怖症	石丸 昌彦 (放送大学教授)	石丸 昌彦 (放送大学教授)
7	不安障害と関連事項 (2)	第6章に続き、不安障害と関連事項について学ぶ。本章ではヒステリー、適応障害、心的外傷後ストレス障害(PTSD)などに焦点を合わせ、ストレスと心の健康の関係についても考える。  【キーワード】 ヒステリー、転換性障害、解離性障害、適応障害、心的外傷後ストレス障害(PTSD)	石丸 昌彦 (放送大学教授)	石丸 昌彦 (放送大学教授)
8	身体疾患による精神障害	身体疾患にともなって生じる精神障害は、精神医学においてはきわめて重要なテーマである。代表例を通じてその特徴を学び、現代における意義を考える。てんかんについても簡単に言及する。  【キーワード】 症状性精神病、器質性精神病、てんかん	石丸 昌彦 (放送大学教授)	石丸 昌彦 (放送大学教授)
9	小児期の精神障害	小児期に明らかとなる広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などについて述べる。これらの障害は今日注目を集めており、正しく理解することが必要である。  【キーワード】 発達障害、広汎性発達障害、自閉性障害、学習障害、注意欠陥多動性障害(ADHD)	市川 宏伸 (東京都立梅ヶ丘病院院長)	市川 宏伸 (東京都立梅ヶ丘病院院長)
10	思春期・青年期の精神障害	思春期・青年期にはさまざまな精神障害が発症・顕在化する。その中で特にこの時期に特徴的な疾患としてパーソナリティ障害と摂食障害をとりあげ、概念、症状、診断、治療などについて学ぶ。  【キーワード】 パーソナリティ障害、摂食障害、神経性無食欲症、神経性大食症	石丸 昌彦 (放送大学教授)	石丸 昌彦 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	壮年期の精神障害	<p>壮年期の精神障害は、職場や家庭での社会的責任やストレスと関連するものが多い。本章では心身症とアルコール依存症をとりあげ、その概念や症状について学びつつ今日の現状を展望する。</p> <p>【キーワード】 心身症、アルコール依存症、物質関連障害</p>	石丸 昌彦 (放送大学教授)	石丸 昌彦 (放送大学教授)
12	老年期の精神障害	<p>わが国が直面している超高齢化社会では、高齢者の心の健康はきわめて重要な課題である。本章では老年期認知症を中心に、老年期の精神疾患の特徴や注意点を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 老年期認知症、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、うつ病</p>	石丸 昌彦 (放送大学教授)	石丸 昌彦 (放送大学教授)
13	精神科治療(1)	<p>精神科治療薬の種類とその推定される作用機序について述べる。個々の治療薬の特徴を知るとともに、精神科の薬物療法において注意すべき点を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 向精神薬、臨床試験、EBM</p>	石丸 昌彦 (放送大学教授)	石丸 昌彦 (放送大学教授)
14	精神科治療(2)	<p>精神科面接の基本的な進め方について学び、面接そのものが持つ治療効果について理解する。また、精神疾患の特徴に応じた精神療法のあり方について、いくつかの例を通して理解する。</p> <p>【キーワード】 精神科面接、心理教育、疾患に応じた精神療法的配慮</p>	石丸 昌彦 (放送大学教授)	石丸 昌彦 (放送大学教授)
15	日本の精神医療の現状	<p>日本の精神医療の歴史と現状を行政・法律や社会意識の面から検討する。本人の同意なしに治療を行う場合の人権保護の問題や、精神障害者の社会復帰を支える援助のあり方を含む。</p> <p>【キーワード】 精神保健福祉法、強制入院、患者の人権、社会復帰</p>	石丸 昌彦 (放送大学教授)	石丸 昌彦 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8910626	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = ヘルスリサーチの方法論 ('13) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 井上 洋士 (放送大学教授) 〕  
 〔主任講師 (現職名) : 〕  
 【本学担当専任教員 : 〕

### 講義概要

健康や保健医療に関する研究には、基盤となるアプローチがあるのと同時に、多様な研究方法が存在する。調査研究について大別すれば、量的研究や質的研究があり、またそれらを組み合わせた方法論的トライアングレーションも存在する。また、たとえば量的研究においても、介入的研究や質問紙による調査、WEB調査なども存在する。本科目では、研究遂行のためのガイドとなるべく、健康や保健医療の研究のアプローチの基礎について概略を紹介し、一部の方法については具体的に言及する。保健・医療・看護・健康に関連する学生をコアターゲットとして考えているものの、福祉、生活、心理、教育、社会など、幅広い領域の学生も受講できるよう、また内容的にも各自の研究に十分役立つよう、工夫してある。

### 授業の目標

健康や保健医療に関する基本的な研究アプローチのうち、主要なものについての基本的理解を深めること、及び大学院における実査や論文作成等の研究を実施するにあたり、本科目で学んだ事項を発展的に応用し、研究テーマの焦点を絞って、そのテーマに合った方法を選択する実践的な力を培っていただくことを目標とする。

### 履修上の留意点

他の生活健康科学プログラム関係の科目と並行して学ぶことが望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	ヘルスリサーチと方法論	本科目での学び方について解説をする。特に、「研究とは何か」を改めておさえたうえで、ヘルスリサーチないしは保健・医療・福祉分野での調査研究について、その位置づけや方法論、流れについて概説をする。また、「私の疑問」をリサーチ・クエスチョンにし、さらに洗練させて研究課題へと具体化させる過程についても紹介する。 【キーワード】 ヘルスリサーチ、研究、リサーチ・クエスチョン、内的妥当性、外的妥当性	井上洋士・放送大学教授	井上洋士・放送大学教授
2	健康関連の理論・モデルと研究への適用	健康という現象を研究としてどのようにとらえるのか、理論やモデルと、それらの研究への適用について紹介し、受講者各自が研究を実施するにあたり「どのように光を当てるのか」を模索する契機とする。また、健康行動や健康教育にかかわる研究について頻繁に用いられる理論・モデルのいくつかについても紹介する。 【キーワード】 健康、健康行動、理論、モデル、概念、健康信念モデル、計画的行動理論、自己効力感	井上洋士・放送大学教授	井上洋士・放送大学教授
3	健康分野での文献検索とクリティーク	ヘルスリサーチを進めていく上で、健康や医療、看護分野での文献や論文を探してレビューすることは不可欠である。ここでは、文献の種類や探し方を紹介する。さらに、収集した文献を概観するにあたっては、たえず批判的な目を持つ必要があると言われるが、その意味や、文献クリティークの視点について紹介する。 【キーワード】 文献の種類、文献検索、検索エンジン、クリティーク	伊藤美樹子・大阪大学准教授	伊藤美樹子・大阪大学准教授

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	健康や病い・障害の研究デザイン	健康や病いの研究のうち、「人」を対象とするものにおいては、患者など、その当事者そのものを念頭におくことが多い。しかし実際には、家族や地域の人々などを対象とする研究も含まれる。ここでは、研究対象をどうとらえるのかを考えていく。調査研究におけるサンプリングなど、研究デザインの構築の仕方についても言及する。 【キーワード】 研究デザイン、研究計画(どう立てていくか)、量的方法、質的方法	伊藤美樹子・大阪大学准教授	伊藤美樹子・大阪大学准教授
5	ヘルスリサーチにおける質的研究	ヘルスリサーチにおいて質的研究にはどのような役割があるのか、どのような場合に質的研究を選択するとよいのか、質的研究により厚みが出る研究テーマはどういうものなのかについて説明する、また、研究テーマなどにより、どの方法を選択したらよいかを考える。 【キーワード】 質的データ、実践科学、専門性への問い直し	木下康仁・立教大学教授	木下康仁・立教大学教授
6	グラウンデッド・セオリー・アプローチと健康・看護領域での活用	看護研究などでよく用いられるグラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)の概説と、この手法を選択する場合の注意点、実践研究例を紹介する。また、グラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)を実践するにあたり、学ぶべきこと、姿勢などについても考える。 【キーワード】 グラウンデッド・セオリー・アプローチ、概念、カテゴリー、切片化	森真喜子・北里大学准教授	森真喜子・北里大学准教授
7	修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチと健康領域での活用	修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)は、GTAとどこが違うのか、どういった場合にM-GTAが適しているのかについて紹介する。また、M-GTAを実施する際の心構えと学ぶべきことについても考えていく。 【キーワード】 多重的同時比較、理論生成、実践的活用、一般化可能性	木下康仁・立教大学教授	木下康仁・立教大学教授
8	ヘルスリサーチにおける量的研究:質問紙調査を中心に	質問紙調査、いわゆるアンケート調査を主軸とする量的研究について、その役割・意義について概要を説明する。また、質問紙調査遂行のプロセスについて概観していく。 【キーワード】 量的調査、配表、質問紙、質問文、回収率、統計ソフト	井上洋士・放送大学教授	井上洋士・放送大学教授
9	ヘルスリサーチにおける介入研究	健康領域での介入的研究は、準実験的研究とも呼ばれるものが多い。ここでは実験研究についてまず述べるが、実験研究の限界と、それゆえ行われる準実験的研究について、紹介する。具体的には、実施の仕方や留意点、限界などを紹介しつつ、その意義を検討していく。 【キーワード】 実験研究、介入研究、準実験的研究、介入、対照群、無作為割付、バイアス、交絡因子	井上洋士・放送大学教授	井上洋士・放送大学教授 ゲストスピーカー: 東京都町田市南つくし野小学校 主任養護教諭 三浦佐智子
10	統計を使って研究を進め「考える」とは	量的な実験や研究の結果はデータ化されている。研究計画の段階で研究目的にあがっている変数を測定するため、調査票を作成したり、測定機器を用いた。調査や実験が終わって、各対象者と変数のデータセットを作成して、さあ何をしようか、というところからこの回では扱っていく。全体を通して統計を使って「考える」とは何かについて説明をしていく。 【キーワード】 統計、分析、有意差、関連性、相関、尺度開発	戸ヶ里泰典・放送大学准教授	戸ヶ里泰典・放送大学准教授

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	質の高い研究を目指すための諸アプローチ	<p>ヘルスリサーチにおいて質の高いものを目指すための諸アプローチについて扱う。具体的には、近年注目されている、量的研究と質的研究との組み合わせ、すなわち方法論的トライアングレーション、紙ベースではなくインターネットを通じたWeb調査の実施、既存の調査データを用いて別の研究目的を設定して研究を進める2次分析、そしてシステマティック・レビューについてである。それぞれのメリット・デメリットについても紹介する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 方法論的トライアングレーション、Web調査、2次分析、副次的研究、システマティック・レビュー</p>	井上洋士・放送 大学教授	井上洋士・放送 大学教授 ゲス トスピーカー： 東京地下鉄株 式会社 産業 保健師 島忍
12	研究における倫理的配慮	<p>倫理、尊厳、人権という研究理論で使われる言葉を理解した上で、研究理論の基本的ルールであるインフォームド・コンセントと個人情報保護について、さらに安全性や科学性への配慮について考察する。また、こうした考察の基礎をなす倫理原則を検討する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 倫理、尊厳、人権、インフォームド・コンセント、個人情報保護</p>	樽井正義・慶応 義塾大学教授	樽井正義・慶応 義塾大学教授
13	当事者参加型リサーチ	<p>ヘルスリサーチでは近年、調査研究を研究者が請け負う形ではなく、調査研究の計画立案からまとめと成果発表に至るまで、研究者と当事者が協働で行う方式で進める当事者参加型リサーチが注目されている。この回では、その基本的な考え方と具体的な実践方法について、日本とオーストラリアでの例をもとに紹介する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 当事者参加型リサーチ、アクション・リサーチ、エンパワメント、協働、コンフリクト</p>	井上洋士・放送 大学教授	井上洋士・放送 大学教授 ゲ ストスピーカー： NPO日本HIV 陽性者ネット ワークジャン ププラス 事務 局長 高久陽介
14	ソーシャルマーケティングと研究への導入	<p>健康領域の研究において、ソーシャルマーケティングの概念が導入されることが増えてきている。そこで、ソーシャルマーケティングの基本的な考え方を紹介するとともに、ソーシャルマーケティングに基づき保健医療領域での研究をしていくことの意義について考える。実際の研究例についても触れていく。</p> <p><b>【キーワード】</b> ソーシャルマーケティング、形成調査、プロセス評価、アウトカム評価</p>	木原雅子・京都 大学准教授	木原雅子・京都 大学准教授
15	ヘルスリサーチの成果の還元	<p>ヘルスリサーチについて、実践をしていく上でのアプローチをここまで紹介したが、この回では、研究成果をどのようにまとめて世に還元したらいいのかについて触れる。最後に、まとめと今後の取り組み方について述べる。</p> <p><b>【キーワード】</b> 研究成果、発表、論文、査読、学会</p>	井上洋士・放送 大学教授	井上洋士・放送 大学教授

事務局 記載欄	開講 年度	2015年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8910693	履修 制限	有	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = スポーツ・健康医科学 ('15) = (R)  
 英文名 = [ Medical Science of Sports and Health ('15) ]  
 [主任講師 (現職名) : 河合 祥雄 (順天堂大学大学院教授) ]  
 [主任講師 (現職名) : ]  
 【本学担当専任教員 : 関根 紀子 (放送大学准教授) 】

**講義概要**

スポーツは人々の生活の質をさらに高めることを可能にする。日常生活にスポーツを取り入れることによって、豊かな生活、健康な人生を送ることができる。その実践のきっかけとなるための基礎的理論を理解し、安全を担保し、確実な医学的事実に基づく有益・有用な実践に結びつけるための手立てを提示する。  
 講義内容は自身の問題であるだけでなく、青少年、高齢者を指導する際に有益な情報・有用な指針を与える。

**授業の目標**

様々な環境における運動が小児から高齢者、女性のからだに及ぼす影響についての理解を深め、その具体的な適応例としてのスポーツ・運動実践の意義について知識を深める。

**履修上の留意点**

スポーツ・運動科学に関する専門科目は開講されていないが、健康領域にはからだの構造や機能、健康管理等について解説する科目が多数開講されているので、各自の学習の進捗状況に合わせて、参考としていただきたい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	競技スポーツから健康志向の運動・スポーツへ	「スポーツ」の発生と歴史、文化としてのスポーツの観点から、スポーツ・運動が健康の保持増進(予防医学)に変化してきた背景、ならびにスポーツ指導者・関係者にとってのスポーツ医学について解説する。  【キーワード】 スポーツの歴史、文化としてのスポーツ、運動の世俗化、ハーバード同窓生健康調査	河合 祥雄 (順天堂大学 大学院教授)	河合 祥雄 (順天堂大学 大学院教授)
2	呼吸・循環系と運動	身体活動を実施するためには、骨格筋に酸素やエネルギー基質が運搬される。その役割を担う、呼吸・循環器系の機能について、運動生理学的な見地から概説する。  【キーワード】 呼吸、循環、酸素摂取量、無酸素性作業閾値	大西 朋 (帝京大学助 教)	大西 朋 (帝京大学助 教)
3	神経・筋の運動生理	身体活動は関節運動の組み合わせによって成立する。ここでは、スポーツ・運動に関わる、骨・筋・関節ならびに運動を生み出す神経系の機能について、運動生理学的見地から概説する。  【キーワード】 運動神経、筋繊維、運動単位、運動ニューロン、錐体路	佐賀 典生 (帝京大学助 教)	佐賀 典生 (帝京大学助 教)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	筋力/持久力トレーニング	健康体力づくりに必要な運動やトレーニングのメカニズム、特に持久性運動(有酸素運動)、筋力トレーニングについて、筋の収縮様式の違いによるトレーニング効果の相違、トレーニングの理論と実際について概説する。  【キーワード】 超回復、筋肥大、筋出力、骨格筋活動様式	佐賀 典生 (帝京大学助教)	佐賀 典生 (帝京大学助教)
5	子どもの発達とスポーツ・運動	少年期から思春期を経て青年期に至る身体の形態発育および機能発達と、それらに及ぼす運動習慣とスポーツ・運動の効果について概説する。  【キーワード】 子どものスポーツ活動の現状、スポーツ傷害、練習と休養	河合 祥雄 (順天堂大学大学院教授)	河合 祥雄 (順天堂大学大学院教授)
6	女性とスポーツ・運動、貧血	女性の身体的特徴とその加齢変化について解説する。また女性のからだに及ぼすスポーツ・運動の影響について概説する。  【キーワード】 運動性貧血、月経障害、摂食障害、妊娠、更年期障害	河合 祥雄 (順天堂大学大学院教授)	河合 祥雄 (順天堂大学大学院教授)
7	高齢者とスポーツ・運動	健康寿命の延伸は、高齢化が急速に進むわが国では大きな課題となっている。高齢者の体力低下と介護を予防するための効果的な運動について概説する。  【キーワード】 サルコペニア、廃用症候群、加齢性萎縮、骨粗鬆症	河合 祥雄 (順天堂大学大学院教授)	河合 祥雄 (順天堂大学大学院教授)
8	スポーツによる急性障害と安全対策	スポーツにおける身体の適応と破綻、およびスポーツによる急性障害とその対策について論じる。  【キーワード】 不整脈、運動後の低血圧、脱水、過換気症候群、運動誘発性喘息、運動誘発アナフィラキシー	河合 祥雄 (順天堂大学大学院教授)	河合 祥雄 (順天堂大学大学院教授)
9	過労性スポーツ障害	トレーニングにおける適応、超回復の理論を概説し、スポーツにおけるオーバートレーニング、オーバーリーチングの実際とその対策について論じる。  【キーワード】 疲労、ストレス、過労死、オーバートレーニング(症候群)、ピーキング	河合 祥雄 (順天堂大学大学院教授)	河合 祥雄 (順天堂大学大学院教授)
10	スポーツにおける急死	発症から24時間以内の予期しない内因性死亡である急死の実態(前駆症状、機序、解析など)、年齢・運動種類による原因疾患の違い、処置対策、予知予防(メディカルチェック)について論じる。  【キーワード】 ウツタイン・スタイル、肥大型心筋症、心室細動、AED	河合 祥雄 (順天堂大学大学院教授)	河合 祥雄 (順天堂大学大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	環境とスポーツ	<p>暑熱環境から寒冷環境まで、スポーツ環境が人体に及ぼす影響(熱中症、低体温症)とその対策について略述する。</p> <p>【キーワード】 体温調節、熱中症、暑熱馴化、偶発性低体温症、時差症候群、高山病</p>	河合 祥雄 (順天堂大学 大学院教授)	河合 祥雄 (順天堂大学 大学院教授)
12	水中・圧環境とスポーツ	<p>水泳は最も死亡率の高いスポーツ種目である。水泳・潜水事故の実態、その発症要因について解説し、また、登山を含めた低気圧環境における安全対策について概説する。</p> <p>【キーワード】 溺水、湿性・乾性溺死、気管内吸水、圧外傷、空気塞栓、減圧症</p>	河合 祥雄 (順天堂大学 大学院教授)	河合 祥雄 (順天堂大学 大学院教授)
13	運動に対する心臓の適応	<p>長期間にわたる非常に高度な持久性トレーニングや筋力トレーニングを行ってきた選手の一部では、生理学的適応として心臓拡大、心筋肥大がおきる(スポーツ心臓)。運動を契機にして生じる心筋傷害と合わせ論じる。</p> <p>【キーワード】 スポーツ心臓、拡張、肥大、トレーニングによる心筋障害</p>	河合 祥雄 (順天堂大学 大学院教授)	河合 祥雄 (順天堂大学 大学院教授)
14	運動処方概論	<p>生活習慣病に対する治療等に運動処方が施されるが、傷害や障害の発生も少なくない。運動実施の留意点について概説する。</p> <p>【キーワード】 健康関連体力、メディカルチェック、運動の種類</p>	大西 朋 (帝京大学助 教)	大西 朋 (帝京大学助 教)
15	高血圧の運動療法	<p>近年、高血圧症を予防し、改善するうえで身体運動を中心にした生活習慣の改善が提唱されている。運動が血圧に及ぼす影響と高血圧症に対する運動療法について概説する。</p> <p>【キーワード】 血圧、運動と血圧、バルサルバ効果、至適血圧レベル</p>	河合 祥雄 (順天堂大学 大学院教授)	河合 祥雄 (順天堂大学 大学院教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8910596	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 発達運動論 ( ' 1 1 ) = ( R )

- 〔主任講師 (現職名) : 臼井 永男 (放送大学名誉教授) 〕  
 〔主任講師 (現職名) : 岡田 修一 (神戸大学教授) 〕  
 【本学担当専任教員 : 関根 紀子 (放送大学准教授) 】【

### 講義概要

健全な成人になるためには、発達期のそれぞれの時期に必要な十分な身体活動が求められる。一方、身体機能の各要素によって、発達の時期ならびに速度が異なることから、当該要素の発達に即した運動の選択が重要になってくる。これらのことはまた、運動機能の低下様相がみられる加齢期についても同様である。さらに、この運動機能の発達・加齢変化をふまえると、各人生の段階において運動実施の目的・ねらいも異なってくる。そこで、誕生から生涯にわたって発達し、変化する運動機能の特徴を概説するとともに、各年齢期における運動実施の重要性について論じる。

### 授業の目標

生涯を通じて健康でアクティブな生活を送るためには、発達の各段階において運動実施の重要な適時が存在する。すなわち、20歳までの成長期、それ以降の加齢期において、最も適切な時期に科学的根拠に裏付けられた運動を実施することが求められる。ここでは、それらの運動をどのように実施すべきか、その考え方と科学的な知識を教授したい。

### 履修上の留意点

人間発達プログラムで開講されている、心理学、教育学関連の科目と合わせて受講されると、さらに理解が深まり、人間の発達を総合的に理解できるものと期待される。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	個体発生と系統発生	個体発生は系統発生を繰り返す、といわれることがある。 本章では、人類誕生の歴史とともに、動物としてのヒトのからだの特徴について概説し、生涯を通じて健康に過ごすための身体活動の重要性について概説する。  【キーワード】 ヒト化、二足歩行	臼井 永男 (放送大学名誉教授)	臼井 永男 (放送大学名誉教授)
2	形態の発育	子どもは大人のミニチュア版ではないといわれるように、成長の過程で長育、量育、幅育のそれぞれが同じ割合で発育していくものではない。 本章では、身体各部の発育の過程を提示するとともに、それらと身体能力の発達との関係について概説する。  【キーワード】 身長、体重、年間発育量	臼井 永男 (放送大学名誉教授)	臼井 永男 (放送大学名誉教授)
3	手指動作の習得	手指は脳の出先器官ともいわれ、その機能は幼児期に急速に発達する。これはヒトの局所の神経・感覚機能の発達に依存する。 本章では、手指の発達時期、ならびに動作習得の意義について概説する。  【キーワード】 神経感覚機能	臼井 永男 (放送大学名誉教授)	臼井 永男 (放送大学名誉教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	足の形態と機能の向上	<p>この世に生を受けて間もなく、ヒトは臥位から立位へと大きな姿勢の転換を強いられる。この時期、神経系の発達とともに、身体の手台としての足の機能も急速に発達する。</p> <p>本章では、直立・二足歩行というヒト特有の移動様式に注目し、幼児期の足の形態と機能の発達について概説する。</p> <p>【キーワード】 直立・二足歩行</p>	臼井 永男 (放送大学名誉教授)	臼井 永男 (放送大学名誉教授)
5	全身動作の習得	<p>立つ、歩く、走る、跳ぶなどの基礎的能力を習得した後に、全身動作が急速に発達する。これは全身を制御する脳・神経系の機能が発達する時期と一致する。</p> <p>本章では、このような機能がこの時期に発達する要因について、またこの時期に全身動作を習得することの意義について概説する。</p> <p>【キーワード】 脳・神経系、巧みさ</p>	臼井 永男 (放送大学名誉教授)	臼井 永男 (放送大学名誉教授)
6	ねばり強さの習得	<p>身体のねばり強さは、全身持久力で評価され、その能力は身長の間年発育量がピークに達するあたりで急速に向上する。</p> <p>本章では、全身持久力が呼吸循環機能の発達に大きな影響を受ける要因について、またこの時期にねばり強さを習得することの意義について概説する。</p> <p>【キーワード】 呼吸・循環系</p>	臼井 永男 (放送大学名誉教授)	臼井 永男 (放送大学名誉教授)
7	力強さの習得	<p>身体の力強さは、筋力で評価され、その能力は骨格の成長が完成に向かう頃に急速に向上する。</p> <p>本章では、筋力が筋の特性に影響を受ける要因について、またこの時期に力強さを習得することの意義について概説する。</p> <p>【キーワード】 筋・骨格系</p>	臼井 永男 (放送大学名誉教授)	臼井 永男 (放送大学名誉教授)
8	加齢による身体の変化(1)	<p>青年期以降、加齢に伴って身体は変化する。すなわち、中年期から身体の老化現象が始まり、高齢期には身体の老化がいつそう進行する。</p> <p>本章では、加齢に伴う形態・身体組成、神経-筋系及び呼吸循環系機能の変化について概説する。</p> <p>【キーワード】 形態・身体組成、神経-筋系機能、呼吸循環系機能</p>	岡田 修一 (神戸大学教授)	岡田 修一 (神戸大学教授)
9	加齢による身体の変化(2)	<p>老化期にみられる身体の生理的機能の低下は、体力の低下や日常動作の変容を引き起こす。</p> <p>本章では、加齢に伴う体力・運動機能の変化、ならびに起立動作、歩行動作などの日常生活動作の変容について概説する。</p> <p>【キーワード】 体力、運動機能、日常生活動作</p>	岡田 修一 (神戸大学教授)	岡田 修一 (神戸大学教授)
10	加齢による立位バランス能力の低下	<p>体力のなかでも加齢による低下が最も大きい体力要素は、立位バランス能力である。</p> <p>本章では、加齢に伴う立位バランス能力の低下のメカニズムを解説し、高齢者の転倒問題について概説する。</p> <p>【キーワード】 立位バランス能力、転倒</p>	岡田 修一 (神戸大学教授)	岡田 修一 (神戸大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	中高齢期の身体活動と健康との関係	<p>加齢に伴って身体活動量は減少する。この身体活動量の減少を起点とした悪循環から健康問題が生ずるといわれている。</p> <p>本章では、中高年の身体活動と生活習慣病等の健康問題との関係について概説する。</p> <p>【キーワード】 身体活動、生活習慣病</p>	岡田 修一 (神戸大学教授)	岡田 修一 (神戸大学教授)
12	中高齢期における運動の効果	<p>中高齢者に対する運動の効果は、生活習慣病の予防や転倒の予防だけでなく、精神心理的效果もあるといわれている。</p> <p>本章では、筋力、バランス能力などの体力的側面、及び満足感などの心理的側面に及ぼす運動の影響について概説する。</p> <p>【キーワード】 運動効果、生活習慣病予防、転倒予防、精神心理的效果</p>	岡田 修一 (神戸大学教授)	岡田 修一 (神戸大学教授)
13	生活体力を高める方策(1)	<p>高齢になってもアクティブな日常生活を送るためには、生活機能を高める運動を実施することが必要である。</p> <p>本章では、生活機能の基礎となる体力・運動機能、ならびにその能力の維持・向上を目指した体力科学的方策について概説する。</p> <p>【キーワード】 生活機能、体力科学的方策</p>	岡田 修一 (神戸大学教授)	岡田 修一 (神戸大学教授)
14	生活体力を高める方策(2)	<p>運動の効果を得るためには、運動の習慣的实施が必要となる。誰もが運動は身体に良いと思っているが、運動を継続できないのが実情である。</p> <p>本章では、運動の習慣化に向けた方策とその具体的アプローチについて概説する。</p> <p>【キーワード】 運動の習慣化</p>	岡田 修一 (神戸大学教授)	岡田 修一 (神戸大学教授)
15	アクティブ・エイジングを目指して	<p>生涯における人間の身体や健康の発達を考える場合、個人個人を取り巻く環境(人間環境、社会文化的環境、自然環境)との関係をふまえることが肝要である。</p> <p>本章では、高齢期において活動的な生活や健康寿命の延伸を具現化した例を紹介し、アクティブ・エイジングの実現に向け、個々人が運動をどのように活用すべきかについて提案する。</p> <p>【キーワード】 健康寿命の延伸、アクティブ・エイジング</p>	岡田 修一 (神戸大学教授)	岡田 修一 (神戸大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8910634	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名（メディア） ＝ 福祉政策の課題 （'14）＝ （R）  
 一人権保障への道－

英文名 ＝ [ Challenges on Welfare Policy ('14) : Approaches to the Attainment of Human Rights ]

[主任講師（現職名）：大曾根 寛（放送大学教授）]  
 [主任講師（現職名）：  
 【本学担当専任教員：】

### 講義概要

社会福祉の政策は、近代社会とともに展開し、定着してきたと言っても良いが、実は、21世紀に入るところから大きな曲がり角にあった。この講義では、20世紀に形成された近代的な福祉政策の歴史的な発展過程を追いつつ、人権理念を背景に政策の範囲と内容を豊かにしてきたことを理解する。また、21世紀の福祉政策の特徴を明らかにするとともに、今後の制度のあり方を立案するための、人権論的な基礎と歴史的背景から見えてくる政策課題を考察することとする。少子高齢化、国際化の進展の中で、今後の福祉政策にも大きな変革が求められてくることとなるからである。

### 授業の目標

この授業では、21世紀の社会福祉政策の理念と理論を確立し、政策の歴史性と人権論的な基礎を明らかにし、市民と共有するための政策理論の形成に資するものとする。また、この領域の今後の具体的な政策展開について検討することを目標とする。

### 履修上の留意点

社会福祉についての基礎知識を有し、教育・研究や実践にかかわっている方たちへの更なる前進の手がかりを提供しようとするものである。したがって、学部における社会福祉関係科目の履修を前提として作成されている。また、「生活リスクマネジメント('11)」「ヘルスリサーチの方法論('13)」「生活支援の社会福祉('14)」など生活健康科学プログラムにおかれている科目はもちろん、人間発達科学プログラムの科目、社会経営科学プログラムの科目も、密接に関連しているので、合わせて履修されたい。

回・章	テーマ	内 容	執筆担当 講師名（所 属・職名）	放送担当 講師名（所 属・職名）
1	福祉政策と人権保障	本講義の目的、対象、議論の方法などを確認しながら、20世紀から21世紀の福祉政策を鳥瞰し、福祉政策における人権保障への道を描き、本教材の目標を明らかにする。  【キーワード】 福祉政策、歴史、人権	大曾根 寛 (放送大学教授)	大曾根 寛 (放送大学教授)
2	人権理念の歴史的発展	福祉政策の原理としての人権理念の歴史的発展と理論的基盤を検証する。このために、国際連合の障害者権利条約および日本の「障害者基本法」の改正をめぐる論点を軸に政策形成の問題点を考える。  【キーワード】 人権の基礎、人権類型、国際条約	大曾根 寛 (放送大学教授)	大曾根 寛 (放送大学教授)
3	家族・ジェンダーと福祉政策	近代社会の成立が家族関係とジェンダー、ひいては福祉政策に与えた影響を検証する。理論的把握として、社会福祉政策における「家族」を法的視点から検討するとともに、福祉国家論におけるジェンダーの視点を確認する。  【キーワード】 家族、ジェンダー、福祉国家	金川めぐみ (和歌山大学 准教授)	金川めぐみ (和歌山大学 准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	地域社会と福祉法制	<p>地域社会で生きる人々と福祉制度はどのような力学関係を経て、かかわってきたのかを検討する。さらに「地域で生きる(自律して暮らす)」ということをメインにおいた障害者の運動、そして最近の裁判を例に、人権の視点から再考する。</p> <p>【キーワード】 地方自治体、協働、地域で生きる</p>	金川めぐみ (和歌山大学 准教授)	金川めぐみ (和歌山大学 准教授)
5	資本主義の成立・展開と企業	<p>企業が、資本主義の歴史と経済学説のなかで、どのような役割を果たし、どう位置づけられてきたか。5人の代表的経済学者の企業観を整理したうえで、特に大きな国家(ケインズ・ベヴァリッジ型)と小さな国家(フリードマン型)の相克を検証する。</p> <p>【キーワード】 自由主義、社会主義、混合経済、新自由主義</p>	森田慎二郎 (東北文化学 園大学教授)	森田慎二郎 (東北文化学 園大学教授)
6	企業をめぐる福祉政策	<p>日本における企業福祉と社会保障立法の発展過程を概観し、テイトマス理論における企業と市場の関係を整理した上で、企業をめぐる福祉政策の法的構造を検討し、さらに現代的課題の代表例として健康管理を取り上げる。</p> <p>【キーワード】 企業福祉の社会化、保障の相互補完性、健康経営</p>	森田慎二郎 (東北文化学 園大学教授)	森田慎二郎 (東北文化学 園大学教授)
7	企業と人権保障	<p>グローバリゼーションの影響下において、企業の社会的責任としての人権保障の現代的展開を、ILOディーセントワーク論や、国連のグローバル・コンパクト、民間認証機関の動向などを踏まえて、検証する。</p> <p>【キーワード】 企業の社会的責任(CSR)、グローバル・コンパクト、ISO26000</p>	森田慎二郎 (東北文化学 園大学教授)	森田慎二郎 (東北文化学 園大学教授)
8	反貧困と福祉政策	<p>戦前・戦後の日本の貧困問題に対する政府・市場・国民の機能を考える。具体的には「貧困」というものが国家によってどのように対処され、いま、どのような様相にあらうとするのかを検討する。最終的には、「公正」な社会をめざすための理論的到達点と課題を整理する。</p> <p>【キーワード】 社会的排除、潜在能力、反貧困</p>	金川めぐみ (和歌山大学 准教授)	金川めぐみ (和歌山大学 准教授)
9	生命と政策、自己決定	<p>日本においては生命への権利がどのように規定されており、生命に関する政策が人々にどのような影響を与えるのかを、脳死と臓器移植、安楽死・尊厳死、自殺予防をテーマとしてとりあげ、検討する。</p> <p>【キーワード】 生命権、自己決定、死への権利</p>	永井 順子 (北星学園大 学准教授)	永井 順子 (北星学園大 学准教授)
10	精神保健福祉政策と人権	<p>日本において精神の病をめぐる政策が、「精神病院」政策から医療・保健・福祉施策へと変化してきた経緯を整理し、それぞれの段階で精神障害者の人権がどのように考えられてきたか、現在の課題は何かを検討する。</p> <p>【キーワード】 精神衛生法、自由権規約、障害者権利条約</p>	永井 順子 (北星学園大 学准教授)	永井 順子 (北星学園大 学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	障害の医療化と健康 権保障	医療化とは従前医療の対象ではなかったものを医療の 対象とし、医学的管理下のもとにおくことである。この回 では、身体障害と発達障害の医療化を取り上げ、そのメリ ットとデメリットを主に医療保障の観点から整理し、障害 から健康権を考察する。  【キーワード】 医療化、障害への医療保障、健康権	永井 順子 (北星学園大 学准教授)	永井 順子 (北星学園大 学准教授)
12	刑事政策と福祉政策	高齢者や障害者、未成年の場合、司法プロセスの中で 人権を侵害される可能性が高く、人権擁護の観点から福 祉的アプローチが求められる。罪を犯した者に対して具 体的にどのような福祉政策がとられているのかを整理し、 刑事政策と福祉政策の結節点における課題を検討す る。  【キーワード】 社会的養護、地域生活定着支援センター、医療観察法	深谷 裕(北 九州市立大 学准教授)	深谷 裕(北 九州市立大 学准教授)
13	刑事政策と福祉的実 践	罪を犯した者が再び地域社会に戻り、一市民として生活 を送るためには、さまざまな支えが必要となる。支えの鍵 は「継続性」であるが、罪を犯した者に対し必要な支援を 継続的に提供することは、必ずしも容易ではない。彼ら の社会復帰に必要な支援とその課題について検討す る。  【キーワード】 社会復帰促進センター、保護観察、連携	深谷 裕(北 九州市立大 学准教授)	深谷 裕(北 九州市立大 学准教授)
14	人権のための連帯	人権をめぐる国内・国外動向を概観する。題材とし ては、子どもの福祉をめぐる、条約と国内法の関係と 目指すべき理念を明らかにする。また、ソーシャルワ ーク、ケアマネジメントと人権の関係について考えるととも に、連帯の大切さを検討する。  【キーワード】 子どもの権利、連帯、親の責任	大曾根 寛 (放送大学教 授) 金川めぐみ (和歌山大学 准教授)	大曾根 寛 (放送大学教 授) 金川めぐみ (和歌山大学 准教授)
15	総合福祉政策の形成	人権の制約原理として用いられてきた「公共の福祉」を、 人権保障の原理へと転換できないかを検討する。そのた めに、障害者権利条約を参照しながら、今後の総合福 祉政策の形成のための方向性を考える。  【キーワード】 公共の福祉、平等、総合性	大曾根 寛 (放送大学教 授)	大曾根 寛 (放送大学教 授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8910642	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 生活支援の社会福祉 ( ' 1 4 ) = (R)  
 英文名 = [ Social Welfare for Livelihood Support ( ' 14 ) ]  
 [主任講師 (現職名) : 松村 祥子 (放送大学名誉教授) ]  
 [主任講師 (現職名) : 山田 知子 (放送大学教授) ]  
 【本学担当専任教員 : 】

#### 講義概要

この講義は、社会福祉の本質と現代的意義が浮き彫りになるような構成と内容になっている。特に、経済・社会・家族環境の変化の下で進行している福祉改革の問題点を明らかにし、人々の生活改善と生活の質の向上に資する社会福祉の方向とそのため研究の課題と方法を示す。

#### 授業の目標

この講義では、社会福祉の対象である政策と実践の双方を取り扱う。さらに歴史や思想的側面からの研究課題と研究方法を示す。履修者は各自の抱える研究テーマに関する多角的なアプローチを学ぶことができる。

#### 履修上の留意点

この科目は大学院科目であるが、並行して学部の福祉領域の科目を学ぶと効果的である。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
<b>I 近年の生活変化と社会福祉</b>				
1	生活支援の社会福祉とは何か	社会福祉が人々の抱える生活問題にどのように対応しているかについて検討する。特に近年の社会福祉の対象と方法の変化とそこから生じている課題を明らかにする。そして生活支援の社会福祉(生活者の真のニーズに対応し、生活者を育てる社会福祉)への転換の必要性と方向を示す。  【キーワード】 ライフサイクル、総合的生活支援、生活力	松村 祥子 (放送大学名誉教授)	松村 祥子 (放送大学名誉教授)
2	生活の不安定性の創出ー生活支柱のゆらぎと波動ー	世界的経済変動のなかで生活問題は多様化、複雑化している。生活問題は経済的貧困の度合いで推し測ることがある程度可能であるが、十分ではない。一步手前、あるいは、周辺にある生活の不安定性に着目することで問題の本質が見えてくる。経済的貧困、および生活の不安定性、その発現過程と特徴についてみることを通して、生活がどのようにして動揺し生活問題として発現するのか考える。  【キーワード】 貧困、生活問題、社会的排除、生活の不安定性	山田 知子 (放送大学教授)	山田 知子 (放送大学教授)
<b>II 社会福祉の特色 (他の領域との違い等)</b>				
3	生活支援のあゆみー公私関係の視点からー	イギリスと日本で、19世紀から20世紀前半にかけて行われた公的部門の生活を支援するための施策(ここでは「生活支援施策」とする)と民間部門の生活を支援するための活動(ここでは「生活支援活動」とする)の形成過程と展開を明らかにする。また、生活支援施策と生活支援活動の相互関係を両国の特質を踏まえて検討する。  【キーワード】 生活支援施策、生活支援活動、公私関係	金子 光一 (東洋大学教授)	金子 光一 (東洋大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	日本におけるセーフティネットの特徴	日本のセーフティネットは国際比較という鏡を通して見た場合、どのような特徴をもち、どんな姿をしているのであろうか。最初に、1980年代末までうまく機能していた日本の社会保障システムの特徴とその背景を概観し、その上で、OECDの資料を用いて、日本のセーフティネットの構成要素のそれぞれの特徴を明らかにし、最後に、日本のセーフティネット全体としての特徴をまとめる。 <b>【キーワード】</b> セーフティネット、ワークフェア体制、国際比較、ワーキングプア、社会扶助(公的扶助)制度、税額控除制度	埋橋 孝文 (同志社大学教授)	埋橋 孝文 (同志社大学教授)
5	現代社会における位置づけ(実践的方法)	社会福祉の支援方法である現代ソーシャルワーク理論について検討する。まず、ソーシャルワークの国際定義から目標や特徴を理解する。そして、約100年のソーシャルワーク理論史を概観したうえで、代表的な理論をとりあげて比較検討していく。近年、社会福祉の対象となる生活問題は、広範化、多様化し、それに対応する福祉サービスも多元化しているなかで、ソーシャルワークはどうあるべきかを考えたい。 <b>【キーワード】</b> ソーシャルワーク、人-環境の相互作用、パートナーシップ	横山 登志子 (札幌学院大学教授)	横山 登志子 (札幌学院大学教授)
III 社会福祉の対象分析				
6	生活問題を中心として	貧困や生活上の問題に着目する生活問題論と利用者のニーズ(必要)を中心にする福祉ニーズ論の双方から、社会福祉の対象分析の視座と方法について述べる。 <b>【キーワード】</b> 一番ヶ瀬理論、三浦理論、非貨幣的ニーズ、ソーシャルニーズ	山田 知子 (放送大学教授)	山田 知子 (放送大学教授)
7	コミュニティの変化と市場化	福祉改革の焦点である地方分権化(市町村主体)と市場化(民間営利企業の参入を含めた規制緩和)は、社会福祉をどう変化させ、社会福祉の利用者の生活に影響をもたらしたのだろうか。政府の政策の変遷を辿り、家族、地域社会の変貌、女性の社会進出などと関連させながら、社会福祉の基礎構造の変化とはなにかを考える。 <b>【キーワード】</b> 日本型福祉社会論、家庭基盤充実、福祉改革、社会福祉基礎構造改革	山田 知子 (放送大学教授)	山田 知子 (放送大学教授)
IV 社会福祉研究の課題				
8	福祉政策の新しい動向と日本の課題	本章では、まず、ワークフェア、メイキング・ワーク・ペイ、タックス・クレジット、ディーセントワークなど新しい国際動向を取り上げ、その特徴を指摘する。次に、新たな課題として浮上してきているワーキングプア問題にどのように対応すべきかを論じる。最後に、近年影響力を増しているメイキング・ワーク・ペイの動きを「援商品化」「助商品化」と捉え、現代資本主義との関係について述べる。 <b>【キーワード】</b> ワークフェア、メイキング・ワーク・ペイ、ディーセントワーク、ワーキングプア、「脱商品化」、「援商品化」、「助商品化」	埋橋 孝文 (同志社大学教授)	埋橋 孝文 (同志社大学教授)
9	社会福祉の組織研究	社会福祉の供給主体の多様化によって、公的組織と民間組織のあり方への関心が高まっている。国から、市町村への任務の移行(地方分権化)や民間による社会福祉供給体制の拡大(民営化)の現状と問題点を明らかにする。行政主導型社会福祉から公民協働型社会福祉への円滑な移行のための組織に関する研究課題について検討したい。 <b>【キーワード】</b> 地方分権化、民営化、新しい公共	松村 祥子 (放送大学名誉教授)	松村 祥子 (放送大学名誉教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	方法論的研究 -ソーシャルワークの 実践研究-	<p>ソーシャルワークの実践研究について検討する。ソーシャルワークの実践的・理論的向上のために研究は不可欠であるが、そもそも実践研究とは何か、またどのような意義や目的があるのかを確認する。そして、実践研究をはじめるとにあって確認すべき問いを提示したうえで、実践研究の方法、特に近年のソーシャルワーク研究で増えている質的研究の方法を概観する。</p> <p>研究は、研究者だけのものではない。特に実践研究は支援者にとって大きな意義があり、近年ではソーシャルワーカーにも実践研究を遂行する力が求められるようになってきている。利用者の「福利の増進」に貢献するような、実践に還元できる生きた研究とはどのようなものかを検討していく。</p> <p>【キーワード】 実践研究、理論と実践、経験知</p>	横山 登志子 (札幌学院大学 教授)	横山 登志子 (札幌学院大学 教授)
11	社会福祉史研究の 現状と課題 -「生活支援史研究」 の視点から-	<p>社会福祉史研究の現状と課題を、生活支援の側面から明らかにするために、海外史研究に焦点を当てながら、研究の視点と枠組みを中心に検証する。また、今後の社会福祉史研究の方向性として、生活者と社会のありようを前提として、その構造と機能を分析し、一定の法則や相互昂進関係の過程を探究することの重要性を提起する。</p> <p>【キーワード】 研究方法、生活支援史研究、相互昂進関係</p>	金子 光一 (東洋大学教 授)	金子 光一 (東洋大学教 授)
12	福祉政策における国 際比較研究	<p>1980年代後半から海外では福祉国家の国際比較研究が著しく進展し、わが国でもそうした影響のもと、1990年代半ば以降、多くの研究が現れることになった。</p> <p>本章では、まず、この間の研究によって明らかになった点と、ひとつの大きな「曲がり角」にあると見てよい国際比較研究の現時点での特徴を確認し、それらを踏まえつつ、今後の方向と展望を明らかにしていく。</p> <p>【キーワード】 福祉レジーム、類型論と動態論、東アジアモデル、生産主義、ワーキングプア、比較研究と政策研究</p>	埋橋 孝文 (同志社大学教 授)	埋橋 孝文 (同志社大学教 授)
V 生活支援の社会福祉を展開するために				
13	ソーシャルワークの 向上にむけて	<p>生活問題を抱えた利用者の問題解決や社会の変革をめざすソーシャルワークにおいて、理論と実践が有機的に結びつき向上していくことが求められている。理論と実践の循環に焦点をあてて、理論と実践がどのように循環するといえるのか、あるいは理論と実践を媒介する「現場における実践者の経験」という要素はどのように関与するのかを検討する。そして、ソーシャルワークの向上にむけて実践者や研究者に何が求められているのかについて考える。</p> <p>【キーワード】 理論と実践の循環、領域密着型の理論、実践への応用</p>	横山 登志子 (札幌学院大学 教授)	横山 登志子 (札幌学院大学 教授)
14	戦略としての当事者 主権	<p>生活上の困難やニーズ(必要)を最もよく理解している当事者を中心にすえて、社会システムや社会サービスのあり方を組み立ててみることの重要性について考える。</p> <p>【キーワード】 当事者、市場化、ナラティブ・アプローチ、当事者主権の陥穽</p>	山田 知子 (放送大学教 授)	山田 知子 (放送大学教 授)
15	生活支援の社会福 祉を推進するために	<p>生活支援の社会福祉は生活の外側にあるサービスの質を高めるだけでなく、社会福祉という仕組みの中で、生活の内側の力を引き出しながら生活問題を予防・緩和・解決していく。少子高齢化、経済停滞、グローバル化によって拡大し変容する生活問題に対して、生活支援の社会福祉が有効な力を発揮するために必要な方策と方向を検討する。</p> <p>【キーワード】 創造型生活モデル、生活問題、福祉教育、社会福祉研究</p>	松村 祥子 (放送大学名 誉教授)	松村 祥子 (放送大学名 誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2015年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8920699	履修 制限	有	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 人間発達論特論 ('15) = (R)  
 英文名 = [ Advanced Sociology of Human Development ('15) ]  
 [主任講師 (現職名) : 住田 正樹 (放送大学教授) ]  
 [主任講師 (現職名) : 田中 理絵 (山口大学准教授) ]

### 講義概要

人間は誕生から死にいたるまで生涯にわたって発達していく存在である。この人間の生涯にわたる発達の過程を社会的・文化的文脈との関連において考察していくのが発達社会学である。それは具体的には人間の存在の仕方を社会的役割の脈絡の中で捉えていくことを意味する。人間の生涯にわたる発達過程は、発達社会学の視点から社会的役割の移行過程として捉えることができる。そしてその移行過程は社会的役割の学習過程、社会的役割の遂行過程、社会的役割の縮小過程の3つの段階に区分することができる。

この講義では、人間の生涯を一連の発達過程と捉え、社会的役割の移行過程という側面から考察していく。

### 授業の目標

発達社会学の基礎的概念と方法を学び、人間の生涯にわたる発達過程が社会的・文化的文脈の中でさまざまな作用を受けつつ進行していく現象であることを理解するための社会的視点を得ることを目的とする。

### 履修上の留意点

人間の生涯の発達過程は不断の変化の中にある。ドラスティックに変化する社会的役割の学習過程は言うまでもなく、比較的安定的だとされていた社会的役割の遂行過程においても、また社会的役割の縮小過程においてもさまざまな変化が生じる。したがって人間の発達過程は一連の連続的な過程として捉えられなければならない。この連続的な発達過程において社会的・文化的文脈が如何なる作用を及ぼし、如何なる影響を与えているのか。受講生の方々には自らの経験に重ね合わせつつ受講していただければ理解も容易と思われる。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
第Ⅰ部 人間の発達と社会的役割				
1	人間の発達と社会的役割の移行過程 ー発達への社会的アプローチ	人間の生涯の過程を発達社会学の視点からアプローチしていくことの意義は何か。そして具体的にはどのようにアプローチしていくのか。発達社会学の基礎的概念と方法、とくに鍵概念となる社会的役割を中心に考察する。  【キーワード】 発達、文化、社会化、社会的人間、社会的役割、役割移行	住田 正樹 (放送大学教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)
第Ⅱ部 社会的役割の学習過程				
2	言語の獲得と自我形成	言語の獲得は他者とのコミュニケーションを可能にし、そこから自他を明確に区別するようになって自我が形成される。言語は人間発達の基盤であり、同時に社会を形成する最も基本的な用具である。言語の機能と自我形成について考える。  【キーワード】 社会化、自我の形成、言語、役割取得、コミュニケーション	住田 正樹 (放送大学教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)
3	子どもの社会的世界 ー家族と仲間ー	子どもは基礎的な社会化を乳幼児期に家族のなかで受け、仲間集団、学校集団などで対人的世界を拡大し、新たなネットワークを築く。家族のなかで親密性の感覚と他律的道德性を学び、仲間との相互作用を通して自律的道德の獲得に向かう。  【キーワード】 役割取得、仲間集団、社会化、一般化された他者、重要な他者	田中 理絵 (山口大学准教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	学校教育と文化の習得	子どもは一定年齢に達すると学校集団に所属するが、学校は意識的かつ計画的な秩序と規律をもって子どもを社会化していく。子どもはそうした一定の秩序と規律の下で認知的文化と規範的文化を習得していく。そしてまた男女の差異についても学習していく。 【キーワード】 社会化、学校教育、認知的文化、規範的文化、性役割の社会化	田中 理絵 (山口大学准教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)
5	自己探索と自立への不安	青年期は自己探索の時期である。しかし今は自己規定が困難な時代であり、将来の自立に対する不安から混乱に陥ることもある。しかしこうした過程を経て新たな自己に気づき、アイデンティティを確立する。本章では、アイデンティティ確立の諸相と青年期の現代的課題について考える。 【キーワード】 自己探索、自己規定、青年期延長、モラトリアム、アイデンティティ	田中 理絵 (山口大学准教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)
6	成人期への移行過程 ー職業選択と配偶者選択ー	学校教育を修了すると職業に就き、配偶者を得て自立した生活を営むことになる。成人にとって職業的役割と家庭的役割はもつとも重要な社会的役割である。この時期は、その役割の実現と遂行に向けての試行錯誤をしつつの選択過程の段階にある。職業と配偶者の選択過程においてどのような社会的要因が作用するのか。 【キーワード】 学歴、労働市場、雇用機会、職業選択、職業的役割、配偶者選択、家庭的役割	住田 正樹 (放送大学教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)
第Ⅲ部 社会的役割の遂行過程				
7	組織社会化と職業キャリアの形成	学業を終えた若者が職業に就くことは人生の大きな節目である。とくに初職はその後の生活を大きく方向づけていく。ある職業を選択すれば、その職業に必要な知識や技術、価値観を習得していかなければならないが、今日のような産業化社会では多くは経営組織に雇用される形をとる。若者はどのような過程を経て組織の規範、価値、文化を習得し、また知識・技術を習得していくのか。 【キーワード】 組織社会化、職業キャリア、職場、インフォーマル・グループ、職業文化	住田 正樹 (放送大学教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)
8	家族の形成と親役割の学習	配偶者を得て新たな家族(生殖家族)を形成し、さらに出産によって親になると、夫婦はともに育児という家庭的役割を担わなければならない。だが育児は片時も目を離せない煩わしい役割であり、ために抑圧を感じ不安に陥る場合もある。出産を機に仕事を辞める母親もいる。親性の価値を学びつつ親役割という家庭的役割を形成していく時期。 【キーワード】 定位家族、生殖家族、夫婦役割、親役割、家族の変容、育児支援	田中 理絵 (山口大学准教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)
9	組織コミットメントと職業キャリアの発達	組織社会化の結果である組織成員の組織コミットメントおよびジョブ・インボルブメントと職務満足について考察する。組織コミットメントの中でも、とくに情緒的コミットメントは仕事や職務の遂行に関連が強いとされているが、どのような要因が情緒的コミットメントを規定しているのか、またジョブ・インボルブメントと職務満足を規定している要因は何かについて考察する。 【キーワード】 組織社会化、組織コミットメント、情緒的コミットメント、会社人間、ジョブ・インボルブメント、職務満足、役割葛藤	住田 正樹 (放送大学教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	教育期の家族と親の困惑	第一子の就学、第二子の誕生と家族は拡大期に入り、親は育児から子どもの教育に移るにつれて親役割も変化する。父母がそれぞれ担う役割はどのように違うのか、子どもとの関わり方、中年期に入った親自身の発達課題について考える。 【キーワード】 親役割、青少年問題、父親不在、ワーク・ライフ・バランス	田中 理絵 (山口大学准教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)
11	多様な生き方と働き方	学校教育を終了すれば職業に就くという、かつての学校から職場への円滑な移行は今日では困難になりつつあり、いわゆる非正規労働者という働きも増えてきた。そして一方でキャリアを積み重ねて結婚しない女性も増え、また結婚しない男性も増えてきた。職業的役割と家庭的役割を社会的役割の中核とした社会規範は変貌しつつある。 【キーワード】 ライフサイクルの変容、性役割期待、就業形態と結婚意識の変化	田中 理絵 (山口大学准教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)
12	ライフ・イベントとキャリアの発達	組織にコミットしてきた人々も中年期も後期になると、過去の職業生活や家庭生活を振り返り、これまでの生活の見直しと今後の生活や生き方の再方向づけをするようになる。中年期後期の人々はこれまでにどのような出来事(ライフ・イベント)を経験し、それをどのように評価しているのか。そして今後の生活にどのような見通しをもっているのか。 【キーワード】 ライフ・イベント、ライフライン、心理・社会的ストレス、予測可能なイベント、選択可能なイベント	住田 正樹 (放送大学教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)
第IV部 社会的役割の縮小過程				
13	社会的役割の縮小と生活変化	定年退職をして組織から離れ、職業的役割を喪失しても、また子どもが自立して親役割から解放されても、まだ健康で自立した生活が可能であれば、人々は職業的役割や家庭的役割に代わる新たな代替的役割を求めて生活の充実を図ろうとする。サード・エイジと呼ばれる時期である。サード・エイジャーはどのような生活を送っているか。 【キーワード】 社会的役割、職業的役割、定年退職、サード・エイジ、フォースエイジ、活動理論、離脱理論	住田 正樹 (放送大学教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)
14	高齢化と病気・死	人生のフォース・エイジ。高齢者は老化とともに体力や健康が衰退し、罹患率も高くなる。組織集団からの離脱、配偶者の死、そして一人暮らしと病気。こうした社会的繋がり喪失が高齢者に孤立化と孤独をもたらす。老化による罹患は高齢者をそのまま死にいたらしめる。 【キーワード】 フォース・エイジ、孤立化、病気、生活習慣病、死ぬ過程	住田 正樹 (放送大学教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)
第V部 人間発達研究の課題				
15	人間発達の社会学的研究の課題	発達とは人間の生涯にわたる連続的な変化の過程である。これまでは誕生から成人期に至るまでの過程が中心的に研究されてきたが、しかしその過程で形成された特性が成人期以降もそのままに継続するとは限らない。成人期以降についての研究も必要である。そのためには発達の概念および発達研究の方法が検討されなければならない。 【キーワード】 生涯発達、社会的役割、役割移行過程、横断的方法、縦断的方法	住田 正樹 (放送大学教授)	住田 正樹 (放送大学教授) 田中 理絵 (山口大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8920621	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 教育行政と学校経営 ('12) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 小川 正人 (放送大学教授) 〕  
 〔主任講師 (現職名) : 勝野 正章 (東京大学教授) 〕  
 【本学担当専任教員 : 〕

### 講義概要

今日、「教育の構造改革」と呼ばれる教育改革が進行している。今日の教育改革が従来と大きく異なるのは、既存の教育行財政制度のしくみを大きく改編する中で、従来の政策決定と行政運営の諸権限を基礎単位に移譲することを指向しつつ、国から学校までのあらゆるレベルの改革が同時進行的に取り組まれていることである。そうした今日の教育改革とその下での教育・学校の問題を考える。既存の教育行財政制度の改編が進んでいる中で、国と地方の教育政策や教育行政の実情と課題、教育の中核的担い手である教職員の問題、学校を巡る新たな環境と学校経営の課題など、教育行政と学校経営が直面する現代の問題と政策課題を学ぶ科目としたい。

### 授業の目標

全15回の講義を通して、大きく変動している国、自治体、学校の教育システムの実情と問題、政策課題を理解することができることを目標とする。受講生としては、現職教職員、学校管理職、教育行政職員などを想定し、教育に強い関心をもつ市民等にとっても関心を持てるように、最新の動向と具体的事例を学べるものにした。

### 履修上の留意点

今日の日本における教育改革を国際的動向から理解するために、「海外の教育改革('15)」を受講することが望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	戦後教育行政と学校経営の展開	本科目の序論として、戦後の教育行政と学校経営の展開を学び、近年の教育行政と学校経営をめぐる政策動向から今後の基本的課題を考える。 【キーワード】 教育行政、学校経営、教育行政(教育委員会)と学校の関係、学校管理規則、地教行法、1971年中教審答申、出口管理型教育行政、学校の自主・自立(律)	小川正人 (放送大学教授)	小川正人 (放送大学教授)
2	国の教育行政機関と教育政策過程	国の教育政策決定過程や行政運営の実際をそれに携わる政府(内閣、文部科学省)や政党等の活動を通して学ぶ。特に、戦後長期間に亘った旧自民政権下における教育政策決定のしくみと過程の特徴を概観した後、それらが2001年以降の中央省庁再編等と2009年の政権交代でどのように改革され変化したのかを確認しながら国の教育政策決定のあり方について考える。 【キーワード】 内閣、内閣府、文部科学省、政権与党、文教族、教育下位政府(教育業界)、中央省庁再編、政権交代	小川正人 (放送大学教授)	小川正人 (放送大学教授)
3	教育財政のしくみと特徴	日本の教育財政制度の特質を国レベルの教育費支出および予算過程を中心に考える。予算という資源をめぐって他の行政分野とのバランスを視野に入れつつ、予算執行及び決算による統制もまた重要な予算過程であり、教育行政もその枠内で実施されていることを理解する。また政権交代後の予算制度改革により教育への予算配分に生じた変化についても言及する。 【キーワード】 予算編成、決算、補助金、概算要求、予算科目、予算最大化行動	本多正人 (国立教育政策研究所総括研究官)	本多正人 (国立教育政策研究所総括研究官)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	地方自治体の教育行政機関と教育政策過程	<p>地方自治体レベルの教育行政は執行機関として設置される教育委員会によって担われる。戦後、アメリカの地方教育行政制度に倣って導入された教育委員会制度に期待された役割と実際の機能を中心に、地方自治体の総合行政と教育行政の独立性とのバランスを重視することで現われた日本型教育委員会の特徴について、近年の改革の方向性を踏まえて考察する。</p> <p>【キーワード】 執行機関、行政委員会、補助機関、補助執行、教育委員会法</p>	本多正人 (国立教育政策研究所総括研究官)	本多正人 (国立教育政策研究所総括研究官)
5	学力問題と教育課程行政	<p>児童生徒の学びと成長・発達に必要な教育・文化の組織化と計画である教育課程は多岐にわたる課題を含んでいるが、本章では、主に、その編成や管理運営等の教育課程行政の側面を取り上げる。教育課程の編成、管理運営等に関する法制やその中心にある学習指導要領をめぐる論議や課題、教育課程行政の手法変化、そして、学力論議と学力保障の動向を学びながら教育課程行政の課題を考える。</p> <p>【キーワード】 教育課程、学習指導要領、履修主義(年齢主義)、修得主義(課程主義)、学力「格差」、「効果のある学校」、教育課程マネジメント</p>	小川正人 (放送大学教授)	小川正人 (放送大学教授)
6	教育公務員法制と教員政策	<p>教員の地位・身分、服務など公務員の視点からその特徴と法制度を学ぶ。地方公務員であるにも拘らず他の一般地方公務員と異なる公立学校教員に関する法制等を学び、教育公務員法制をめぐる基本的課題を考える。</p> <p>【キーワード】 教育公務員特例法、教員の政治的行為の制限、教育の政治的中立性、教員の労働基本権</p>	小川正人 (放送大学教授)	小川正人 (放送大学教授)
7	教員の給与と勤務	<p>教員の人事管理や教員個々の職業生活のあり方に深く関わる教員給与の政策と法制度を学びながら、教員給与をめぐる今日的な課題を考える。また、教員給与の法制度と一体的な関係にある教員の勤務形態の問題と改善に向けた課題を検討する。</p> <p>【キーワード】 年功給、職務給、職能・資格給、能力・業績給、「人材確保法」、義務教育等教員特別手当、「給特法」、教職調整額、超過勤務、時間外勤務手当</p>	小川正人 (放送大学教授)	小川正人 (放送大学教授)
8	教育費と教育の機会均等	<p>教育は、社会的身分、経済的地位等によって差別されないように機会均等が保障されなくてはならないが、今日の日本では子育てや教育に多額の家計負担を要するのが実態である。教育費負担と小・中・高校段階の経済的困窮家庭への修学支援制度の実情や問題を学び、それらを巡る諸課題を考える。</p> <p>【キーワード】 教育の機会均等、義務教育無償、教育格差、生活保護、教育扶助、就学援助、国民負担率</p>	小川正人 (放送大学教授)	小川正人 (放送大学教授)
9	学校経営をめぐる政策動向	<p>学校経営と直接的に関わる教育政策として教育の市場化(学校選択制)、学校の自主性・自律性の確立、アカウンタビリティ、教育の質の保障について検討する。また、日本でも貧困社会化、格差社会化の進展が問題となっているなかで、そのなかで学校にできることを考える。</p> <p>【キーワード】 経済のグローバル化、知識社会、教育の市場化、学校の自主性・自律性、アカウンタビリティ、格差社会</p>	勝野正章 (東京大学教授)	勝野正章 (東京大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	学校の組織と文化	<p>学校は効率性を追求する官僚制組織としての側面を持つが、必ずしもその組織構造が予定するとおりに運営され、教育活動が行われているわけではない。さらに、学校運営・教育活動は組織構造だけでなく、組織文化からも大きな影響を受けていることが知られている。学校経営研究の基礎理論として、学校の組織構造と文化について考察する。</p> <p>【キーワード】</p> <p>システム論、官僚制、効率性、緩やかな結合、状況依存、正統性、組織文化</p>	勝野正章 (東京大学教授)	勝野正章 (東京大学教授)
11	学校におけるリーダーシップ	<p>アメリカでは1980年頃からスクール・リーダーが学校改革において果たす役割や効果に注目が集まるようになり、「教授的リーダーシップ」、「変革的リーダーシップ」、「分散型リーダーシップ」などが論じられるようになった。今日の日本でも、経営責任の明確化や機動的な学校運営を可能にするという観点から、校長の権限や資質・能力に対する関心が高まっており、これらの学校におけるリーダーシップの研究について学ぶことには大きな意義がある。</p> <p>【キーワード】</p> <p>効果のある学校、教授的リーダーシップ、変革的リーダーシップ、分散的リーダーシップ</p>	勝野正章 (東京大学教授)	勝野正章 (東京大学教授)
12	学校評価と学校改善	<p>近年における学校評価の政策動向、制度について学ぶ。また学校改善の理論動向を概観した後、限定的な教育目標の設定と標準化されたテストによって教育の水準や質の向上を図ろうとするアメリカのNCLB法体制について指摘されている弊害を知り、日本の学校評価が自律的な学校改善につなげるための示唆を得る。</p> <p>【キーワード】</p> <p>自己評価、関係者評価、第三者評価、「監査社会」、学校改善、NCLB法</p>	勝野正章 (東京大学教授)	勝野正章 (東京大学教授)
13	学校の財務管理	<p>これからの学校管理運営において求められる財務事務の在り方について学校の自主性・自律性確立の視点を踏まえて考える。公立学校を介した公費及び私費の資金の流れや、学校における財務運営上の効率性、有効性、合規性といった観点からの学校管理運営に係る現状と課題について考察する。</p> <p>【キーワード】</p> <p>支出負担行為、支出命令、会計管理者、相互けん制、物品管理</p>	本多正人 (国立教育政策研究所総括研究官)	本多正人 (国立教育政策研究所総括研究官)
14	教員の評価と専門職としての成長	<p>勤務評定に代わる「新しい教員評価」制度の導入が推進されてきた背景やその目的を概観し、教員評価の理論について検討を加える。成果主義を教員評価に適用することは教師の仕事の性質ゆえに困難をもたらす。一方、教員評価の職能成長モデルについては、そこでの教師の学びが教育実践の目的や価値により深いレベルで関わるような学びとなるかが重要である。</p> <p>【キーワード】</p> <p>新しい教員評価、人的資源管理(論)、成果主義、目標管理、職能成長モデル(教員評価の)</p>	勝野正章 (東京大学教授)	勝野正章 (東京大学教授)
15	学校のガバナンスと経営	<p>近年、学校と保護者、地域住民の連携・協力の充実・強化が推進されている。学校のガバナンス改革とも称される、こうした日本と外国の教育政策・施策について検討し、このような教育政策・施策に影響を与えている社会関係資本の理論について学ぶ。また、NPM型学校経営組織改革について検討を加え、望ましい学校経営組織改革の在り方を考える。</p> <p>【キーワード】</p> <p>学校のガバナンス、学校と保護者・地域の連携・協力、学校評議員、学校運営協議会、社会関係資本、参加民主主義、NPM</p>	勝野正章 (東京大学教授)	勝野正章 (東京大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2015年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8920656	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名（メディア） ＝ 新時代の社会教育 （'15） ＝ （R）  
 英文名 ＝ [ The Role of Social Education in the New Era ('15) ]  
 [主任講師（現職名）：鈴木 眞理 （青山学院大学教授） ]  
 [主任講師（現職名）： ]  
 【本学担当専任教員：岩永 雅也 （放送大学教授） 】

**講義概要**

「生涯学習社会」への到達が文教行政の政策課題とされて、関連の施策が展開されている。その中で、行政が担う社会教育は、とすれば学校教育の存在の陰に隠れて、その役割の重要性は軽視されてきている。この講義では、行政が担う社会教育にとどまらず、広く民間の社会教育活動にも視野を広げ、その現在のしくみを理解することを前提としながら、学校教育とは異なる社会教育の意味を、今日の社会に適合的なしくみとして模索することを試みる。

**授業の目標**

生涯学習・社会教育の基礎理念あるいは基礎概念の理解を前提とし、目指される生涯学習社会における社会教育の社会的・政策的背景とその応用課題・問題点と展望などの発展的内容を理解する。

**履修上の留意点**

この科目では、今日の日本社会における社会教育の現実とその意味、これからの方向について検討するが、その前提として、日本社会における生涯教育概念の移入の過程や生涯学習支援施策の展開の状況、到達目標としての生涯学習社会、などについての理解を重視する。したがって、やみくもに「新しい」方向を目指した検討を加えるのではなく、今日に至る行政施策の流れ、議論の流れ、現実の学習場面、社会教育行政のしくみについての理解なども重視した講義の展開が意識されることになる。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	社会教育の概念	学校教育とは異なる社会教育という概念について確認をする。生涯学習という用語が広がる中で混乱が生じているが、社会教育という概念を正確に理解することにする。教育という概念、学習という概念、偶発的学習という概念についても確認しておくこととする。  【キーワード】 社会教育、教育、学習、偶発的学習	鈴木 眞理 (青山学院大 学教授)	鈴木 眞理 (青山学院大 学教授)
2	生涯教育論の出現とその展開	ユネスコにおいて生涯教育という概念が形成され世界的に広がるようになったのは1965年からであるが、ユネスコによる生涯教育の概念とその成立の背景、生涯学習等の類似概念やその後の展開について検討を加える。  【キーワード】 生涯教育、生涯学習、適応と解放	鈴木 眞理 (青山学院大 学教授)	鈴木 眞理 (青山学院大 学教授)
3	生涯教育概念の社会的展開	生涯教育概念が移入され、定着するような時期の議論を概括的にとらえ、当時の政策提言文書をいくつか紹介する。さらに、生涯教育という発想への批判的立場の議論にもふれ、現在の状況にどうつながるのかについて検討を加える。  【キーワード】 学歴社会、生涯学習社会、地域生涯学習、自由な学習者	鈴木 眞理 (青山学院大 学教授)	鈴木 眞理 (青山学院大 学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	生涯教育概念の定着から生涯学習支援施策への転換	生涯教育概念の定着の時期から、「生涯学習」という用語が広く用いられるようになる時期の状況について解説を加える。当時実施された20年後の予測調査を、現在の状況に照らし合わせて検討しながら、生涯学習支援施策と社会教育行政の関係について考察する。  【キーワード】 個人学習、民間団体、臨時教育審議会、生涯学習局	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)
5	生涯学習社会という到達目標	生涯学習という用語が定着し、学歴社会に代わる「生涯学習社会」が政策的な到達目標として設定される。ユートピアとみまごうような生涯学習社会に問題はないか、また生涯学習社会といわれる社会において社会教育の役割はどのように考えられるべきか、について検討を加える。  【キーワード】 生涯学習社会、学習の成果、評価、現代的課題	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)
6	社会教育における学習機会提供機関	生涯学習社会の構築という到達目標が設定される中、さまざまな施策が学校教育に関して展開される。社会教育の領域においても行政機関だけでなく、民間の営利機関・非営利機関の役割が重要な学習機会提供機関として登場してくる。その、総合的な把握を試みることにする。  【キーワード】 学習機会、民間営利機関、民間非営利機関、新しい公共	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)
7	社会教育の法制度と社会教育行政の基本原則	民間機関の役割が大きくなる中で、社会教育行政の役割を見直し、その基本原則について検討する。地方分権・環境醸成という原則のもと、社会教育主事・社会教育委員・社会教育関係団体・社会教育施設というような具体的な「道具立て」で展開される活動についての総合的な理解と変革の動きへの理解を深める。  【キーワード】 地方分権、環境醸成、教育行政、社会教育主事	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)
8	社会教育の指導者・支援者の役割	社会教育法では、教育委員会事務局に社会教育主事を配置し、施設に専門的職員を置くことを想定している。教育は、教育する人の存在が不可欠であり、その意義は大きい。学校教育をモデルにする教育の指導者の議論は、社会教育の場合には不十分である。社会教育主事を中心に、指導者・支援者の問題を検討する。  【キーワード】 社会教育主事、専門的職員、非常勤職員、ボランティア	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)
9	社会教育と集団・ボランティア活動	社会教育における集団・団体の意味について検討を加える。明治以降、団体は、教化活動の担い手として位置づいてきたが、社会教育法のもと、社会教育関係団体として重要な位置を与えられてきたことを確認する。NPOの活動やボランティア活動が活発になってきた現在の課題についての検討を加える。  【キーワード】 社会教育関係団体、NPO、ボランティア活動、ボランティアの自己形成	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)
10	社会教育における参加	社会教育においては、住民・学習者の「参加」が重視されていることを制度的な裏付けを確認しながら理解する。近年、規制緩和の動きが「参加」の制度を後退させるように機能している現実注目しながら「参加」の意味を考察する。また、学習場面での「参加体験型学習」の功罪についても検討する。  【キーワード】 参加の制度的保障、行政委嘱委員、参加体験型学習	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	社会教育における連携	社会教育の領域において、連携ということが注目されるようになってきている。社会教育行政と民間諸機関との連携、地域の諸機関・社会教育施設と学校との連携などであるが、連携の意義と限界について検討を加える。特に学校教育と社会教育との連携に関してそれぞれの教育の特質・特性という観点から考察する。 【キーワード】 学社連携、学社融合	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)
12	社会教育施設の役割	行政によって担われる社会教育の中心を占める社会教育施設についてその役割・機能をトータルに把握する。全国に画一的に存在するわけではない社会教育施設の特質、社会教育施設の構成についての理解を基礎に、職員や運営への住民の参加、などの点について検討する。 【キーワード】 社会教育施設、生涯学習施設、公民館、図書館、博物館	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)
13	社会教育の総合的施設：公民館と生涯学習センターの機能	社会教育施設の中心的な存在である公民館について検討する。公民館の理解は、社会教育そのものの理解につながるものであるが、類似の施設であるコミュニティセンターや生涯学習センターとの異同に注目しながら公民館・社会教育の意味に迫ることを試みる。 【キーワード】 公民館、コミュニティセンター、生涯学習センター	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)
14	社会教育の専門的施設：青少年教育施設・図書館・博物館の機能	青少年教育施設・図書館・博物館という社会教育施設について検討する。これらの施設は、社会教育施設と認識されない場合もあるが、なぜ社会教育施設と考えることが必要かについて、その現状や機能に即して、特に職員の役割に注目しながら考察する。 【キーワード】 青少年教育施設、図書館、司書、博物館、学芸員	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)
15	新しい社会教育の形を考える	社会教育の役割は社会の変革に資するものでもあり、安定にも資するものでもあろう。これまでの社会教育に関する議論・考え方を総括しながら、社会教育の特質・特性に関する理解を基礎に、「新時代の社会教育」をどのように構築するかについて検討する。 【キーワード】 公共的課題、社会教育遺産	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)	鈴木 眞理 (青山学院大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2015年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8920664	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 海外の教育改革 ('15) = (R)

英文名 = [ Educational Changes in Foreign Countries ('15) ]

[主任講師 (現職名) : 坂野 慎二 (玉川大学教授) ]

[主任講師 (現職名) : 藤田 晃之 (筑波大学教授) ]

【本学担当専任教員 : 小川 正人 (放送大学教授) 】

### 講義概要

日本の教育改革は明確な方向性が見いだされていない。諸外国においては、学力保証と人材確保といった戦略が明確になってきている。学力保証のために、学校評価の導入や、教員養成・教師教育の充実等は多くの国に共通する。しかしアジア諸国のような競争型学校教育と北欧諸国の全員参画型教育のように、その方向性は必ずしも一様ではない。また、欧米諸国では、多文化による多様な教育、支援を要する子ども達への教育に力を入れることが、全体的な学力向上のために不可欠な施策となっている。

こうした諸外国の教育改革は、教育関係者のみならず、子どもを持つ保護者や、企業関係者にも多くの興味関心を呼び起こすものである。

### 授業の目標

世界的な教育改革の共通性と多様性を理解し、日本の教育改革の方向性について根拠に基づいて自分の考え方を説明することができる。

### 履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	教育改革の根底にあるもの	教育改革は、義務教育制度の導入、前期中等教育の義務化、そして高等教育の大衆化という段階を経てきた。今日の欧米諸国の教育政策は、グローバル化や成果(卒業率、成績等)の重視といった多くの共通点が見いだされる。OECDやEUといった国家の枠を超えた組織を媒介として、教育に国がどの程度費用を投入し、どのような成果を挙げているのかが問われている。  【キーワード】 OECDの教育政策、EUの教育政策、今日の教育改革	坂野 慎二 (玉川大学教授)	坂野 慎二 (玉川大学教授)
2	教育的阻害状況の克服に向けて	1945年に採択されたユネスコ憲章は、すべての人に教育機会を保障することを謳っている。今日、教育を受ける権利の保障は、世界的な合意事項であるといえよう。しかし、実際には、開発途上国においても、また、先進諸国においても、教育機会の保障は多くの課題を抱えている。  【キーワード】 国連諸条約と教育機会保障、開発途上国と教育、社会的包摂と社会統制	藤田 晃之 (筑波大学教授)	藤田 晃之 (筑波大学教授)
3	イギリスの教育改革(1) —教育の質保障—	イギリス(イングランド)における教育の質保障は、全国共通教育課程及び全国共通教育試験の実施、教員の専門職基準や管理職養成の取り組み、第三者の専門家による学校監査の実施という3つの視点から、進められている。イギリスでは、学校が、地方の支援を受けながら、自律性をもって教育活動に取り組み、その取り組みの成果を国が定めた基準に基づいて評価を行うことにより、国全体の教育の質保障を行っているのである。  【キーワード】 国家基準、教師教育、学校評価	植田 みどり (国立教育政策研究所統括研究官)	植田 みどり (国立教育政策研究所統括研究官)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	イギリスの教育改革 (2) —多様性と親の参画—	イギリス(イングランド)の公費で営まれる学校は、自由裁量権の幅や設置者及びスポンサー等の関与の度合いにより多様な設置形態がある。また、学校現場には教員以外にも多様な専門性をもったサポートスタッフが配置され、協業による組織体制を組むことで教育環境の整備を図っている。一方で、学校理事会制度や家庭と学校の教育協約などを実践している。  【キーワード】 公費維持学校、学校職員、学校理事会、学校選択による親の教育権	植田 みどり (国立教育政策研究所統括研究官)	植田 みどり (国立教育政策研究所統括研究官)
5	アメリカの教育改革 (1) —基礎学力をどう保障するか—	アメリカでは教育が各州政府及び学校区の権限とされ、連邦教育省には教育行政上の命令権がない。しかし連邦政府による教育政策は、連邦補助金として具体化され、全米の教育に大きな影響を与え、その方向性を決定づけている。  【キーワード】 NCLB法と学力、学校評価、教師教育とその課題	藤田 晃之 (筑波大学教授)	藤田 晃之 (筑波大学教授)
6	アメリカの教育改革 (2) —働くための教育—	国を挙げて学力向上に向けた教育を推し進めているアメリカにおいて、人種・民族間の学力格差は今日でも大きな課題である。アメリカのキャリア教育は、「スワール型」とも呼ばれる移行プロセスを特色として、学校から職業生活への移行を中核に進められている。  【キーワード】 生活全般の支援、キャリア教育とその課題	藤田 晃之 (筑波大学教授)	藤田 晃之 (筑波大学教授)
7	北欧の教育改革(1) —個性重視による学力保障—	北欧諸国は、民主主義、平等、総合制学校と生涯学習の普及を特色としたが、90年代に経済危機に直面し、新自由主義的な教育改革手法を導入するようになった。2000年代からは学力向上のためにテストによる評価を重視する教育改革を導入したスウェーデン、デンマークおよびノルウェーに対し、フィンランドでは、学校と教師の裁量を拡大することによる学校改善を図っている。  【キーワード】 個性重視教育、全員参画型教育、教師養成の特色	澤野 由紀子 (聖心女子大学教授)	澤野 由紀子 (聖心女子大学教授)
8	北欧の教育改革(2) —自立を促す教育—	北欧諸国の後期中等教育は社会人としての自立への第一歩となっている。学校体系は国によって異なるが、いずれも80～90年代には普通教育と職業教育の壁を低くし、職業コースからも大学進学を可能とする教育改革を実施した。だが進路選択のミスマッチによる若年失業者問題は現在も未解決である。  【キーワード】 職業と教育、キャリアガイダンス、高等教育進学準備	澤野 由紀子 (聖心女子大学教授)	澤野 由紀子 (聖心女子大学教授)
9	ヨーロッパの教育改革 (1) —多様性と基礎学力—	EU(ヨーロッパ連合)各国は、教育政策において、共通の目標を設定し、それぞれの手法で目標を実現することを目指し、年限を定めて調査・報告されるという政策サイクルを定着させようとしている。共通する教育政策として、第一に、多様な子ども達(移民の背景を持つ子ども等)に、学校教育の機会を実質的に確保するか、第二に、学力と学校システムの効率性を高めるのか、という課題がある。  【キーワード】 ヨーロッパ連合各国の教育政策、教育と訓練、教育と質保証	坂野 慎二 (玉川大学教授)	坂野 慎二 (玉川大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	ヨーロッパの教育改革(2) —ドイツにおける教育改革—	EUの中でも経済的にも、そして政治的にも重要な役割を演じているドイツは、教育改革が遅れた国の1つである。ドイツでは、2000年PISA調査の結果を受けて、移民の背景をもつ子どもを中心として、学力の全体的な底上げを図るために、就学前教育や学校以外の活動の充実によって、教育機会を実質的に確保する政策を進め、2012年PISA調査では、一定の学力向上に成功した。 <b>【キーワード】</b> PISA調査と教育改革、教育機会の保障、教育と人材育成	坂野 慎二 (玉川大学教授)	坂野 慎二 (玉川大学教授)
11	アジアの教育改革(1) —国家戦略と教育—	アジア諸国の教育の発展状況は多様で、それぞれの抱える課題もまた多様である。一部の国では、初中等教育でのドロップアウト、教育進学などでの男女格差、公立学校の荒廃などが問題となっている。一方、シンガポールと中国では高い選抜圧力、受験のストレス、知識偏重教育による教育のゆがみなどの問題が深刻化している。 <b>【キーワード】</b> シンガポールにおける学力競争原理、教員養成	杉本 均 (京都大学教授)	杉本 均 (京都大学教授)
12	アジアの教育改革(2) —エリート教育の光と陰—	アジアの高等教育は多くの国で急速な拡大が始まっている。特に(1)高等教育の市場化、そして(2)高等教育のグローバル化が進展している。改革は国内の一部の有力大学から行われ、また改革資源も一部の大学などに集中させたことから、国内大学間の格差の拡大、二極化が生じている。ここではマレーシア、中国、オーストラリア、日本の事例を中心に考察する。 <b>【キーワード】</b> 中国における学力競争、その課題	杉本 均 (京都大学教授)	杉本 均 (京都大学教授)
13	高等教育改革と人材育成 —人材と国家戦略—	今日の高等教育は量的にも質的にも大きな変貌をとげようとしている。高等教育改革と人材養成の観点から見ると、高等教育には2つの機能が存在する。1つは国民の知識・技能を向上させる機能とそれによる高い職業的地位の達成を助ける機能。もう1つは社会の産業構造の変化に対応して、それに適した規模とレベルの人材を選抜して、ふさわしい資格を与える機能である。 <b>【キーワード】</b> 諸外国における高等教育政策と人材の移動、ポロニーヤ・プロセス、高等教育費の負担	杉本 均 (京都大学教授) 坂野 慎二 (玉川大学教授)	杉本 均 (京都大学教授)
14	生涯学習社会における学習 —人生を切り拓く多様な学び—	「生涯学習」の概念は、1960年代後半から、各国の教育改革のマスター・コンセプトとなっていっていった。生涯学習社会においては、生涯にわたって継続する学びと生活の中に広がる幅広い学びを包括的に支援することが理想とされる。個人が取り組む多様な学びの成果を生涯学習として包括的に評価し、キャリア形成にもつながる道筋を自ら開拓することを促すガイダンスやカウンセリングなどの支援が重要となる。この面ではEUの取り組みが参考となる。 <b>【キーワード】</b> UNESCOの教育政策、OECDの生涯学習政策、知識基盤型社会への対応	澤野 由紀子 (聖心女子大学教授)	澤野 由紀子 (聖心女子大学教授)
15	世界の教育改革と日本 —何のための教育改革か—	イギリスやアメリカから普及してきたNPMによって、各国は市場原理を基盤とした競争的で成果主義的な教育改革を進めることとなった。今日の教育政策で成果とされているのは、PISA調査に代表される読解力等のキー・コンピテンシー、そしてその枠組みそのものを検討することが求められる。また、教育支出を抑えて教育改革を進めていく場合、弱者に対する社会的公正の観点が重要である。 <b>【キーワード】</b> NPM、教育改革の成果、教育改革と公正さ	坂野 慎二 (玉川大学教授)	坂野 慎二 (玉川大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8920648	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = カリキュラム編成論 ('13) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 田中 博之 (早稲田大学教職大学院教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 〕

【本学担当専任教員 : 小川 正人 (放送大学教授) 〕

### 講義概要

本科目は、学校におけるカリキュラム編成の理論と方法について解説することをねらいとしている。理論面においては、歴史的考察をふまえながら、カリキュラム統合、編成法の類型、基盤におく学力観、学年発達等の視点について検討する。一方、方法面においては、学校を基盤としたカリキュラム開発に焦点をあてて、今日の学校が課題としているカリキュラム編成の方法について、実践事例を豊富に紹介しながら解説する。具体的には、習得・活用・探究の連携、言語活動の充実、総合的な学習の時間、教科横断的なカリキュラム編成、カリキュラム・マネジメント等の視点から考察する。さらに、海外のカリキュラム編成の最新動向についても実践的な解説を加える。

### 授業の目標

- ① カリキュラム編成の理論について、歴史的考察をふまえて理解している。
- ② カリキュラム編成の方法について、具体的な実践事例をふまえて理解している。
- ③ カリキュラム編成の理論と方法の特徴について、小論文形式等でわかりやすく論述することができる。

### 履修上の留意点

教職科目「教育課程の意義及び編成の方法」に対応しているため、学校での実践事例を豊富に紹介して具体的な解説を行うので、理論と実践を関連付けながら理解することが望ましい。各回で紹介する参考文献については、できる限り読むようにすると理解を一層深められる。予備的知識は特に必要としないが、学校のミドルリーダーとしての当事者意識を持って臨むことによって、より実践的な知識を得ることができるようになっている。もちろん、若手教員や管理職等の受講も歓迎する。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	カリキュラム編成の特徴と今日的課題	初回の講義では、カリキュラムという用語の定義を行うとともに、その編成の特徴に関する基礎的な解説を行う。さらに、学校におけるカリキュラム編成の今日的課題を幅広くとらえることにより、学校がなぜ、どのように、どうやってカリキュラムを編成すべきなのかという問いに答えるようにする。 【キーワード】 カリキュラム編成、学習指導要領、学校カリキュラム、評価	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)
2	カリキュラム編成の理論と原理	カリキュラム編成の理論について、国内と海外の諸理論を歴史的に紹介するとともに、編成に関わる基本原理について解説する。また、それらの理論が学校でのカリキュラム編成の今日的課題とどのように結びついているかについて理解できるようにする。 【キーワード】 内容構成論、開発方法論、評価論、履修原理、法的拘束力	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)
3	カリキュラムの基盤をなす学力モデル	学校のカリキュラムは、その時代の学力観に強い影響を受けて編成される。そこで、平成23年度から全面实施となった新学習指導要領の学力観を検討するとともに、OECDが提唱する国際標準学力としてのキー・コンピテンシーやPISA型読解力についても解説を加える。 【キーワード】 21世紀型学力、総合学力モデル、キー・コンピテンシー、PISA型読解力	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	カリキュラムの統合	<p>学校カリキュラムの領域を構成する原理として、「カリキュラム統合」という軸がある。これに沿って、今日のわが国の学校カリキュラムにおいては、総合的な学習の時間が設置されている。その歴史的・原理的な解説を行うとともに、今日的課題から見た総合的な学習の時間のカリキュラム編成のあり方を検討する。</p> <p>【キーワード】 総合的な学習の時間、単元モデル、カリキュラムモデル</p>	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)
5	新教科創設のためのカリキュラム開発と研究開発学校制度	<p>学校カリキュラムの編成の中でも最も大規模な作業となるのが、新教科の設立である。文部科学省指定の研究開発学校での様々な取り組みを紹介しながら、それぞれの新教科設置のねらいや特徴について幅広く検討する。</p> <p>【キーワード】 カリキュラム開発、新教科、生活科、ドラマ科、研究開発学校</p>	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)
6	教科横断的な課題 (1) 言語活動の充実	<p>今日のカリキュラム編成においては、学校カリキュラムの全体に関わる教科横断的な教育課題の解決が求められている。その一つ目として、「言語活動の充実」という課題を取り上げ、そのねらいと特徴、カリキュラム編成上の工夫点について、事例を紹介しながら検討する。</p> <p>【キーワード】 言語活動の充実、言葉の力、話型、文型、サブ・カリキュラム</p>	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)
7	教科横断的な課題 (2) 活用を図る学習活動	<p>学校カリキュラムの全体に関わる教科横断的な教育課題の二つ目として、「活用を図る学習活動」を取り上げ、そのねらいと特徴、カリキュラム編成上の工夫点について、事例を紹介しながら検討する。</p> <p>【キーワード】 活用学習、型の活用、フィンランド・メソッド、創作表現</p>	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)
8	教科横断的な課題 (3) 学習スキルの育成	<p>学校カリキュラムの全体に関わる教科横断的な教育課題の二つ目として、「学習スキルの育成」を取り上げ、そのねらいと特徴、カリキュラム編成上の工夫点について、事例を紹介しながら検討する。</p> <p>【キーワード】 学習スキル、実践スキル、キー・スキル</p>	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)
9	人間関係スキルを育てるカリキュラムの編成	<p>子どもの人間関係スキルを育てることが、今日の学校において喫緊の課題になっている。そこで、先進的な取り組みを行っている小学校と中学校のカリキュラムを紹介しながら、人間関係スキルの計画的かつ系統的な育成方法について検討する。</p> <p>【キーワード】 人間関係スキル、社会的スキル</p>	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)
10	クロス・カリキュラムの編成	<p>教科横断的な課題をカリキュラム編成に生かす視点と方法に加えて、さらにカリキュラム統合の方法として、教科横断的なカリキュラム編成がある。これは、いくつかの教科・領域・時間を組み合わせることで大単元を構成するものである。その意義と方法について事例を交えて具体的に解説する。</p> <p>【キーワード】 クロス・カリキュラム、習得・活用・探究の連携</p>	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	学級経営カリキュラムの編成	今日の学校教育で大きな課題である学級経営のあり方を改善し、子どもの集団づくりに効果を上げるために、学級経営カリキュラムを作成・実施することを提案する。ここで、学級力モデルを検討し、学級経営の新技术法を具体的に解説する。  【キーワード】 学級経営、学級力、学級力向上プロジェクト	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)
12	カリキュラム開発のケース・スタディー	第5章で検討した研究開発学校におけるカリキュラム開発の事例について、新教科「市民科」と「ドラマ科」を取り上げて、その具体像とカリキュラム開発の特徴について具体的に解説する。  【キーワード】 市民科、ドラマ科、研究開発学校	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)
13	海外のカリキュラムに学ぶ	わが国の学校カリキュラムのあり方は、少なからず海外の影響を受けている。そこで、日本の学校カリキュラムに影響を与えているイギリスやアメリカの動向を紹介しながら、これからのカリキュラム編成について考える。  【キーワード】 21世紀型スキル、市民科、ドラマ科、トピック・ウェブ	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)
14	R-PDCAサイクルに基づくカリキュラム・マネジメント	各学校で編成したカリキュラムを組織的・計画的に実施・改善するためには、R-PDCAサイクルによる学校を基盤とした編成手法、つまりカリキュラム・マネジメントが必要となる。その意義と方法について具体的に解説する。  【キーワード】 SBCD、R-PDCAサイクル、カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)
15	漸進的カリキュラム編成法の意義と特徴	教科横断的なカリキュラムや総合的な学習の時間におけるカリキュラムは、年度当初に編成された詳細案を実施するのではなく、入手可能な教材や実施可能な学習活動、さらには子どもの実態や反応に基づいて、実践を伴いながら漸進的に編成されることが必要である。そのような漸進的カリキュラム編成の意義と方法について、実践事例に基づいて解説する。  【キーワード】 漸進的カリキュラム編成法、授業の再設計技法、食といのちの教育	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)	田中博之 (早稲田大学 大学院教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8920591	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 教育文化論特論 ('11) = (TV)

[主任講師 (現職名) : 鈴木 晶子 (京都大学大学院教授) ]

【本学担当専任教員 : 住田 正樹 (放送大学教授) 】

### 講義概要

人は経験なしに教育について語ることはできない。と同時に、経験だけで教育を語ることもできない。人と人の邂逅と対峙を通して、人は生成や変容を遂げる。そうした人間の生成変容を支えている文化—教育文化の働きは広く、そして深い。この授業では、教育文化について、哲学的人間学、文化人類学、歴史学、詩学など教育学の隣接諸科学に基づく思考様式を用いて分析や解明を進めていくための基礎を学ぶことを目的としている。場がつくる教育文化、メディアとしての教育文化、伝承のなかの教育文化について、様々なフィールドワークの事例を通して、論究する。

### 授業の目標

教育文化を分析・解明するための観点や基本概念、分析枠組などを学ぶことを通して、自らがこれまで受けてきた教育を通して得た体験や経験や、日常の様々な場面をフィールドとして分析的に捉えることができる力の養成を目標としている。

### 履修上の留意点

広く教育に関係するものとしては、「人間発達論特論('15)」の印刷教材を学んでおくことが望ましい。また、教育的日常をフィールドとして捉えたり、広く文化の観点から教育という営みを考える思考を鍛えるために、「文化人類学('14)」も参照されることをおすすめする。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	教育文化とは	科目全体の導入回として、教育文化の意義についての問題提起と科目(学習)の到達点を提示する。また、主要概念の定義や方法論を示す。  【キーワード】 教育文化、人間学、人類学、歴史人類学	鈴木晶子(京都大学大学院・教授)	鈴木晶子(京都大学大学院・教授)
I 場と教育文化				
2	1 場がつくる教育文化	教育文化は場においてつくられる。古くは古代ギリシアのアゴラから現代の学校教育現場まで、人間相互の関わりを生かす場の力の働きについて、事例を交えて紹介する。  【キーワード】 環境世界、場の働き、経験、徒弟制度	鈴木晶子(京都大学大学院・教授)	鈴木晶子(京都大学大学院・教授)
3	2 リテラシー(智)への誘い	教育文化の基盤には、読み書き(リテラシー)の習得があった。だがリテラシーは単に識字能力にとどまらない。知識をそれぞれの状況や社会的文脈において活かす知恵(叡智)も広義のリテラシーである。リテラシー思想の系譜を追うとともに、現代における科学リテラシーの意義についても事例を交えて紹介する。  【キーワード】 読み書き、リテラシー、知恵、叡智	鈴木晶子(京都大学大学院・教授)	鈴木晶子(京都大学大学院・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	3 場と人間の変容	人の才を育てていくには、教育する側にも教育の才が求められる。人と人が出会い、相互にその才を伸ばしていくには、人をみる目、事柄を見極める目が必要である。こうした才としての目(心眼)は、タクトとも呼ばれる。人育ての知恵や才、判断力としてのタクトの働きについて、その思想の系譜を追いながら論究する。 <b>【キーワード】</b> 才、タクト、ものを見る目、判断力	鈴木晶子(京都大学大学院・教授)	鈴木晶子(京都大学大学院・教授)
5	4 場・言葉・身体	人育ての知恵や才は、人生の極限において自己自身を超えていく力を必要とする。直観や勘の働きに関する思想の系譜を紹介するほか、仏教やキリスト教の修練の場を事例として取り上げながら、場における人間変容について考える。 <b>【キーワード】</b> 直観、勘、瞑想、言葉、身体、感情	鈴木晶子(京都大学大学院・教授)	鈴木晶子(京都大学大学院・教授)
II メディアと教育文化				
6	1 展覧の教育文化	近代的な教育文化の特質は、世界を展覧できるメディアを開発することであった。ヨーロッパの驚異博物館(ヴンダー・カンマー)をはじめ、博物館、美術館、博覧会、動物園など展覧のメディアが果たした役割について、事例を紹介しながら示す。 <b>【キーワード】</b> 展覧、博物館、美術館、博覧会、一望のまなざし	鈴木晶子(京都大学大学院・教授)	鈴木晶子(京都大学大学院・教授)
7	2 文化・歴史・メディア	新聞や映像はもちろん身近なメディアとしてすぐに思い浮かぶが、歴史的記録と想起の場として、記念塔や慰霊碑も教育文化にとってメディアと捉えることができる。教育文化のメディアとしての展覧のもつ功罪について、事例を手掛かりにしながらかえる。 <b>【キーワード】</b> イデオロギー、記念塔、慰霊碑、歴史モニュメント	鈴木晶子(京都大学大学院・教授)	鈴木晶子(京都大学大学院・教授)
8	3 メディアとしての「もの」	玩具、絵本、童話、童謡などは、教育文化を構成している重要なメディアである。子どもの日常に深く関わる「もの」は、時代の価値観を反映しつつ、これまでも子どもたちをその時代の子へとつくりあげてきた。「もの」を通して形成されてきた教育文化の仕組みについて、事例を交えて紹介する。 <b>【キーワード】</b> 玩具、絵本、童話、童謡、教育的配慮	鈴木晶子(京都大学大学院・教授)	鈴木晶子(京都大学大学院・教授)
9	4 メディアとしての儀礼	儀礼は教育文化のひとつである。儀礼には、宗教的な儀礼や成人に至るまでの通過儀礼、年中行事や祭事の儀礼、さらに、学校での入学式や卒業式、運動会といった行事での儀礼、誕生祝や結婚、出産の儀礼まで様々ある。こうした儀礼を通して人は何をどのように学んでいるのだろうか。事例を紹介しながら考える。 <b>【キーワード】</b> 儀礼、通過儀礼、反復、演出、ミメシス	鈴木晶子(京都大学大学院・教授)	鈴木晶子(京都大学大学院・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	5 ミメシス・学習・ 伝承	儀式や儀礼は伝統の様式をなぞりながらも、それぞれの時代の文化的・社会的条件に合うように、改変されながら伝承されてきた。儀礼の伝承メカニズムは、パフォーマンスを通じた模倣的な反復(ミメシス)である。儀礼のこの特質について事例を交えて紹介する。  【キーワード】 儀礼、パフォーマンス、模倣、学習、伝承	鈴木晶子(京 都大学大学 院・教授)	鈴木晶子(京 都大学大学 院・教授)
III 伝承のなかの教育文化				
11	1 生存と伝承	人が生存のために伝承しているものは様々ある。親から子への伝承は古代より、もののやり方に関する伝承のうちに見ることができる。また、家庭料理を通して伝わる家庭の味に代表されるように、感覚を通じた伝承もある。伝承の様々な側面について事例を紹介しつつ、考える。  【キーワード】 もののやり方、感覚、日常実践のわざ、伝承の知恵	鈴木晶子(京 都大学大学 院・教授)	鈴木晶子(京 都大学大学 院・教授)
12	2 伝承とわざ	伝統的な芸芸やものづくりの場においては、どんな伝承の知恵が働いているのだろうか。わざを極める場で起きている事象を、フィールドとして研究する試みを紹介しながら、伝承とわざの関係について考える。  【キーワード】 芸芸、芸道、ものづくり、修行、フロネシス	鈴木晶子(京 都大学大学 院・教授)	鈴木晶子(京 都大学大学 院・教授)
13	3 伝承の新しい地平	教育文化の伝承という広い観点から捉えるとき、学校教育を含めた学習・伝習・伝承は、今後どのような展開の可能性があるのであろうか。学校教育における学習だけに限定せず、伝承というものを捉える観点から、異文化理解や異文化への寛容さを育むといった新たな課題について考える。  【キーワード】 練習、稽古、比較、異文化理解、寛容さ	鈴木晶子(京 都大学大学 院・教授)	鈴木晶子(京 都大学大学 院・教授)
14	4 死と再生の教育文化	古来より、親はその死に際の姿を通して最も大切な事柄を子に伝えるものだといわれる。死生の文化は教育文化にとって重要な意義をもつ。個人の死、近親者の死、同胞の死、人類の死、その死をいかに受けとめ、いかに生きていくかー死と再生の循環としての教育文化の特質について事例を交えながら考える。  【キーワード】 死の習俗、死の舞踏、死生の文化、グリーフィング・ケア	鈴木晶子(京 都大学大学 院・教授)	鈴木晶子(京 都大学大学 院・教授)
15	教育文化論の可能性	教育文化論は、人類学や詩学の思考方法を通して、人間の生成変容の歴史的、文化的な違いを明らかにするという学際的・国際的な研究領野である。これまでの回を振り返りつつ、教育文化論の意義や今後の可能性について考える。  【キーワード】 人類学的思考、学際、国際、領域横断	鈴木晶子(京 都大学大学 院・教授)	鈴木晶子(京 都大学大学 院・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度 (第2学期)	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8920613	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	------------------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 道徳性形成・徳育論 (' 1 1 ) = ( R )

〔主任講師 (現職名) : 押谷 由夫 (昭和女子大学大学院教授) 〕

【本学担当専任教員 : 住田 正樹 (放送大学教授) 〕

### 講義概要

現代の家庭、学校、地域社会がかかえる大きな教育課題に道徳教育がある。道徳教育は「人間としていかに生きるべきか」を正面から取り上げ、「人間として自分はどう生きるか」を主体的に考え「具体的に追い求めていけるようにすること」を主とするために、きわめて広い視野と、深い人間的洞察力が必要になる。本講義では、道徳性の形成と徳育という視点から、我が国の道徳教育が大きな影響を受けている中国の道徳思想(徳育論)、江戸時代及び明治期から戦前にかけての我が国の道徳思想(徳育論)を押さえて、今日の道徳教育(徳育)の在り方を、欧米や中国、韓国の動向、そして戦後の我が国の道徳教育の動向をもとに探っていこうとするものである。

### 授業の目標

道徳教育の基本的問いである「人間としていかに生きるべきか」は、人間としての自覚にかかわって常に問われ続けるものである。それを「どのように追い求めていくか」は個人的な課題であると同時に、社会的課題でもある。本講義では、「人間としていかに生きるべきか」と、それを個人的課題及び社会的課題として「どのように追い求めていくか」という視点から、歴史的・国際的視野のなかで、我が国の道徳教育の特徴と課題を理解し、これからの道徳教育について、自らの生き方とかかわらせて、具体的展望をもてるようにすることを目標とする。

### 履修上の留意点

学部科目「道徳教育の方法」を履修していることが望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	「私にとっての道徳教育」とは何かを考えてみよう	本科目の概要と基本的コンセプトをお話したい。基本的コンセプトとしては、「私にとっての道徳教育」という視点からこの講義が聴けるようにしたい。それは、各講師がそれぞれの道徳性形成を講義の内容を通して受講者に伝えていくことでもあるかと思う。その導入として、「私」自身の道徳性の育成を振り返ることから始めていきたい。 【キーワード】 私にとっての道徳教育 人格と自己形成 生きがい観	押谷由夫(昭和女子大学大学院教授)	押谷由夫(昭和女子大学大学院教授)
2	「心ということばの一般的用法」から道徳教育を考えてみよう	「私にとっての道徳教育」という視点をさらに広げて、「社会からみた道徳教育」について、「心ということばの一般的用法」から探っていきたい。大きく、「道徳的価値の総合体としての心」「社会的性格としての心」「意識的・感覚的存在としての心」の3つについて説明していく。それらを次の回からの講義へとつなげていけるようにしたい。 【キーワード】 心の一般的用法 道徳的価値の総合体 社会的性格 意識的・感覚的存在	押谷由夫(昭和女子大学大学院教授)	押谷由夫(昭和女子大学大学院教授)
3	中国における道徳思想(徳育論)について考えてみよう(1)-『論語』に見える道徳の問題-	孔子の言行録である『論語』には、人の心の問題をはじめ、家族、職場、国家など、現代社会にも通ずる諸問題が多く取り上げられている。その中から、特に「人はどう生きるか」「どう社会と関わっていくべきか」という課題を取り上げる。また、それが広く東アジア文化圏に共通する思想となっている点についても解説する。 【キーワード】 孔子、論語、孝、仁	湯浅邦弘(大阪大学大学院教授)	湯浅邦弘(大阪大学大学院教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	中国における道徳思想(徳育論)について考えてみよう(2)－諸子百家の道徳論－	近年中国で発見された戦国時代の儒家系の新資料(竹簡)には、すでに道徳論を明確に説く文献が複数含まれていた。そうした新資料を紹介しながら、古代中国において、「夫・婦・父・子・君・臣」という人倫関係がどのように考えられていたのかを明らかにする。また、儒家以外の諸子百家がこうした問題をどう考えていたのかについても解説する。 【キーワード】儒家、人倫、諸子百家	湯浅邦弘(大阪大学大学院教授)	湯浅邦弘(大阪大学大学院教授)
5	江戸時代における道徳思想(徳育論)について考えてみよう(1)－経済活動と町人倫理－	江戸時代は、活発な経済活動で繁栄した時代であった。それゆえ経済を支える町人には、倫理的な行為が求められた。その徳目の中核は、儉約と正直である。また経済活動と並行して教育に対する関心も盛んになり、藩校・寺子屋などの教育施設が次々とつくられ、生活習慣を中心に指導がなされた。 【キーワード】町人倫理、儉約、正直、藩校、寺子屋	高島元洋(お茶の水女子大学大学院教授)	高島元洋(お茶の水女子大学大学院教授)
6	江戸時代における道徳思想(徳育論)について考えてみよう(2)－儒教倫理と人倫－	町人倫理から子どもの生活習慣まで、また士農工商のそれぞれ生き方について、原理的に説明するものが儒教であった。江戸時代の儒教は、たんなる前近代の封建思想ではない。日本儒教の多様な機能を考え、ここにはたらく「人倫」という観念、また人間を理解する普遍的な思索方法について考えてみたい。 【キーワード】儒教、生生、人倫、仁、愛	高島元洋(お茶の水女子大学大学院教授)	高島元洋(お茶の水女子大学大学院教授)
7	近代日本における道徳教育(徳育論)について考えてみよう(1)－修身科の歴史と教育勅語の渙発－	近代教育では道徳教育を担う教科として修身科が設置された。本章では、近代教育の出発にあたって、修身科を中心とした道徳教育の理念と目的がどのように模索され形成されたのかを歴史的に辿りながら、特に1890(明治23)年の「教育ニ関スル勅語」(教育勅語)渙発が道徳教育(徳育論)に果たした役割と意義について考えていきたい。 【キーワード】修身科、徳育論争、教育ニ関スル勅語(教育勅語)、徳目主義、人物主義	貝塚茂樹(武蔵野大学大学院教授)	貝塚茂樹(武蔵野大学大学院教授)
8	近代日本における道徳教育(徳育論)について考えてみよう(2)－国定修身教科書の特徴と修身教授の改革論－	1903(明治36)年に国定教科書制度が確立し、1949(昭和24)年の学校教育法の制定までに全5期にわたる国定修身教科書が使用された。本章では、各期の国定修身教科書の特徴を整理しながら、特に大正新教育運動期における修身教授改革論についても検討することで、近代教育に果たした修身科の役割と修身科研究の今後の課題について考えていきたい。 【キーワード】国定修身教科書、大正新教育運動、国民学校、天野貞祐	貝塚茂樹(武蔵野大学大学院教授)	貝塚茂樹(武蔵野大学大学院教授)
9	戦後の道徳教育の動向を探ってみよう(1)－「道徳の時間」が特設されるまで－	戦後の道徳教育について、1958(昭和33)年に道徳の時間が特設されるまでを概観し、その基本的な流れを押さえる。特に「公民教育構想」「社会科を中心とする道徳教育」「天野貞祐の提案」「道徳の時間の設置」に絞って、戦後の道徳教育の動向の実際を明らかにしたい。 【キーワード】公民教育構想 社会科 天野貞祐 道徳の時間	押谷由夫(昭和女子大学大学院教授)	押谷由夫(昭和女子大学大学院教授)
10	戦後の道徳教育の動向を探ってみよう(2)－「道徳の時間」特設以降－	「道徳の時間」設置以降の動向について、特に「道徳の時間設置から1989(平成元)年の学習指導要領改訂まで」「1989(平成元)年の学習指導要領の改訂」「2002(平成14)年の心のノート配付事業」の3つをポイントにして探っていく。その中で、今日の道徳教育の課題も明らかにしたい。 【キーワード】学習指導要領 幼・小・中・高一貫の道徳教育 心のノート	押谷由夫(昭和女子大学大学院教授)	押谷由夫(昭和女子大学大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	アメリカにおける道徳教育の動向を探ってみよう—大統領が主導するアメリカの徳育—	アメリカにおける道徳教育を特徴づける3つの要素、①民主主義の理念と道徳的価値の教育、②実践性と科学的実証性、③地域社会との連携、を中心に、各州、各学区および各学校での具体的な取り組みを紹介する。  【キーワード】 キャラクターエデュケーション、サービス・ラーニング	伴 恒信(鳴門教育大学大学院教授)	伴 恒信(鳴門教育大学大学院教授)
12	ヨーロッパにおける道徳教育の動向を探ってみよう—ヨーロッパの宗教教育とシティズンシップ教育—	ヨーロッパでは、第二次世界大戦後の1949年から欧州評議会が民主主義及び人権の教育に係る活発な研究・普及活動を進めてきたが、1992年の欧州連合(EU)の発足を契機に、さらに国家枠を超えた民主主義的人格の涵養を目指すシティズンシップ教育が緊要かつ現実的な課題となってきた。具体的に英・独・フィンランドなどの教育状況を踏まえながら考察していきたい。  【キーワード】 シティズンシップ教育、欧州評議会、PSHE	伴 恒信(鳴門教育大学大学院教授)	伴 恒信(鳴門教育大学大学院教授)
13	中国、韓国における道徳教育の動向を探ってみよう—道徳教育教科による道徳教育—	現在の中国では学校における道徳教育を、品德と生活、品德と社会、思想品德、思想政治という教科を中心として行っている。韓国においても教科の道徳を設けて計画的・発展的な道徳教育を行っている。その具体と、社会における道徳教育の取組をあわせてみていくことによって、道徳教育のあり方を探っていきたい。  【キーワード】 品德と生活、思想社会、思想品德、教科道徳、社会における道徳教育、家庭における道徳教育	押谷由夫(昭和女子大学大学院教授)	押谷由夫(昭和女子大学大学院教授)
14	我が国の特質を生かした道徳教育をいかに進めるかを考えてみよう	講義の全体を振り返りながら、我が国の特質を生かした道徳教育をどのように展開していけばいいのかについて考えてみたい。また、59年ぶりに改正された教育基本法や2008(平成20)年に告示された新学習指導要領における道徳教育の重視や推進方策について明らかにしながら、これからの道徳教育の推進方策について考えていきたい。  【キーワード】 改正教育基本法、人格の完成、人格の基盤としての道徳性、新学習指導要領、人間としての生き方、特別教科「道徳」	押谷由夫(昭和女子大学大学院教授)	押谷由夫(昭和女子大学大学院教授)
15	「これからの私にとっての道徳教育」について考えてみよう	最初の講義で考えた「私にとっての道徳教育」が本科目をとることによってどのように変わってきたかを確認し、「これからの私にとっての道徳教育」を各自で考えられるようにしたい。それは、これから自分自身といかに向き合っていくかということでもある。自分の未来に対する意識のもち方や相手の立場に立つことの大切さ、日本国民が大切にしてきた心などを探りながら、考えていく。  【キーワード】 幸福への道しるべ、よさに目を向ける、感謝・報恩、自他への絶対的信頼、相手の立場に立って考える力、日本の心	押谷由夫(昭和女子大学大学院教授)	押谷由夫(昭和女子大学大学院教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8920575	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 生涯発達心理学研究 (' 1 1 ) = (R)

[主任講師 (現職名) : 星 薫 (放送大学准教授) ]

### 講義概要

生涯発達心理学は人の受精から老年期までの個人的発達について研究する学問である。その核となる仮定は、発達が青年期に完了してしまうものではなく、全生涯を通じて続く適応過程であり、そこには心理学的構造や機能の獲得、保持、変容、そして衰退が含まれているとするものである。今回の授業では、アメリカで行われた、複数の個人を、その子ども時代から老年期まで追跡したいくつかの研究の成果を軸に、発達における個人間の共通性、個人差、個人内変化について見ていく。

### 授業の目標

我々は、高齢者と出会って話をすると、つい、その人がどんな人生を歩んできて、現在の姿に至ったのかを知りたくなる。特に、我々の心を引きつける、魅力あふれる老人に出会うと、どうやったら、この人のようにになれるのだろうかと考える。人が幸福な老年期(サクセスフル・エイジング)を迎えるために、そこまでの道のりはどのように関係しているのかという、問いへの答えを、追跡研究の成果から探してみたい。

### 履修上の留意点

特になし

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	生涯発達心理学とは	生涯発達心理学では、人の誕生(あるいはもっと遡って受精)から死までの間に生じる個人の変化について考える。だから当然ながら、その人がどういう時代に生まれ、どのような環境で育ち、生活したかが重要な要因になっていく。本章では、生涯発達心理学(あるいは生涯心理学)の基本的な考え方を紹介していく。 【キーワード】 生涯変化、獲得、喪失、維持、衰退	星 薫 (放送大学准教授)	星 薫 (放送大学准教授)
2	ライフコース研究と生涯発達心理学	ライフコース研究では、ライフコースを人間行為力(ヒューマン・エージェンシー)、社会関係、時空間上の位置、年齢・時代・コーホートの交差という4要素から観察する。このうち人間行為力は、遡及的に観察できるものではなく、追跡的観察からその効果やライフコースの形成全般にわたる累積的効果を捉えることができる。というのは、人間行為力それ自体が、社会的環境、状況に応じて発達的に変化するためである。本講義では、ライフコース研究の枠組みを概観したうえで、人間行為力に焦点をあて、生涯発達心理学での活用について考える。 【キーワード】 ライフコースの構成要素、人間行為力、発達研究	嶋崎 尚子 (早稲田大学文学学術院教授)	嶋崎 尚子 (早稲田大学文学学術院教授)
3	生涯発達心理学の先駆者たち	人の発達を子ども時代に限定せず、長いスパンで考えようとした研究者が、数は少ないがいる。その中で、シャーロット・ビューラー、カール・G・ユング、ダニエル・レビンソン、ロバート・ハヴィガースト、エリック・エリクソンの発達論を紹介する。 【キーワード】 ビューラー、ユング、レビンソン、ハヴィガースト、エリクソン	星 薫 (放送大学准教授)	星 薫 (放送大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	ある生涯発達-福沢諭吉を例として-	慶應義塾大学の創設者である福沢諭吉は、生涯良く笑う、快活な人物であったという。明治維新前後の激動期を生き、多くの業績を残した彼の生涯を、エリクソンの発達漸成論との関係で見していきたい。  【キーワード】 エリクソン、心理社会的発達論、福沢諭吉基本的信頼、自我同一性獲得、生殖性、統合	星 薫 (放送大学准教授)	星 薫 (放送大学准教授) ゲスト:平山洋(静岡県立大学助教)
5	身体の生涯変化	人間の身体は、誕生から、発育、成熟、衰退、死亡するまでつねに加齢変化を経験する。これを広義の老化という。身体的変化と心理的・精神的な変化は表裏一体であり、互いに大きく影響を及ぼし合う。老化の進行する機序には遺伝子のレベルと生命の維持機構そのものが関わっており、老化を完全に回避することは不可能である。生理的な加齢と、さまざまな疾患がもたらす病的な加齢が引き起こす身体的な変化について概観し、いわゆるサクセスフルエイジングとは何かについて学習する。  【キーワード】 ライフサイクル、加齢変化、老化、生活習慣病、老年病、年代別死因	三上 洋 (大阪大学名誉教授)	三上 洋 (大阪大学名誉教授)
6	運動能力の生涯変化	健康な生涯を送るためには、それぞれの時期に必要で十分な身体活動が求められる。本章では、生涯にわたって変化する運動機能の特徴を提示するとともに、各年齢期に求められる適切な運動実施の重要性やその方法について概説する。  【キーワード】 体力、運動能力、運動習慣	臼井 永男 (放送大学名誉教授)	臼井 永男 (放送大学名誉教授)
7	生涯発達心理学研究法	人の生涯の間に生じる変化を知ると言っても、その方法は必ずしも簡単ではない。その際に根拠とする事実、どのような方法によって得たものが、信頼の置けるデータと言えるのか、どのような記述法が望ましいのかといった問いに対する答えを考えておくことも、必要になる。また、50年以上にわたって行われた縦断研究で採用された方法についても紹介する。  【キーワード】 横断法、縦断法、ハーバード縦断研究	星 薫 (放送大学准教授)	星 薫 (放送大学准教授)
8	生活の生涯変化	生活の仕方は、生まれてから老いて死に到るまでの間に、大きく変わっていくと考えられる。そして、その生活の仕方の総体として我々自身が作られていくと言ってもあながち間違いではないだろう。我々が一生の時間の多くを割いて行う「遊ぶ」「働く」という活動を、年代の変化の中で眺め、それが我々の発達とどう関わっているのかをしてみることにしよう。  【キーワード】 遊び、学校、職業選択、仕事、隠居	星 薫 (放送大学准教授)	星 薫 (放送大学准教授)
9	知覚の生涯変化	感覚や知覚あるいは注意の年齢による変化は比較的、身体の変化と連動している要素が強いと思われる。すなわち、乳幼児期には身体的成熟に伴って、機能の上昇方向への変化が見出され、青年期から成人期を通じて比較的高いレベルが保たれ、老年期には、生理学的衰退に伴って、機能の低下が見られる。本章では、こうした感覚、知覚あるいは注意の働きの年齢変化について見ていくことにしよう。  【キーワード】 視覚、乳児の知覚、選択的注意、認知スタイル	星 薫 (放送大学准教授)	星 薫 (放送大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	乳児期から成人期に 到る認知発達	乳児期から青年期までの、ピアジェによる認知発達段階を紹介すると共に、成人期の思考の特徴を、子どもや青年のそれと比較しながら考えてみることで、人の生涯に亘る思考の変化について考えてみたい。  【キーワード】 ピアジェ、感覚運動期、操作、論理、脱形式的操作	星 薫 (放送大学准 教授)	星 薫 (放送大学准 教授)
11	道徳観の生涯発達	道徳観は、生後の学習経験の産物だと考えられる。従って人によってその強さには、差があると思われるし、生涯の中でも変化していくものと思われる。本章では、道徳観の生涯変化について見てみたい。  【キーワード】 コールバーグ、道徳の発達段階、許し	星 薫 (放送大学准 教授)	星 薫 (放送大学准 教授)
12	成人初期から老年期 までの変化—生活ス タイル	一人の人物が時間経過の中で示す生活スタイルの変化あるいは不変化について検討した研究を紹介していく。本章で紹介するのは、その種のものの中では古く、1977年に出版されたものである。これからの4つの章はこうしたデータのいくつかを紹介することに当てる予定である。  【キーワード】 生活スタイル、男女差、成人期	星 薫 (放送大学准 教授)	星 薫 (放送大学准 教授)
13	成人初期から老年期 までの変化—人格の 変化	前章で紹介したマースとキューパース著「30から70まで」で行われた、同一人物についての40年間に生じた変化に関する調査のうち、本章ではもう一つの調査項目である、人格について、その変化、不変化の様相を紹介する。  【キーワード】 Q分類、ハーン自我機能尺度、成人期、男女差	星 薫 (放送大学准 教授)	星 薫 (放送大学准 教授)
14	健康的な加齢	本章と次章とでは、第7章で紹介したハーバード成人発達研究で得られた知見の一部を紹介してみたい。健康な状態で老年期を生きる人々とそうでない人々との相違を、彼らの若いころの状態に関するデータから探っていき、両者の相違を明確化しようと試みる。  【キーワード】 肯定的な老化、身体的健康、教育歴、適応的コーピング	星 薫 (放送大学准 教授)	星 薫 (放送大学准 教授)
15	心理学的サクセス フル・エイジングを 目指して	人生の最後の10年ないし20年が実り豊かで、幸福であることは、誰にとっても望ましいことである。それは、身体的に健康であるというだけでも、また経済的に安定しているというだけでも達成されるものではないだろう。サクセスフル・エイジングを遂げた高齢者が生きる姿は、後に続く世代の人々にとっての役割モデルであり、人が生きる意味を教えてくれるものでもあるかもしれない。  【キーワード】 成熟、サクセスフル・エイジング、生殖性、意味の守護者、統合	星 薫 (放送大学准 教授)	星 薫 (放送大学准 教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2015年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8920680	履修 制限	有	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名（メディア）＝ 現代社会心理学特論 （'15）＝ （R）

英文名 ＝ [ Contemporary Social Psychology ('15) ]

〔主任講師（現職名）：森 津太子（放送大学准教授）〕

【本学担当専任教員： 〃】

#### 講義概要

本科目では、社会心理学領域の様々な知見について、次の2つの現代的な視点から解説を試みる。第一に、現代の社会心理学がどのようなものなのか、その特徴や動向を紹介する。社会的影響、社会的認知、自己といった社会心理学において特に重要と思われるトピックに加え、感情、自動性など、最近になって特に注目を集めるようになったトピックもとりあげる。第二に、現代的な研究アプローチを紹介する。本科目の中心となるのは、近年、社会心理学において主要な研究アプローチとなっている社会的認知アプローチである。しかしそれに加え、より学際性を帯びた取り組みである、経済学との融合や、人間の社会的行動を環境への適応の産物ととらえる進化論的な考え方、人間の社会的行動の生物学的基盤を探ろうとする脳神経生理学的な研究など、新たな研究アプローチも紹介する。

#### 授業の目標

心理学を構成する分野は数多くあるが、その中でも社会心理学は特に日常生活との接点が多い。本講義を受講することで、受講生が自分自身の生活空間（家庭、職場、その他の対人関係）に存在する問題について、社会心理学的に省みることができるようになることが、本講義のねらいである。

#### 履修上の留意点

特になし。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	社会心理学とは何か	社会心理学がどのような学問であるかを概観する。社会心理学という学問名称に冠された「社会」ということばが意味するものを考察し、それを手がかりにして社会心理学の学問的特徴や研究範囲を探索する。また社会心理学の歴史的な歩みを辿り、現代の社会心理学の特徴について考える。 【キーワード】 社会、他者の存在、社会的動物、心理学的社会心理学、 $B=f(P \cdot E)$	森 津太子 (放送大学准教授)	森 津太子 (放送大学准教授)
2	社会的影響	オルポートの社会心理学の定義にあるように、社会心理学は、他者の存在が個人の思考、感情、および行動にどのような影響を与えるのかを理解し説明しようとする。他者の存在が及ぼす影響は社会的影響と呼ばれ、特に初期の社会心理学において、多くの研究が行われた。同調、傍観者効果などを例に、他者の存在によって、人間はどのような影響を受け、またそれはなぜなのかを概観する。 【キーワード】 社会的影響、同調、規範的影響、情動的影響、傍観者効果	森 津太子 (放送大学准教授)	森 津太子 (放送大学准教授)
3	社会的認知アプローチ	私たちの行動は、社会環境によって大きな影響を受けるが、その影響の受け方や大きさは、社会をどう理解するか依存している。すなわち、「私たちが社会からどのような影響を受けているのか」を知るためには、「私たちが社会をどのように理解しているのか」ということを明らかにする必要がある。これを検討するのが20世紀後半に始まった社会的認知アプローチである。社会的認知アプローチの特徴と可能性について考察する。 【キーワード】 認知、社会的認知、情報処理アプローチ	森 津太子 (放送大学准教授)	森 津太子 (放送大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	対人認知	<p>私たちは日々、多くの他者と交流を重ねている。その際、相手をどのように認識するかは、円滑な社会生活を営んでいく上で極めて重要な問題である。こうした関心から「対人認知」は、社会心理学の重要なトピックとして早くから研究がなされてきた。この回では、対人認知に関する代表的理論を紹介しながら、対人認知研究のこれまでの歩みと、社会的認知研究が対人認知研究にどのような変化をもたらしたかについて考察する。</p> <p>【キーワード】 対人認知、印象形成、中心特性、二過程モデル、ネガティブリティ・バイアス</p>	森 津太子 (放送大学准教授)	森 津太子 (放送大学准教授)
5	ステレオタイプと対人行動	<p>人の印象は対象そのものの特徴のみによっては決定されず、むしろ対象を認知する側の要因によって大きく左右される。なかでも、認知者の既有知識は対人認知に大きな影響を与える要因であり、ステレオタイプと呼ばれる特定のカテゴリー集団に対する知識は、対人認知を方向づける働きをする。既有知識はまた、他者を認知する際の一種の期待として働き、対人行動に影響する。これらを踏まえ、ステレオタイプと対人行動について考える。</p> <p>【キーワード】 既有知識、ステレオタイプ、暗黙の性格理論、確証バイアス、自己成就的予言</p>	森 津太子 (放送大学准教授)	森 津太子 (放送大学准教授)
6	態度と行動	<p>態度は、社会心理学において古くから重要な概念と考えられ、多くの研究が行われてきた。態度を知ることで、人間の行動を予測したり、制御したりすることができると考えられ、そこでは早くから“認知”の重要性も指摘されてきた。近年、情報処理アプローチが導入されることによって、態度研究にも新たな展開が見られている。新旧の態度研究を概観する。</p> <p>【キーワード】 態度の3要素、認知的斉合性理論、精緻化見込みモデル、態度変容、説得</p>	森 津太子 (放送大学准教授)	森 津太子 (放送大学准教授)
7	社会的推論	<p>社会的推論とは、他者や自分、そしてそれを含まさまざまな社会的事象に関して私たちが行う推論の総称である。すでに取り上げた対人認知も、他者の内面にある感情や意図、パーソナリティ特性などを推測するという意味では、社会的推論の一部といえる。この回では原因帰属にまつわる問題を中心に概説し、私たちがいかにして原因を推論するのか、またその推論が間違っているとき、何が起きるのか、などについて考えていく。</p> <p>【キーワード】 原因帰属、基本的な帰属のエラー、行為者－観察者バイアス、責任帰属、被害者非難、誤帰属</p>	森 津太子 (放送大学准教授)	森 津太子 (放送大学准教授)
8	自己	<p>「自己」は社会心理学において、重要なトピックである。それは、私たちは、自己とフィルターを通して社会環境を見ているからである。すなわち、私たちが社会をどのように認識するかは、認知の主体である自己がどのように構成され、またどのような動機を持っているかに依存している。この回では、自己概念と自己評価という、自己の2つの側面を着目しながら、自己の問題を考えていく。</p> <p>【キーワード】 自己概念、自尊感情、自己スキーマ、社会的比較、自己高揚動機、ナイーブ・リアリズム</p>	森 津太子 (放送大学准教授)	森 津太子 (放送大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	無意識と自動性	<p>21世紀最大の課題は意識の解明と言われている。意識は何のためにあるのか、意識がなければ私たちが生きていくことはできないのか。このような難題に、現在、哲学から物理学まであらゆる学問領域が一斉に取り組んでいる。社会心理学も例外ではなく、20世紀終盤から飛躍的に発展した自動性研究や潜在的認知研究は、人間の無意識的な心理過程の存在を浮き彫りにすることで、意識と無意識の役割について私たちがこれまで抱いてきた考えの見直しを迫っている。自動性研究と潜在的認知研究を概観しながら、無意識的な心理過程の社会行動への関与を考える。</p> <p><b>【キーワード】</b> 自動性、潜在的認知、潜在連合テスト、自己制御、自由意志、二過程モデル</p>	森 津太子 (放送大学准教授)	森 津太子 (放送大学准教授)
10	感情と認知	<p>感情は長らく認知と対立し、妨害するものとしてとらえられてきたが、近年では、むしろ感情が認知とどのように相互作用するかに焦点を当てた研究が増えてきている。また感情は、無益なものや有害なものではなく、むしろ人間にさまざまなシグナルを送り、生存を高める適応的価値を持つものだという考え方も主流になってきている。この回では、感情の生起に関する主要な理論と、感情が認知との関係性において、どのような働きをし、どのような適応的価値を持つかを考察する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 情動二要因理論、気分一致効果、感情ネットワーク・モデル、認知的チューニング仮説、感情の適応的価値</p>	森 津太子 (放送大学准教授)	森 津太子 (放送大学准教授)
11	行動経済学と社会心理学	<p>第11回から第13回までは、社会心理学と関連が深い学問分野や学際的研究が進んでいる学問分野について紹介をしていく。今回、紹介するのは、「行動経済学」である。伝統的な経済学では、人間は自己利益を最大化するために常に合理的な選択をする存在として描かれてきたが、最近になって、それは現実の人間の姿を反映しておらず、そのような人間像では、人間の経済行動を正しく理解できないと指摘されるようになってきた。こうした従来の経済学への反省をもとにつくられたのが、行動経済学という学問分野であり、そこには社会心理学や認知心理学の知見が大いに取り入れられている。ここでは、特に社会心理学と関連が深い知見を中心に紹介していく。</p> <p><b>【キーワード】</b> 行動経済学、ヒューリスティック、アンカリング効果、損失回避、プロスペクト理論、フレーミング効果</p>	森 津太子 (放送大学准教授)	森 津太子 (放送大学准教授)
12	脳神経科学と社会心理学	<p>近年の脳神経科学の発展には目を見張るものがあるが、中でもfMRIを代表とする脳機能イメージング技術の開発により、かつての脳神経科学では検討することができなかった複雑で高次な心の働きが、研究の俎上に上げられるようになってきている。ここでは、脳神経科学と社会心理学とのコラボレーションによって、明らかになってきた知見を概観しながら、脳神経科学が社会心理学にもたらすものを考察する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 社会認知神経科学、脳機能イメージング、内側前頭前皮質(MPFC)、社会的排除、デフォルト・モード・ネットワーク</p>	森 津太子 (放送大学准教授)	森 津太子 (放送大学准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
13	進化心理学と社会心理学	<p>今回は、近年、社会心理学の研究に積極的に取り入れられるようになった進化心理学的な視点を紹介する。進化論では生物の身体的特徴が進化的適応の産物だと考えるが、進化心理学では人間の心の働きもまた進化の産物と考える。進化心理学的な考え方が歓迎されるのは、それが従来の知見に新たな光をあててくれることに加え、「適応」という概念によって、細分化された社会心理学の知見が統合的に理解されることが期待されるためである。ここでは、進化心理学的な考え方はどのようなものであるか、またそれが導入されることは、社会心理学にどのような変化をもたらすのかを見ていく。</p> <p><b>【キーワード】</b> 進化心理学、究極要因と至近要因、社会脳、適応的合理性、ソシオメータ理論、互惠的利他主義</p>	森 津太子 (放送大学准教授)	森 津太子 (放送大学准教授)
14	文化の影響	<p>社会心理学に限らず、心理学は、人間の心の働きは、国、文化によらず、普遍的だと考えてきたが、近年では、かなり本質的な部分で、東洋人と西洋人の心の働きは異なるのではないかという意見が出てきている。このような主張を支える知見を紹介しながら、文化と心の働きとの相互作用について考える。</p> <p><b>【キーワード】</b> 心の普遍性、分析的思考と包括的思考、相互独立的自己観と相互協調的自己観、文化心理学</p>	森 津太子 (放送大学准教授)	森 津太子 (放送大学准教授)
15	現代社会心理学の潮流	<p>全15回を通じて、数多くの社会心理学の研究を紹介した。今回は、それらを振り返り、現代の社会心理学の特徴を概観するとともに、社会心理学が提供する知とは何かを考える。</p> <p><b>【キーワード】</b> 実践知、人間観構築の基盤となる知、人間は社会的動物である</p>	森 津太子 (放送大学准教授)	森 津太子 (放送大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8920630	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名（メディア） ＝ 教育心理学特論 （'12）＝（R）

〔主任講師（現職名）：三宅芳雄（放送大学教授）〕  
 〔主任講師（現職名）：〕  
 【本学担当専任教員：】

### 講義概要

教育心理学研究の中心的な課題は学習の心理過程を解明し、よりよい教育の実現に資することである。この科目では学習過程の深い理解に基づいて、自ら教授学習の研究を行うための実力を養う。特に、学習を広く文化、社会の中で捉え、意識的、無意識的な認知過程が引き起こすさまざまな相互作用の解明を基軸にして、教育心理学の研究が現実社会の中で起きている学習に関わる諸問題の解決にどのように寄与するのかを取り上げる。例えば、学習の困難が協調的な学習活動でどのように乗り越えられるかなど、実際の問題の解決にどのように学習研究の知見が生かされるのかを学んでいく。

### 授業の目標

学習過程の解明に関するこれまでの研究成果を学ぶことで、現実生活の中での複雑な学習の実態を把握し、適切な教育に繋げる力を養う。また、学習過程の解明とそれに基づく教育の研究を学ぶことで、教育心理学の研究を自ら構築し遂行するための基礎を身につける。

### 履修上の留意点

心理学、教育学の素養があることが講義を効果的に履修する上で役に立つが、特定の予備知識を前提としない。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	学習と認知過程	教育心理学研究の中心的な課題は学習の過程を解明し、よりよい教育の実現に資することである。第一回目の講義では、学習過程を認知過程として捉える際の中心的な概念である表象の概念を取り上げ、認知過程を捉える理論的な枠組みで理解するための準備をする。特に、イメージや音声表象などの表象が認知過程にどのように関わるのかを現実の学習事例で検討する。 【キーワード】 認知過程、表象	三宅芳雄 放送大学教授	三宅芳雄 放送大学教授 三宅なほみ 東京大学教授
2	表象と認知過程	学習の諸問題を検討するための基礎として、人の活動を実現している認知過程をどのように捉えて行けばよいのかを論じる。特に、表象の概念を中心にして、多様な認知過程がどのように構成されていくのかを明らかにするための基本的な枠組みの準備をする。 【キーワード】 認知過程、表象、活動	三宅芳雄 放送大学教授	三宅芳雄 放送大学教授 三宅なほみ 東京大学教授
3	問題解決	学習は問題解決の積み上げの上に成立していく。ここでは、問題解決の事例を取り上げ、その認知過程を発話記録を基に分析し、学習の過程を明らかにするために、問題解決の過程を認知過程としてどのように捉えて行くのかを検討する。 【キーワード】 問題解決、認知過程	三宅芳雄 放送大学教授	三宅芳雄 放送大学教授 三宅なほみ 東京大学教授

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	理解	<p>理解とはどのような認知過程なのか、特に学習という活動の中で理解がどのような認知過程として成立しているのか、理解の事例の検討を中心に提起、学習と理解の関わりの実態を捉え、多様な学習の過程がどのようにして成立するのかを検討していく。</p> <p>【キーワード】 理解</p>	三宅芳雄 放送大学教授	三宅芳雄 放送大学教授 三宅なほみ 東京大学教授
5	長年に渡る学習	<p>熟達者の高い能力の特徴を論じ、それがどのような長年に渡る日々の学習の積み重ねによって実現するのかをとりあげる。</p> <p>【キーワード】</p>	三宅芳雄 放送大学教授	三宅芳雄 放送大学教授 三宅なほみ 東京大学教授
6	発達の過程	<p>最近の発達研究では、小さな子どもの持つ「本質的な」世界の見方、わかり方についての知見、子どもが経験を積んで「できること」を先行させ、そこから「説明できること(わかっていることの表出)」を作り出す仕組みなど、示唆に富む研究成果が生まれつつある。その一部を紹介する。</p> <p>【キーワード】 本質主義、表象書き換え理論</p>	三宅なほみ 東京大学教授	三宅芳雄 放送大学教授 三宅なほみ 東京大学教授
7	概念の発達	<p>子どもは小さい頃から、周りの世界に働きかけながら素朴理論を作り上げる。素朴理論とはどのようなものか、また素朴理論がどのようにして抽象的な科学的理論に変化するのかを解説する。</p> <p>【キーワード】 生物学素朴理論、天体の理解に関する概念変化、概念発達の枠組み</p>	三宅なほみ 東京大学教授	三宅なほみ 東京大学教授 三宅芳雄 放送大学教授
8	日常的な概念発達	<p>人は、日常経験の中から、経験則に基づくだけではない「科学的」概念変化のための考え方を抽象する。その様子を、動物の飼育を通して生物概念を発達させる例、日常計算における有能性の限界と可能性について解説する。</p> <p>【キーワード】 日常経験による生物概念の発達、日常計算、ストリート・マス</p>	三宅なほみ 東京大学教授	三宅なほみ 東京大学教授 三宅芳雄 放送大学教授
9	文化と制約	<p>文化によって思考の仕方は違うのだろうか？ 弧の問いに答えようとしたさまざまな研究を振り返り、文化に埋め込まれた思考の実態を探ることの難しさを浮き彫りにする。</p> <p>【キーワード】</p>	三宅なほみ 東京大学教授	三宅なほみ 東京大学教授 三宅芳雄 放送大学教授
10	状況と学習	<p>人は、置かれた状況の判断によって、できることが異なる。この事実を、主に計算能力の状況依存性を扱った研究によって解説し、状況をうまく使うことによって学習がうまく進むことを示す。</p> <p>【キーワード】</p>	三宅なほみ 東京大学教授	三宅なほみ 東京大学教授 三宅芳雄 放送大学教授

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	学習への動機付け	学習がうまく進むための要因として、知的好奇心、内発的動機付けを取り上げ、外発的動機付けの働きと対比した上で、内発的動機付けが社会的な起源を持つことを示す。  【キーワード】	三宅なほみ 東京大学教授	三宅なほみ 東京大学教授 三宅芳雄 放送大学教授
12	協調的な学習	文化の中での学習過程の形として不可欠な協調学習を取り上げ、その背後にある複雑な認知過程の分析を通して、協調学習過程がどのように学習を促進するのか、特に学習の多様性から検討する。  【キーワード】	三宅なほみ 東京大学教授	三宅なほみ 東京大学教授
13	評価	学習評価を、学習者に内在する認知過程をうまく観察し、そこで観察されたものを解釈する過程と捉える見方を紹介する。このような視点に立つと、学習評価が本質的に形成的な特徴を持っていることが明らかになる。  【キーワード】	三宅なほみ 東京大学教授	三宅なほみ 東京大学教授 三宅芳雄 放送大学教授
14	学校と社会の連携－ITの活用	学習者中心型の学びでは、話し合いなど学習経過が外化されやすい。協調的な学習を促進するためにこのような学習経過の記録を取り、活用する方法を解説する。このような学習支援のためには、ITが活用される。このような基盤の上で教室で起きる学習成果は、日常生活や学校を卒業してからの生活に役立つことが望ましい。そのためのITを使った新しい学習方法とその成果を紹介する。てるためのにITが使われる。  【キーワード】  学校の情報化、認知過程の記録と分析	三宅なほみ 東京大学教授	三宅なほみ 東京大学教授 三宅芳雄 放送大学教授
15	教育心理学の研究手法－21世紀の教育へ向けて	最近の学習研究の特徴として、デザイン研究を紹介する。学習プロセスの分析を重視する具体的な取り組み方についても解説し、教育実践研究を論文としてまとめるための留意点を解説する。 OECD PISAなど国際的な学力比較では、21世紀型スキルの活用に向けた教育の必要性が重視される。今回の講義全体を振り返り、学習の認知過程を重視する立場から21世紀の教育と教育研究を論じ全体のまとめとする。  【キーワード】  21世紀型スキルを含む新しい学習ゴール	三宅芳雄 放送大学教授 三宅なほみ 東京大学教授	三宅芳雄 放送大学教授 三宅なほみ 東京大学教授

事務局 記載欄	開講 年度	2015年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8950601	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 学校臨床心理学・地域援助特論 ('15) = (TV)

英文名 = [ Special Lectures on Clinical Psychology of School and Community ('15) ]

[主任講師 (現職名) : 倉光 修 (放送大学教授) ]

[主任講師 (現職名) : ]

【本学担当専任教員 : 】

### 講義概要

今日、学校の中に臨床心理学の知識と技能を持ったカウンセラーがいて、心理的問題に苦しむ子どもたちやその保護者、あるいは子どもに関わる教職員、さらには地域の人々に対して、さまざまな地域援助活動を行っていることは、多くの市民によく知られるようになった。この事業は、1995年に、文部省(当時)によって公立中学校に臨床心理士の資格を持つスクールカウンセラーが派遣されて以来、飛躍的に発展し、現在では幼稚園から大学まで一貫したシステムへと広がっている。

臨床心理士は、スクールカウンセリング以外にもさまざまな地域援助を行っているが、ここではそれらについても触れ、こうした心理臨床活動の現状と課題について、広く実際に即した形で学ぶ。

### 授業の目標

スクールカウンセリングなど学校や地域における心理臨床活動の実際について学ぶ。

### 履修上の留意点

この科目では、プレイセラピーやカウンセリングの実際を紹介するために模擬事例を提示する。しかし、これらの事例は数多くの臨床経験に基づいて創作されたものであり、テキストや映像からクライアント(子どもや保護者)を特定しようと憶測しないでいただきたい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	学校臨床心理学・地域援助の照射領域	学校臨床心理学・地域援助論でカバーする領域全体を俯瞰して論じる。  【キーワード】 臨床心理士、臨床心理的地域援助、心理的問題	倉光 修 (放送大学教授)	倉光 修 (放送大学教授) ゲスト:白間 竜一郎(文部 科学省スポー ツ・青少年局 スポーツ・青 少年企画課 長)
2	小学校でのスクール カウンセリング	小学校でのスクールカウンセラーの活動を、紙芝居によるストレスマネジメント教育、動作法などを含めて紹介し、その特徴を論じる。  【キーワード】 児童理解、予防啓発、ストレスマネジメント教育、保護者支援、教職員との協働	坂上 頼子 (東京都ス クールカウ ンセラー、保育 カウンセラー)	倉光 修 (放送大学教授) 坂上 頼子 (東京都ス クールカウ ンセラー、保育 カウンセラー)
3	中学校でのスクール カウンセリング I 不 登校	中学校でのスクールカウンセラーの活動を、不登校を呈している子どもとのやりとり(模擬事例)を通して紹介し、その特徴を論じる。  【キーワード】 不登校、連携、ケース会議	倉光 修 (放送大学教授)	倉光 修 (放送大学教授) ゲスト:良原 恵子(中学校 スクールカウ ンセラー)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	中学校でのスクールカウンセリングⅡ いじめ・非行	中学校でのスクールカウンセラーの活動を、いじめや非行を呈している子どもや周辺の子どものやりとり(模擬事例)を通して紹介し、その特徴を論じる。  【キーワード】 いじめ、非行、連携、ケース会議	倉光 修 (放送大学教授)	倉光 修 (放送大学教授) ゲスト:良原 恵子(中学校 スクールカウ ンセラー)
5	高等学校でのスクールカウンセリング	高校でのスクールカウンセラーの活動を、自傷行為を呈している子どもとのやりとり(模擬事例)を通して紹介し、その特徴を論じる。  【キーワード】 自傷行為、リストカット、依存症	倉光 修 (放送大学教授)	倉光 修 (放送大学教授) ゲスト:近森 聡(高校ス クールカウ ンセラー、関西 大学学生相 談・支援セン ターコーディネ ーター)
6	大学での学生相談Ⅰ 不登校・ひきこもり	大学で学生相談を行っているカウンセラーの活動を、不登校・ひきこもりを呈している学生とのやりとり(模擬事例)を通して紹介し、その特徴を論じる。  【キーワード】 不登校、ひきこもり、危機介入、箱庭療法	中島 正雄 (一橋大学専 任講師)	中島 正雄 (一橋大学専 任講師) 倉光 修 (放送大学教 授)
7	大学での学生相談Ⅱ 自閉症スペクトラム障 害とアカデミックハラ スメント	大学で学生相談を行っているカウンセラーの活動を、自閉症スペクトラム障害をかかえる学生やハラスメントを受けようになった学生とのやりとり(模擬事例)を通して紹介し、その特徴を論じる。  【キーワード】 自閉症スペクトラム障害、アカデミックハラスメント、セクシュアルハラスメント	中島 正雄 (一橋大学専 任講師)	中島 正雄 (一橋大学専 任講師) 倉光 修 (放送大学教 授)
8	保護者に対する面接	スクールカウンセラーが保護者と面接する際には、児童生徒のこころの問題に関する親としての対応を話し合う「コンサルテーション」としての性質を持つ場合が多い。一方で、保護者が子育てや家族関係の中で抱く悩みに焦点をあてた「カウンセリング」としての色彩を帯びることも少なくない。こうした二面性を持つ保護者との面接について取り上げる。  【キーワード】 保護者支援、親役割、育児不安、原家族	香川 克 (京都文教大 学教授)	香川 克 (京都文教大 学教授)
9	教職員に対するコン サルテーション	スクールカウンセラーは、クラス担任・養護教諭・スクールソーシャルワーカー・特別支援教育担当教諭・管理職など、さまざまな教職員とのコンサルテーションをおこなっている。ここでは、そのようなコンサルテーションの際に留意する点について論じる。  【キーワード】 校務分掌、校内会議、協働関係、コンサルテーション	香川 克 (京都文教大 学教授)	香川 克 (京都文教大 学教授)
10	海外のスクールカウ ンセリング	スクールカウンセリングや大学の学生相談は、諸外国でもさまざまな形でなされている。ここでは、それらを紹介しながら、我が国のスクールカウンセリングのあり方について考える。  【キーワード】 国際比較、学校コミュニティ、リーダーシップ	伊藤 亜矢子 (お茶の水女 子大学准教 授)	伊藤 亜矢子 (お茶の水女 子大学准教 授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	コミュニティ心理学 I 方法	近年、伝統的な個人心理療法からコミュニティで活動する臨床心理士の活動が活発化してきた。コミュニティ心理学では、危機介入、コンサルテーション、コラボレーションといった方法を重視する。本章ではそれらについて理解を深める。  【キーワード】 危機介入、コンサルテーション、コラボレーション	伊藤 亜矢子 (お茶の水女子大学准教授)	伊藤 亜矢子 (お茶の水女子大学准教授)
12	コミュニティ心理学 II 基本概念と歴史	近年、伝統的な個人心理療法からコミュニティで活動する臨床心理士の活動が活発化してきた。コミュニティ心理学では、環境の持つ影響力を重視し、組織的な視点を持つことや、コミュニティ在住の非専門家との協働、予防成長促進を重視する。本章では、それらを理解するための基本概念やそれらの背景にあるコミュニティ心理学の歴史について扱う。  【キーワード】 生態学的理解、非専門家、プログラム評価	伊藤 亜矢子 (お茶の水女子大学准教授)	伊藤 亜矢子 (お茶の水女子大学准教授)
13	緊急支援	災害や事件などが起こったとき、臨床心理士の行う緊急支援は、近年その有用性が高く評価されるようになってきた。ここでは、東日本大震災や阪神大震災などでの心理臨床活動を踏まえて臨床心理士の地域援助について論じる。  【キーワード】 サイコロジカル・ファーストエイド、トラウマ・ストレスマネジメント、心理アセスメント、喪の過程	佐々木 誠 (岩手大学特任准教授)	佐々木 誠 (岩手大学特任准教授) 倉光 修 (放送大学教授) ゲスト: 三浦光子(いわてこどもケアセンター主任臨床心理士)
14	子育て支援・保育支援のコミュニティアプローチ	子育て支援・保育カウンセリングにおける地域援助  【キーワード】 子育て支援、保育カウンセリング、地域援助、コラボレーション	坂上 頼子 (東京都スクールカウンセラー、保育カウンセラー)	坂上 頼子 (東京都スクールカウンセラー、保育カウンセラー) 倉光 修 (放送大学教授)
15	心理教育	地域援助に重要な予防という視点から学校における心理教育・予防教育について論じる。  【キーワード】 心理教育、予防教育、一次予防	伊藤 亜矢子 (お茶の水女子大学准教授)	伊藤 亜矢子 (お茶の水女子大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2015年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8950598	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名（メディア） ＝ 心理・教育統計法特論 （'15）＝（R）

英文名 ＝ [ Advanced Statistics in Psychology and Education ('15) ]

〔主任講師（現職名）：小野寺 孝義（広島国際大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：小川 俊樹（放送大学教授）】

### 講義概要

臨床心理学の代表的な研究法は事例研究法であるが、しかしながら、実験法や観察法、調査法などの一般心理学の研究法も臨床心理学の研究法としては無視できない。とりわけ、事例研究法の補完的方法として、また臨床例のモデルとしてのアナログ研究では、調査法が多く採用されている。本講では、教育や心理臨床の場でユーザーとして知っておくべき心理統計法の基本とともに、統計処理の実際について概説する。また、新たな心理統計学の考え方や手法についても紹介していく。

### 授業の目標

基礎的な心理統計概念の理解と、それに基づいた統計処理を行うことができるようになることを目標とする。その際に、漠然とした概念として手法を理解するだけでなく、数学的な基礎に基づいた理解もできるようにする。なお、心理統計法は、本プログラムの目指している、臨床心理士受験資格の選択必修科目となっている。

### 履修上の留意点

特になし。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	臨床心理学と統計学	臨床心理学研究を行うために、なぜ統計学の知識が必要なのか、統計学を使いこなすことで何が可能になるのかを理解するために、臨床心理学研究の歴史や課題に加え、数量的なデータを用いた心理学研究の基本的な考え方を解説する。 【キーワード】 臨床心理学的研究、心理学におけるエビデンスに基づく実践、量的研究と質的研究、心理学と数量化、仮説生成と仮説検証、統計学	岩佐 和典 (就実大学講師)	岩佐 和典 (就実大学講師)
2	数学的基礎	統計学が分かった気分になるから、本当に分かったへの橋渡しとなる数学的基礎を解説する。Σ記号や指数、対数、行列など数学に馴染みがなかった人も、過去に学んでも忘れてしまった人も、ここでやり直しができる内容となる。 【キーワード】 Σ, 指数, 対数, 行列, 微分・積分	小野寺 孝義 (広島国際大学教授)	小野寺 孝義 (広島国際大学教授)
3	記述統計	記述統計とは、取得したデータの特徴を、平均値や標準偏差等を用いて、数量的に要約する方法である。ここでは、数量的な臨床心理学研究で取り扱われるデータの性質と記述の方法、さらにデータを得るために用いられる心理測定法の基礎について学ぶ。 【キーワード】 母集団と標本、尺度水準、記述統計量、代表値、標準偏差、心理測定法、信頼性、妥当性	岩佐 和典 (就実大学講師)	岩佐 和典 (就実大学講師)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	推測統計	推測統計とは、標本データから母集団について推定する方法である。ここでは推測統計の基礎に加え、統計的仮説検定のロジックや方法論について、特にt検定を題材として解説していく。 【キーワード】 母集団推定, 信頼区間, 標準化, 正規分布, 統計的仮説検定, 第1種の過誤と第2種の過誤, t検定	岩佐 和典 (就実大学講師)	岩佐 和典 (就実大学講師)
5	分散分析	分散分析の基本的な考え方と使い方を説明する。まず実験・研究計画の種類や要因・水準について説明し、一要因の分散分析で計算の仕組みと結果の見方を学ぶ。さらに、二要因の分散分析と交互作用についても理解を深める。 【キーワード】 分散分析 (ANOVA), 要因, 水準, 被験者間計画, 被験者内計画, 多重比較, 交互作用	櫻村 正美 (日本医科大学専任講師)	櫻村 正美 (日本医科大学専任講師)
6	相関・回帰分析	散布図から相関係数, さらに単回帰分析までを解説する。回帰直線によるモデルの適合度指標も学ぶ。回帰分析の解釈の注意点についても述べる。 【キーワード】 散布図, 共分散, 偏相関, 最小二乗法, 回帰係数, 適合度, 当てはまりの悪さ	小野寺 孝義 (広島国際大学教授)	小野寺 孝義 (広島国際大学教授)
7	重回帰分析	複数の独立変数がある場合の回帰分析について解説する。変数選択の方法や外れ値の影響についても述べる。 【キーワード】 重相関係数, 変数選択, 決定指数, 標準偏回帰係数, 多重共線性	小野寺 孝義 (広島国際大学教授)	小野寺 孝義 (広島国際大学教授)
8	多変量分散分析	多変量分散分析 (MANOVA) とは, 同じ独立変数に対して従属変数が複数ある場合, 複数の従属変数を同時に分析し, グループ間の平均値差を調べ, 主効果・相互作用を探る分析手法である。ここでは, 研究事例を基に多変量分散分析の基本的な考え方, 使い方について解説する。 【キーワード】 多変量分散分析 (MANOVA), 多変量正規性, 分散共行列の等質性, 第1種の過誤の増大, 反復測定データ	櫻村 正美 (日本医科大学専任講師)	櫻村 正美 (日本医科大学専任講師)
9	主成分分析と因子分析	主成分分析とは多くの変数を縮約し, 新しい合成変数を作り出すための手法であり, 因子分析は複数の観測された変数の背後にある共通の要因を探る手法である。心理学研究では頻繁に使用される多変量解析の一つであり, 例えば心理尺度作成の手法としても使用される。ここでは, 各分析の研究例を紹介した上でその基本的な考え方, 分析の手順, 各分析の差異について解説する。 【キーワード】 合成変数, 主成分, 主成分負荷量, 固有ベクトル, 主成分得点, 潜在変数, 共通/独自因子, 因子負荷量, 単純構造, 因子得点	櫻村 正美 (日本医科大学専任講師)	櫻村 正美 (日本医科大学専任講師)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	共分散構造分析	パス解析からはじめて共分散構造分析の考え方について述べる。分析自体は専用ソフトで簡単にできるが、プログラムがどのようなことを行っているかを理解できる内容としたい。また、実施上の注意点についても述べる。  【キーワード】 パス解析, 因果関係, 潜在変数, 適合度指標	小野寺 孝義 (広島国際大学教授)	小野寺 孝義 (広島国際大学教授)
11	カテゴリカル・データの分析	心理学では、あるカテゴリーにあてはまる人数など、名義尺度として取り扱わなければならないデータも多い。そのようなデータの取り扱いや検定について取り上げる。  【キーワード】 順序尺度, クロス表, カイ二乗検定, 対数線形モデル	大久保 街亜 (専修大学教授)	大久保 街亜 (専修大学教授)
12	ノンパラメトリック検定	臨床心理学研究のデータを常に特定の分布に当てはめられるとは限らない。ノンパラメトリック検定とは、特定の母集団分布を前提としない、汎用的な検定方法の総称である。ここでは、パラメトリックとノンパラメトリックの区別を学んだ後、個々の検定方法の詳細に併せて、どのような時に、どのような検定を用いれば良いか解説する。  【キーワード】 ノンパラメトリック, Mann-WhitneyのU検定, メディアン検定, Wilcoxonの符号付順位和検定, Kruskal-WallisのH検定, Friedman検定	岩佐 和典 (就実大学講師)	岩佐 和典 (就実大学講師)
13	効果量	実験結果や調査結果を吟味する際、差や効果の有無だけでなく、それらの大きさ、すなわち効果量を評価することはきわめて重要である。近年になって特に重視されるようになってきた統計解析における効果量の算出とその評価方法について学習する。  【キーワード】 心理統計の新しい流れ, 効果量, d族の効果量, r族の効果量, 信頼区間	大久保 街亜 (専修大学教授)	大久保 街亜 (専修大学教授)
14	検定力	検定力とは差や効果があるときに、正しく「差がある」、「効果がある」と判断できる確率である。実験や調査の計画や結果の評価を正しく行うために必要な検定力に関する知識を学習する。  【キーワード】 検定力, 事前の検定力, 事後の検定力, 信頼区間	大久保 街亜 (専修大学教授)	大久保 街亜 (専修大学教授)
15	メタ分析	心理学の研究は数多く行われる。メタ分析は、同一のテーマに関して行われた複数の研究結果を系統的に評価する手法である。この講義ではその基本的な方法論と統計的手続きについて学習する。  【キーワード】 文献検索, コーディング, メタ分析の効果量	大久保 街亜 (専修大学教授)	大久保 街亜 (専修大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2015年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8920672	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名（メディア）＝ 発達心理学特論 （'15）＝（TV）

英名＝ [ Advanced Studies in Developmental Psychology ('15) ]

〔主任講師（現職名）：荻野 美佐子（上智大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：〕

【本学担当専任教員：小野 けい子（放送大学教授）】

### 講義概要

社会が複雑化し、さまざまな心理的支援を必要とする人々がいる。こうした専門職として臨床心理士が求められている。これら専門職としてだけでなく、私たち自身が自らの生をどのように捉え、意味づけていくのか、そこにどのような社会・文化の影響を受けているのかを捉える理解の枠組みを持つ必要がある。人は、誕生から死に至るその生涯発達の過程で、どのように変化するのか、時間軸と、自己と他者の関係性の軸を、縦糸と横糸としてみていく。発達のとらえ方、重要領域での生涯発達、各時期の発達の特徴と支援について概説する。

### 授業の目標

人がそれぞれの文化・社会の中でどのように変化していくのかについて、発達の初期から生涯にわたる過程として理解することを目標とする。発達心理学の知見に基づき、人という存在に対する多面的な理解を深め、発達のそれぞれの時期における支援の専門性の基礎づくりをすることを目的とする。

### 履修上の留意点

本講義は、人間発達科学プログラムと臨床心理学プログラムの共通開設科目であり、日本臨床心理士資格認定協会の認定する選択必修科目群B群のうちの1科目である。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	人の発達とは	人は、その誕生から死によって生涯を閉じるまで、どのように自らの生を作っていくのだろうか。また、そこにはどのような要因が影響しているのだろうか。発達を「生涯にわたる時間と空間の中での変化」としてとらえる枠組みを概観し、また、発達研究の方法についても学ぶ。  【キーワード】 生涯発達、獲得と喪失、生態学的環境、発達の個人差、遺伝と環境、発達の研究法、発達障害、ジェンダー	荻野 美佐子 (上智大学教授)	荻野 美佐子 (上智大学教授)
2	環境の中での人の発達	人は置かれた環境で、環境との相互作用の中で発達していく。特に発達初期の環境がその後の人の発達にどのような影響をもたらすのかについて検討するとともに、今日の多文化・多言語社会における子どもの発達について考える。  【キーワード】 初期経験、環境剥奪、多文化、多言語環境、社会的相互作用、発達の最近接領域	荻野 美佐子 (上智大学教授)	荻野 美佐子 (上智大学教授)
3	記憶と認知の生涯発達	知的な能力の発達、外界をとらえる認知の発達について、生涯発達の観点からとらえるとともに、人の知的な営みの基礎を成す記憶について学ぶ。また、こうした知的な営みと深くかかわる活動として音楽や描画の発達についても検討する。  【キーワード】 ワーキングメモリー、エピソード記憶、知能、多重知能理論、認知発達、音楽発達、描画発達	荻野 美佐子 (上智大学教授)	荻野 美佐子 (上智大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	情動の生涯発達	人の精神生活の根幹を成す情動の発達を、生涯発達の観点からとらえる。生得的と考えられる基本情動や情動と認知のかかわり、社会・文化の中で獲得していくと考えられるディレクティブルールについて整理するとともに、いくつかの重要な感情について学ぶ。 【キーワード】 基本情動、情動と認知、情動表出、情動制御、ディスプレイルール、悲哀、嫉妬、怒り	平林 秀美 (東京女子大学准教授)	平林 秀美 (東京女子大学准教授)
5	愛着の生涯発達	発達的基础としての愛着に関して、ボウルビイの愛着理論、愛着の形成過程、愛着の個人差について述べるとともに、愛着の個人差から見た親子関係・仲間関係を概観し、生涯発達における愛着について、またソーシャルネットワークの役割についても学ぶ。 【キーワード】 愛着、親子関係、ストレンジシチュエーション、アダルトアタッチメントインタビュー、虐待	小野 けい子 (放送大学教授)	小野 けい子 (放送大学教授)
6	自己の生涯発達	人が自分自身の存在をどのように捉え、理解していくのかを、生涯発達の観点から捉える。時間の中で自己を位置づけ、他者との関係の中で自分をとらえつつ、自己のアイデンティティをどのように形成していくのかについて考える。 【キーワード】 自己意識、時間的拡張自己、自己の価値づけ、自己理解、アイデンティティ	都筑 学 (中央大学教授)	都筑 学 (中央大学教授)
7	コミュニケーションの生涯発達	ことばを使い、他者と関わっていくことは、私たちにとって極めて重要な課題である。コミュニケーションの過程は、言語のみでなく、非言語的なものも含まれる。これらの総体として、誰かに何かを伝えることがコミュニケーションの営みであり、これがどのように獲得されるのか、また、生涯にわたってどのように発達するのかを見ていく。 【キーワード】 言語発達、前言語的コミュニケーション、内言、ノンバーバルコミュニケーション、ナラティブ	荻野 美佐子 (上智大学教授)	荻野 美佐子 (上智大学教授)
8	対人関係の生涯発達	人とかかわりの中で、他者へのポジティブな感情、ネガティブな感情を抱き、他者との関係を調整することが必要になる。対人関係の生涯発達と、人との葛藤及び人へのサポートについて学ぶ。 【キーワード】 仲間関係、共感性、愛他行動、ソーシャルサポート、社会的引きこもり	平林 秀美 (東京女子大学准教授)	平林 秀美 (東京女子大学准教授)
9	道徳性の生涯発達	社会および他者との関係を調整するためのルールについてどのように発達させるのか、その基盤となる善悪の判断と文化による制約などについて学ぶ。また、道徳からの逸脱行動についても学ぶ。 【キーワード】 道徳判断、正義の道徳、ケアの道徳、社会的ルール、公正概念、反社会的行動	平林 秀美 (東京女子大学准教授)	平林 秀美 (東京女子大学准教授)
10	乳児期のころ	医療機器の発達で、母親の胎内にいる胎児の発達の姿が徐々に明らかになってきた。また、生まれたときには未熟で何もできないように見える乳児が、親を身近に引きつけ、養育を引き出す生得的な能力や、環境の中で生きるための様々な能力をもつ、有能な存在であることがわかってきている。胎児期も含め乳児期のころの発達の特徴を見ていく。 【キーワード】 胎児、乳児、刈り込み、生理的早産、三項関係、イメージの誕生	中澤 潤 (千葉大学教授)	中澤 潤 (千葉大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	幼児期のころ	<p>幼児期には、歩行の開始に引き続く多様な運動機能の向上、他者とのコミュニケーションを可能にする言語の急激な獲得が見られる。また、認知機能においては、認知革命ともいわれる大きな変革がある。さらにこれら諸側面の発達を基礎に、自己が意識され、依存から自立への歩みが展開する時期でもある。認知的な発達と幼児期の主要な活動である遊びを中心に見ていく。</p> <p>【キーワード】 心の理論、ごっこ遊び、ふり遊び、自己抑制、第二次認知革命</p>	中澤 潤 (千葉大学教授)	中澤 潤 (千葉大学教授)
12	児童期のころ	<p>児童期になると子どもの生活世界が広がるとともに、認知的にも高次でより抽象的な処理が可能となってくる。学校の中で必要とされる認知的発達や社会的発達を整理し、学業や仲間関係の不適應にも直面するようになるこの時期の特徴を考える。</p> <p>【キーワード】 具体的操作、形式的操作、9歳の壁、メタ認知、ギャングエイジ、社会的情報処理、内在化・外在化問題行動</p>	中澤 潤 (千葉大学教授)	中澤 潤 (千葉大学教授)
13	青年期のころ	<p>子どもからおとなへの移行期にある思春期・青年期は、人が自分自身を見つめ直し、他者とのあり方や、これからの自分の生き方などの人生の大きな課題に直面する時期でもある。自分自身への問いをこの時期、どのように発し、それへの答えを模索するののかについて検討する。</p> <p>【キーワード】 進路選択、キャリア、アイデンティティ、友人関係、思春期危機</p>	都筑 学 (中央大学教授)	都筑 学 (中央大学教授)
14	成人期のころ	<p>成人期は、次の世代に自分の生を引き継いでいく営みを始める時期である。親としてあるいは人生の先輩として、自己のありようを再度見つめ直す一方で、予期せぬライフイベントにも直面し、ころころが揺れ動く時期でもある。心理的危機を抱えるこの時期の発達について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 親役割、ワーク・ライフ・バランス、中年期危機、転機、アイデンティティ再体制化、世代性(ジェネラティビティ)</p>	都筑 学 (中央大学教授)	都筑 学 (中央大学教授)
15	老年期のころ	<p>平均寿命が長くなり、生涯発達において老年期を持つ意味がとて大切になってきている。どのように老年期を生きていくのかを真剣に考え、それを実践していくことは大きな課題である。人生はいつか必ず終わりを迎える。老年期の過ごし方は、人生という大舞台の幕をいかに閉じるかということである。老年期という一つの時期を私たちがどのように作っていくのか、これからの高齢社会に向けてのヒントを得る。</p> <p>【キーワード】 エイジング、認知症、喪失体験、異世代間交流、生活の質、人生の統合</p>	都筑 学 (中央大学教授)	都筑 学 (中央大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8950520	履修 制限	無	単位 数	4
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名（メディア）＝ 臨床心理学特論 （'11）＝（R）

〔主任講師（現職名）：齋藤 高雅（帝京大学教授、放送大学名誉教授）〕

【本学担当専任教員：小川 俊樹（放送大学教授）】

### 講義概要

臨床心理学特論では心理臨床活動の基礎となるさまざまな考え方や心理臨床において必要な基本的な知識や技法を述べる。心理臨床には多様な領域があるが（たとえば教育臨床や病院臨床、職域臨床、司法臨床など）、それぞれの対象領域による相違はあるものの、こころの専門家として基本的な共通する視点が存在する。このような観点から、臨床心理学的知識や技法が心理臨床活動にどのように生かされるのか、心理臨床行為の特異性は何か、また倫理の重要性について論ずる。

### 授業の目標

本講義では、心理臨床活動の基礎となるさまざまな考え方や心理臨床において必要な基本的な知識を習得することを目標とする。

### 履修上の留意点

日本臨床心理士資格認定協会の第2種指定校となっている関係上、この科目は修士全科生には必修科目である。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	臨床心理学とは	臨床心理学の定義、心理臨床家の実践の場、教育と訓練、臨床活動における倫理の問題、研究などについて論ずる。  【キーワード】 臨床心理学の定義、心理臨床家の実践の場、教育と訓練、倫理、研究	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学 名誉教授)	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学 名誉教授)
2	臨床心理学の歴史	臨床心理学の歩みと精神医学との関係について触れ、臨床心理学が確立した過程について述べる。  【キーワード】 臨床心理学の歴史、精神医学の歴史、異常心理学、精神病理学、臨床心理学の近接領域	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学 名誉教授)	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学 名誉教授)
3	精神疾患1: 統合失調症と気分障害	精神障害の分類について学び、主要な精神障害である統合失調症、気分障害について述べる。  【キーワード】 操作的診断、ICD、DSM、統合失調症、気分障害	石丸 昌彦 (放送大学教授)	石丸 昌彦 (放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	精神疾患2: 神経症と関連事項	いわゆる神経症と関連事項について、概念やその特徴、発症機制、治療について述べる。  【キーワード】 神経症、パニック障害、強迫性障害、転換性障害、解離性障害	石丸 昌彦 (放送大学教授)	石丸 昌彦 (放送大学教授)
5	精神疾患3: ストレス反応と心身症	心理的なストレスによって生ずる適応障害やストレス反応について述べる。また、心身症の概念とメカニズム、摂食障害などについて学ぶ。  【キーワード】 ストレス、適応障害、PTSD、心身症、摂食障害	石丸 昌彦 (放送大学教授)	石丸 昌彦 (放送大学教授)
6	臨床心理学パラダイム	臨床心理学に関わる主要な4つのパラダイム、生物学的、精神分析的、認知・行動学的、人間学的パラダイムについて述べる。さらに、包括的な人間理解のとらえ方として、生物-心理-社会モデルがあるが、それと臨床実践におけるこれらパラダイムと折衷主義、ないしは統合的心理療法の動向について述べる。  【キーワード】 生物学的、精神分析的、認知・行動学的、人間学的パラダイム	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授) ゲスト: 橘 玲子(新潟青陵大学教授)
7	心のはたらき1 無意識の発見	フロイト,S.による無意識の発見、精神分析療法の起源と成立、自由連想、抵抗、解釈、心的外傷体験、夢、象徴などについて述べる。ユング,C.G.の無意識論については、放送授業で大場が担当する。印刷教材と放送授業を別の講師にすることで、多角的・多面的な理解を試みる。  【キーワード】 深層心理学、無意識論、自由連想法、抵抗、転移、解釈、洞察、夢、象徴、抑圧、コンプレックス、失錯行為	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)	大場 登 (放送大学教授)
8	心のはたらき2 自我と無意識の関係	心のはたらきでは、特に自我と無意識との関係が重要になってくる。不安と防衛、自我の防衛機制、症状形成などについて述べる。放送授業は大場が担当する。大場の放送授業では、「自我と無意識の関係」に関して、ユング心理学の視点からの理解を試みる。  【キーワード】 無意識、自我、自我の防衛機制、自我と無意識の関係	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)	大場 登 (放送大学教授)
9	心のはたらき3 イメージと身体	無意識には意識に至るさまざまなチャンネルがある。その中からイメージと身体感覚を取り上げ、心理臨床との関連を述べる。  【キーワード】 ボディイメージ、身、身体言語	佐藤 仁美 (放送大学准教授)	佐藤 仁美 (放送大学准教授) ゲスト: 橘 玲子(新潟青陵大学教授)
10	ライフサイクル論1 ライフサイクルと心理臨床	人生の各時期にはその時期の発達の特徴と発達課題が存在し、各時期に特徴的な臨床心理学的問題が生じる。本章ではライフサイクルに関する代表的理論を紹介すると共に、ライフサイクルと心理臨床について概説する。  【キーワード】 ライフサイクル	小野 けい子 (放送大学教授)	小野 けい子 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	ライフサイクル論2 乳幼児期	乳幼児期の発達的特徴と発達課題、この時期の臨床心理学的問題について論じる。  【キーワード】 基本的信頼感、アタッチメント、エディプス・コンプレックス	小野 けい子 (放送大学教授)	小野 けい子 (放送大学教授)
12	ライフサイクル論3 児童期	児童期はほぼ小学生の時期にあたる。この時期の、特徴的な知的発達、親子関係、友人関係、社会性の変化をとりあげ、それが児童期の子どもに、どのような影響を与えるのかをみていく。  【キーワード】 児童期 小学生	山口 義枝 (日本大学准教授)	山口 義枝 (日本大学准教授)
13	ライフサイクル論4 思春期・青年期	思春期・青年期の臨床心理学的特徴について述べる。  【キーワード】 思春期 青年期 移行期 第二性徴 アイデンティティ	佐藤 仁美 (放送大学准教授)	佐藤 仁美 (放送大学准教授)
14	ライフサイクル論5 成人期	成人期の心身の特徴と、臨床心理学的課題について述べる。  【キーワード】 働き盛り、中年期の危機、個性化、更年期、うつ病、自殺防止	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授) 滝口 俊子 (放送大学名誉教授)	滝口 俊子 (放送大学名誉教授)
15	ライフサイクル論6 高齢期	高齢期の心身の特徴と臨床心理学的課題、旅立つ準備について述べる。  【キーワード】 自我の統合性 対 絶望, ターミナル・ケア, 回想法, 認知症, サクセスフル・エイジング	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授) 滝口 俊子 (放送大学名誉教授)	滝口 俊子 (放送大学名誉教授) ゲスト: 橘 玲子 (新潟青陵大学教授)
16	心理アセスメント1 心理アセスメントとは	心理臨床とアセスメント活動について、アセスメント面接、観察、心理検査について述べる。特にアセスメント面接を中心にその目的、進め方など具体的に概説する。  【キーワード】 アセスメント、アセスメント面接、観察、心理検査	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授) ゲスト: 橘 玲子 (新潟青陵大学教授)
17	心理アセスメント2 心理検査	心理検査によるアセスメントについて述べる。心理検査の基礎と、心理アセスメントの目的、進め方、報告書、フィードバックについて概説する。  【キーワード】 アセスメント、心理検査、信頼性、妥当性、心理検査の目的、テストバッテリー、アセスメントの報告、フィードバック	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
18	心理アセスメント3 心理検査: 知能検査・発達検査	知能検査、発達検査作成の歴史、知能の概念、代表的検査の特徴を概観し、実施の目的や利点、使用上の注意について述べる。  【キーワード】 知能検査、発達検査	山口 義枝 (日本大学准教授)	山口 義枝 (日本大学准教授)
19	心理アセスメント4 心理検査: 投映法	臨床場面でよく使用されるパーソナリティ検査の中、投映法について概説する。投映水準、投映法の種類とその特徴などについて述べる。  【キーワード】 パーソナリティ、投映法、投映水準、投映法の種類、ロールシャッハ・テスト、TAT、SCT、描画法、心理検査状況	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授) ゲスト: 橘 玲子(新潟青陵大学教授)
20	心理アセスメント5 心理検査: 質問紙法・評価尺度	臨床場面でよく使用されている質問紙法の種類や評価尺度と使用、それらの効用と注意点について述べる。  【キーワード】 質問紙法、評価尺度、YG性格検査、MMPI ,TEG, Big Five Test	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)
21	心理療法1 精神分析と精神分析的療法	フロイト (Freud, S.) に始まる精神分析療法について概説する。治療者関係、抵抗、転移、逆転移、行動化、その他の重要な概念について述べる。  【キーワード】 精神分析、精神分析的療法、治療者関係、抵抗、転移、逆転移、解釈、行動化、ワークキング・スルー、洞察	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授) ゲスト: 池田政俊(帝京大学大学院教授)
22	心理療法2 分析心理学的心理療法	ユング, C.G. に始まるユング派の心理療法は、日本では河合隼雄の努力によって、非常に幅広い理解を得るまでになった。本章では、ユング派心理療法のもっとも基本的な理解を試みてみたい。  【キーワード】 ユング派心理療法	大場 登 (放送大学教授)	大場 登 (放送大学教授)
23	心理療法3 認知行動療法	学習理論を基盤とする行動療法と認知理論を基盤とする認知療法がそれぞれ発展したが、次第に学習理論に認知理論を統合する形で認知行動理論が提唱されるようになった。行動療法の諸技法、認知行動療法の理論と実際について述べる。  【キーワード】 認知行動療法、認知療法、行動療法、系統的脱感作、スキーマ、自動思考、認知の歪み、認知的再体制化	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授) ゲスト: 堀越 勝((独)国立精神神経医療センター・認知行動療法センター部長)
24	心理療法4 パーソン・センタード・アプローチ	ロジャーズに始まるクライエント中心療法とパーソン・センタード・アプローチについて解説するとともに、ジェンドリンのフォーカシング技法・エンカウンター・グループについてもその理論と技法について概説を行う。  【キーワード】 来談者中心療法、パーソン・センタード・アプローチ	小野 けい子 (放送大学教授)	小野 けい子 (放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
25	心理療法5 森田療法・ 内観療法・ 臨床動作法	日本で生まれ発展した3つの心理療法、森田正馬が確立した森田療法、吉本伊信が創始した内観療法、さらに成瀬吾策らが開発した臨床動作法について紹介する。  【キーワード】 森田療法、内観療法、臨床動作法	齋藤 高雅 (帝京大学教 授、放送大学 名誉教授)	齋藤 高雅 (帝京大学教 授、放送大学 名誉教授) ゲスト:中山 和彦(東京慈恵 会医科大学教 授) 橘 玲子(新潟 青陵大学教授)
26	心理療法6 ブリーフ・セラピー	ブリーフ・サイコセラピーおよびブリーフ・セラピーについて概説する。ブリーフ・セラピーとは、わが国では「短期療法」と訳され、さまざまなモデルがあるが、ここでは主に「解決志向ブリーフセラピー」モデルを中心に紹介する。  【キーワード】 ブリーフ・サイコセラピー, ブリーフ・セラピー, 解決志向ブリーフセラピー	齋藤 高雅 (帝京大学教 授、放送大学 名誉教授)	齋藤 高雅 (帝京大学教 授、放送大学 名誉教授) ゲスト:森 俊 夫(東京大学 大学院助教)
27	心理療法7 児童の心理療法	児童を対象として行われることの多い遊戯療法について、基本概念、実際の設定の仕方について述べる。そして、遊戯療法の特徴の一つである非言語的交流についての理解を深める。  【キーワード】 遊戯療法、遊び	山口 義枝 (日本大学准 教授)	山口 義枝 (日本大学准 教授)
28	心理療法8 芸術・表現療法	言語的な心理療法に対極する形が非言語的な心理療法と思われがちだが、クライアントの表現が非言語的であるからこそ、セラピストは受け止めたことを伝えるために言葉を磨かなくてはならず、ある意味、非常に言語的なものである。言語ー非言語のかかわりをはじめ、芸術・表現療法について概説する。  【キーワード】 表現 芸術療法 コミュニケーション	佐藤 仁美 (放送大学准 教授)	佐藤 仁美 (放送大学准 教授)
29	心理療法9 集団心理療法	集団で行われる心理療法について、その考え方と実施の方法、個人療法との違い、適応範囲、今後の展開などについて述べる。 集団心理療法の歴史、構造、機能、さまざまな集団心理療法について概説する。  【キーワード】 集団心理療法、集団の力(治療的因子), グループ現象	齋藤 高雅 (帝京大学教 授、放送大学 名誉教授)	齋藤 高雅 (帝京大学教 授、放送大学 名誉教授) ゲスト:武井 麻子(日本 赤十字看護 大学教授)
30	コミュニティと 心理療法	地域臨床活動場面、さらに学校臨床、犯罪被害者支援など、コミュニティの中で展開する心理療法は、これまでの心理療法とは異なる視点が必要になってくる。連携、ネットワーク、コンサルテーションなどについて考える  【キーワード】 コミュニティ・アプローチ、連携、危機介入、コンサルテーション	齋藤 高雅 (帝京大学教 授、放送大学 名誉教授)	齋藤 高雅 (帝京大学教 授、放送大学 名誉教授) ゲスト:箕口 雅博(立教大 学教授)

事務局 記載欄	開設 年度	2013年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8950555	履修 制限	無	単位 数	4
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 臨床心理面接特論 ( ' 1 3 ) = ( R )  
 - 心理療法の世界 -

[ 主任講師 (現職名) : 大場 登 (放送大学教授) ]  
 [ 主任講師 (現職名) : 小野 けい子 (放送大学教授) ]

### 講義概要

心理療法を行う臨床心理士には、外科手術のためのメスも、化学的に身体(脳)に働きかける薬も与えられていない。基本は、クライアントの心身が訴える声に耳を傾けること・セラピストの心身で受けとめること。しかし、この「心身が訴える声に耳を傾けつづけること」が如何に困難な営みであるか、そして、逆に、「一人の生きた人間(セラピスト)が、長期間にわたって耳を傾けつづける・受けとめつづけること」によって、クライアントの心身がゆっくりとはあるが、確実に「変容」の歩みを始めるものであることを、30章(4単位)にわたって詳細に論じる予定である。

### 授業の目標

実際の心理臨床の現場で臨床心理学的面接、ないし、心理療法を行ってゆくにあたって、臨床心理士にとって、もっとも基本となる姿勢・留意点、そして、心理療法技法論の基礎について体系的に学習することを目的とする。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	はじめに：心理療法とは？	「心理療法とは一体どのようなものであるのだろうか？」本科目30章を通して学ぶことになるが、第1章では、その基本について検討してみたい。	大場 登 (放送大学教授)	大場 登 (放送大学教授) 小野けい子 (放送大学教授)
2	耳を傾ける	悩みや問題をもって来談した方に、忠告や説得をしても、それが効を奏するのは、よほど問題の軽い場合である。心理療法において、サイコセラピスト(以下セラピストと略)は、クライアントの話にまず耳を傾け、そこに示される感情を受け入れてゆく。	小野けい子 (放送大学教授)	小野けい子 (放送大学教授)
3	心理療法の器(1)	「器」に保護される中で、心理療法のプロセスは初めて進行する。セラピストの守秘義務から始まって、面接時間・面接室・面接頻度・料金といった、いわゆる「面接構造」について述べ、立場の相違による「器」の個性についても論じる。	小野けい子 (放送大学教授)	小野けい子 (放送大学教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	心理療法の器 (2)	「器」に保護される中で、心理療法のプロセスは初めて進行する。セラピスト自身もまた、心理的変容過程を守り保護する「心理療法の器」であるといえることができる。前章で述べた面接室、面接時間等につき、本性では、「心理療法の器としてのセラピスト」について述べる。	小野けい子 (放送大学 教授)	小野けい子 (放送大学 教授)
5	トピックス：心 理臨床の現場か ら—①児童相談 所+児童養護施 設	本講義では、トピックスとして、様々の心理臨床現場での実際の心理療法、個々の現場固有の特徴・経験・感動・困難さについても紹介してゆくことにしている。第1回の今回は、印刷教材では児童相談所における臨床心理士の仕事を、そして、放送授業ではゲストをお招きして、児童養護施設における臨床心理士の業務を紹介してみることにはしたい。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授) + ゲ スト：菅原 惠 (児童養 護施設 錦 華学院 臨 床心理士)
6	初回面接	「初回面接」はその後の長い心理療法の第一歩である。クライアントにとっても、このセラピストとやってみることができるかどうかを見極める機会であると同時に、もちろん、セラピストにとってもクライアントを「見立て」、そして、心理療法を引き受けることにするか否かを決定する大切な面接である。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授) + ゲ スト：川戸 圓 (大阪府 立大学名 誉教授・ユ ング派分 析家)
7	心理療法とアセ スメント (1) -成人の場合	心理アセスメントは心理療法を開始するにあたって必要不可欠である。アセスメントが確実になされることが、その後の心理療法にとっての基盤となる。	小川俊樹 (放送大学 教授)	小川俊樹 (放送大学 教授)
8	心理療法とアセ スメント (2) -子どもの場合	何らかの困難を抱えた子どもに必要な援助を提供していくためには、アセスメントが欠かせない。子ども本人への面接や心理検査、行動観察を行うとともに、保護者からも情報を得て、多方面から総合的にアセスメントをする。また幼少の子どもの場合は、遊びを通してアセスメントを行うこともある。	小林真理子 (放送大学 准教授)	小林真理子 (放送大学 准教授)
9	連携と協働	医療機関で心理療法を行う場合に限らず、医師を始めとする他職種との「連携と協働」は一つの大きなテーマである。心理臨床の場には、様々な領域があり、それぞれの領域の場を基点に連携と協働がなされている。本章では、医療機関及び学校領域、特に学生相談における連携と協働について、その重要性と留意点について述べる。	齋藤 高雅 (帝京大学 教授、放送 大学名誉 教授)	齋藤 高雅 (帝京大学 教授、放送 大学名誉 教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	トピックス：心理臨床の現場から—②医療機関	医療機関における臨床心理士の業務について、大学病院神経精神科・心療内科と、大学病院に附属する「こどものこころクリニック」における臨床心理士の業務を学ぶとともに、放送授業では実際の現場の臨床心理士をゲストにお迎えしてインタビューを行う。	小野けい子 (放送大学教授)	小野けい子 (放送大学教授) + ゲスト：庄野伸幸 (埼玉医科大学助手)・山中康裕(京都ヘルメス研究所所長、京都大学名誉教授)
11	セラピストによる「読み」	クライアントの姿・語ること・症状に「耳を傾ける」ことがセラピストのひとつの決定的に大きな仕事だとすると、もう一方で、クライアントの語ること・症状・問題・内的イメージから、そして、クライアントと出会っている際にセラピストが抱く印象や気持ちから、クライアントのことを「読む」こともセラピストの重要な仕事であると言えるだろう。	大場 登 (放送大学教授)	大場 登 (放送大学教授) + ゲスト：森さち子(慶応義塾大学准教授)
12	セラピストの「問いかけ」と「語りかけ」	第11章・第11回に学んだ「読み」に基づいて、今度は、クライアントの反応を慎重に見守りつつも、クライアントに「問いかけ」「語りかけ」をしてゆくこともセラピストにとってとても大切な仕事と言えるであろう。	大場 登 (放送大学教授)	大場 登 (放送大学教授) + ゲスト：森さち子(慶応義塾大学准教授)
13	セラピストとクライアントの関係性(1)	心理療法という営みは、基本的にはセラピストとクライアントの間で生起する。セラピストとクライアントの関係性について、今回は、特にクライアントが、セラピストに向ける気持ち・感情について取り上げる。	大場 登 (放送大学教授)	小野けい子 (放送大学教授)
14	セラピストとクライアントの関係性(2)	今回も心理療法におけるセラピストとクライアントの関係性について論じるが、今回は、クライアントとの関係において、セラピストの側が経験する気持ち・感情について取り上げる。	大場 登 (放送大学教授)	小野けい子 (放送大学教授)
15	トピックス：心理臨床の現場から—③緩和ケア	「緩和ケア」における臨床心理士の仕事とはどのようなものであるのだろうか？がん医療の現状や緩和ケアについて説明し、臨床心理士の役割について考える。放送授業では、現場の臨床心理士をお迎えしてインタビューを行う中で、「緩和ケア」における臨床心理士の業務、関わりの視点や特徴について検討してみたい。	小林真理子 (放送大学准教授)	小林真理子 (放送大学准教授) + ゲスト：井上実穂(国立病院機構四国がんセンター臨床心理士)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
16	意識と無意識	心理療法に携わる中で、人間の心には、意識している部分の他に、無意識の領域が存在すると仮定したほうが理解しやすいという経験に遭遇する。治療論的にも、意識の統制力をやや弱めることによって、内面的なものに向かい、自己治癒力を活性化する方法がとられることについて論じる。	小野けい子 (放送大学 教授)	小野けい子 (放送大学 教授)
17	箱庭療法	内面的なものを言語に頼らず自由に表現する方法として、描画法、遊戯法などがあるが、ここでは箱庭療法を取り上げて、この方法を紹介するとともに、箱庭の中で自己表現をすることによる自己治癒力の働きについても論じる。	小野けい子 (放送大学 教授)	小野けい子 (放送大学 教授)
18	家族面接	心理療法においては、様々な問題を顕在化しておられる本人ではなく、そのご家族が面接にみえることも多い。また、本人とご家族両方への面接が求められることも多い。それらをどう考え、どうすれば良いのかについて取り上げる。	小野けい子 (放送大学 教授)	小野けい子 (放送大学 教授)
19	若者たちと心理療法	思春期～青年期にあたる若者たち特有の心性と、いくつかの臨床現場でのセラピストとのやり取りを中心に論じていきたいと思う。思春期～青年期と出会う臨床現場での実際を織り込む予定である。	佐藤仁美 (放送大学 准教授)	佐藤仁美 (放送大学 准教授)
20	トピックス：心理臨床の現場から—④犯罪被害者支援	「犯罪被害者支援」の立場で警察という職場で活動しておられる臨床心理士の業務、犯罪被害者の心理について学ぶとともに、放送授業では、実際の現場の臨床心理士をゲストにお迎えして、インタビューを行いたい。	小野けい子 (放送大学 教授)	小野けい子 (放送大学 教授) + ゲスト：上田鼓（警察庁 犯罪被害者 支援室職員・臨床心理士）
21	夢と癒し	古代ギリシャで、人々が心身の病に見舞われると、人々はアスクレピオス医神の神殿を訪ねた。斎戒沐浴の後、彼らは神殿最奥の小部屋で眠り、「癒しの夢」の訪れを待った。日本の古代・中世においても、人生の困難や病に出会った人々は、「貴船」や「石山」に詣でたり、「観音」さんに籠って、「癒しの夢」の到来を待った。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
22	心理療法と夢 (1)	古代ギリシャ・アスクレピオス神殿で当時の人々が夢による癒しを求めた営みはインキュベーションと呼ばれるが、Meier,C.A.によれば「このインキュベーションが2000年の眠りを経てFreud,S.の診察室・自由連想のカウチで復活した」と言われる。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授)
23	心理療法と夢 (2)	たしかに心理療法で、我々がクライアントの話に耳を傾けていると、「そう言えば今朝こんな夢を見ました」と報告されることが多い。「耳を傾ける」とは、この意味で、「心の最奥からの声」あるいは、「人間の意識を超えた領域からの声」に対してのことでもあるのかもしれない。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授)
24	心理療法とコン ステレーション (布置)	心理療法の面接でクライアントの語ることを注意深く聴いていると、クライアントの内界で問題となっているテーマと見事に対応する外界の出来事が、クライアントの周囲で生じていることをよく経験する。だからこそ、一見「外的・日常的」だけと思われるクライアントの経験にも我々は、大きな関心を寄せて傾聴することができるとも言えよう。	小野けい子 (放送大学 教授)	小野けい子 (放送大学 教授)
25	トピックス：心 理臨床の現場か ら—⑤H I Vカ ウンセリング	今回のトピックスでは、いわゆる HIV カウンセリングにあたっている心理臨床の現場を紹介したい。HIV 心理臨床の実際・チーム医療・仕事の困難さ・セクシュアリティ・日頃感じていること・いわゆる HIV 感染者の方々やエイズ患者の方々との出会いを通して考えさせられたことなどが紹介される予定である。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授) + ゲ スト：安尾 利彦 (国立 病院 機構 大阪医療セ ンター 臨 床心理士)
26	困難な事例との 出会い	心理療法の営みを続けていると、セラピストは、必ずといってよいほど圧倒的な難しさ・無力感・不安を感じざるを得ないようなクライアントに出会うものである。人間の心の闇は恐ろしい程に圧倒的で、且つ深いものである。印刷教材・放送授業を通して、この「難しい」テーマと正面から向き合ってみることにしたい。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授) + ゲ スト：川戸 圓 (大阪府 立大学名誉 教授・ユン グ派分析 家)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
27	心理療法の面接と記録	心理療法の面接は、なぜ記録に残さなければならぬのだろうか。「面接記録」は何時書くのだろうか。「面接記録」はどのように「保管」するのだろうか。そして、そもそも面接記録には、一体どのようなことを、どの程度書いたらよいのだろうか。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授)
28	スーパーヴィジョン	心理臨床の研修にとって不可欠な体験として、スーパーヴィジョンがある。個人スーパーヴィジョンとグループスーパーヴィジョンの比較、スーパーヴィジューアイザーの選び方や、スーパーヴィジョンの料金、期間について。さらに個人分析との異同についても述べる。	小野けい子 (放送大学 教授)	小野けい子 (放送大学 教授) + ゲスト：山中康裕(京都ヘルメス研究所所長、京都大学名誉教授)
29	トピックス：心理臨床の現場から—⑥心理療法機関	臨床心理士が企画運営する心理療法機関を紹介し、臨床心理士をゲストに迎えてインタビューを行う。開業心理臨床とも言われるこの分野では、臨床心理士に自由度が高くある一方、責任という面での重さも並々ならぬものがあると言えよう。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授) + ゲスト：桑村かすみ(山王教育研究所臨床心理士)
30	おわりに：講師からのメッセージ	30回にわたる授業の最後は、今後さらに心理臨床の勉強を続け、将来的に心理臨床領域において臨床心理士として仕事をしてゆこうとする受講生に向けた主任講師からのメッセージとなる予定である。	大場 登 (放送大学 教授)	大場 登 (放送大学 教授) 小野けい子 (放送大学 教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8950547	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 臨床心理学研究法特論 ('12) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 元永 拓郎 (帝京大学大学院教授) 〕

【本学担当専任教員 : 佐藤 仁美 (放送大学准教授) 】【

### 講義概要

臨床心理学領域における研究を行う上でのさまざまな方法論, 量的研究と質的研究について解説する。具体的な研究法として, 質的研究法, 調査法, 面接法・観察法, 投映法, 実験法, 事例研究法, 効果研究について説明し, さらに臨床心理学領域として, 心理療法, アセスメント, 家族研究, 高齢者研究, コミュニティ・アプローチについて解説する。臨床心理学研究の特徴として, クライアントの利益を優先すること, プライバシーを含む倫理的な問題を常に念頭におくことが重要である。

### 授業の目標

臨床心理学領域におけるさまざまな研究を行う上での方法論と, 研究の重要性, および困難さを理解することを目標にする。臨床心理学においては, 臨床実践や調査研究とプライバシーを含む倫理面の問題および研究から得られる公共性との両立と相克が重要なテーマとなるが, 究極的には, クライアントの利益に還元されることが優先される。これらの点について留意しながら, 臨床心理学研究法について解説する。

### 履修上の留意点

臨床心理学特論('11)は, 本科目の全体的な基礎となるものである。各自の関心領域により, 臨床心理学プログラムが開講している他の科目は研究を遂行する際の基礎知識となる。たとえば, 量的研究を行う際には, 「心理・教育統計法特論」は履修の必要がある。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	臨床心理学の領域と研究法	本特論では, 臨床心理学の5領域、心理療法・アセスメント・家族・高齢者およびコミュニティを取り上げる。研究として重要なことは, 研究目的を明確にすることである。それにより何をどのように達成するかという研究方法が自ずと絞られてくる。臨床心理学研究の特徴として, クライアントの利益を優先すること, プライバシーや倫理的な問題を常に念頭におくことを十分理解しておくことがあげられる。 【キーワード】 臨床心理学の研究領域, 臨床研究	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)
2	研究の基礎— 研究のプロセス	臨床現場で問題を感じ, その問題意識を研究として遂行していく研究のプロセスについて概説する。文献検索, 文献レビュー, 対象・方法の選定, 特に研究計画の立案, 作成などについて述べる。 【キーワード】 研究のプロセス, 研究計画書, 先行研究, 文献検索, 文献レビュー	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)
3	研究法① 質的研究法	近年, 研究対象の現象の背後にある重要な鍵概念を抽出したり, 現象の構造的特徴を記述できるモデルや仮説を構築することに主眼をおいた「質的研究」への関心が高まっている。「質的研究」の方法論上の特徴を研究例を通して概説する。 【キーワード】 質的研究	名取 琢自 (京都文教大学教授)	名取 琢自 (京都文教大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	研究法② 量的研究法－ 調査法	量的研究とは、単に数字を用いて記述し統計的に検定するものではない。現象の背後にある‘真実’に迫るための種々の取り組みに、普遍性や実証性を与えようとする手続きである。そのため量的研究においても、数字では示されない事象にも関心を持ち、時にその考察も行う。ここでは、量的研究の一例として、質問紙を用いた調査法による研究を取り上げ概説する。 【キーワード】 量的研究, 数量化	元永 拓郎 (帝京大学大学院教授)	元永 拓郎 (帝京大学大学院教授)
5	研究法③ 面接法・観察法	面接法、観察法による研究法を概説する。面接、あるいは観察することによってどのように臨床的な資料を収集することが可能であり、どのような研究があるのかについて概説する。 【キーワード】 臨床的面接, 調査面接, 構造化面接, 半構造化面接, 仮説生成, 仮説検証, 参与観察	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)
6	研究法④ 投映法(投影法)	投映法の特徴を、質問紙法や面接法など他の方法と比較しながら説明し、その意義について考察する。代表的な投映法を用いた研究(ロールシャッハ法と描画法など)、また投映法自体に関する研究について紹介する。 【キーワード】 投映法(投影法), ロールシャッハ法	小川 俊樹 (放送大学教授)	小川 俊樹 (放送大学教授)
7	研究法⑤ 実験法	臨床心理学においても、実験による研究は重要である。実験研究を実施する際の基本概念(実験群・統制群など)についても説明する。 【キーワード】 実験法, 実験計画法, 仮説, 検定	小川 俊樹 (放送大学教授)	小川 俊樹 (放送大学教授)
8	研究法⑥ 事例研究法	事例研究法は臨床心理学において最も重要な研究法の1つである。本講では、知識伝達と技術習得のちがいが、概念的知識と手続き的知識のちがいに注目しながら、臨床の場において人間を統合的にとらえる実践的方法として洗練されてきたこの事例研究法の意義と限界について検討したい。 【キーワード】 事例研究, 臨床の知, 事例検討	名取 琢自 (京都文教大学教授)	名取 琢自 (京都文教大学教授)
9	研究法⑦ 評価(効果)研究	心理療法の効果を明らかにすることは、臨床心理学にとって重要な課題の一つである。心理療法の効果研究、メタ分析について概説するとともに、心理療法も含めたより包括的な心理学的支援について、プログラム評価の観点から評価研究を論じる。 【キーワード】 メタ分析, 無作為化比較臨床試験(RCT), ケースコントロール研究, EBM, プログラム評価, プロセス研究	元永 拓郎 (帝京大学大学院教授)	元永 拓郎 (帝京大学大学院教授)
10	領域と研究法① 心理療法	心理療法における研究のトピックスとして、治療の場における治療構造の問題、見立てにおける異常心理学の役割、セラピストクライアント関係、プロセス研究、スーパービジョン・教育、などについて概説する。 【キーワード】 心理療法, 治療構造, 異常心理学, プロセス研究, セラピストクライアント関係, スーパービジョン・教育	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	領域と研究法② アセスメント	臨床心理学におけるアセスメントについて説明し、その必要性を述べる。アセスメントの諸方法を紹介したうえで、それらの信頼性・妥当性について考える  【キーワード】 アセスメント, 評価尺度	小川 俊樹 (放送大学教授)	小川 俊樹 (放送大学教授)
12	領域と研究法③ 家族研究	本格的高齢社会の到来とともに、高齢者と家族をめぐる様々な問題が起こっている。特に、介護ストレスや虐待など、高齢者を介護する家族の心理的ストレスをめぐる問題は大きな社会問題となっている。こうした現状を鑑み、本章のねらいは、要介護高齢者と家族介護をめぐる諸問題に関する臨床心理学研究の現状と課題について考える。  【キーワード】 高齢社会, 家族システム, 要介護高齢者, 家族のストレス, 介護ストレス	松田 修 (東京学芸大学准教授)	松田 修 (東京学芸大学准教授)
13	領域と研究法④ 高齢者研究	本格的高齢社会の到来に伴い、高齢者の心の健康とその支援に関する臨床心理学的研究の重要性が高まっている。しかしながら、臨床心理学における高齢者研究は、いまだ十分とはいえず、取組みねばならない研究課題は依然として多い。こうした現状を踏まえ、本章では高齢者を取り巻く臨床心理学研究の現状と課題について考える。  【キーワード】 認知症, 非薬物療法, 横断的研究, 縦断的研究, 準実験	松田 修 (東京学芸大学准教授)	松田 修 (東京学芸大学准教授)
14	領域と研究法⑤ コミュニティ・アプローチ	近年、学校や地域社会における心の問題が社会的に関心を集めている。臨床心理学はこの領域に様々な接近を試みている。実際にそのコミュニティに介入し、その実践活動と並行して研究を行う場合もある。それらの接近法から明らかにされる諸側面を概説する  【キーワード】 コミュニティ・アプローチ, 介入研究	元永 拓郎 (帝京大学大学院教授)	元永 拓郎 (帝京大学大学院教授)
15	臨床心理学研究の倫理—まとめにかえて	臨床心理学研究法のまとめとして、倫理問題について述べる。臨床心理学研究の難しさは、しばしばクライアントのプライバシーや利益など研究において二律背反性に直面することがあげられる。これらの点について考える。  【キーワード】 倫理, インフォームド・コンセント, プライバシー保護	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)	齋藤 高雅 (帝京大学教授、放送大学名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8950571	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名（メディア） ＝ 家族心理学特論 （'14） ＝ （TV）  
 英文名 ＝ [ Special Lectures on Family Psychology ('14) ]  
 [主任講師（現職名）： 亀口 憲治 （国際医療福祉大学大学院教授） ]  
 [主任講師（現職名）： ]  
 【本学担当専任教員： 大場 登 （放送大学教授） 】

### 講義概要

世界最速で進行中の少子高齢化に加え、東日本大震災による甚大な被害を受けたわが国の家族が抱える課題の解決には、欧米直輸入の手法のみならず、独自の解決策も加える必要がある。一方で、いかなる時代や文化においても普遍的な家族の課題も残されている。本講義では、家族が抱える心理的課題を家族システム論の視点から整理する。次に、この課題が果たせなかった場合に生じる諸問題について取り上げる。そして、これらの問題に対する家族療法や予防的心理教育プログラムなどの援助法の理論と技法を解説する。また、震災後の被災家族への心理的援助については、多職種の協働によるネットワーク化を通じた地域支援の具体例を通して紹介する。

### 授業の目標

家族間軽の心理的な仕組みについて、その発達の初期から生涯に及ぶ長い変化の過程として理解できるようになることを目標とする。また、家族がかかえるさまざまな心理的問題の社会的背景との相互関係についても、見識をふかめることが期待される。さらに、家族療法や心理教育の理論と技法を学ぶことにより、家族へのさらに具体的な心理的援助の専門的基礎を形成することが目標となる。

### 履修上の留意点

発達心理学、臨床心理学、あるいは社会心理学については、本講義の受講前に学習しておくことが望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	家族心理学の役割	家族心理学は、主に個人の心理を対象として発展してきた現代心理学に、「家族関係」という独自の心理メカニズムを解明する分野として確立されつつある。さらに、臨床心理学、発達心理学、社会心理学、教育心理学、老年心理学等の関連領域を統合する「要」の役割も期待されるようになってきている。  【キーワード】 関係の心理 家族システム 複眼的視野	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授
2	家族人生周期	個人の発達過程が、新生児期から老年期までの生涯にわたる視点で、探求されるようになってきている。さらに、個人の心理的発達の過程を、人生という個人の時間軸だけでなく、家族関係というシステムの歴史の構成要素として捉える認知的枠組みを紹介する。  【キーワード】 生涯発達 人生周期 家族人生周期	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授
3	家族システム論	家族システムは、家族を単なる個人の寄せ集めとみるのではなく、固有の関係性や心理的特徴を有した集団（ペットも含む）とみる概念である。この回では、理論的基盤となる家族システム論を詳しく紹介する。  【キーワード】 家族システム論 入れ子構造 関係性の心理学	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	家族内コミュニケーション	<p>家族心理学の特徴は、日常生活に直結した家族成員間の情動的コミュニケーションの仕組みを解明し、さらにその問題点を解決する実践的な手法を開発し、一般に普及することを目指している点にある。ここでは、具体例を踏まえながら、家族内コミュニケーションの病理や解決策について解説を加える。</p> <p>【キーワード】 情動的コミュニケーション 病的コミュニケーション</p>	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授
5	家族心理の深層構造	<p>個人心理の深層に家族関係にまつわる問題が潜むことは、フロイトによる精神分析以来、一般にも良く知られている。家族心理学の隣接領域である家族臨床心理学は、個人にみならず、家族関係全体の深層心理のメカニズムを解明し、さらに具体的な心理援助の手法を提案しつつある。</p> <p>【キーワード】 家族臨床心理学 家族深層心理 家族的無意識</p>	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授
6	社会の中の家族	<p>個人と家族にとって、心理的環境としての現代社会からの影響は無視できない。そこで、激変する社会的環境の視点からみた家族の問題点と、逆に個人や家族から見た少子高齢化や災害などの社会的問題を対比させる試みを提示する。</p> <p>【キーワード】 心理的環境 少子高齢化 災害と家族</p>	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授
7	個人の中の家族イメージ	<p>個人の内界における「内なる家族像」の役割については、すでに臨床心理学で多くの検討がなされてきた。家族心理学の立場から、この問題を再考する。幼児期に複雑な家庭環境を体験した文豪夏目漱石の家族人生周期の知られざるエピソードを紹介し、個人にとっての幼児期からの家族体験の影響を深く掘り下げて解説する。</p> <p>【キーワード】 家族体験 家族イメージ 夏目漱石</p>	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授
8	家族関係の心理査定	<p>個人の心理査定については多くの方法が存在するものの、家族関係を直接対象とする心理査定は嘉数が少ない。そこで、代表的な家族心理査定法を紹介し、その実践上の問題点を明らかにする。日本で開発された家族イメージ法(FIT)についても紹介する。</p> <p>【キーワード】 心理査定法 家族心理査定 家族イメージ法(FIT)</p>	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授
9	家族療法の理論	<p>1950年代に欧米で誕生した家族療法は、家族心理学の成立にも大きな影響を与えた。ここでは、家族療成立に関わった主要なパイオニアの人物像や理論を概観し、その時代背景についても言及する。また、わが国における家族療法や家族カウンセリングの発展過程や現状の課題についても解説する。</p> <p>【キーワード】 家族療法 家族療法家 家族カウンセリング</p>	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授
10	家族療法の技法 I	<p>家族療法は1980年代以降、世界に広まりを見せている。その原動力になったのが、構造的家族療法であり、わが国でもよく知られている。そこで、構造的な面接技法を中心とする主要な技法を紹介する。悪循環に陥っている家族の関係が、どのような援助的介入によって改善されるのだろうか。</p> <p>【キーワード】 構造的家族療法 S・ミニューチン ジョイニング</p>	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	家族療法の技法Ⅱ	1990年代以降の最新の家族療法は、それまでのシステム論に忠実な理論的枠組みにこだわることなく、物語論的なアプローチへと大きく軌道修正した。ある点では、家族支援における歴史的側面・時間的側面の再評価ともいえる。この変化によって、ともすれば対立的であった個人療法の各学派との対話が促進されるようになった。  【キーワード】 物語的家族療法 物語的(ナラティブ)技法	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授
12	家族療法の技法Ⅲ	家族療法が世界的に広がるにつれて、多文化的あるいは多世代的な側面への関心が高まっている。同時に、個人療法との統合を図る動きが活発となりつつある。さらに、多様な専門職間で協働することが必要であるとの認識が広まり、統合的視点に立った技法の重要性が増している。  【キーワード】 統合的家族療法 多世代 協働 日本的技法	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授
13	夫婦療法の理論と技法	夫婦療法は、家族療法とともに発展を遂げつつあるが、わが国では、その文化的背景により、未開拓の分野である。しかし、少子高齢化によって、その必要性が認められつつある。夫婦という親密で独特な閉ざされた人間関係の問題を直視し、解決するための実証的で具体的な知見を紹介する。  【キーワード】 夫婦療法 親密さ 自己分化 アサーション	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授
14	家族療法の実際	わが国での家族療法の有効性が期待される、不登校、家庭内暴力、ひきこもりなどの実践事例を紹介する。  【キーワード】 不登校 ひきこもり 家庭内暴力	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授
15	家族心理学の実践展開	これからの家族心理学は、激変し、流動化する現代社会において人々が直面する諸課題を、真正面から受け止め、旧来の心理学が避けてきた学際的な知見を取り込み、あるいは発信することが期待されている。専門家養成と実践展開の現状と課題について解説する。  【キーワード】 家族心理士 家族相談士 家族支援	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授	亀口 憲治 国際医療福祉大学・大学院教授

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8950563	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 障害児・障害者心理学特論 ('13) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 田中 新正 (大分大学教授) 〕  
 〔主任講師 (現職名) : 古賀 精治 (大分大学教授) 〕  
 【本学担当専任教員 : 小林 真理子 (放送大学准教授) 】

### 講義概要

様々な障害のある人に臨床心理学的援助を提供するに当たって必要な基本的知識を全15回にわたって講義する。各障害について理解するために、まず、障害の概念(状態像)やアセスメントの方法について説明し、さらに、発達の視点からみた障害のもつ意味、社会的視点からみた障害のもつ意味について説明し、障害のある人の心理学的援助のあり方について講義する。

### 授業の目標

全15回の講義を通じて、各障害について定義(概念)を明確にし、それぞれの障害に特有の発達上の課題、社会生活上で生じてくる様々な問題を理解すること、そして問題解決のための心理学的援助のあり方を理解することを目標とする。また、このことを通じて人にとっての障害の意味について考えることを目標としたい。

### 履修上の留意点

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	特殊教育から特別支援教育へ	2007年4月より「特殊教育」から「特別支援教育」に法改正が行われ施行された。この改正により転換された理念や、見直された学校制度や教育職員免許制度について、従来の理念・制度と比較しながら解説する。  【キーワード】 特殊教育・特別支援教育・特別支援学校・センター的機能	田中 新正 (大分大学・教授)	田中 新正 (大分大学・教授)
2	乳幼児における障害とその支援	乳幼児期における障害への気づきとその支援を取り上げ、早期発見と療育の重要性を解説する。また、保育所や幼稚園における支援体制と就学に向けての相談や支援について述べる。  【キーワード】 母子保健、乳幼児健康診査、早期発見と療育、保育所・幼稚園での支援、就学相談	徳永 豊 (福岡大学・教授)	徳永 豊 (福岡大学・教授)
3	視覚障害児・者の理解と心理的援助	視覚障害の概念、分類について概説した後、心理的特性として、触覚の発達、言語発達、行動等について説明し、様々な困難に対する心理的援助のあり方について述べる。  【キーワード】 視覚障害、盲、弱視、点字、歩行、バーバリズム、ブラインディズム	大内 進 (国立特別支援教育総合研究所・客員研究員)	大内 進 (国立特別支援教育総合研究所・客員研究員)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	聴覚障害児・者の理解と心理的援助	聴覚障害の概念、分類について概説した後、心理特性として、コミュニケーション、認知、学習、社会性等について説明し、様々な困難に対する支援のあり方について述べる。  【キーワード】 聴覚障害、ろう(聾)、難聴、聴力レベル、伝音難聴、感音難聴、コミュニケーション、早期発見、言語発達、書記言語、聴能訓練、補聴器、人工内耳、手話、情報保障	藤本 裕人 (国立特別支援教育総合研究所・教育支援部総括研究員)	藤本 裕人 (国立特別支援教育総合研究所・教育支援部総括研究員)
5	知的障害児・者の理解	まず知的障害にかかわる用語について整理する。次に米国精神遅滞協会における知的障害の定義と分類について述べた後、わが国の医学、教育、福祉における知的障害の定義と分類について解説する。  【キーワード】 AAMR(2002)、AAMR(1992)、DSM-IV-TR、就学基準、療育手帳、知的機能、適応行動	古賀 精治 (大分大学・教授)	古賀 精治 (大分大学・教授)
6	知的障害児・者への心理的援助	米国精神遅滞協会のマニュアルに基づいて知的障害のある人に必要な援助の全体像について概説した後、臨床心理の専門家に求められる援助としての心理アセスメント、心理療法、発達援助法について解説する。  【キーワード】 支援、知能検査、適応行動の検査、行動障害	古賀 精治 (大分大学・教授)	古賀 精治 (大分大学・教授)
7	肢体不自由児・者の理解	肢体不自由の定義、分類、主な起因疾患について概説した後、脳性まひの運動発達の特徴、そして認知と学習、発語と言語の問題、身辺自立、情緒・社会性等の発達上の特徴について解説する。重複障害についても解説する。  【キーワード】 脳性まひ、随伴障害、重複障害、重症心身障害	田中 新正 (大分大学・教授)	田中 新正 (大分大学・教授)
8	肢体不自由児・者への心理的援助	肢体不自由のある人の発達過程における心理的援助について解説する。早期発見について紹介した後、早期療育について医学的立場と心理学的立場について解説する。重複障害児の理解と心理的援助についても解説する。  【キーワード】 早期療育、動作法、自立活動、医療的ケア、訪問教育	田中 新正 (大分大学・教授)	田中 新正 (大分大学・教授)
9	病弱児・者の理解と心理的援助	病弱者の定義と、病弱・虚弱児教育の歴史及び病気の概要について解説し、2002年に改正された就学基準と、病弱教育対象児童生徒の病気の種類の推移について解説する。ホスピタリズムやターミナル期について解説する。  【キーワード】 病弱教育の歴史、病気の推移、ホスピタリズム	田中 新正 (大分大学・教授)	田中 新正 (大分大学・教授)
10	情緒障害児の理解と心理的援助	情緒障害の定義について整理し、情緒障害児教育の対象について述べる。情緒障害児への心理的援助の代表的な考え方について解説する  【キーワード】 情緒障害、不登校、選択性かん黙、心理療法	田中 新正 (大分大学・教授)	田中 新正 (大分大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	発達障害児・者の理解と心理的援助－ADHD(注意欠陥/多動性障害)－	発達障害の概念について整理した後、医学と教育におけるADHDの定義と分類について解説する。それからADHDの原因や併存障害などについて概説し、最後にADHDのアセスメントとADHDのある人への基本的な援助のあり方、家族への支援等について論じる。  【キーワード】 不注意、多動性、衝動性、自尊心の低下	古賀 精治 (大分大学・教授)	古賀 精治 (大分大学・教授)
12	発達障害児・者の理解と心理的援助－自閉症－	医学と教育における自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群の定義、自閉症と他の障害との鑑別等について述べた後、自閉症のある人に特有の物の見方や考え方に応じた専門的な援助方法のいくつかについて解説する。  【キーワード】 対人的相互反応の質的な障害、コミュニケーションの質的な障害、反復的で常同的な行動や興味、構造化、ソーシャルスキルトレーニング	古賀 精治 (大分大学・教授)	古賀 精治 (大分大学・教授)
13	発達障害児・者の理解と心理的援助－LD(学習障害)－	LDの概念に関する歴史的経緯、そしてわが国の教育と医学におけるLDの定義と分類について解説した後、LDのある人の学習上の諸問題に対する心理学的アセスメントに基づく教育・心理的な援助の方法について述べる。  【キーワード】 読む、書く、計算する、認知処理特性	古賀 精治 (大分大学・教授)	古賀 精治 (大分大学・教授)
14	家族支援と障害の理解・受け止め	障害の理解・受け止めは、家族及び障害のある人にとって最も大きな課題である。家族や本人が直面するライフステージごとの課題を紹介するとともに、地域社会における家族支援について考える。  【キーワード】 告知、障害の理解・受け止め、親・本人、ライフステージにおける課題、家族支援	徳永 豊 (福岡大学・教授)	徳永 豊 (福岡大学・教授)
15	地域社会と障害－社会参加－	障害のある人々の社会参加は、今日の大きな課題である。障害とは何かを考える上で、環境因子の大切さを取り上げる。障害者への対応の歴史や人々の意識を踏まえて、社会参加のひとつとして、「働くこと」を考える。  【キーワード】 障害、国際生活機能分類、環境因子、障害者施策、障害者観、社会参加、働くこと	徳永 豊 (福岡大学・教授)	徳永 豊 (福岡大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2015年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8950580	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名（メディア） ＝ 投影査定心理学特論 （'15） ＝ （R）

英文名 ＝ [ Special Lectures on Projective Assessment Psychology ('15) ]

〔主任講師（現職名）：小川 俊樹（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：伊藤 宗親（岐阜大学准教授）〕

【本学担当専任教員：】

### 講義概要

心理査定と心理面接は、心理臨床活動の両輪と目されている。とりわけ、心理査定は伝統的に臨床心理士の主要な業務とみなされている。心理査定にはいくつかの形式があるが、日本の心理臨床の場では、投影法形式の人格検査がもっともよく採用されている。投影法とは、心理検査の一形式であるが、本講では、投影法心理査定について、まず総論として投影法に関する理論を概説し、各論として臨床心理士として必須の各種投影法検査を紹介するとともに、心理臨床の現場でどのように用いられているかを紹介する。

### 授業の目標

投影法の理論や中心的概念を理解し、各種投影法検査の実施法や解釈法を学習して、実際にそれらの検査を実施できるようになることを目標とする。なお、投影査定心理学特論は、本プログラムの目指している、臨床心理士受験資格の選択必修科目(E群)となっている。

### 履修上の留意点

- ・「臨床心理学特論('11)」、「臨床心理面接特論('13)」を履修しておくことが望ましい。
- ・臨床心理学プログラム本講では各種投影法による心理査定を紹介するが、実際にあたっては、特にその解釈に際しては、臨床心理士などの有資格者ないし心理臨床経験を有する者のスーパーバイズを受けること。安易に心理査定を行うことは好ましくない。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	総論① 投影法とは何か	心理臨床の場で広く採用されている心理査定法である投影法について、同じパーソナリティ査定である質問紙との違いや投影法検査の理論的基盤、また「投影」概念の変遷について学ぶ。 【キーワード】 投影法、質問紙法、投射、投影、精神分析学、防衛機制、ニューロック心理学	小川 俊樹 (放送大学教授)	小川 俊樹 (放送大学教授)
2	総論② 投影法とパーソナリティ理論	投影法には多くの種類が存在するが、それらの解釈にはそれぞれ依って立つパーソナリティ理論が必要とされる。本章ではさまざまなパーソナリティ理論を歴史的に概観した上で、投影法とパーソナリティ理論との結びつきを学び、投影法によるパーソナリティ把握の特徴を検討する。 【キーワード】 気質、性格、特性論、類型論	伊藤 宗親 (岐阜大学准教授)	伊藤 宗親 (岐阜大学准教授)
3	総論③ 心理臨床における投影法	本章ではパーソナリティ検査としての投影法の特徴を質問紙法と対照しながら明らかにする。また、投影法に関してはさまざまな分類が提唱されており、本書の各論で紹介する投影法の分類について解説する。 【キーワード】 投影法、評定者間信頼性、虚偽回答、解釈のゲシュタルト性、投影法の分類	小川 俊樹 (放送大学教授)	小川 俊樹 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	総論④ 心理学における投影法と関連領域	投影法が影響を受けた関連領域や投影法との結びつきが強い隣接領域について概観する。また、一般心理学における相対的な位置づけについても検討する。 <b>【キーワード】</b> 絵画、セザンヌ、洞窟、文化人類学、発達心理学、認知心理学、バウムテスト、風景構成法	伊藤 宗親 (岐阜大学准教授)	伊藤 宗親 (岐阜大学准教授)
5	総論⑤ 投影法の可能性	本章ではアンケート調査を基に、日本での心理臨床の現場における投影法の実態を理解し、投影法による心理査定と心理療法との関係についても学び、心理アセスメントとしての役割以上の貢献の可能性をさぐる。 <b>【キーワード】</b> 採用頻度、検査の目的、力動的心理療法、明確化、直面化、PDD、効果判定	小川 俊樹 (放送大学教授)	小川 俊樹 (放送大学教授)
6	各論① 視覚連想法1	もっとも代表的な投影法検査であるロールシャッハ法について、その実施法、スコアリング法、解釈法について学ぶ。また、比較的簡便な視覚連想法である、手の絵を刺激としたハンドテストについて学ぶ。 <b>【キーワード】</b> ロールシャッハ法、ハンドテスト、スコアリング、体験型、運動反応、色彩反応、対人反応	佐々木 裕子 (聖徳大学准教授)	佐々木 裕子 (聖徳大学准教授)
7	各論② 視覚連想法2	具体的な日常場面を描いた視覚刺激の提示であるP-Fスタディは、欲求不満が生じる場面で人間がどのような反応をするかに注目したパーソナリティ検査であり、「制限付きの半投影法」と呼ばれている。本章では、P-Fスタディの理論背景、施行法、結果解釈の仕方について学ぶ。 <b>【キーワード】</b> P-Fスタディ、半投影法、欲求不満理論	青木 佐奈枝 (筑波大学准教授)	青木 佐奈枝 (筑波大学准教授)
8	各論③ 物語作成法	絵画から連想されるストーリーを作成させ、その内容から被検者の葛藤や欲求の在り様を解釈する主題統覚検査(TAT)と、児童版CAT、高年者版SATについて学ぶ。また、精神分析的な視点から分析されるブラッキー・テストについても理解を深める。 <b>【キーワード】</b> TAT(主題統覚検査)、児童版CAT、高年者版SAT、ブラッキー・テスト	佐々木 裕子 (聖徳大学准教授)	佐々木 裕子 (聖徳大学准教授)
9	各論④ 描画法1	描画からその人の性格などを理解する技法である描画法には様々な種類がある。その中でもバウムテストやDAPは心理臨床の現場での使用頻度が高い。ここでは、これらの描画法の理論背景、施行法、結果解釈について学び、描画法の長所や短所を理解する。 <b>【キーワード】</b> 描画法、表現と創造、バウムテスト、DAP、象徴と記号、木のテスト、PDI、ゲシュタルト的理解	佐藤 秀行 (立正大学専任講師)	佐藤 秀行 (立正大学専任講師)
10	各論⑤ 描画法2	描画法には様々な種類があるが、H-T-P、家族画法、風景構成法などは臨床現場で広く活用されている描画法である。風景構成法、家族画法、風景構成法などの理論背景、施行法、結果解釈の仕方について学ぶ。 <b>【キーワード】</b> H-T-P、家族画法、風景構成法、描画順序、家族力動、構成、描き手と見守り手、客観性と事例性	佐藤 秀行 (立正大学専任講師) 小川 俊樹 (放送大学教授)	佐藤 秀行 (立正大学専任講師)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	各論⑥ 言語連想法	視覚刺激を用いることが多い投影法にあつて、言語刺激を用いる方法も存在する。なかでも、文章完成法(SCT)はその使用頻度が高い。また、ユングの言語連想検査はコンプレックス概念との関連が深い。本章ではこの両検査について、その理論背景、施行法、結果解釈の仕方について学ぶ。 <b>【キーワード】</b> 文章完成法(SCT)、言語連想検査、ユング、コンプレックス	青木 佐奈枝 (筑波大学准教授)	青木 佐奈枝 (筑波大学准教授)
12	各論⑦ その他の投影法	ソンディ・テスト、MAPS、カラー・ピラミッド・テストなどの投影法について、理論背景、実施法、結果の整理などを学び、これらの投影法についての理解を深める。 <b>【キーワード】</b> ソンディ・テスト、運命分析、家族的無意識、MAPS、カラー・ピラミッド・テスト	伊藤 宗親 (岐阜大学准教授)	伊藤 宗親 (岐阜大学准教授)
13	現状① 医療・保健臨床における投影法	医療・保健施設における投影法利用の歴史や今日的課題について学び、この領域における投影法の現状を理解する。ラジオでは、ゲストを招いて、病院臨床における投影法の現状について紹介する。 <b>【キーワード】</b> エビデンス・ベースド・メディスン、医療観察法、描画	伊藤 宗親 (岐阜大学准教授)	伊藤 宗親 (岐阜大学准教授)
14	現状② 発達・教育臨床における投影法	児童福祉や発達臨床、教育相談といった発達・教育臨床領域で果たしている投影法の役割と、子どもを対象とした心理アセスメントのあり方について理解を深める。ラジオでは、ゲストを招いて、教育・発達分野における投影法について紹介する。 <b>【キーワード】</b> 児童福祉、発達臨床、教育相談、児童相談所、児童養護施設、情緒障害者施設、教育相談所、スクール・カウンセラー	佐々木 裕子 (聖徳大学准教授)	佐々木 裕子 (聖徳大学准教授)
15	現状③ 司法・矯正臨床における投影法	司法領域、特に精神鑑定において、そして少年鑑別所や刑務所などの矯正施設において鑑別業務で用いられている投影法について学び、司法・矯正領域における投影法の現状を理解する。ラジオでは、ゲストを招いて、矯正分野における投影法の現状について紹介する。 <b>【キーワード】</b> 少年鑑別所、鑑別業務、家庭裁判所、保護観察、プロファイリング、審判、精神鑑定、心神喪失	青木 佐奈枝 (筑波大学准教授) 小川 俊樹 (放送大学教授)	小川 俊樹 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8930562	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 公共哲学 ('10) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 山岡 龍一 (放送大学教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 齋藤 純一 (早稲田大学教授) 〕

【本学担当専任教員 : 〕

### 講義概要

現代社会における「公共性」の諸問題を、新たに問い直し、新たな解決法を考えていく方法を検討する。「公共哲学」という、近年再定義・再考察が試みられている視角・考え方を、理論的なレベルで紹介・解説しつつ、さらには、いくつかの具体的な問題に関する公共哲学的なアプローチを紹介・解説する。狭義の「哲学」ではなく、社会科学的な知のあり方の刷新の方法を、批判的に紹介することで、講義全体が公共哲学の展開の事例となる予定である。

### 授業の目標

本講義の目標は、公共性に関する特定の教義を提供したり、公共的な問題を取り扱う特定の方法を教え込むことではない。むしろ、「公共性」を再考察する可能性を示し、学生が自らの具体的な問題を基に、独自でありかつ他に開かれた仕方で、「公共性」に関する考えを身につけられるようにすることが目標である。社会・人文科学的な知の基礎を提供することも目標であるが、それ以上に、すでに何らかの学問を習得した学生が、それを批判的に展開し、他の学問や実践的課題との連関を理解、もしくは創造できるような知の提供を目指している。

### 履修上の留意点

履修の上で、特に必要な知識はない。もちろん、既に何らかの社会科学になじみをもっているなら、より理解が容易になるであろう。社会経営科学プログラム以外のプログラムに属する学生にも、その学習の成果を公共的な仕方で生かすために、積極的に履修してもらいたい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	公共哲学とは何か	「公共哲学」という視角・考え方の概要を示す。「哲学」に関する一つの考え方を紹介しながら、批判的な学問としての公共哲学の可能性を考える。「公共性」概念の多様性を、思想史的な説明を使って検討し、現代社会における公共哲学のあるべき姿を、各人が批判的に考えていく準備をする。 【キーワード】 「公共性」の概念、「哲学」の概念、批判としての公共哲学、歴史的な文脈、公と私	山岡龍一(放送大学・教授)	山岡龍一(放送大学・教授)
2	公共哲学の原像:リッパンマンとデューイ	公共哲学という問題提起の原初的な形態として、W. リッパンマンとJ. デューイの論争を取り上げる。古典古代の理想である公共性の概念を、20世紀アメリカのような社会において追求する際に生じる問題性と可能性を考えることで、非国家的公共性の現代的意義を検討する視点を獲得する。 【キーワード】 民主主義、大社会、世論、ステレオタイプ、暫定協定、トランザクション、大コミュニティ、自由民主主義の危機	山岡龍一(放送大学・教授)	山岡龍一(放送大学・教授)
3	公共哲学の提唱:アーレントとハーバーマス	公共哲学にとっての古典的なテキスト、H. アーレントの『人間の条件』とJ. ハーバーマスの『公共性の構造転換』を取り上げ、意見の複数性を重視する公共性の理解と市民による意思形成と国家の活動に対する批判的監査を重視する公共性の理解を検討する。 【キーワード】 意見交換、複数性、市民的公共性、批判的公開性	齋藤純一(早稲田大学・教授)	齋藤純一(早稲田大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	公共哲学の展開 (Ⅰ):ロールズとサンデル	<p>社会を統合する原理として社会正義を論じたJ. ロールズの『正義の理論』を取り上げる。その上で、ロールズ批判の文脈から新たな公共哲学を共和主義の伝統に依拠しながら提示するM. サンデルの試みを検討し、後期ロールズの政治的リベラリズムにおける公共性の概念を評価する。</p> <p>【キーワード】 公正としての正義、格差原理、負荷なき自己、共和主義、理に適った多元性</p>	山岡龍一(放送大学・教授)	山岡龍一(放送大学・教授)
5	公共哲学の展開 (Ⅱ):テイラーとコノリー	<p>一方で人々の価値観が多様であることを認め、それを推し進めさせしめながら、他方で一つの社会としての統合が果たされることを可能にするのは、はたしてどのような「公共性」なのだろうか。現代の二人の哲学者、Ch. テイラーとW. コノリーの論争を手がかりにして探究する。</p> <p>【キーワード】 アイデンティティ、差異、承認、穏やかな専制、民主制下の当事者能力</p>	田中智彦(東京医科歯科大学・准教授)	田中智彦(東京医科歯科大学・准教授)
6	公共哲学の展開 (Ⅲ):経済学のアプローチ	<p>経済学の視点から公共性について論じる。合理的に行動する個人が構成する社会において、公共的な価値の実現や集団的意思決定をめぐる生じる諸問題について考察する。従来の経済学の考え方を超える方向性にも言及する。</p> <p>【キーワード】 合理的選択理論、公共経済学、公共財、社会的選択理論、ケイパビリティ・アプローチ</p>	神事直人(京都大学・准教授)	神事直人(京都大学・准教授)
7	憲法と公共性	<p>立憲主義と民主主義とを同時に標榜する近代国家は近代的憲法によって構成されている。その憲法は、世俗化と善の多様性を前提とした政治の運営の原則を示すものである。その前提として、市民の対等な関係によって成り立つ私的な領域と、市民が国家権力と対峙する関係にある公的な領域の区別がなされている。純粋に私的でもなく、また国家権力自体でもない公共的なものを憲法理論はそもそも想定しているのだろうか。</p> <p>【キーワード】 主権、人権、近代立憲主義、表現の自由、公私区分論、市民社会、公共の福祉</p>	川岸令和(早稲田大学・教授)	川岸令和(早稲田大学・教授)
8	マス・メディアと公共性	<p>自由で民主的な社会においてマス・メディアが果たしている、あるいは果たすべき役割を通じてその公共性の問題を考える。現代の社会においては影響力のある表現主体としてマス・メディアの果たす役割は大きい。報道機関は、世界で起きている事実を人々に伝え、人々の意見の形成にかかわる。新聞を中心とした印刷メディアとテレビを中心とした電波メディア、さらに伝達技術の発達により、通信と放送が融合している最近の状況を法的観点から検討する。</p> <p>【キーワード】 表現の自由、マス・メディア、新聞、放送、通信と放送の融合、インターネット</p>	川岸令和(早稲田大学・教授)	川岸令和(早稲田大学・教授)
9	生命・身体と公共性	<p>何にもまして「私的」に思われる生命・身体——しかしそれらをめぐる「生命倫理」が目指すのは、「公共政策における基準策定」でもある。こうした「公」と「私」の交錯は、私たちの生命・身体にとって何を意味するのだろうか。過去と未来の間で検討してゆく。</p> <p>【キーワード】 自己決定権、生命倫理、生権力、生政治、生命科学技術</p>	田中智彦(東京医科歯科大学・准教授)	田中智彦(東京医科歯科大学・准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	労働と公共性	急増する「ワーキング・プア」と後を絶たない「製品偽装」——労働をめぐるこうした問題が起きたのは、労働をたんなる「商品」、消費のための「私的な手段」とみなしてきたことに関係があるのではないだろうか。労働とは何かを「公共性」の観点から再考する。  【キーワード】 労働の義務と権利、贈与と交換、市場、貧困、自己責任	田中智彦(東京医科歯科大学・准教授)	田中智彦(東京医科歯科大学・准教授)
11	社会保障と公共性	社会保障は人びとが相互の生活を支え合うための公共の制度である。社会保障制度の意義を明らかにするとともに、今後債権されるべき社会保障制度の条件と方向についても検討を加えたい。  【キーワード】 社会保障、社会的連帯、福祉国家	齋藤純一(早稲田大学・教授)	齋藤純一(早稲田大学・教授)
12	デモクラシーと公共性	公共性とデモクラシーは不可分の関係にある。排除のない公共の議論は、政治的な意思形成-意思決定が正統であるための条件であり、また、政府に説明責任を求め、その活動を批判的に監査するための条件でもあることを明らかにする。  【キーワード】 討議デモクラシー、民主的正統性、民主的統制、公共的理由	齋藤純一(早稲田大学・教授)	齋藤純一(早稲田大学・教授)
13	ローカルな公共性	地域や地方自治体が直面する公共的価値をめぐる問題について考察する。廃棄物処理場や原子力発電所の立地など、いわゆるNIMBY (Not In My Back Yard) 問題を取り上げる。また「共有地の悲劇」や協調ゲームの含意についても論じる。  【キーワード】 NIMBY問題、迷惑施設の立地、共有地の悲劇、協調ゲーム	神事直人(京都大学・准教授)	神事直人(京都大学・准教授)
14	グローバルな公共性	グローバルな公共性の問題として、温暖化をはじめとする地球環境問題を取り上げる。社会的ジレンマを手がかりに、その発生メカニズムと問題の構造を考察し、個人の立場と政府の立場の両面から解決方法を模索する。  【キーワード】 地球温暖化、生物多様性、社会的ジレンマ、多国間環境協定	神事直人(京都大学・准教授)	神事直人(京都大学・准教授)
15	公共哲学の課題と展望	14回の講義内容を踏まえ、国際社会が直面している諸問題に公共哲学がどのようにアプローチしうるかを明らかにするとともに、親密圏やインターネットなど現代の公共性にとって重要なピククスにも言及する。  【キーワード】 親密圏、インターネット、国際社会、政治的責任	齋藤純一(早稲田大学・教授)	齋藤純一(早稲田大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8930635	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 日本の技術・政策・経営 ('13) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 東 千秋 (放送大学名誉教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 柴山 盛生 (放送大学客員准教授) 〕

【本学担当専任教員 : 岡田 光正 (放送大学教授) 】【

### 講義概要

日本は、科学・技術立国を国の経営方針として、科学・技術により産業を振興し、国民生活の向上を図ろうとしている。国の政策は、どのような分野を推進し、それに関して基礎科学や基盤技術が、大学や産業においてどのように整備されていくのか、その現状を知るとともにその課題を考える。この科目は、日本の産業技術の歴史と現状からこれからの技術のための政策とそれを実現するための経営について、大学院で研究する上での手がかりを提供するものである。そこでは、科学・技術政策と産業の重点分野の動向及び研究開発支援体制を主に、政策から推進体制さらにその成果までを総括的に扱う。

### 授業の目標

現在世界は、経済や産業におけるイノベーションの創出に大きな期待と努力を注いでいる。特に日本では、科学・技術立国にふさわしい人材の育成のみならず一般市民の理解力の向上が急務である。そのための知識の獲得と政策の考え方やその成果が社会にどのように波及するのか、科学論や技術論をふまえて理解するとともに、政策を実現するための企業における技術経営の現状を知り、将来を考える力を養う。

### 履修上の留意点

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	はじめに	科学・技術政策によって経済や産業の成長が促進されるが、その成果をどのように国民生活、組織、社会などの中に浸透させていけばよいか。この科目は、技術経営の観点から技術革新、科学・技術政策、技術管理などにおける様々な課題について考えるための題材を提供するものである。開講に際し、授業の目標や科目の構成を解説するとともに、本プログラムにおける研究の進め方や論文の作成について指導する。 【キーワード】 授業の目標、技術社会の現状、経営戦略の視点、研究の進め方	柴山 盛生 (放送大学客員准教授)	東 千秋(放送大学名誉教授) 柴山 盛生(放送大学客員准教授)
2	科学・技術政策－1 米国の動向	アメリカにおける科学・技術政策の概要を理解する。建国以来、経済的な繁栄を目指していたが、近年において産業競争力を推進する政策をとり、バイオ産業、情報技術産業などの技術が成長している現状を学ぶ。さらに、研究開発に投入する資源が他の国に比べ圧倒的に大きいこと、ベンチャー企業の比重が高く、産業と大学との連携が多くみられるなどの特徴を知る。 【キーワード】 1980年代までの政策、1990年代の政策、21世紀の政策	柴山 盛生 (放送大学客員准教授)	柴山 盛生 (放送大学客員准教授)
3	科学・技術政策－2 欧州の動向	EU加盟各国にはそれぞれの国情や歴史的経緯によって、それに応じた科学技術政策を立案している。一方、経済のグローバル化に対応するため、EU全体としての政策「フレームワークプログラム」が策定されている。これにより、産業技術開発や研究開発インフラを改善するための協力、競争力の維持・強化、科学技術領域での各加盟国間の不均衡の是正、欧州経済発展のための結束の促進などの推進を図っている。 【キーワード】 ドイツの政策、フランスの政策、イギリスの政策、欧州連合の政策	柴山 盛生 (放送大学客員准教授)	柴山 盛生 (放送大学客員准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	科学・技術政策－3 アジアの動向	中国では、高い経済成長を支えるため様々な科学技術政策を実施しているが、特に技術移転と市場メカニズムによってイノベーションを図っている。また、韓国、台湾のように外国から直接投資を受けず自国の技術力を育成することによって成長してきた例と、インドネシア、タイ、マレーシアのように欧米や日本から直接投資を受け入れ急速に拡大した例などがあり、これらの動向を知る。 【キーワード】 中国の動向、韓国の動向、東南アジア諸国の動向	柴山 盛生 (放送大学客員准教授)	柴山 盛生 (放送大学客員准教授)
5	科学・技術政策－4 日本の動向	政府の科学技術政策を総合的かつ計画的に推進するため「科学技術基本法」が成立された。この基本法に基づく5カ年計画の「科学技術基本計画」では研究水準の引き上げ、新産業の創出などを念頭においた独創的・革新的技術の創成に資する研究が強調された。本章から第10章にかけては、平成23年からの5カ年を対象とする第4期科学技術基本計画をもとに、日本の科学政策の現状や経緯について、その重点と課題を読み解く。 【キーワード】 成長の時代、科学技術基本計画、最近の科学技術政策	東 千秋(放送大学名誉教授)柴山 盛生(放送大学客員准教授)	東 千秋(放送大学名誉教授)柴山 盛生(放送大学客員准教授)
6	重点分野の動向－1 ライフサイエンス	ライフサイエンスは、生命現象を解明する科学である。その成果は、医療の発展、食糧問題・環境問題の解決につながるものである。そのテーマにはゲノム研究、脳科学などの生命科学技術から医薬品、再生科学などの臨床研究、微生物研究、食品の安全などの食料生産・供給技術などがあり、それらの技術を概観するとともに人間社会の未来を展望する。 【キーワード】 ゲノム研究、食糧技術、先進医療、ライフイノベーション	東 千秋(放送大学名誉教授)	東 千秋(放送大学名誉教授)柴山 盛生(放送大学客員准教授)
7	重点分野の動向－2 情報通信	情報通信は、産業のインフラ技術として役割の他に電子商取引、電子政府、在宅勤務、遠隔医療など社会生活に重要な基盤となっている。主な研究領域にネットワーク、デバイス、セキュリティ、ヒューマンインタフェース、ロボットなどがある。情報通信政策は国民生活に直接影響する事柄が大きくその影響を考える。 【キーワード】 研究開発領域の概要、海外の情報通信の動向、情報通信政策	柴山 盛生 (放送大学客員准教授)	柴山 盛生 (放送大学客員准教授)
8	重点分野の動向－3 環境	環境分野は、次回のエネルギー利用とも密接に関係している。多様な生物種が生存する自然環境を保全し、人類の生活基盤を維持していくために必要な研究分野である。その中には、地球観測、気候変動予測などの地球環境問題、水・物質循環や流域研究、生態系の管理、省資源・省エネルギー技術の現状、3R技術、バイオマス活用などが含まれている。それらの現状と将来を展望する。 【キーワード】 地球環境問題、自然共生型技術、グリーンイノベーション	東 千秋(放送大学名誉教授)	東 千秋(放送大学名誉教授)柴山 盛生(放送大学客員准教授)
9	重点分野の動向－4 エネルギー	我が国では「エネルギー政策基本法」に基づく「エネルギー基本計画」を定め、エネルギーに関して総合的な計画を進めている。平成23年3月に発生した東日本大震災を踏まえて原子力を含むエネルギー政策の再検討が急務となっている。ここでは、今後想定される電力需給の逼迫と地球温暖化対策のための低炭素化、エネルギー利用の高効率化、スマート化ならびに社会基盤のグリーン化について、研究開発から事業化、社会の普及まで各ステップの具体的な推進方策などの現状を知るとともに、今後の政策や課題を考察する。 【キーワード】 エネルギー基本計画、新エネルギー開発、グリーンイノベーション	東 千秋(放送大学名誉教授)	東 千秋(放送大学名誉教授)柴山 盛生(放送大学客員准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	重点分野の動向－5 ナノテクノロジーと材料	<p>ナノテクノロジー・材料分野は、ライフサイエンス、情報通信、環境などの社会の進展を支える重要な基盤分野である。産業の振興や安心・安全な生活の実現の基盤となる技術である。この物質・材料の研究開発の動向を知るとともに、今後の政策や課題を考察する。</p> <p>【キーワード】 物質・材料、ナノテクノロジー技術、環境調和材料技術、ライフイノベーションとグリーンイノベーションの基盤</p>	東 千秋(放送大学名誉教授)	東 千秋(放送大学名誉教授) 柴山 盛生(放送大学客員准教授)
11	重点分野の動向－6 社会基盤	<p>豊かで安全・安心な社会を実現するため、社会におけるリスクや利便性に関する研究や技術が必要である。社会基盤分野には、地震・噴火などの自然災害の防災、国際的なテロや犯罪などの治安、交通の安全、輸送機関の整備などが含まれている。この分野における最近の話題と産業や技術に関する課題を検討する。</p> <p>【キーワード】 生活の安全、社会基盤とその整備、交通・輸送システム</p>	柴山 盛生(放送大学客員准教授)	柴山 盛生(放送大学客員准教授)
12	技術管理－1 研究開発支援体制	<p>従来、政府の技術開発プロジェクトが、大企業を中心とした研究組合により行われることが多かったが、現在は、公募型の研究によって新規産業の創成につながる研究への助成が増えている。新規産業、ベンチャー育成の中で注目されているのが産学連携である。このような政策の転換とともに、技術経営としての研究開発管理について学習する。</p> <p>【キーワード】 人材育成、研究基盤、産学連携</p>	柴山 盛生(放送大学客員准教授)	柴山 盛生(放送大学客員准教授)
13	技術管理－2 国の政策と地域振興策	<p>地域のイノベーションを促進する施策として注目されているものに地域クラスター政策がある。これは、特定分野における関連企業、関連機関が地理的に集中し、競争しつつ同時に協力している状態を意味する。欧米アジアでは、これを国のイノベーションの推進政策と位置づけ、戦略的に展開されているが日本ではまだ十分発達していない。このような地域振興策の動向を知る。</p> <p>【キーワード】 地域振興施策の経緯、最近の地域振興施策、海外のクラスター</p>	柴山 盛生(放送大学客員准教授)	柴山 盛生(放送大学客員准教授)
14	技術管理－3 研究開発の管理と評価	<p>新しい製品を企画するために、研究開発を担当する人材の管理や事業策定を行う計画管理に関連する事柄について考える。新事業の計画にあたっては、技術の発展状況を示す技術ロードマップの作成などが技術経営の手法として用いられている。高度な技術社会では、特許に代表される知的財産が競争優位性に大きな役割を演じる。このような研究の管理や評価方法について考える。</p> <p>【キーワード】 技術戦略、研究開発の評価の考え方、知的財産・技術情報の整備</p>	柴山 盛生(放送大学客員准教授)	柴山 盛生(放送大学客員准教授)
15	おわりに	<p>政策、産業の動向、技術経営に関連して、組織における技術管理の進め方、技術管理者にとっての知識、意思決定の方法などを考える。そのための技術動向、技術予測、技術情報管理などの最近関心が高い話題と今後の科学や技術あり方を探る。</p> <p>【キーワード】 知的財産に関する政策、政策と産業、特許出願の考察</p>	柴山 盛生(放送大学客員准教授)	東 千秋(放送大学名誉教授) 柴山 盛生(放送大学客員准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8930589	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 行政裁量論 ( ' 1 1 ) = ( R )

〔主任講師 (現職名) : 原島 良成 (熊本大学准教授) 〕  
 〔主任講師 (現職名) : 筑紫 圭一 (上智大学准教授) 〕  
 【本学担当専任教員 : 來生 新 (放送大学副学長) 】

### 講義概要

行政裁量の法的コントロールは、行政法学の主要な理論的関心対象であると同時に、行政実務に携わる者、また過剰・過少な行政的規制に直面しその問題性を追及する者にとって、現実の関心事である。行政裁量論が関係する社会問題の裾野は広く、原子力発電や鉄道事業の認可といった大規模なものから、外国人に対する在留特別許可、産業廃棄物処分場の立地に関する住民運動等、およそ行政的規制の妥当性が問題とされるあらゆる場面に及ぶ。本科目は、そのような具体的関心と結びつけながら、行政法学が蓄積してきた基礎理論を提供し、主要な裁判例を解説し、国内外の最新の話題について分析を加える。

### 授業の目標

行政法理論を現実の社会問題に適用して、自ら思考する能力を養う。

### 履修上の留意点

法学一般に関して、大学教養課程で講じられる程度の基礎知識が求められる。また、行政法理論については、受講前に小型の入門書を読了していることが望ましい。藤田宙靖『行政法入門[第5版]』(有斐閣)が好適である。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	行政法の基礎理論	行政活動を法的に統制する必要性から生まれた「行政法総論」の意義を確認する。「法」による統制ではなく「法律」による統制が行政法総論の基本原則とされていることの意味とその限界を探る中で、行政裁量論の目的と方法を明らかにしていく。  【キーワード】 法律による行政 法の支配 権力分立 行政裁量 適正な行政過程	原島良成(熊本大学・准教授)	原島良成(熊本大学・准教授) 筑紫圭一(上智大学・准教授) ゲスト: 阪本昌成(近畿大学・教授)
2	行政裁量の概念	行政裁量とは何か。また、行政裁量はなぜ存在するのか。行政裁量の意義と存在理由を、具体例を挙げて説明する。  【キーワード】 専門技術的裁量、政治的裁量、地域的裁量、時の裁量	筑紫圭一(上智大学・准教授)	原島良成(熊本大学・准教授) 筑紫圭一(上智大学・准教授)
3	行政裁量に対する制約—行政裁量の有無を中心に	行政裁量は、何を手がかりとして、どのような場合に認められるのか。行政裁量が「法律による行政」の原理の例外に当たるとすれば、どういった場合に「例外」を認めるかは、重要な問題である。①行政裁量の発見方法に関する学説の変遷を示した上で、②実際の紛争事例を取り上げ、行政裁量の有無が問題となる場面を具体的に分析する。  【キーワード】 公共の福祉、許可基準、要綱行政	筑紫圭一(上智大学・准教授)	原島良成(熊本大学・准教授) 筑紫圭一(上智大学・准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	行政処分と裁量	行政処分は、原則として、法律が提示する一定の基準のもとでなされるべきである。しかし、一般的、抽象的な書き振りの法律は、個別具体の案件に適用するに当たり、疑義が生じることがある。すなわち、法律の示すところを一義的に劃定できないことがある。結果として、行政がある枠内で自由に判断しているように見えることがある。それは本当に「自由」なのか。具体例を挙げて検証する。 【キーワード】 行政行為、自由裁量と羈束裁量	原島良成(熊本大学・准教授)	原島良成(熊本大学・准教授) 筑紫圭一(上智大学・准教授)
5	行政立法と裁量	法律の指示するところが曖昧である場合にも、行政処分は一定の基準の下で公平に行われなければならないことに、変わりはない。政令、省令といった行政立法のかたちで、法律の規範内容が充填されることは、時に、法律で明示的に予定されているところでもある。行政処分の場合と対比しながら、また国会の立法裁量との相違も意識しながら、行政立法裁量の特殊性を把握する。 【キーワード】 行政立法、裁量基準、立法裁量	原島良成(熊本大学・准教授)	原島良成(熊本大学・准教授) 筑紫圭一(上智大学・准教授)
6	行政計画と裁量	複雑かつ不確実な世界で公益を擁護する現代行政には、法律から行政立法が生まれ行政処分に到る、という、シンプルなモデルでは説明しきれない事象が多い。長期的な展望の下、規制、誘導に関する諸手法を組み合わせた計画としての法政策に対する需要が、行政国家化を後押ししている。そのような政策立案主体としての役割は、必然的に広範な裁量を要求する。 【キーワード】 行政計画、パブリック・インヴォルヴメント	原島良成(熊本大学・准教授)	原島良成(熊本大学・准教授) 筑紫圭一(上智大学・准教授) ゲスト:川合敏樹(國學院大學・准教授)
7	行政指導と裁量	行政活動を法行為のみで語りつくすことは、到底できない。法的効果を伴わない「事実行為」に対する行政法学の対応は、比較的簡素なものであったが、今日では、行政指導の適法性を中心に裁判例の充実が見られる。行政処分、行政立法における裁量との関連で、行政指導の実際を眺め、その限界を考察する。 【キーワード】 行政指導、法行為と事実行為	原島良成(熊本大学・准教授)	原島良成(熊本大学・准教授) 筑紫圭一(上智大学・准教授)
8	行政裁量概念の再検討(講義前半のまとめ)	行政過程を法律家の問題意識をもって眺めるということは、行政裁量の現象を学びその適正なあり方を構想することにほかならない。行政には、機械的な法律の執行を超えて、公共の福祉を擁護し増進させるという、実に「裁量的」な振る舞いが求められている。行政を縛るはずの法は、そのことをどのように受け止めているか。これまでに見た具体例を整理し、行政裁量概念を再確認する。 【キーワード】 行政過程論 行政の行為形式	原島良成(熊本大学・准教授)	原島良成(熊本大学・准教授) 筑紫圭一(上智大学・准教授)
9	行政裁量統制の仕組み	行政裁量がどこまで認められているのか。これは行政現場で法を執行する職員にとっての切実な関心事であるが、行政裁量の影響を受ける市民の視点からすると、行政裁量をどのように統制し、恣意的専断的な行政にいかにか歯止めをかけるか、ということに、関心が向けられる。そのための手続について、法整備と裁判例蓄積の経緯を踏まえながら、概説する。 【キーワード】 行政手続法、行政不服審査法、行政事件訴訟法	原島良成(熊本大学・准教授)	原島良成(熊本大学・准教授) 筑紫圭一(上智大学・准教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	行政立法の司法審査	従来、行政立法の適法性を訴訟で争う機会は、限定されていた。しかし2004年の改正行政事件訴訟法は、公法上の当事者訴訟として確認訴訟を明記し、行政立法を争う途を拡大したものと期待されている。こうした動向と今後の展望について論じるとともに、行政立法の裁量論を深化させる必要性について述べる。 【キーワード】 白紙委任禁止原則 委任範囲の逸脱 適用前審査 確認訴訟と確認の利益	筑紫圭一(上智大学・准教授)	原島良成(熊本大学・准教授) 筑紫圭一(上智大学・准教授) ゲスト:野口貴公美(中央大学・教授)
11	行政立法の手続的統制	行政手続は、行政機関が裁量を行使する過程に影響を及ぼし、慎重な考慮を確保して恣意的な権限行使を防止したり、国民の意見を反映した合理的な意思決定を促進したりする。2005年に行政手続法の改正で実定法化されたパブリック・コメント手続(行政手続法第6章38-45条)は、行政立法の制定過程に影響を与える、一つの重要な裁量統制手段である。 【キーワード】 パブリック・コメント(意見公募手続) 命令等 恣意抑制機能 争訟便宜機能 市民の参加権 手続的瑕疵	筑紫圭一(上智大学・准教授)	原島良成(熊本大学・准教授) 筑紫圭一(上智大学・准教授)
12	行政立法の議会統制と行政内部統制	行政立法に対しては、司法的統制以外にも、様々な統制が及ぶ。たとえば国会は、法律の制定改廃や各種手続の整備を通じ、行政立法の制定に関与している。また行政内部においても、様々な調整活動が行われており、個々の行政立法もその影響を受けている。ここでは、①国会の統制と行政内部の統制について整理した上で、②今後の展望について若干の検討を加える。 【キーワード】 法律の規律密度 国会の事後承認手続 行政の内部統制	筑紫圭一(上智大学・准教授)	原島良成(熊本大学・准教授) 筑紫圭一(上智大学・准教授)
13	アメリカにおける行政立法の司法審査	行政立法の司法審査は、他国でも重要な問題である。米国では、行政立法の適用前審査を早くから認め、厳格な統制を加えてきた。日本と事情が異なる外国の例を学ぶことは、日本行政法の特徴を把握することに役立つであろう。 【キーワード】 APA(連邦行政手続法) 略式規則制定手続 審査基準(審査密度) 行政記録	筑紫圭一(上智大学・准教授)	原島良成(熊本大学・准教授) 筑紫圭一(上智大学・准教授) ゲスト:古城誠(上智大学・教授)
14	行政立法統制の課題(講義後半のまとめ)	行政立法に対する司法審査は、どうあるべきか。第10回から第13回の授業内容を踏まえつつ、今後の課題について論じる。 【キーワード】 厳格な裁量審査の是非 行政過程の機能不全(硬直化)	筑紫圭一(上智大学・准教授)	原島良成(熊本大学・准教授) 筑紫圭一(上智大学・准教授)
15	行政裁量論の展望	これまでの講義内容を総括し、行政裁量を論じる上で必要な視点を整理する。 【キーワード】 無瑕疵裁量行使義務 説明責任	筑紫圭一(上智大学・准教授)	原島良成(熊本大学・准教授) 筑紫圭一(上智大学・准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8930597	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 20世紀中国政治史研究 ('11) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 西村 成雄 (大阪大学名誉教授) 〕

【 本学担当専任教員 : 高橋 和夫 (放送大学教授) 】

### 講義概要

21世紀に入り、内外ともに政治経済的存在感を高めている中国について、20世紀史的な歴史的視点と現状認識的視点を基軸とし、政治的正統性の磨滅流出過程と新たな正統性構築過程の交錯する局面を分析する。さらに、その制度的基盤との関係性のなかで、政治的正統性の中国的特質を再定義し、今後の政治的変容の諸条件を解明する。

### 授業の目標

アジアの中の日本が、中国という政治的存在をどのように認識してきたのかを含め、100年中国の政治史を一望のもとに俯瞰しうる論理を提起したい。第一に、政治的支配の正統性問題からみた100年中国の変容過程と、第二に、正統性の対外的資源としての国際的地位の変容過程をあきらかにしたい。

### 履修上の留意点

政治学、国際関係論および世界の地域研究に関連する講義の受講を期待する。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	20世紀中国の政治空間 —その国民国家形成と正統性原理—	21世紀に入り、内外ともにその政治経済的存在感を高めている中国について、20世紀史的な歴史的視点と現状認識的視点という複眼的視野のなかに位置づけなおし、現代中国の再認識を試みたい。それは、近代国民国家体制の生成と展開過程、さらに変動過程を、国家の政治的支配の正統性原理と制度化がどのように社会の側に受容され抵抗を受けたのかという分析課題にはかならない。つまり、対内的正統性の磨滅流出、あるいは社会内部からどのように新たな正統性が構築されたのかという政治史としての諸局面をあきらかにしたい。とともに、そうした政治体制変動に影響を与えた国際的条件と対外的正統性の内部化過程についても視野に入れて、20世紀中国政治をとらえなおすことにある。  【キーワード】 国家と社会の政治空間、正統性(legitimacy)、近代国民国家形成、立憲共和制、政党国家(党国)体制、歴史的経路依存、25年周期説、国際的条件	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)
2	長い20世紀のはじまり —国際的条約の内部化と清朝正統性の再調達—	中国世界が世界の中の中国へと移行する中で、1895年の日清戦争の敗北は清朝中枢権力の構造的変容をもたらした。1898年の戊戌変法は長い20世紀の起点であった。清朝は20世紀初頭の10年をかけて、その政治的支配の正統性を再編し、1907年には立憲主義の導入にふみきつた。資政院という国会も開設したが、その正統性はもはや社会に受容されないほどの政治的矛盾のなかにあった。立憲君主制導入の歴史的意味をとらえなおしたい。  【キーワード】 日清戦争、戊戌変法、義和団運動、辛丑和約、新政・憲政、欽定憲法大綱	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	立憲共和制の国家 正統性 — 中華民国北京政府 の政治変動 —	<p>清朝の支配の正統性は、1911年武昌起義のなかで崩壊した。あらたな政治的正統性を提起したのは孫文を中心とする革命派であり、1912年1月南京に中華民国を樹立し、2月には清朝皇帝を退位させた。ここにアジアで最初の立憲共和制国家の誕生があり、1913年には議会が開設された。その後1925年頃までは総統制、議会制、さらに北京政府の対外的対内的正統性が承認されていた。</p> <p><b>【キーワード】</b> 辛亥革命、中華民国臨時政府、孫文、袁世凱、1913年国会、袁世凱帝制、議会制、「護法政府」、連省自治、「軍閥混戦」、1923年「中華民国憲法」、曹錕、北伐戦争</p>	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)
4	中華民国再生への 道 — 新たな国家・政府 正統性構築 —	<p>袁世凱死後の北京政府の正統性を否認して、孫文らは1917年広州に中華民国臨時約法の回復を主張する政府を樹立した。中国国民党による国民政府樹立の1928年までの約10年間は、政府レベルの正統性は事実上の分裂状態となった。1924年国共合作のもとで北京政府打倒をめざし、その後広州、武漢、南京の国民政府が組織され、1926年には対外的にもその正統性を獲得した。</p> <p><b>【キーワード】</b> 国共合作、北伐戦争、広州・武漢・南京国民政府、農民運動、蒋介石、4・12中国共産党弾圧事件、張作霖北京政府</p>	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)
5	中華民国「党国体制」 の正統性 — 政治統合ともう 一つの「党国体制」 —	<p>1928年10月、国民党は「訓政綱領」を決議し、国民党訓政下の中華民国国民政府の樹立を明確にした。国民党が政府と一体化するという「党国体制(政党国家ともいう)」の政治的経路が創出された。その実施過程には中国共産党鎮圧作戦も含め曲折があったが、蒋介石への権力集中がすすみ、「南京の10年」といわれる国家建設と国民統合政策が展開した。この間、1931年満洲州事変後の民族的抵抗は中国政治のあらたな正統性根拠となった。他方、中国共産党は1931年中華ソビエト共和国を樹立し、中華民国と対抗した。</p> <p><b>【キーワード】</b> 訓政綱領、中華民国訓政時期約法、党国体制、「圍剿」、満洲州事変、国際連盟、「南京の10年」、中華ソビエト共和国</p>	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)
6	「党国体制」下の憲 政移行プログラム — 「五五憲法草案」と 西安事件 —	<p>1928年10月の中国国民党「訓政綱領」と31年6月の国民会議制定になる「訓政時期約法」は、中華民国憲法に準じる根本法の制定であった。それらは、国民の政治的代表をア・プリオリに中国国民党を等置した「政党国家体制＝党国体制」を法的に確認したものであった。訓政時期約法は「人民」自身が主権を行使しえない「党治」(訓政論)として規定された。中国国民党を「国民代表」として擬制することによってその支配の正統性を確保しようとした。しかし、約法そのものが、「憲政への準備段階」にあることを明文化していたこともあって、1932年12月には立法院院長孫科を責任者とする「憲法起草委員会」が国民政府内に組織され、1936年5月5日に「憲法草案」が公布された。これは、憲政運動のひとつの到達点であった。「憲法草案」第4条の領土規程に、東北四省の回復を明記したことは「西安事件」の契機でもあった。</p> <p><b>【キーワード】</b> 憲法起草委員会、孫科、憲政運動、「五五憲草」、国民大会代表選挙、西安事件、張学良</p>	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)
7	日中戦争と国民政府 正統性のゆらぎ — 「国民参政会」の 新経路 —	<p>日中戦争が本格化したもつとで、国民政府を指導する国民党にとって、全民族的抵抗をどう組織するかが重要な政治的課題となった。1937年には第二次国共合作を実現した。1938年設置された国民参政会は、中国共産党などの党派も参加しうる事実上の政治的なプラットフォームとして機能した。と同時に、国民参政会は、国民党訓政そのものの基盤をゆるがし、連合政府樹立プランすら提起され、これが新たな中国政治の正統性の創出につながった。</p> <p><b>【キーワード】</b> 第二次国共合作、国民参政会、1944年連合政府論</p>	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
8	戦後中国における二つの正統性の相克—その政治的帰趨—	<p>第二次世界大戦の終結とともに、中国政治空間には「三国五方関係」という構造が生まれた。アメリカ、中華民国、ソ連の三ヵ国と、中華国内の中国国民党、中国共産党、第三政治勢力という三方関係がアメリカやソ連と関係する五方関係の政治的対立が明確となった。この政治的構図は、1945年10月の重慶会談、46年1月の政治協商会議を経た多党派による聯合政府論と、46年11月国民党による訓政下の国民大会開催によって、明瞭に対立する二つの正統性として示された。国共内戦の軍事的帰趨は、中共軍の48年11月の東北解放を契機に、中国共産党指導下の、新国家建設のための新政治協商会議路線が推進され、中華民国とは異なる新たな国家・政府正統性を獲得することになった。</p> <p><b>【キーワード】</b> ヤルタ会談、ポツダム会談、重慶会議、政治協商会議、憲法制定(制憲)国民大会、中華民国憲法、三大戦役、新政治協商会議</p>	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)
9	中華人民共和国の国家正統性構築—「冷戦」から「中ソ対立」への17年—	<p>ソ連社会主義圏の一員として参入した中華人民共和国は、朝鮮戦争への動員を通じて、社会主義圏内および国内的にその政治的正統性を確立した。1957年以降、スターリン死後のソ連とは異なる社会主義への道を主張し中ソ対立にまですすんだ。この間の社会主義的経済建設によって国有経済の優位するシステムの構築と、政治権力の中国共産党への集中をはかった。建国当初の民主党派を含んだヘゲモニー政党制から事実上の一党制へと転換した。さらに政治的に毛沢東個人の優越的地位を認める段階へと移行した。</p> <p><b>【キーワード】</b> 中華人民共和国、朝鮮戦争、54年憲法、社会主義的改造、中共八全大会、大躍進、人民公社、中ソ対立</p>	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)
10	「文化大革命」の正統性資源とその崩壊—毛沢東政治の臨界点—	<p>1966年にはじまる「プロレタリアート文化大革命」は、党というより毛沢東個人への忠誠を前提とした一元的政治支配体制に移行し、政治経済的、さらには社会的混乱を生みだした。国際的にはソ連に対抗する必要性のなかで、1972年には対米国交回復へ転換した。その前年、中華民国に替わって国際連合の常任理事国として国際社会に復帰した。しかし、毛沢東の国内政治は、その極限にまでゆきつくなかで、毛沢東派と、中共党組織の回復をはかる現実主義的政治勢力の対抗を生みだした。76年9月毛沢東の死を契機に、その個人に集中した政治支配の正統性は崩壊し、現実主義的な党の担い手が復活し、新たな支配の正統性を再調達することになった。</p> <p><b>【キーワード】</b> プロレタリアート文化大革命、紅衛兵、革命委員会、林彪事件、国連議席回復、中米・中日国交回復、四人組、周恩来、鄧小平、毛沢東の死、三中全会</p>	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)
11	ポスト毛沢東・鄧小平時代の幕開け—華国鋒からの実権奪取と改革・開放路線のスタート—	<p>毛沢東後の最高指導者に就いた華国鋒だが、毛沢東を絶対化し、固守することで、政権掌握の正統性の根拠としたが、自ずと限界があった。逆に毛沢東を否定することで、台頭したのが鄧小平だった。軍権を掌握し、「2つのすべて」を論破したことで、鄧小平は1978年の11期3中全会で実権を奪取した。そして後に高度経済成長へとつながる改革・開放路線がスタートした。鄧小平は、「4つの基本原則」を提唱し、「党と国家の指導制度の改革について」で政治制度改革の方針を明らかにした。この2つは、その後の党の指導の基礎をなすものとなった。</p> <p><b>【キーワード】</b> 「2つのすべて」、「真理の基準」論争、名誉回復、11期3中全会、改革・開放、4つの基本原則、「党と国家の指導制度の改革について」「歴史決議」</p>	佐々木 智弘 (日本貿易振興機構・アジア経済研究所・地域研究センター副主任研究員)	佐々木 智弘 (日本貿易振興機構・アジア経済研究所・地域研究センター副主任研究員)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
12	改革・開放の進展と 六四天安門事件 —鄧・胡・趙のトロイ カ体制と長老の抵抗—	<p>改革・開放が進展し、市場か計画かのイデオロギー対立が生起すると、改革派は胡耀邦や趙紫陽らの推進派と長老らの慎重派に分かれた。そして社会からの民主化要求がおこると、改革派内の分裂に党の指導の是非をめぐる対立が反映され、政治闘争にエスカレートした。それはさらにポスト鄧小平をめぐる権力闘争へと転化したのが、1986～1987年のブルジョア自由化反対闘争と1989年の六四天安門事件であり、胡耀邦と趙紫陽が失脚の憂き目を見たのである。</p> <p>【キーワード】 ブルジョア自由化反対、精神汚染一掃、政治体制改革、六四天安門事件</p>	佐々木 智弘 (日本貿易振興機構・アジア経済研究所・地域研究センター副主任研究員)	佐々木 智弘 (日本貿易振興機構・アジア経済研究所・地域研究センター副主任研究員)
13	六四天安門事件の後遺症と市場経済化の進展 —鄧小平時代の終焉—	<p>六四天安門事件後、趙紫陽を失脚させた慎重派の攻勢が続き、さらに国際的な対中制裁も加わり、改革・開放は一時的にストップした。鄧小平は1992年初頭の南巡講話を機に流れを改革・開放の加速に転じた。総書記就任当初はリーダーシップにかけた江沢民だったが、第14回党大会で社会主義市場経済を掲げ、改革路線の継承を宣言し、最高指導者としての権威の確立に邁進した。そして1997年2月、鄧小平が死亡し、改革・開放を突き進んだ鄧小平時代は終焉を迎えた。</p> <p>【キーワード】 平和的転化、南巡講話、社会主義市場経済、中央の権威、軟着陸、国有企業改革、WTO加盟、鄧小平理論</p>	佐々木 智弘 (日本貿易振興機構・アジア経済研究所・地域研究センター副主任研究員)	佐々木 智弘 (日本貿易振興機構・アジア経済研究所・地域研究センター副主任研究員)
14	新たな一党支配の正統性の模索 —江沢民「三つの代表」と胡錦濤「調和社会」—	<p>新たな最高指導者、江沢民と胡錦濤は、市場経済化、グローバル化、社会階層の変化に対応した新たな一党支配の正統性の模索を迫られた。江沢民は「3つの代表」重要思想を提示し、階級政党から国民政党への転換を打ち出したかに見えたが、政権安定のために台頭する私営企業家の共産党への取り込みを図り、エリート政党色を強めた。胡錦濤は「調和社会」の構築を掲げ、社会の不安定要素となっている格差の縮小を政権の至上命題としている。この弱者重視の「調和社会」の実現が共産党の新たな一党支配の正統性になりうる可能性を有している。</p> <p>【キーワード】 三大改革、三つの代表、格差、調和社会、科学的発展観、党内民主、エリート、非エリート</p>	佐々木 智弘 (日本貿易振興機構・アジア経済研究所・地域研究センター副主任研究員)	佐々木 智弘 (日本貿易振興機構・アジア経済研究所・地域研究センター副主任研究員)
15	21世紀中国における政治的正統性変容の諸条件	<p>2001年12月のWTO加盟承認が、鄧小平政治の経済的配当として国際的に振り込まれたとすれば、それは20世紀、100年中国の政治的帰結点でもあった。第4四半世紀段階の中国政治空間は、経済的中間層の生成と蓄積を社会的基盤として、新たな政治的正統性を制度化する可能性を内在させている。と同時に、この間の経済的格差の増大に象徴される社会的経済的矛盾の激化が、どのような新たな政治的課題を生みだしているのかに注目したい。もちろん、政治共同体内の民族問題や台湾との関係が国際問題化する条件もあり、それらを含めた総合的かつ内在的中国理解が必要となっている。</p> <p>【キーワード】 中華人民共和国の歴史的位置、政治的正統性の変容、「党政関係」、WTO加盟</p>	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)	西村 成雄 (大阪大学名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2015年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8930686	履修 制限	有	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 地域の発展と産業 ( ' 15 ) = (R)

英文名 = [ Area Development and Industries ( ' 15 ) ]

[主任講師 (現職名) : 河合 明宣 (放送大学教授) ]

[主任講師 (現職名) : ]

【本学担当専任教員 : 】

#### 講義概要

私たちの生活や生産活動にとっての地域の役割が重要度を増している。これは、グローバル化の中で大きな影響を被った個々の生活及び生産活動の見直し、立て直しを図ることが主要な背景の一つとなっている。地域とは何かを考えるために、今日までに蓄積されてきた地域研究を振り返る。次いで、幾つかの研究手法(ディシプリン)に基づいた地域の理解を具体的に学習する。内発的発展、発展途上国における参加型農村開発等に関する論点整理を通して、対象とする現場において、「地域」の発展に関わるアクター(担い手)を捉え、持続可能な発展(開発)が求められる21世紀の地域像を考えてみたい。

#### 授業の目標

地域に関わる研究は、幾つかの流れがある。ディシプリン(方法論)の違いに分けて先行研究をサーベイする。地域は、地球、国際、世界さらに国家や経済、産業、社会等のように広大で抽象度が高く、見えない存在ではない。関心と方法を持てば、地域を把握しうる。地域は、私たちが一員として生活し、地域のあり方を決める決定に参加しうる身近な単位である。紹介する幾つかの事例から、地域にどのように関わるかについても学んで欲しい。

#### 履修上の留意点

「地域の発展と産業('11)」の単位取得者は履修不可。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	地域研究とは	わが国における地域研究は、戦後復興を経て1960年代にアジア経済研究所や国立大学に新設された研究所等で始まった。こうした地域研究の背景、その後の成果、提起された課題等をサーベイする。  【キーワード】 地域研究、日本の地域研究、地域研究対象	河合 明宣 (放送大学教授)	河合 明宣 (放送大学教授)
2	地域の研究・地域の再生	戦後日本の地域研究は、外交や通商政策上の必要性から推進された側面を持っている。一方、こうした戦後地域研究の広がりや深まりから地理学、歴史学、水利学、農学等を基礎に発展途上国への国際協力研究に一定の蓄積が見られた。こうした研究動向を概説する。  【キーワード】 開発途上国研究、国際協力研究	河合 明宣 (放送大学教授)	河合 明宣 (放送大学教授)
3	日本における地域史研究と「地元学」の展開	1970年代以降、県史、次いで町村史刊行事業と資料収集及び文書館創設という行政主導の地域研究が展開した。他方で、水俣の反公害闘争や過疎の農村地域再生という切実な課題解決を指向する「地元学」や「地域学」等が各地から生まれている。1990年代には、市町村レベルで郷土資料館等、地域をよく知るための場が生み出されるようになる。この動向を見る。  【キーワード】 地方史編纂、郷土資料館、地元学	河合 明宣 (放送大学教授)	河合 明宣 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	内発的発展論と環境論	海外を対象とした地域研究の進展と、並行する形で国内では東北学等を先駆して「地域学」や「地元学」が提唱されてきた。内発的発展論は、海外と国内の地域研究における共通点を持つ。内発的発展論の主要な課題を整理する。  【キーワード】 環境、公害、市民社会	河合 明宣 (放送大学教授)	河合 明宣 (放送大学教授)
5	環境保全と地域社会—環境社会学—	環境社会学による地域の把握は何に注目し、いかなる発展を目指すのか。環境を把握する方法や、地域づくりの担い手との連携のありかたを現場での経験を通して述べる。  【キーワード】 環境社会学、高度経済成長、全国総合開発計画、範域的な地域、関係的地域	古川 彰 (関西学院大学大学院教授)	古川 彰 (関西学院大学大学院教授)
6	地域とその変化についての理解—地理学—	地域の把握においてはその地理的特徴を理解しておくことが基本となる。地理学は、気候、植生、土壌、産業、都市・農村、民族、政治等の分布を空間として捉えるのみならず、空間的相違の構造、時間的変化の把握においても研究を積みあげている。地理学による地域とその構造、歴史的变化の捉え方について述べる。  【キーワード】 地域の把握、構造の把握、歴史的变化の把握	月原 敏博 (福井大学教授)	月原 敏博 (福井大学教授)
7	マングローブ林の地域生態史—生態環境論—	私たちの消費行動が遠く離れた海や森の生態系を脅かすことがある。生産地域での持続的な生物資源利用の実現は簡単ではないが、まずは地域の個々の生産活動を見直していくことが重要である。本章では、タイのマングローブ林とエビ養殖を事例にして、地域生態史を辿り、生物資源利用のあり方を展望する。  【キーワード】 熱帯林、エビ養殖、生物資源利用、地域の履歴	竹田 晋也 (京都大学大学院准教授)	竹田 晋也 (京都大学大学院准教授)
8	集落(自然村)形成史—歴史学—	地域研究における歴史的把握の意義を述べる。土地や災害、環境等について歴史的記述は可能である。ここでは、地域が継承している制度として集落、最も住民に近い地方行政(基礎単位)について、バングラデシュを事例として説明する。  【キーワード】 ユニオン史、集落論、集落組織、バングラデシュ	河合 明宣 (放送大学教授)	河合 明宣 (放送大学教授)
9	バングラデシュの環境問題—実践型地域研究—	地域の開発問題などの問題は二律背反の論理を持つ場合が多い。問題を外側から論理的に分析する外的分析法ではなく、問題を直観的に捉える内的分析法により二律背反の論理を超越する論理が構築されなければならない。本章はバングラデシュで実施された環境問題というグローバル・イシューへの地域レベルで実践的な活動を行っている現地NGOと協働実施したPLA(参加型相互学習実践法)による実践型地域研究の具体的な事例紹介である。  【キーワード】 在地の自覚、当事者性、環境問題、社会ニーズ、実践型地域研究、バングラデシュ	安藤 和雄 (京都大学准教授)	安藤 和雄 (京都大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	在地の絶対肯定—農村研究の視点—	日本の離島、中山間地域の農村では、過疎化、少子高齢化、農業離れ、放棄田化が進み、多くの農村では集落コミュニティの維持さえも困難になりつつある。本章ではこの問題を引き起こした本質的原因を考える。この悲しむべき日本の農村開発で起きた事実を反省し、発展途上国の農村開発に活かしていこうという在地の絶対肯定の哲学が農村研究や農村開発関係者に強く求められる。  【キーワード】 在地の自覚、在地の絶対肯定、過疎、放棄田、中山間地、農村開発	安藤 和雄 (京都大学准教授)	安藤 和雄 (京都大学准教授)
11	地方行政・地方自治体・地域住民	Bangladeshにおける基礎単位としてのユニオンの歴史的変遷を軸に、郡—県—国に編成される中央—地方関係を論ずる。  【キーワード】 Bangladesh、住民参加型農村開発、リンク・モデル	河合 明宣 (放送大学教授)	河合 明宣 (放送大学教授)
12	地域発展の理念	ブータンが国際社会に登場した1960年代から2008年成文憲法発布、総選挙実施による地方議会(県/郡二議会)制導入にいたる半世紀を概観する。国家統治体制整備と住民参加による地方自治が段階的、並行的に進行した経緯を述べる。環境保全重視の発展理念と政策決定におけるリーダーシップに注目する。  【キーワード】 国民総幸福(GNH:Gross National Happiness)、地方議会、ブータン	河合 明宣 (放送大学教授)	河合 明宣 (放送大学教授)
13	地域発展の基礎単位	国家レベルでの資源配分は様々な配慮を経て、地方に渡る。地方で得た資源と中央から配分された資源の利用は地域の発展計画に基づいてなされる。環境や貧困等のグローバルな課題を含め、住民参加型政策決定のあり方を考える。  【キーワード】 地産池消、自然と人間の共生、住民参加型決定	河合 明宣 (放送大学教授)	河合 明宣 (放送大学教授)
14	国家・自治体・市民組織—ブータンの市民社会組織を事例として—	共同問題の共同解決の場として生活する場所である地域に焦点を絞り込んで話を進めて来た。地域から広域に再び手が届く領域がある。市民社会を通ずる大きなCDのサイクルである。この点でNGO、NPO、地縁組織、市民社会組織などの役割を扱う。  【キーワード】 NGO、市民社会組織、地縁組織、キャパシティデベロップメント(CD)	河合 明宣 (放送大学教授)	河合 明宣 (放送大学教授)
15	地域産業論	現代において生活するために必要な活動は産業である。地域における産業のあり方は、生活の質、生活し消費する住民の満足感に影響を与える。この点に関連させて地域の持続性を論ずる。  【キーワード】 日本の発展、アジアの発展、持続的発展	河合 明宣 (放送大学教授)	河合 明宣 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8930627	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 産業立地と地域経済 ('12) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 松原 宏 (東京大学大学院教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 〕

【本学担当専任教員 : 原田 順子 (放送大学教授) 】【

### 講義概要

産業立地と地域経済に関する基礎理論を解説するとともに、現代の産業立地と地域経済の特徴を整理し、新たな検討課題を考える。講義の前半では、農業、工業、商業・サービス業の順で産業立地論の基礎理論と現代的な立地への応用、地域経済や地域経済循環の捉え方について、事例をあげながら検討する。後半では、グローバリゼーションとローカリゼーションの局面に分けて、それぞれ産業立地や産業集積の特徴、地域経済への影響を論じ、最後に立地政策と地域政策の理論・歴史・課題を検討する。

### 授業の目標

産業立地の基礎理論である古典的立地論と、経済地理学による地域経済や地域経済循環の捉え方を修得する。その上で、最近の産業立地や地域経済の実態を取りあげ、それらの理解を深めるとともに、政策的課題を構想し、政策を立案する力を養成する。

### 履修上の留意点

特になし

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	産業立地と地域経済の課題	科目全体の導入回として、産業立地と地域経済の課題について、論点を提示するとともに、科目の到達点の提示を行う。同時に、科目の構成と授業の進め方を示しておく。  【キーワード】 地域問題、地域間格差、地域の自立、地域の競争力	松原 宏 (東京大学大学院教授)	松原 宏 (東京大学大学院教授)
2	農業立地の基礎理論	農業立地の基礎理論として、チューネンの農業立地論の内容を紹介する。あわせて、現代農業の立地に関する新たな観点を整理し、農業立地論の今後の課題を提示する。  【キーワード】 チューネン圏、距離、輸送費、地代、複数市場、農産物自由化、産直、食の安全性、フードシステム	松原 宏 (東京大学大学院教授)	松原 宏 (東京大学大学院教授)
3	工業立地の基礎理論	工業立地の基礎理論として、ウェーバーの工業立地論の内容を紹介する。あわせて、現代工業の立地に関する新たな観点を整理し、工業立地論の今後の課題を提示する。  【キーワード】 立地因子、立地条件、輸送費指向、原料指数、労働費指向、集積、立地原則、次最適立地、立地単位、企業の地理学	松原 宏 (東京大学大学院教授)	松原 宏 (東京大学大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	商業・サービス業立地の基礎理論	<p>商業・サービス業立地の基礎理論として、クリスタラーの中心地論およびレッシュの経済立地論の内容を紹介する。あわせて、現代商業・サービス業の立地に関する新たな観点を整理し、商業・サービス業立地論の今後の課題を提示する。</p> <p>【キーワード】 中心地、財・サービスの到達範囲、上限、下限、階層規定財、市場原理、交通原理、行政原理、消費者行動論、ドミナント戦略</p>	松原 宏 (東京大学大学院教授)	松原 宏 (東京大学大学院教授)
5	地域経済の理論と地域経済循環	<p>地域経済に関するこれまでの諸説を検討し、それらに代わる経済地域の考え方を紹介する。あわせて、ヒト・モノ・カネ・情報の地理的流動に関する議論を紹介し、それらを総合化した地域経済循環モデルについて解説する。</p> <p>【キーワード】 自治体経済論、地域経済論、地域経済循環、局地的市場圏、地域社会論、マネーフロー、情報拡散理論</p>	松原 宏 (東京大学大学院教授)	松原 宏 (東京大学大学院教授)
6	雇用・労働の経済地理学	<p>欧米の経済地理学では、これまで副次的な扱いであった雇用・労働に焦点を当てた新たな研究潮流が生まれている。こうした「労働の地理学」の骨子を解説したのち、それを踏まえて戦後日本の労働市場を高度成長期、安定成長期、低成長期に分けて分析する。</p> <p>【キーワード】 労働の地理学、労働市場の社会的調整、労働力移動、企業内地域間分業、地域労働市場、間接雇用</p>	中澤高志 (明治大学教授)	中澤高志 (明治大学教授)
7	グローバリゼーションと立地	<p>グローバル競争の下での産業立地、とりわけ多国籍企業の立地について、理論と実態の解説を行う。多国籍企業と場所の関わりについて検討する。</p> <p>【キーワード】 多国籍企業、プロダクトサイクル論、折衷理論、相互浸透論</p>	宮町良広 (大分大学教授)	宮町良広 (大分大学教授)
8	グローバリゼーションと地域経済	<p>地域経済統合の進展、グローバル化による地域経済の変化について、理論と実態の解説を行う。多国籍企業が受け入れ地域の経済に及ぼす影響についても説明する。</p> <p>【キーワード】 地域経済統合、レギュレーション理論、グローバル・ローカル関係論、「グローカル化」</p>	宮町良広 (大分大学教授)	宮町良広 (大分大学教授)
9	ローカリゼーションと産業集積論	<p>古典的産業集積論から新産業集積論にいたる代表的な理論を紹介するとともに、現代産業集積に関する新たな観点を整理し、産業集積論の今後の課題を提示する。</p> <p>【キーワード】 産業地区、柔軟な専門化、ミリュー、新産業空間、取引コスト論、産業クラスター、ダイヤモンドモデル、文化産業集積、都市集積</p>	松原 宏 (東京大学大学院教授)	松原 宏 (東京大学大学院教授)
10	立地調整論	<p>新設、閉鎖、移転、現在地での変化に着目する立地調整論の内容を紹介するとともに、最近の日本の工場立地動向や機能変化について、解説を行う。</p> <p>【キーワード】 組織論的立地論、企業文化、スクラップ・アンド・ビルド、研究開発機能、空洞化、国内回帰</p>	松原 宏 (東京大学大学院教授)	松原 宏 (東京大学大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	先端産業の立地と集積	産業構造、生産システム、企業組織の変化をふまえ、先端産業の立地と集積について、実態を紹介するとともに、理論的課題を提示する。  【キーワード】 R&D、知的財産、オープン化とブラックボックス化、設備投資競争、共立地	近藤章夫 (法政大学教授)	近藤章夫 (法政大学教授)
12	情報・知識の地理的流動と地域イノベーション	情報経済、知識経済の下でのサービス業の立地やオフィス立地の変化について、理論と実態を紹介する。あわせて、知識の地理的流動に関する諸説を紹介し、地域イノベーションの問題点や課題について考える。  【キーワード】 生産者サービス、消費者サービス、CBD、都市システム、暗黙知、形式知、知識ベース	松原 宏 (東京大学大学院教授)	松原 宏 (東京大学大学院教授)
13	産業立地政策・地域政策の基礎理論	地域政策に関する諸理論を解説しつつ、産業重視の地域政策論から地域重視の地域政策論に理論内容が変わってきたことを示す。あわせて、今後の理論的検討課題を提起する。  【キーワード】 移出ベース理論、開発経済学、成長の極理論、新産業地域論、産業クラスター政策	松原 宏 (東京大学大学院教授)	松原 宏 (東京大学大学院教授)
14	日本の産業立地政策・地域政策	日本の産業立地政策と地域政策の歴史的展開を整理するとともに、広域ブロック政策を中心に、今後の政策的課題を提示する。  【キーワード】 新産業都市、テクノポリス、産業クラスター計画、企業立地促進法、全国総合開発計画、国土形成計画、広域ブロック政策	松原 宏 (東京大学大学院教授)	松原 宏 (東京大学大学院教授)
15	産業立地と地域経済の展望	これまでの授業をふりかえり、産業立地と地域経済に関する理論・実態・政策のまとめを行う。あわせて産業立地と地域経済を総体として扱うことの重要性を指摘し、今後の検討課題を提示する。  【キーワード】 経済地理学、地域構造	松原 宏 (東京大学大学院教授)	松原 宏 (東京大学大学院教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8930651	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 自治体ガバナンス ('13) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 稲継 裕昭 (早稲田大学教授) 〕  
 【 本学担当専任教員 : 山岡 龍一 (放送大学教授) 〕

### 講義概要

分権改革後の自治体は、自治体運営(ガバナンス)の主体としての責任がますます大きくなりつつある。他方で、財政悪化という条件の下で自治体の取り得る政策選択肢も無制限ではない。こうした状況にあつて、自治体がいかなる住民サービスをどの程度提供するか、その政策システムを構築するかは、自治体の政策当局のガバナンスの課題である。政治学・行政学の研究成果を活かしつつ、現場の実験的試みも紹介しながら、この主題に取り組む。

### 授業の目標

自治体のガバナンスを分析するための様々な知見を紹介し、そうした分析方法を理解し身につける。そのため、多くの研究者へのインタビューを想定している。また、先進的自治体で試みられている様々な自治体ガバナンスの取り組みを紹介し、新たな自治体間のネットワークの構築を試みる。

### 履修上の留意点

自治体の直面する諸課題について、性急な回答やノウハウを求めることよりも、理論的・歴史的な考察を踏まえつつ検討することが望まれる。その意味では、学部の政治学・行政学関係の諸科目を履修していることが望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	自治体ガバナンス	講義全体のイントロダクション。住民とその公選代表である首長やその他の執行機関、もう一つの住民代表である議会。自治体の活動は誰がどのように行っているのか、誰がガバナンスの責任者なのか、ひいては、自治体は誰のものなのかを考える。また、自治体の活動はあるサイクルを持って展開される。4年毎に行われる選挙のサイクルと、1年毎に編成される予算のサイクル、個別政策のサイクルがある。これらがどのように交錯するのかについて検討する。 【キーワード】 ガバナンス、ネットワーク、自治体の役割、協働、政治サイクル、予算サイクル	稲継	稲継
2	国と地方の関係	国と地方の関係は、1990年代以降大きく変わりつつある。包括的自治体ガバナンス改革としての分権改革の実績と課題について検討する。今後の国と地方の在り方考える。 【キーワード】 国と地方の行政事務の分担、天川モデル、地方分権推進委員会、地方分権一括法、政策の窓、三位一体改革、未完の分権改革	稲継	稲継
3	自治体の制度	憲法と地方自治法にある現行の自治体の制度とその歴史的背景を説明する。とくに、都道府県と市町村の制度とその特例、中央政府と自治体の関係などを中心とし、自治体制度と民主主義の発展の関連について考える。 【キーワード】 二層制、市町村合併、融合型と分離型、内務省一府県システム、画一化と多様性、西尾私案	稲継	稲継

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	議会と議員	自治体議会の制度と議員の役割などについて考える。これとの関連で自治体の選挙制度やその実際、法律と条例の関係、住民投票や直接請求などの制度的な直接参加の仕組みについても考える。  【キーワード】 議会の役割、標準規則、議員報酬、議会と住民参加、地方議会改革	稲継	稲継
5	首長と執行機関	自治体の首長と執行機関の関係について考える。公選首長の意義と実際について説明し、内部部局の編成原理や自治体の政策過程、意思決定プロセスなどについても言及する。  【キーワード】 首長制、執行機関多元主義、自治体の統轄・代表、多選、マニフェスト、行政委員会法定主義、教育委員会制度	稲継	稲継
6	自治体の組織	首長を支える行政機構について考える。組織編制はどのような観点からなされるのか。県や市の実例を示すと共に、県レベルにおける組織が多様化していることを見る。  【キーワード】 制限列举主義、概括例示主義、自治組織権、標準局部例、縦の職務階層、組織のフラット化、グループ制	稲継	稲継
7	二元代表制	二元代表制のもとで、首長と議会はどのような抑制・均衡の関係にあるのかをみる。また、首長選挙では国政与野党の相乗り候補が多いことを、上の抑制・均衡の観点から考える。さらに、議会代表を首長にするような議会内閣制の議論を紹介する。  【キーワード】 二元代表制、機関対立主義、再議制度、不信任議決、専決処分、議会内閣制	稲継	稲継
8	人事行政	自治体職員の採用・研究・昇進・退職など、人事全般に関する問題を、自治体職員と国家公務員との対比などを盛り込みつつ考える。自治体職員に必要な専門能力との関連で、政策法務の問題なども扱う。  【キーワード】 地方公務員の種類、職員採用、配置と異動、昇進制度、人事交流、給与体系	稲継	稲継
9	税財政構造と予算管理	マクロな税財政構造を説明した上で自治体の予算編成をめぐる問題を考える。歳入と歳出について基本的な理解を得ると共に、予算編成のスケジュールと決算過程、および最近の自治体における予算改革について理解する。  【キーワード】 地方交付税、国庫支出金、地方税、地方債、予算編成、自治体財政健全化法	稲継	稲継
10	自治体改革	分権改革と並行して進められた自治体自体の改革の諸様相を考える。NPM理論に基づく考え方、エージェンシー化、指定管理者制度などの具体的事例についても検討する。  【キーワード】 行政評価、PFI、指定管理者制度、市場化テスト、NPM (ニュー・パブリック・マネジメント)	稲継	稲継

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	自治体と市民参加、 コミュニティ	自治体とコミュニティの関係を、住民組織やNPOの役割、住民参加と情報公開のあり方、などについても検討する。  【キーワード】 直接民主主義、市民参加、住民運動、参加のレベル、協働、NPO、新しい公共、コミュニティ、町内会、中間団体、ソーシャル・キャピタル	稲継	稲継
12	福祉政策と自治体	自治体の福祉行政をめぐる問題を考える。これからの高齢社会と少子社会における福祉政策の中心となる、地域福祉計画と介護保険事業との関係を考える。さらに、福祉におけるガバナンス改革とボランティアズムについて理解を深める。  【キーワード】 福祉の磁石、福祉政策の展開、生活保護、第一線公務員	稲継	稲継
13	自治体のネットワーク	自治体の近隣自治体との関係、市長会や議長会など自治体間の水平的全国組織や国際組織など、自治体の「ネットワーク」と政策との関連をめぐる諸問題を検討する。  【キーワード】 広域行政、地方六団体、姉妹都市、国際協力、政策ネットワーク、政策波及、政策革新	稲継	稲継
14	地方自治の歴史	「地方自治は民主主義の学校」という理念が語られるが、実際の地方自治の歴史はどうであったのか。地方自治の歴史をたどりながら、理念と現実について検討する。  【キーワード】 大区小区制、三新法、市制町村制、府県制一郡制、占領改革、内務省解体、シャープ勧告、逆コース、新中央集権、革新自治体、行政の守備範囲論	稲継	稲継
15	国際比較	日本の地方自治のあり方の特質を明らかにするには、諸外国の地方自治との比較検討が必要である。ヨーロッパにおける地方自治をめぐる動きやアジアでの動きと比較しながら、日本の自治体の特質を考える。そのうえで、最終回として自治体ガバナンスは誰の責任か、誰のものかについて改めて考える。  【キーワード】 英米型と大陸型、自治体機構の国際比較、連邦制国家と単一主権国家、分離型・融合型、内政の総括官庁、活動量、ウルトラ・バイレースの法理	稲継	稲継

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8930619	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = パーソナル・ネットワーク論 ('12) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 森岡 清志 (放送大学教授) 〕  
 〔主任講師 (現職名) : 〕  
 【本学担当専任教員 : 】【

### 講義概要

諸個人の意識や行動を理解するために、長い間、社会学は集団の中の個人の地位と役割に焦点をあててきた。しかし1960年代以降、人びとは次第に集団への帰属を薄め、集団から離れて、他者とのつながりの中で生活を営む場面を増大させてきた。パーソナル・ネットワーク論は、このような事態に対応して、人と人とのつながり、すなわちパーソナル・ネットワークに注目し、その構成や規模、接触頻度や密度などの構造が、諸個人の態度や行動を規定する側面と、社会構造的特性がネットワークを規定する側面との両面を対象として実証的研究を展開させている。この科目では、パーソナル・ネットワーク論に特有の視点とアプローチ、研究成果を紹介し、今後の発展の可能性について論じる。

### 授業の目標

パーソナル・ネットワーク論の視点と方法を学習することによって、受講生一人一人が自身をとりまくパーソナル・ネットワークを全体的に捉え、ネットワークからの影響や自身のネットワークへの働きかけを相対化し、自身の態度や行動への内省的理解を深めるための一つのきっかけとなることを目標とする。

### 履修上の留意点

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	パーソナル・ネットワーク論の視角	1960年代に、社会的ネットワーク論が急速な展開を見せる。この中から、やがて人と人とのつながりに対象を限定するパーソナル・ネットワーク論が台頭するのであるが、第1回では、この間の経緯を含め、特有の視角やアプローチの特色について説明する。  【キーワード】 社会的ネットワーク、パーソナル・ネットワーク、初期シカゴ学派、第一次的関係	森岡清志 (放送大学教授)	森岡清志 (放送大学教授)
2	日本の「家」と親族関係	戦前・戦後にかけて、特に日本の農村では1970年代まで、親族関係を中心に生活が営まれていた。日本の親族関係は、「家」を単位とする同族的関係と、個人を単位とする親類(親戚)関係の二つの関係から成立していた。現在では、同族的関係は大幅に衰退しているが、このようなかつての日本の親族関係を理解しておくことは、現代日本のパーソナル・ネットワークを理解するために、きわめて重要である。  【キーワード】 「家」、同族、親類、親族圏、機能分担	森岡清志 (放送大学教授)	森岡清志 (放送大学教授)
3	産業化と家族変動	産業化・都市化による職業的・地理的移動は家族のあり方に大きな影響を与えてきた。ここでは核家族をめぐる、家族は孤立しているのか、それとも新たなネットワークの中にあるのかをみてゆく。また都市度という居住地の特性(村落か都市か)によって、人々のもつ親族ネットワークのあり方に違いがあることにも注目する。  【キーワード】 産業化、都市化、職住一致、職住近接、職住分離、自営家族、雇用家族、「孤立した核家族」、伝統的拡大家族、修正拡大家族、キンドレッド、親族ネットワーク、選択的親族関係	立山徳子 (関東学院大学教授)	立山徳子 (関東学院大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	現代日本における家族の変容	<p>国勢調査のデータから近年の日本家族の変容を家族形態、家族構成の両面から確認する。またこうした家族の変化を「家族の個人化」や家族意識の変化などの質的な面からも考察する。また家族をネットワークの視点から見る、「ネットワークとしての家族」と「ネットワークの中の家族」という分析視点の意義にふれる。</p> <p><b>【キーワード】</b></p> <p>世帯類型、世帯分離、家族意識、家族機能、「家族の個人化」、「ネットワークとしての家族」、「ネットワークの中の家族」、家族・コミュニティ問題、資源としてのネットワーク、拘束としてのネットワーク</p>	立山徳子 (関東学院大学 教授)	立山徳子 (関東学院大学 教授)
5	夫婦役割とネットワーク	<p>夫婦はなぜ家事や育児、余暇などを別々に(または一緒に)行おうとするのか。ここではE. ポットの示した家族外ネットワークが夫婦役割関係を決定してゆくという研究を紹介する。ポットの研究は家族研究とコミュニティ研究の双方をつなぐ意味で多くの示唆を与えたが、その意義についても述べる。</p> <p>また日本の夫婦関係とコミュニティとの間にどのような関連があるのかを考察したい。</p> <p><b>【キーワード】</b></p> <p>夫婦役割関係、分離的夫婦役割関係、合同的夫婦役割関係、社会的ネットワーク結合度、競合説と両立説、夫婦選択説、ネットワーク規定説、コミュニティの解放化、コミュニティの私化、世帯ニーズ、磁場としてのネットワーク</p>	立山徳子 (関東学院大学 教授)	立山徳子 (関東学院大学 教授)
6	都市空間の中の家族	<p>都市度という居住地の特性が家族のあり方とどのように関連をもつのか。国勢調査などの客観的データから、世帯類型や就労スタイルは都市空間の中で一定のパターンを描いて分布していることを理解したい。またこうした一連の確認作業から、都心・郊外・村落のそれぞれにおいて特徴的な家族形態が分布していること、ならびに都市度という概念を紹介する。</p> <p><b>【キーワード】</b></p> <p>都市度、社会地図、同心円型分布、都心家族、郊外家族、村落家族</p>	立山徳子 (関東学院大学 教授)	立山徳子 (関東学院大学 教授)
7	都市とパーソナル・ネットワーク	<p>都市という環境の中で、人はどのようなパーソナル・ネットワークを形成するのか。ここでは都市度とネットワーク保有量の関係、空間分布に注目した研究成果を紹介する。</p> <p><b>【キーワード】</b></p> <p>コミュニティ問題、喪失論、存続論、解放論、パーソナル・コミュニティ、選択一制約モデル、同類結合、都市度、下位文化理論、非通念性、選択的ネットワーク、近隣の友人化、修正下位文化理論</p>	立山徳子 (関東学院大学 教授)	立山徳子 (関東学院大学 教授)
8	ネットワークから見た子育て	<p>近年、注目される子育ての困難さはどこにあるのか。母親の持つ家族内・家族外の子育て環境をネットワークの視点でとらえた研究成果とそのネットワーク戦略を紹介する。また子育てネットワークの国際比較から、パーソナル・ネットワークの多様性や可能性、またセーフティ・ネットとしての意義を考える。</p> <p><b>【キーワード】</b></p> <p>ネットワークの中の子育て、世帯内ネットワークと世帯外ネットワーク、中庸なネットワーク、ネットワーク戦略</p>	立山徳子 (関東学院大学 教授)	立山徳子 (関東学院大学 教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	就職(転職)手段としてのネットワーク	「縁故」という言葉に象徴されるように、就職(転職)のさいに当事者を取り巻く人間関係は少なからぬ影響を發揮してきた。この回では、人々が就職(転職)するさいにネットワークがどのような影響を及ぼすのか、日米の研究を踏まえながら解説する。 <b>【キーワード】</b> 弱い紐帯、ブリッジ、セーフティネット、就職、転職	石田光規(早稲田大学・准教授)	石田光規(早稲田大学・准教授)
10	仕事の手段としてのネットワーク	産業社会の流動化とともに、働く人々は自らの仕事ネットワークを主体的に構築することを求められるようになった。そのさい有効なネットワークとはどのようなものなのか、さまざまなパーソナル・ネットワーク調査の知見を踏まえて解説する。 <b>【キーワード】</b> 構造的隙間、ネットワーキング、昇進	石田光規(早稲田大学・准教授)	石田光規(早稲田大学・准教授)
11	企業社会における人間関係	現在の企業社会の特徴を示す言葉の一つが「ネットワーク化」である。この回では、ネットワーク化が進行する企業組織において、人々が取り結ぶ人間関係はどのような変化を遂げているのか解説する。 <b>【キーワード】</b> ネットワーク型組織、ネットワーキング、個人化、集団主義	石田光規(早稲田大学・准教授)	石田光規(早稲田大学・准教授)
12	女性の仕事とパーソナル・ネットワーク	女性が働くさいには、就業継続や家庭と仕事の両立といった問題が強く意識される。そうした問題に対して、彼女たちの保有するパーソナル・ネットワークがいかなる影響を与えているのか解説する。 <b>【キーワード】</b> M字型就労、ワーク・ファミリー・コンフリクト	石田光規(早稲田大学・准教授)	石田光規(早稲田大学・准教授)
13	年賀状からみたパーソナル・ネットワーク	パーソナル・ネットワークに関する実証研究は、その多くが統計的標本調査の結果に基づくものである。この調査では、対象者にとって親しい人びととの現在のネットワークに関する情報しか得ることができない。年賀状を手がかりとした事例調査によって、より広い範囲のネットワークを捉え、またライフコースに伴う再編・変容の過程を捉えうることを明らかにする。 <b>【キーワード】</b> 拡大パーソナル・ネットワーク、ネットワークの再編、生活戦略、事例分析	森岡清志(放送大学教授)	森岡清志(放送大学教授)
14	社会関係にひそむ資本	近年、社会関係を「資本」とみなす研究が幅広い範囲で行われている。この回では、社会関係資本論の研究視角を概説し、そうした研究の知見および問題点について解説していく。 <b>【キーワード】</b> 資本、社会関係資本	石田光規(早稲田大学・准教授)	石田光規(早稲田大学・准教授)
15	「住民力」の効果	第14回の社会関係資本、ソーシャル・キャピタルに関する説明を踏まえ、住民が保有するパーソナル・ネットワークと、地域社会への参加度との相関が高いことをまず指摘する。次いで、これらを合わせて「住民力」とする時、この「住民力」がコミュニティ・モラル、投票行動、環境配慮行動と有意に高い関連を示すことについて説明を加える。 <b>【キーワード】</b> ソーシャル・キャピタル、住民力、コミュニティ・モラル、町内信頼度	森岡清志(放送大学教授)	森岡清志(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8930643	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 環境工学 ( ' 1 3 ) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 岡田 光正 (放送大学教授) 〕  
 〔主任講師 (現職名) : 〕  
 【本学担当専任教員 : 〕

### 講義概要

環境工学は、環境問題の解決手法開発の学問である。環境問題そのものは、過去半世紀の間に大きく変化し、従ってその問題解決のための考え方も変化し、従来の工学という枠にとどまらず、理学、農学、医学のような理系学問のみならず、社会学、経済学、法学のような人文系の学問も含めた総合的な解決策が求められるようになってきた。この意味では、環境工学には単なる個別の技術開発のみではなく、望ましい環境像を実現するための総合的なシステムの確立までもが求められている。本講義では、環境問題の認識方法から始まり、現在重要と思われるいくつかの分野における最先端の研究がどのように行われているか紹介し、総合的な見方を身につける助けとしたい。

### 授業の目標

地球上の限られて資源の量、また、限られた自然環境の恩恵という制限の中で、ますます人間活動が増大していく現在、人類が活動を持続していくためには何が必要とされるのか、何が可能なかが問われている。本講義を通じて、この答えを見出すための「考え方」を学んでほしい。

### 履修上の留意点

学部の講義である 環境と社会、エネルギーと社会などを学んでおくことが望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	環境問題と環境工学	環境問題とは何か？問題の本質にある人口増加の歴史とその背景、すなわち文明の発達、資源の消費と枯渇の影響を探るとともに、現代社会が直面している環境問題について考えてみる。また、環境問題の解決をめざしている環境科学と環境工学の意義について考えてみるとともに、本講義全体の意図と各回の講義の流れについて解説する。  【キーワード】 人類の歴史、環境問題、環境の収容力、エコロジカル・フットプリント、持続可能な社会、環境工学	岡田光正 (放送大学教授)	岡田光正 (放送大学教授)
2	水環境保全の目標設定～水質環境基準～	我々が望ましいとしている環境像はどんなものであろうか？環境保全の目標設定の一例として、日本の水質環境基準を例として考察する。水質環境基準は人の健康の保護と及び生活環境の保全を目的として設定された。しかし、その達成状況は必ずしも満足できる状態にない。水質環境基準自身に関する問題点と科学技術的な背景を探ってみよう。  【キーワード】 水質環境基準、人の健康保護、人の水利用、富栄養化、モニタリング	岡田光正 (放送大学教授)	岡田光正 (放送大学教授)
3	水環境保全技術(1)～排水処理と発生源対策～	水質環境基準という環境保全目標を例にとり、その目標の達成手法、すなわち、日本における排水規制の仕組みと排水処理技術との関係を探るとともに、排水処理技術そのものの基本的考え方を探ってみる。また、排水の発生原因である我々の生活や生産プロセスを見直すことにより、排水そのものを削減しようとする発生源対策のあり方についても考えてみる。  【キーワード】 排水基準、暫定排水基準、排水処理技術、分離、分解、発生源対策	岡田光正 (放送大学教授)	岡田光正 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	水環境保全技術(2) ～水質総量削減と水 域内対策～	排水規制に加え、水域の側から見た望ましい水環境の目標達成につながるような手法について考える。一つは、日本の総量削減制度を例として、全汚濁負荷量の削減方法とその基本的考え方を考察する。もう一つは水域内で行われる様々な目標達成手法である水域内対策について探ってみる。  【キーワード】 物質収支、汚濁負荷解析、水質総量削減制度、非特定汚染源、水域内対策	岡田光正 (放送大学教 授)	岡田光正 (放送大学教 授)
5	水生生物・生態系の 保全と再生	水生生物の保全を目的とする目標の必要性を考える。その一例として底層の溶存酸素濃度と透明度に関する目標設定の考え方や手法を学ぶ。さらに、生態系の保全や再生など人間活動と生態系との係り方の違いを考えてみる。そして、生態系の保全や再生のための目標のあり方現と工学的的手段、生体工学について学ぶ。  【キーワード】 水生生物、溶存酸素、透明度、生態系の保全と再生、生態工学	岡田光正 (放送大学教 授)	岡田光正 (放送大学教 授)
6	藻場・干潟の保全と 再生の技術	環境再生技術の一例として、沿岸域生態系で失われつつある干潟や藻場生態系の構造や機能を理解するとともに、このような生態系を保全し、再生するための手法として、生物系の制御、及び環境系の制御の在り方について考えてみよう。  【キーワード】 藻場、干潟、生物系の制御、環境系の制御、再生技術	岡田光正 (放送大学教 授)	岡田光正 (放送大学教 授)
7	脱温暖化社会(1)～ 地球温暖化の動向と 世界的取り組み～	地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出源と影響および長期的な見通し、ならびにエネルギー由来の二酸化炭素排出の要因の分析について学ぶ。後者については、炭素強度とエネルギー強度を低下させる方策について考える。また、世界的な協調についても学ぶ。  【キーワード】 気候変動、温室効果ガス、低炭素社会	花木啓祐(東京 大学教授)	花木啓祐(東京 大学教授)
8	脱温暖化社会(2)～ 脱温暖化社会形成 のための戦略～	日本における二酸化炭素排出の状況を学ぶと共に、脱温暖化社会に向けた対策と持続可能な社会のあり方について考える。再生可能エネルギーを中心としたエネルギー供給対策、業務、家庭、運輸部門のエネルギー需要対策および都市構造の対策を考える。  【キーワード】 エネルギー効率、再生可能エネルギー、バイオマス、コンパクトシティ	花木啓祐(東京 大学教授)	花木啓祐(東京 大学教授)
9	循環型社会(1)～資 源消費と環境負荷を 量る指標と分析～	資源・エネルギー消費と環境負荷を指標とし、人間活動に必要な機能を過不足なく提供できる持続可能社会の実現に向けて、新たな物質・資源の循環利用システムのあるべき姿とその具体化の方策を工学的視点から検討してみよう。  【キーワード】 資源生産性、持続可能社会、機能提供、評価指標、ロードマップ	藤江幸一(横浜 国立大学大学 院教授)	藤江幸一(横浜 国立大学大学 院教授)
10	循環型社会(2)～循 環型社会の実現に 向けた取り組みと評 価～	物質・エネルギーフロー解析の結果や地域の状況に応じて、資源・エネルギーの効率的利用と環境負荷低減を目指した各地での取り組みとその評価を紹介し、合わせてプランテーションにおけるバイオマス生産における課題と地域に貢献できる対策について考えてみよう。  【キーワード】 資源循環ネットワーク、地域適合性、システム設計と評価、プランテーション、バイオマス	藤江幸一(横浜 国立大学大学 院教授)	藤江幸一(横浜 国立大学大学 院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	自然共生社会(1)～生態系サービスの考え方と自然共生社会～	生態系の賢い利用は、自然環境を保全するという効果だけでなく、農林水産業や人間生活にさまざまな利益(生態系サービス)をもたらす。生態系サービスの基本的考え方を学び、生態系や生物多様性の持続的利用のために、必要な社会システムを考えてみよう。  【キーワード】 生態系、生物多様性、持続的利用、生態系サービス	中静 透(東北大学大学院教授)	中静 透(東北大学大学院教授)
12	自然共生社会(2)～生態系・生物多様性の持続的利用と保全～	森林のさまざまな利用方法と、その一環としての森林認証制度の考え方、「途上国における森林減少・劣化からの排出削減(REDD)」, 生物多様性オフセットなどの例を紹介する。  【キーワード】 持続的森林利用、森林認証制度、REDD、生物多様性オフセット	中静 透(東北大学大学院教授)	中静 透(東北大学大学院教授)
13	安全が確保される社会(1)～化学物質の環境リスク評価～	科学の進歩はあらゆる面で私たちの生活を支えているが、効率性・利便性・快適性などを追及するモノづくりの視点のみから次々と新たな化学物質が産出されてきた。こうした化学物質およびその製品の製造・使用・廃棄等に伴い、環境汚染を引き起こし、人の健康や生態系に及ぼすリスクが懸念されている。そこで、化学物質による環境汚染が人の健康に及ぼすリスクの特徴やその評価方法について学ぶ。  【キーワード】 環境リスク、化学物質、有害性、発がん性、生態系	細見正明(東京農工大学大学院教授)	細見正明(東京農工大学大学院教授)
14	安全が確保される社会(2)～化学物質のリスク管理～	化学物質の環境リスクを適切に管理するには、問題となるリスクを見つけ出し、その大きさを評価する必要がある。さらにそうしたリスクのメカニズムを解明し、適切な対策を提案し、行政、事業者、市民、研究者などの利害関係者の双方向のリスクコミュニケーションにより、効果的な対策を講じていく必要がある。その際、リスクの大きさの評価ばかりでなく、その他のリスクや便益などと比較することで、化学物質の適切なリスク管理の方向性を探ることが大事である。その例を学ぶ。  【キーワード】 ストックホルム条約、PCB、ダイオキシン、リスクコミュニケーション	細見正明(東京農工大学大学院教授)	細見正明(東京農工大学大学院教授)
15	問題解決型から着地点誘導型へ	今までの講義の総括を行うとともに、持続可能性社会の定義とその基礎となる環境倫理について考える。また、着地点誘導型の環境管理における目標設定とその実現可能性、ならびにその達成手法を検討する手段として数理モデルの考え方と限界、さらには順応的管理手法について考える。  【キーワード】 持続可能性、環境倫理、数理モデル、再生目標、順応的管理	岡田光正 (放送大学教授)	岡田光正 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8930660	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名(メディア) = 人的資源管理 ('14) = (TV)

英文名 = [ Human Resource Management ('14) ]

[主任講師(現職名) : 原田 順子 (放送大学・教授) ]

[主任講師(現職名) : 奥林 康司 (大阪国際大学・教授) ]

【本学担当専任教員 : 】

#### 講義概要

人的資源管理とは、継続的事業体(going concern, Betrieb(ドイツ語))において、人を対象とした管理の仕組みを総称した概念である。市場において営利を目的として事業を営む企業の経営においては、この人的資源管理がいち早く発達し、経営学の中でも多くの知識が蓄積されてきた。人的資源管理の変遷、役割等について、企業経営の基本的概念とともに説明していく。また、関連する現代的トピックも採りあげて多面的に学習する。

#### 授業の目標

この授業は、Ⅰ. 人的資源管理の基礎知識(第1-3回)、Ⅱ. 人的資源管理の制度と機能(第4-10回)、Ⅲ. 多様な労働者たち(第11-15回)、の3部構成となっている。「基礎」から「応用」まで段階をおって学習し、人的資源管理の全体像を理解することを目標とする。

#### 履修上の留意点

人的資源管理に対する真摯な関心と基礎的知識を有する方に履修を薦めたい。放送教材からも多くを学んでいただきたい。また、印刷教材の各章末に参考文献を示したので、それらを手掛かりにさらに学習を深めることが望ましい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	企業経営と人的資源管理	人的資源管理の諸制度や活動の総体が企業の経営の中で果たしている役割を示すことを目指す。同時に、人的資源管理の諸制度や実態を明らかにするに当たり、その前提となる企業経営のとらえ方や企業経営のモデルを示し、人的資源管理を理解するうえでの前提やその基本的な視点を明らかにする。 【キーワード】 経営資源、継続的事業体のシステム、基本的組織構造、自律性	奥林康司 (大阪国際大学・教授)	奥林康司 (大阪国際大学・教授)
2	日本的人的資源管理の変遷	高度経済成長期に原型がつけられ、安定成長期に全面的展開を遂げた日本企業の正社員の人的資源管理の「日本的」なる特質を論ずる。次に、日本的人的資源管理を特徴づけるさまざまな人事施策の束が、どのような補完性を発揮し、経営パフォーマンスに良好に作動したのかを組織モードの双対原理を用いて検討する。続いて、平成雇用不況期に入り、これまでの人的資源管理の補完性は失われてしまったのか、あるいは新しい補完性を見出したのかについて検討し、日本的人的資源管理の変遷を跡付ける。 【キーワード】 知的熟練、組織モード、双対原理、補完性、人事部	平野光俊 (神戸大学・教授)	平野光俊 (神戸大学・教授)
3	組織構造と職務内容	企業経営では、事業の性質、市場・経営環境に対応して、組織構造が工夫される。そして組織構造は職務内容、働き方、能力開発と関連する重要なものである。組織構造、職務内容、人的資源管理の諸制度への影響等を学習する。 【キーワード】 官僚制組織、野球型組織、サッカー型組織、チーム作業、職務設計原理、自律的従業員、労働の人間化	奥林康司 (大阪国際大学・教授)	奥林康司 (大阪国際大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	採用について	採用の対象者、雇用形態、採用時期、採用職種、就労条件を決めることは、企業にとって極めて重要な活動である。伝統的採用管理、新卒採用の重視、採用管理の潮流等のトピックを採りあげて、我が国の採用管理の概要を学習する。 【キーワード】 採用管理、新卒採用、中途採用、就職協定、倫理憲章	原田順子 (放送大学・教授)	原田順子 (放送大学・教授)
5	人事等級制度	人事管理の基本システムである人事等級制度の設計原理を能力主義、職務主義、役割主義の比較から解説する。次に最近の日本企業の人事等級制度の実態を確認し、キャリア発達との適合性を条件としたときの人事等級制度設計のあり方の検討を通じて人的資源管理に対する理解を深める。 【キーワード】 職能資格制度、職務等級制度、役割等級制度、人事等級制度のキャリア発達条件適合モデル	平野光俊 (神戸大学・教授)	平野光俊 (神戸大学・教授)
6	人事考課制度	人事考課は、従業員の仕事ぶりを評価し、それを処遇やキャリアに直接反映させる重要なものである。本章では、日本の人事考課制度が能力主義から成果主義へと変化した過程をみたく、その意義や問題点について、評価の公正さや従業員に与えるインセンティブなどの視点から論じていく。 【キーワード】 能力考課、成績考課、情意考課、目標による管理、コンピテンシー	三輪卓己 (京都産業大学・教授)	三輪卓己 (京都産業大学・教授)
7	報酬制度	日本の報酬(賃金)制度は、生活保障給を中心とした年功主義の制度から、職能給を中心とした能力主義の制度へ、そして職務給や役割給を中心とした成果主義の制度へと変化してきた。それぞれの制度の特徴や意義を整理したうえで、これからの企業や組織に求められる賃金、報酬について展望していく。 【キーワード】 職能給、年齢給、職務給、役割給、業績連動型賞与	三輪卓己 (京都産業大学・教授)	三輪卓己 (京都産業大学・教授)
8	キャリア開発	誰もが長い職業人生のなかで役割、人間関係、日常生活、ものの見方や考え方などさまざまな領域で大きな変化に見舞われ、能力不足の自覚や新しい環境への不適應などキャリアの危機に遭遇する可能性がある。本章では、発達心理学やカウンセリング心理学をベースとするキャリア研究の知見の人的資源管理への応用と展開を学ぶとともに、働く人びとの適応的なキャリア開発のあり方を検討する。 【キーワード】 組織内キャリア、キャリア・アンカー、トランジション、非連続な異動、キャリア・ドメイン	平野光俊 (神戸大学・教授)	平野光俊 (神戸大学・教授)
9	労使コミュニケーション	企業は多くの利害関係者に囲まれた存在である。なかでも労働者との関係は重要である。円滑な労使関係を築くことは経営を安定させるための必須条件であると言えよう。その前提となる労使コミュニケーションと現代的な課題を解説する。 【キーワード】 経営資源、離脱・発言・忠誠、労働組合、労使協議制、労使紛争	原田順子 (放送大学・教授)	原田順子 (放送大学・教授)
10	雇用区分の多元化と人材ポートフォリオ	多元化する雇用区分とその組み合わせを最適化する人材ポートフォリオという考え方を学ぶ。人材ポートフォリオはどのような基準で構築したらよいのか、また雇用区分間の転換制度をどのように設計すべきかという問題を、内部労働市場論と取引費用の経済学の知見を援用しながら理論的に検討する。そのうえで、日本の企業内労働市場で起こっている変化とそれに伴う人的資源管理の新たな課題を整理する。 【キーワード】 基幹化非正規、限定正社員、ホールド・アップ問題、モラル・ハザード、三層労働市場モデル	平野光俊 (神戸大学・教授)	平野光俊 (神戸大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	女性労働者と雇用	<p>現代社会における女性労働者は男性労働者と異なる特徴がある。例をあげると、雇用形態、就業時間、労働力率、管理職比率等の点で、男性と差異がみられる。雇用面における女性労働者の現状と課題を学習する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 年齢階級別労働力率、M字の谷、機会/結果の均等、ポジティブアクション、コース別人事管理、ワークライフバランス</p>	原田順子 (放送大学・教授)	原田順子 (放送大学・教授)
12	知識労働者	<p>これからの社会や組織では、創造的な仕事や複雑な問題解決に従事する知識労働者が重要になってくる。ここで取り上げる技術者や新興専門職は、その代表的なものだといえるだろう。彼(彼女)らは従来の組織人とは異なる特性を持っているため、そのマネジメントはそれに配慮したものが必要になる。知識労働者の人的資源管理について、彼(彼女)らの多様性にも着目しながら議論していく。</p> <p><b>【キーワード】</b> コスモポリタン、ローカル、自律性、人的交流、柔軟なキャリア</p>	三輪卓己 (京都産業大学・教授)	三輪卓己 (京都産業大学・教授)
13	グローバル人材	<p>近年、グローバル人材という言葉が流行している。グローバル人材とはいったい、どのような人材なのであろうか、本章ではグローバル人材の特徴について、具体的に明らかにすることを目的としている。グローバル人材とは本来、国籍を問わないものであるが、一般的に、日本企業でグローバル人材というと、日本人海外派遣者をイメージすることが多い。そこで、本章では、まず、日本人海外派遣者の特徴や働き方について説明し、次に、外国人の活用について明らかにする。</p> <p><b>【キーワード】</b> 多国籍企業、人材の現地化、海外派遣者、外国人の活用</p>	中村志保 (立命館大学・准教授)	中村志保 (立命館大学・准教授)
14	グローバル人材の育成	<p>1985年のプラザ合意以降、円高の影響により、多くの日本企業が海外へ進出している。2000年以降、日本企業の海外展開はますます拡大する傾向にある。そのような中、日本企業ではどのようなグローバル人材が求められているのか、また現実にはどのような課題に直面しているのだろうか、そしてそのギャップを埋めるために、企業はどのような人材育成の取り組みを行っているのだろうか、このような点について明らかにする。</p> <p><b>【キーワード】</b> 日本企業の海外進出、人材についての課題、グローバル人材、育成プログラム</p>	中村志保 (立命館大学・准教授)	中村志保 (立命館大学・准教授)
15	共的セクターの人々	<p>私的セクター(企業)、公的セクター(行政)に加え、共的セクター(例:ボランティア団体)の存在感が増している。組織のミッション(使命)と戦略は、組織構造と人的資源管理に影響を与える重要な要素である。では、ミッションの異なる組織では、その人的重管理の様相はどのように異なり、どのような特徴がみられるのか。ボランティア団体を例に共的セクターについて考える。</p> <p><b>【キーワード】</b> 組織ミッション(使命)、共的セクター、ボランティア活動、アソシエーション(組合、協会)</p>	原田順子 (放送大学・教授)	原田順子 (放送大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8930678	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 社会的協力論 ('14) = (R)  
 — 協力はいかに生成され、どこに限界があるか —  
 英文名 = [ Cooperation in Society ('14) ]  
 [主任講師 (現職名) : 坂井 素思 (放送大学・教授) ]  
 [主任講師 (現職名) : ]  
 【本学担当専任教員 : 】

### 講義概要

この科目は、社会経営における人びとの「社会的協力」の在り方についての原理と、現実における有効性について考察することを旨としている。近代になって、社会的協力の在り方が大転換したといわれている。それは、市場モデルや政府モデルなどの近代的な協力の在り方について、これだけ広範囲にわたり、かつ深く浸透した理由が存在するからであり、また同時に、これらの社会的な協力の在り方が、近代になってしばしば限界を見せるようになりつつあるからである。なぜ今日の社会的協力が大規模に生成し、そして限界を見せるようになったのかについて、この講義のなかで、具体的な事例を見ながら理解を深めていく。

### 授業の目標

近代的協力にはいくつかの類型タイプが存在するという認識を確認したい。それぞれの特徴を把握して、タイプ別の限界を知ることが重要である。そのためには、近代において社会的協力がどのようにして生成してきたのか、ということを理解することが必要である。交換タイプ、支配タイプ、互酬タイプなどの協力類型が、どのような特徴を持っていて、どのようなところに適しているのか、ということを最終的には理解することが大切である。

### 履修上の留意点

(1) この科目は、「社会経済組織論」の後継科目であるが、現代の課題に適合するために、その後の理論を加えて、大幅な修正を行なっている。この中核とするところを重点的に観てほしい。(2) 現代の協力組織の持っている問題点を解明し、問題となっている事例や理論的論点になどにも新たな説明を行なう必要があった。これらの現代的な問題点の理解を進めていただきたい。(3) 近代社会が陥った組織形成上の隘路について、社会的協力という新たな視点から考察を加えた。わたしたちの生きている現代社会の問題点について、協力という点から、考察を深めていただきたい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	社会的協力とはどのような活動だろうか	協力という活動は、いかにして形成され、どのようなところで限界を示すのだろうか。本章では、協力活動の典型例を示して、協力活動の特性を明らかにする。人間の活動には一人で行う活動もあるが、家庭の仕事、職場の労働、公共の職務、地域の活動など、ほとんどの活動で他者と力を合わせて行っている。複数の人びとが集団に参加して、そこで内外の人間関係を結んでいくという、協力的な人間関係の在り方を考えたい。 【キーワード】 協力活動、複数性、参加性、介在性、中間構成、メンバーシップ	坂井 素思 (放送大学・教授)	坂井 素思 (放送大学・教授)
2	協力にはどのような類型があるのだろうか	社会で見られる協力活動には、集団の特性に合わせて複数の類型が存在することが知られている。この多様な人びとが協力活動へ参加していく場合に、どのようなパターンを見せるのだろうか。交換タイプ、支配タイプ、互酬タイプなどの特性を比較していく。 【キーワード】 協力活動タイプ、交換型、支配型、互酬型	坂井 素思 (放送大学・教授)	坂井 素思 (放送大学・教授)
3	協力関係のフォーマル化とインフォーマル化	古典的な協力関係のなかでも、市場型の組織タイプと政府型の組織タイプが、典型として、協力タイプの中で君臨して来た。この章では、なぜフォーマル化(公式化)という近代社会特有の動きが生じたのかについて、考察することにする。 【キーワード】 公式化、非公式化、ルール、近代化、標準化、動機付け、科学技術	坂井 素思 (放送大学・教授)	坂井 素思 (放送大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	協力の交換モデルと「囚人のジレンマ」問題	<p>協力活動の一つの典型例として、交換モデルが存在する。二人のAとBとの間で交換行為が行われることで、結果として双方に有利な状況が現れる場合がある。それぞれに自己利益が生ずることで、相互の交換行為が行われ、そこに双方の協力活動が成立すると考えられる。ここでの個人利益、集団利益、社会利益として現れる、協力の交換モデルの可能性について、この章で考察したい。</p> <p><b>【キーワード】</b></p> <p>交換、贈与、互酬、自給自足、自己利益、集団利益、囚人のジレンマ、コミットメント、社会的交換</p>	坂井 素思 (放送大学・教授)	坂井 素思 (放送大学・教授)
5	近代的な協力と支配モデル	<p>近代的な協力関係には、「交換モデル」と「支配モデル」とが存在するが、この章では組織の中核をなす後者をみることにする。近代組織では、ルールを定め、それに則って組織化が進められるという「公式化」が進んだが、この過程でヒエラルヒー組織による縦関係の協力モデルが必要とされた。この章では、このような近代的な協力の支配モデルをみていくことにする。</p> <p><b>【キーワード】</b></p> <p>ヒエラルヒー、支配、服従、統制、集権、合法的支配、官僚制、専門性、分業、弱い権力</p>	坂井 素思 (放送大学・教授)	坂井 素思 (放送大学・教授)
6	影響力と協力の互酬モデル	<p>「市場と政府」の両輪関係は、協力関係の近代モデルの典型であり、これらの近代的な公式組織に、人びとの協力関係が大量に引き寄せられてしまったのである。ところが、実際には、このような公式組織によって生み出すことができない、それとは異なる潜在的な力が、社会の協力関係にはまだまだたくさん存在していることが知られている。影響力に注目したいのは、人を動かし他者を「協力」に導くためには、単に交換や支配などの公式的な方式だけではなく、影響力などの潜在的な力を必要としているということがあるからである。社会的協力を潜在的に支持する力には、どのような特性があるのかについて、この章で検討したい。</p> <p><b>【キーワード】</b></p> <p>影響力、権威、信頼、ハロー効果、期待</p>	坂井 素思 (放送大学・教授)	坂井 素思 (放送大学・教授)
7	近代的協力モデルと大規模化組織の発展	<p>近代の協力モデルの特徴の一つは、大規模化を目指した点にある。自動車産業や鉄鋼産業などの「大量生産」方式による工場体制は、物的な生産においてはもちろんのことであるが、人びとの協力関係を結合させる点でも、大規模化の仕組みを編み出して、一つの頂点を示すものであった。なぜこれほど大量の協力関係を結集させることが可能になったのであろうかという点をこの章で考察する。社会的協力関係の「規模の問題」を考えていくことにする。</p> <p><b>【キーワード】</b></p> <p>規模の経済、範囲の経済、互換性、組立ライン、テイラー主義、大量生産、企業結合</p>	坂井 素思 (放送大学・教授)	坂井 素思 (放送大学・教授)
8	近代的協力組織の限界とジレンマ	<p>大規模化を目指した近代組織には、協力の形態としていくつかの限界のあることが、その最も中核にあるところから明らかになった。大量生産方式による経済原理と支配原理とで成立させられてきた、近代協力モデルの原理原則だけでは、協力組織はうまく働かない現象が現われてきており、効力には限界の生ずることがわかってきた。協力組織ではその協力に至るまでに多様な要素が作用し、これらの間にある隠れた潜在力の働きを見逃すことができないことが認識されたのである。</p> <p><b>【キーワード】</b></p> <p>ホーソン実験、官僚主義化、動機付け、ルーティン化、オルソンのパラドックス、組織の硬直性、組織の柔軟性</p>	坂井 素思 (放送大学・教授)	坂井 素思 (放送大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
9	エージェンシー化と協力活動	エージェンシー(活動主体あるいは代理人)が協力組織において問題になるのは、個人の内部で能動的(あるいは受動的)な部分が発生し、これが個人の外部の他者と結びつくときである。個人と協力組織とがいかに結びつくかという視点が重要であるが、エージェンシーという問題を考える視点からさらに深く追究する必要がある。なぜ組織の中にエージェンシーという考え方が現れるのかをこの章でみていきたい。 【キーワード】 エージェンシー、組織人格、個人人格、能動性、代理性、依頼人、代理人、契約	坂井 素思 (放送大学・教授)	坂井 素思 (放送大学・教授)
10	協力の多様性問題と「組織立った複雑性」	現代において、なぜ協力活動が多様な形態を取らなければならないのかということが、本章のテーマである。他者との協力関係を結ぶ中で、双方にとって単一の共通目的を追求するのが協働組織の本質である、と考えられてきた近代組織のあり方に対して、次第に組織の目的や協力関係などにおいて、組織における協力の多様化、すなわち組織目的の「多様化」、手段の「多義化」、役割の「多機能化」などというまとまりの無さという問題が生ずるようになった。この章では、なぜ協力の「多様性」問題が生じたのかについて考えたい。 【キーワード】 多様性、曖昧さ、ゴミ箱理論、弱い連結、分解可能性、混合作用、複雑なプール、組織立った複雑性	坂井 素思 (放送大学・教授)	坂井 素思 (放送大学・教授)
11	ダウンサイジングと協力	現代の協力組織を考えるとときに一つの焦点になっているのがフラット化という現象である。近代組織では、基本的にはピラミッド型の縦構造を示してきており、これが企業組織の特徴であった。それが1970年代後半以降、大規模組織のピラミッド型が平準化し、均等化するという現象が起こってきており、組織の協力関係にも影を落としてきている。問題は、このようなフラット化が組織に関わる人びとの協力関係に対して、どのような影響を与えているのか、ということである。 【キーワード】 フラット化、アウトソーシング、オープンソース、サプライチェーン、共同作業、標準化、ダウンサイジング	坂井 素思 (放送大学・教授)	坂井 素思 (放送大学・教授)
12	リーダーシップの協力関係と「信頼」	リーダーシップの存在が協力関係に及ぼす作用について、この章で考えていきたい。とくに、集団内での不信関係を避け、リーダーシップの正当なあり方を導くには、どのような信頼関係を導かなければならないのか、という点について重点的に考えてみたい。リーダーがメンバーの信頼を獲得し、集団をうまく率いていくためには、どのようなことを考える必要があるのだろうか。 【キーワード】 個人信頼、専門的信頼、構造的信頼、企業家機能、リーダーシップ、不確実性、リスク、革新、新結合	坂井 素思 (放送大学・教授)	坂井 素思 (放送大学・教授)
13	社会関係資本とインフォーマルな協力関係	家族・コミュニティなどの社会経済組織が、構成員の間で、どのような協力関係を取り結ぶのかについて、この章では考える。なぜ人びとは社会のなかでこのようなインフォーマルな集団を形成するのだろうか。家族の形成する「プーリング」や、地域で組織化される「社会関係資本」の考え方をみるなかで、人びとの間に生成される社会的な協力関係の役割を考察したい。 【キーワード】 埋め込み、家族、コミュニティ、プーリング、ソーシャル・キャピタル、ネットワーク、互酬性	坂井 素思 (放送大学・教授)	坂井 素思 (放送大学・教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
14	支援とケア的協力	<p>現代の協力活動の典型のひとつとして、支援活動がある。支援とは、協力や協調、それ以外にもあらゆる利他的な行動の基盤となるプロセスであると言われており、このプロセスの中で、支援は、活動主体の活動をサポートする活動として現れる。つまり、支援活動では、活動主体の持っている潜在的な活動の可能性を知るプロセスが重要になる。このような支援活動の性質は、人間の協力活動のひとつの重要な要素であると考えられることができる。この章では、このような支援活動と社会的協力との関係をみていく。</p> <p><b>【キーワード】</b></p> <p>支援、ケア・サービス、世話、配慮、標準化、単一性</p>	坂井 素思 (放送大学・教授)	坂井 素思 (放送大学・教授)
15	ミンツバーグ問題と協力のコンフィギュレーション	<p>人びとの社会的協力を結集するという企てが、近代における絶頂とその行き詰りを示し、一つの転換期を迎えたのは、20世紀前半の米国大量生産期後であった。いくたびかにわたって協力組織の中で反省が行われてきており、社会的協力の転換が続いてきている。どこが、なぜおかしくなってしまったのかが、近代以降の協力組織における重要な問題となっている。ここできわめて重要なのは、単に企業組織のみの問題でなく、官僚制や非営利団体、さらに家族・コミュニティを含む、マネジメントを現場で実際に行っている人びとも含まれているという点であり、社会における人びとの協力結集にはマネジャーなどの中間的な力というものを必須としているということである。</p> <p><b>【キーワード】</b></p> <p>マネジャー、ミドル・マネジメント、トップ、ボトム、リエゾン機能、コンフィギュレーション、社会の全体的構成</p>	坂井 素思 (放送大学・教授)	坂井 素思 (放送大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2015年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8980012	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名（メディア） ＝ 国文学研究法 （'15）＝（R）  
 英文名 ＝ [ Methods of Study on Japanese Literature ('15) ]  
 [主任講師（現職名）： 島内 裕子 （放送大学教授） ]

### 講義概要

国文学の修士論文の書き方の全般について、具体的にさまざまな角度から論じ、実際に論文を執筆するための、理念と方法論を提供する。したがって、本科目の主旨は国文学のさまざまな研究方法を学ぶことであるが、それにとどまるものではない。本科目は、より広い意味で、「学問研究とは何か」「論文執筆の要諦とは何か」「新たな研究領域の開拓は可能か」など、いずれの学問分野にも通底する問題意識によって、科目を構築している点に特徴がある。それゆえ、本科目は、学問分野を国文学に限ることなく、放送大学で学ぶ学生が現実に直面する、切実な学問上の疑問にも、十分に答える。

### 授業の目標

第1に、国文学研究の生成と展開をトータルに把握し、文学研究の全体像を明確に理解する。第2に、文学ジャンルの特徴を深く考察し、表記や表現の多様性を理解する。第3に、文学ジャンルや作品ごとの注釈史を学び、研究の動向を理解する。第4に、古代から現代までの、諸外国の文芸理論も概観しながら、研究論文の基盤となる、論理的で明晰な散文を書くための方法論を学ぶ。

### 履修上の留意点

関連する科目としては、「東アジアの歴史と社会('10)」「哲学史における生命概念('10)」「美学・芸術学研究('13)」「ことばとメディア('13)」「中世・ルネサンス文学('14)」などがある。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	国文学研究の領域	国文学の研究とは、どういうものか。その研究対象や研究の進め方など、総論を述べる。一般的な次元における読書と、学問としての研究との関連性と相違点を明らかにする。また、何人かの代表的な国文学者の業績についても言及しつつ、これからの国文学研究のあり方についても提言する。 【キーワード】 国文学研究の方法、国文学研究の進め方、国文学者の足跡	島内 裕子 (放送大学教授)	島内 裕子 (放送大学教授)
2	伝記と年譜	文学者の伝記研究や、年譜研究の具体例を示しつつ、「作者」に注目することによって、文学作品の背景や基盤を研究することの意義を明らかにする。古典文学から兼好の伝記研究、近代文学から吉田健一の年譜研究を具体例として取り上げる。また、訪問記についても触れる。 【キーワード】 伝記、年譜、兼好、訪問記、吉田健一	島内 裕子 (放送大学教授)	島内 裕子 (放送大学教授)
3	本文研究の諸相	文学作品にとって最も重要である「本文」とは何かについて、解説する。写本や自筆原稿などの肉筆が、翻刻されたり、雑誌や単行本になったりして活字で読まれるようになるプロセスをたどりながら、「全集」というかたちで本文が決定される意味を考える。古典と近代の双方を視野に収める。 【キーワード】 本文、写本、翻刻、校訂、印刷、全集	島内 裕子 (放送大学教授)	島内 裕子 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	文学作品の論じ方	文学作品を研究として論じるにあたり、どのような論点があるのかを示し、5回目以降の導入とする。なおかつ、「読書と研究」の関係を、ここでは小林秀雄や中野孝次を取り上げつつ、「批評(評論)と研究」との関係に発展させて、批評精神を内在させた研究法を確立する必要性を述べる。  【キーワード】 さまざまな研究法、批評と研究、小林秀雄、中野孝次	島内 裕子 (放送大学教授)	島内 裕子 (放送大学教授)
5	登場人物の論じ方	古典物語や近代小説に登場する人物は、どのように論じられてきたのか。「人物論研究」の歴史をたどり、これからの人物論研究に関する展望を示す。古典から『源氏物語』など、近代からは森鷗外の史伝などを具体例として取り上げる。  【キーワード】 登場人物、人物論、『源氏物語』、『徒然草』、森鷗外、『最後の一句』	島内 裕子 (放送大学教授)	島内 裕子 (放送大学教授)
6	表現論の射程	散文と韻文の双方にわたって、それぞれの表現の特色を明らかにする。そのことを通して、表現研究の広がり認識する。樋口一葉の和歌と散文を、具体例として取り上げる。  【キーワード】 表現論、散文、韻文、樋口一葉の和歌、『暗夜』	島内 裕子 (放送大学教授)	島内 裕子 (放送大学教授)
7	文学作品の周縁	文学作品と有職故実や「衣・食・住」などの関係を考察することで、文学作品を生み出した土壌や背景についての認識を深める。有職故実については、『徒然草』と森鷗外の『盛儀私記』、「住まい」については『方丈記』の系譜に注目する。また、「食」についても触れる。  【キーワード】 有職故実、衣・食・住、『徒然草』、『盛儀私記』、住まいの文学、『方丈記』、味わいの文学	島内 裕子 (放送大学教授)	島内 裕子 (放送大学教授)
8	注釈という研究法	古典文学においては、「注釈」という行為が、そのまま研究の中心であった事実に注目したうえで、注釈という行為の現代的な意義を考察する。注釈書としては、『源氏物語』『方丈記』『徒然草』を具体例とする。また、現代語訳の可能性についても触れる。  【キーワード】 注釈、『源氏物語』の注釈書、『方丈記』の注釈書、『徒然草』の注釈書、現代語訳	島内 裕子 (放送大学教授)	島内 裕子 (放送大学教授)
9	国文学における思想と学問	文学作品に対して、儒学的な読み方や仏教的な読み方などの「思想読み」が試みられたことの意義と限界を明らかにし、国学という学問の発生した基盤を考える。さらには、近代以降、西洋思想に影響を受けた国文学者たちの挑戦と苦悩をたどる。  【キーワード】 儒学、仏教、思想、国学、西洋思想	島内 裕子 (放送大学教授)	島内 裕子 (放送大学教授)
10	影響史研究の方法	国文学においては、古典から近代に至るまで、先行する作品に大きな影響を受けて、文学作品が創作されてきた。その影響をたどる影響史研究の可能性を探る。具体例としては、『徒然草』の影響力、および、古典文学を受容して成立した近現代の文学作品に注目する。  【キーワード】 影響史、『徒然草』の影響力、古典と近代文学、古典と現代文学	島内 裕子 (放送大学教授)	島内 裕子 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	外国文学の受容と文芸理論	<p>古典と近代を問わず、外国文学や外国の文芸理論が我が国の文学者に影響を与え、新しい文学作品を生み出したという事実がある。古典においては漢文学の受容を指摘し、現代文学においては吉田健一に影響を与えた西欧の思想を、具体例として考える。</p> <p>【キーワード】 漢文学の受容、『和漢朗詠集』、外国文学の受容、吉田健一</p>	島内 裕子 (放送大学教授)	島内 裕子 (放送大学教授)
12	実地研究のあり方	<p>近年、「文学散歩」が盛んになっている。この文学散歩を踏まえ、それを発展させた研究のあり方を考える。国文学研究において、有効性を発揮する実地研究とは、どのようなものか、吉田健一の作品をめぐる実地研究の一例を紹介する。</p> <p>【キーワード】 実地研究、松尾芭蕉、大島蓼太、文学散歩、児玉</p>	島内 裕子 (放送大学教授)	島内 裕子 (放送大学教授)
13	国文学の学際的研究	<p>近年、盛んに研究されている文学研究と美術研究を融合させた学際的研究の意義は、どこにあるのか。古典から現代までの豊富な具体例に言及する。</p> <p>【キーワード】 文学と芸術、『秋山図』、『観画談』、『徒然草』と絵画</p>	島内 裕子 (放送大学教授)	島内 裕子 (放送大学教授)
14	論文を書くための基礎	<p>国文学の研究論文を書くためには、これまでになされた研究史を整理する必要がある。先行研究の見つけ方、集め方だけでなく、それらの整理の仕方や論文の中での扱い方について考える。研究論文を書くための実践的なアドバイスをめざす。</p> <p>【キーワード】 研究史の整理、先行論文の集め方、研究史への言及の仕方、注の付け方</p>	島内 裕子 (放送大学教授)	島内 裕子 (放送大学教授)
15	論文の文体	<p>国文学の研究論文において、研究者の個性を打ち出すにはどうすればよいのかについて、実践的なアドバイスを試みる。研究論文にふさわしい文体や表現、テーマの設定、論の進め方などを具体的に説明する。</p> <p>【キーワード】 論文の文体、テーマの設定、論の進め方</p>	島内 裕子 (放送大学教授)	島内 裕子 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8940533	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 人類学研究 ( ' 1 0 ) = ( T V )  
 - 環境問題の文化人類学 -

[主任講師 (現職名) : 内堀 基光 (放送大学教授) ]  
 [主任講師 (現職名) : 本多 俊和 (スチュアート ヘンリ) (放送大学客員教授) ]

### 講義概要

環境問題を文化の文脈のなかで考えていこうというのがこの講義の眼目である。世界の多様な環境のなかで暮らす人々の伝統的生活様態とその価値観が当該環境の保全に寄与してきたことはよく指摘されているが、外的要因によって環境変化が起きた場合、こうした文化はどのような変容をこうむるか。あるいは文化そのものに環境変化に対処する可能性がひめられているか。これらのことを考えることは、環境問題を単に物質的状況として見るのではなく、人々の生活に意味づけを与える文化の問題として見ることに通じる。これを生態環境の多様性、問題の性質に応じて具体例を示しつつ講義する。

### 授業の目標

本講義は文化人類学の講義なので、講義の眼目としている環境問題のみならず、この具体的トピックをとおして人類文化というものがいかなる特性をもっているか、その機能はいかなるものかを考えられるようにしたい。大学院の科目としては本講義が文化人類学としては唯一のものなので、自学を促進しう方向で、受講者に問いかけをおこなうような授業を考えている。この問いかけは、とりあげる多様な生態系と環境の個別性のなかで問題意識を拡散させることを避けるためでもある。

### 履修上の留意点

授業の目標で述べたとおり、自学を進める意欲をもってほしい。放送教材、印刷教材だけでなく、授業の中で示される文献資料、および文化人類学の基礎的な文献について、一定程度の自習が必要とされる。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	環境問題への文化人類学的アプローチ	環境問題に文化人類学はどのように接近できるかについて導入の講義。文化の中核である生についての価値、生活様式と自然(生態)環境との関係、相互のフィードバックについて考え、文化にとっての環境変化の意味を探る。  【キーワード】 文化、生活様式、環境変化、生態	内堀基光	内堀基光 本多俊和
2	列島の両端: 沖縄の自然環境、北海道アイヌ民族の文化環境	比較的身近な日本の環境問題を具体例としてとりあげ、課題の全体像を描く。地域(北海道、沖縄)からの視点を生かす。二風谷地域のアイヌ民族伝統的生活空間イオルを主題に戦前環境の「復元」と、イオルをめぐる社会的環境考察する。沖縄で気候変動の変動が珊瑚礁におよぼす生物学的な影響と、珊瑚礁の変化による地元の生業活動や観光という社会的な側面を取りあげる。  【キーワード】 アイヌ、沖縄、地域文化、イオル、珊瑚礁	本多俊和	本多俊和
3	都市環境と都市文化	都市は現代の人類にとって重要な生活環境である。人類文明史における都市の意義から論をはじめ、南アジア、アフリカの都市生活の環境問題を取りあげる。都市の生活形態そのものがもたらす環境汚染と、それを解決するための生活実践を見る。  【キーワード】 都市、文明、アフリカ、アジア、衛生	内堀基光	内堀基光

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	生活用水および大気と居住環境	<p>飲用水と生活用水の確保は、生存にとって重要な問題である。水は環境中の自然循環に由来するために、病原性をもつ微生物や化学物質を含む可能性がある。人類はそれぞれの社会ごとに、飲用あるいは生活に利用するのに「適した水」と「適さない水」を区別し、生物学的・文化的に安全な水を利用できるような仕組みを作り上げてきた。大気は、温暖化・オゾン層の破壊などによって人類全体の環境問題となりつつある。この問題に人類学はどのような貢献ができるだろうか。</p> <p>【キーワード】 飲料水、生活用水、温暖化、大気、共有地の悲劇</p>	梅崎昌裕 (東京大学医学系研究科・准教授)	梅崎昌裕
5	自然災害と環境激変にたえる生活と文化	<p>地震、火山噴火などの大自然災害による環境の激変に住民はどう対処したか。そのなかで文化はどういう役割を果たしたのか、あるいはこうしたカタストロフィックな事態のなかで、文化はどのような変容を強いられたか。古代における自然災害への対応や、自然災害と文明の盛衰についても考察する。</p> <p>【キーワード】 地震、火山噴火、自然災害、アエタ、文化の自覚化</p>	稲村哲也 放送大学・教授	稲村哲也
6	極北地帯の環境: イヌイト社会と気候変動	<p>極北の事例として、北部グリーンランドの採集狩猟社会と、南部グリーンランドの農業・ヒツジ放牧に気候変動(「温暖化」)がおよぼす影響を比較する。この章では、自然環境と文化・社会的な環境を歴史的な視点から現代の気候変動を考える。</p> <p>【キーワード】 極北、気候変動、文化・社会環境、経済</p>	本多俊和	本多俊和
7	病気と環境	<p>近代では、地球上における人の流れが加速されたことにより、地域生態系ごとの問題であった感染症は地球規模の疾患となった。食生活および身体活動パタンの変容により、心血管疾患など生活習慣と強い関連をもつ疾患が増加した。本章では、極北イヌイトと南太平洋住民に焦点をあてながら、人類が経験してきた近代化あるいは近代医療の受容と疾病構造の変化のプロセスを紹介する。</p> <p>【キーワード】 健康、病気、近代化、近代医療、南太平洋、極北</p>	本多俊和 梅崎昌裕	本多俊和 梅崎昌裕
8	河川と湖沼をめぐる環境問題と生活文化	<p>河川と湖沼という陸水をめぐる環境問題と住民の社会文化の変容を、利水、治水という人間の経済活動との関連を中心に論ずる。歴史的に長い視野を含みつつ、現代の文脈では途上国における開発問題との関連で、東アジア、東南アジア、アフリカなどの地域における事象を具体例として取りあげる。</p> <p>【キーワード】 陸水、アラル海、灌漑、水力社会、開発環境</p>	内堀基光	内堀基光 梅崎昌裕
9	山岳地域の文化と環境問題	<p>アンデスとヒマラヤを取りあげ、多様な環境を内部に有する山岳地域の伝統的な環境利用システムの特徴、複雑で多様な背景を有するグローバルな環境問題、ローカルな環境問題、その相互関係などを検討する。</p> <p>【キーワード】 山岳、熱帯高地、アンデス、ヒマラヤ、ラクダ科動物、ヤク</p>	稲村哲也	稲村哲也

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	草原と砂漠における 社会文化と環境問題	<p>国境をはさんで隣接し、異なる社会体制と歴史をもつモンゴル国と中国内モンゴル自治区をとりあげ比較する。乾燥地域に適合した持続的な生業としての遊牧が、近代化や国の政策によって変化し、それが環境問題にどのような影響を与えたか。また環境問題に対処する政策が社会にどのような影響を与えたかを考察する。</p> <p>【キーワード】 草原、砂漠、モンゴル、内モンゴル自治区、遊牧、生態移民</p>	稲村哲也	稲村哲也
11	森林の環境と文化	<p>森林の保全と地球環境全体の関連を概括し、また人類と森林の関係史を概略する。そこから、熱帯林と北方林に居住する狩猟採集民、農耕民の生態環境利用に論を進め、森林の減退がその生活文化に与えている影響を考える。森林資源の利用に関わる政治的諸主体と現地社会との交渉に着目する。</p> <p>【キーワード】 商業伐採、焼畑、狩猟採集民、熱帯林、亜寒帯林、政治生態学</p>	内堀基光	内堀基光
12	エコツーリズムと地域 社会	<p>自然資源を維持しながら地域の経済にも貢献するエコツーリズムは、現地の社会の伝統的知識を生かしつつ展開されてきたが、外部者からの当該社会と文化への直接的な影響がみとめられる。世界のエコツーリズムを事例にして、その裏面にある現地社会の具体相を考察する。</p> <p>【キーワード】 エコツーリズム、伝統的知識、環境保全、生態資源、地域経済</p>	池谷和信(国 立民族学博 物館・教授)	池谷和信
13	野生生物と人びとの 暮らし	<p>人類はこれまで食肉用を中心として毛皮や薬など、様々な形で野生動物を利用してきた。その結果、絶滅したり、稀少動物となった種も少なくない。その一方、世界中で獣害も問題となっている。ここでは野生動物と地域住民、ひいては人類との共存の可能性を、住民の視点から考える。ここから環境としての生物界と、生き物にとっての環境としての人間存在という対称性の観点に導く。</p> <p>【キーワード】 野生動物、獣害、毛皮交易、食文化、狩猟</p>	池谷和信	池谷和信
14	環境保全をめぐる政 治と社会	<p>環境破壊、環境劣化を引き起こす諸活動に対抗して、その保全をめざす諸主体のあり方を探る。地域社会の文化に対して、イデオロギーの面を含め、国際組織、NGO、政府機関など組織体の文化というべきものがそこにある。</p> <p>【キーワード】 政府、国際組織、NGO、住民コミュニティ、環境イデオロギー</p>	池谷和信	池谷和信
15	人類の生存圏と人類 文化	<p>まとめ:主任講師2名と担当講師1名による鼎談を軸に講義全体を総括する。環境を、人間にとっての環境としてだけでなく、他の生物種にとっての環境としても見るという拡大した視野をも取り入れることにより、地球上における人類の生存圏のあり方に注目し、現在の環境問題が人類の将来にどのような意味をもつかを考える。</p> <p>【キーワード】 地球環境、生存圏、人類文化、生物種としての人類</p>	内堀基光 本多俊和	本多俊和 池谷和信 内堀基光

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8940568	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 哲学史における生命概念 ('10) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 佐藤 康邦 (放送大学客員教授) 〕  
 【本学担当専任教員 : 魚住 孝至 (放送大学教授) 〕

### 講義概要

今日、学問の世界に限っても、様々な領域で生命、生、命という言葉が問題とされている。分子生物学を初めとした生命科学の新たな展開、臓器移植技術の開発、また、生命を脅かす環境問題の深刻化等の現象がそのきっかけとなっているとも考えられる。しかし、それとは別に、古代以来、生命の問題は哲学の重要な領域であった。とりわけ、近代においては、哲学的生の概念が、学問の世界における近代科学の支配に対する何らかの反発の文脈で主張されてきたということもある。そのことをふまえて、生の概念を軸として、哲学というものを捉え直してみる。

### 授業の目標

生概念を中心に据えた上で、西洋哲学史に関する基本的理解を得られることを目指す。たとえば、近代哲学を代表するカントの哲学の体系を構成する批判哲学の場合、第三番目の『判断力批判』になってようやく生命の問題が出てくるが、それはどのような理由からなのかの理解を目指す。また、ニーチェやベルクソンにおける生の概念の近代科学にとっての挑戦的意義を明らかにするとともに、それら哲学的生概念の科学論的意義の理解を目指す。

### 履修上の留意点

この科目で、哲学的生の概念が検討される際、今日の生命にまつわる諸問題は意識されているとは言え、授業の基本は、あくまでも正統的な哲学の研究を目指すものである。したがって、近代哲学を中心にした哲学一般に関する興味と基礎的な知識が必要となる。

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	序章と古代ギリシア哲学における生命概念(1)－神話から哲学へ	序章では、生命という主題を哲学の立場から取りあげることの意義について考察する。それに続いて、古代ギリシア人がいかなる形で生命を捉えたのかを見る。ホメロスの神話から始め、ソクラテス以前の古代ギリシアの生命観の検討が行われる。 【キーワード】 神話、有機体論、 pneuma、アナクシメネス、ヘラクレイトス、プシュケー、アトム論	佐藤康邦	佐藤康邦
2	古代ギリシア哲学における生命概念(2)－プラトンとアリストテレス	まず、プラトンにおけるイデア論に着目する。次にアリストテレスの形相因、目的因、エンテレケイア等の概念に即して、その有機体論的性格を検討する。最後にガレノスに言及する。 【キーワード】 イデア論、霊魂、ピロソフィア、ピュシス、形相因、資料因、作用因、目的因、エンテレケイア	佐藤康邦	佐藤康邦
3	近世哲学における機械論と有機体論(1)－レオナルドとデカルト	ガリレオ、デカルト、ベーコンの時代は科学革命の時代であり、機械論に先導された近代科学の登場の時代であった。そこでは、生命も、また、機械論の原理によって探究され、その成果がいわゆる「動物機械論」として現れた。ここではそれに先行するレオナルド・ダ・ヴィンチの解剖学も検討する。 【キーワード】 解剖学、絵画、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミクロコスモス、動物機械論、デカルト、延長実体、還元主義	佐藤康邦	佐藤康邦

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	近世哲学における機械論と有機体論(2) ー機械論への反駁	機械論的自然観への反駁の例をパスカルとライプニッツに見る。あわせて、現代における、有機体論、目的論との関係についても考える。 【キーワード】 機械論、繊細な精神、幾何学的な精神、目的論、モナド、ニーダム、有機体論	佐藤康邦	佐藤康邦
5	ヒュームからカントへ	ヒューム晩年の宗教論における目的論の扱いを見る。それとカントとのつながりを検討する。 【キーワード】 スコットランド倫理学、単純印象、想像力、自然宗教、自然神学、『純粋理性批判』、アプリアリな総合判断、悟性	佐藤康邦	佐藤康邦
6	目的論の観点から見た『純粋理性批判』と『実践理性批判』	カントの批判哲学を、有機体の理論である目的論との関連の観点から検討する。ここでは、『純粋理性批判』と『実践理性批判』が検討の対象となる。 【キーワード】 理論理性、統覚、超越論的論理学、超越論的弁証論、アンチノミー、実践理性、徳と幸福、神の創造目的	佐藤康邦	佐藤康邦
7	『判断力批判』の研究 (1)ー美と構想力	まず『判断力批判』の全貌が検討される。その上で、第一部、美的判断力の批判の検討に入る。とりわけ、構想力が検討の対象となる。 【キーワード】 判断力、美的(直感的)判断力、趣味判断、美、構想力、美的(直感的)規準理念、崇高	佐藤康邦	佐藤康邦
8	『判断力批判』の研究 (2)ー自然の合目的性	『判断力批判』における有機体論が検討される。とりわけ目的論との関わりで検討される。 【キーワード】 目的論的判断力、客観的合目的性、内的合目的性、自然目的、一個のシステムとしての全自然、根源的有機体、オートポイエーシス	佐藤康邦	佐藤康邦
9	『判断力批判』の研究 (3)ー反省的判断力	『判断力批判』における反省的判断力の問題が主題的に検討される。それを通して、ハイデッガーの解釈学的循環とのつながり等、後代の哲学との関わりについて考察する。 【キーワード】 反省的判断力、規定的判断力、アンチノミー、偶然、直観的悟性、全体、部分、解釈学的循環	佐藤康邦	佐藤康邦
10	『判断力批判』の研究 (4)ー世界の究極目的 ヘーゲルにおける生命概念(上)	『判断力批判』の終結部分で論じられている世界の究極目的について検討する。それと並んで『判断力批判』の後代における継承の過程が検討される。美と生命が哲学の主題となることの意味を確かめる。ついで、ヘーゲルの成立過程と『自然哲学』が検討の対象となる。 【キーワード】 究極目的、最終目的、道徳神学、ドイツ観念論、シェリング、『エンチュクロペディー』、「自然哲学」	佐藤康邦	佐藤康邦

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	ヘーゲルにおける生命概念(下)	ヘーゲル哲学における生命概念の意義が『精神哲学』の社会哲学に即して検討される。さらに、『論理学』についても生命の観点から検討される。  【キーワード】 「精神哲学」、家族、市民社会、国家、労働、教養、部分、分枝、「論理学」、推理、必然、偶然、自由	佐藤康邦	佐藤康邦
12	ニーチェの生哲学(1)ー力への意志	ヘーゲルの体系を最後として、哲学は人文科学の一領域に閉じこもることになる。それ以降、哲学における生命概念は、物理学に指導された近代科学への反発という動機を伴って展開されることになる。その代表的例としてニーチェが扱われる。  【キーワード】 生哲学、ルサンチマン、パースペクティヴィズム、力への意志、永遠回帰、超人	佐藤康邦	佐藤康邦
13	ニーチェの生哲学(2)ー哲学と音楽	ニーチェの哲学を、音楽との関係を通じて検討する。リヒャルト・ヴァグナーの芸術との関係が取りあげられる。  【キーワード】 リヒャルト・ヴァグナー、ディオニュソス的、パイロイト、『トリスタンとイゾルデ』、無限旋律、フルトベングラー、『カルメン』	佐藤康邦	佐藤康邦
14	ベルクソンの生哲学	ベルクソンの生哲学を概観する。特に、生概念を進化論との関係のもとで扱う。また、ともすれば、反科学的と受け取られがちな生哲学と科学との対話を模索する。  【キーワード】 直観、時間、空間、純粹持続、創造的変化、生命の跳躍、エントロピー	佐藤康邦	佐藤康邦
15	構造主義と生命科学	構造主義は、文化系の学問として展開された。しかし、その構造概念は、20世紀後半には、生物学者の注目するところとなった。ここでは、その構造概念を介しての、文化科学と自然科学の対話の例を追ってみる。  【キーワード】 構造主義、構造、形態、レヴィ=ストロース、民族学、象徴、図式、言語、ネオ・ダーウィニズム	佐藤康邦	佐藤康邦

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8940584	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 美学・芸術学研究 ('13) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 青山 昌文 (放送大学教授) 〕  
 〔主任講師 (現職名) : 〕  
 【本学担当専任教員 : 〕

### 講義概要

美学は、美とは何か、を考える学であり、芸術学は、芸術とは何か、を考える学である。美は、芸術に限らず、自然にも存在している。本講義は、自然美にも言及するが、考察の主体を芸術美におき、芸術が、文化の総体と深く豊かに関わっていることを、具体的芸術作品に即しながら、詳しく考察する。前半においては、全体に亘る体系的な考察を行い、後半においては、世界史上初の本格的美術批評家であったデイドロの美学・芸術学の深く豊かな意義を明らかにしてゆきたい。

### 授業の目標

美学が、芸術鑑賞のために役立つだけではなく、芸術創造にも寄与する、実践の学であることが、分かるようになることが、講義の目標である。また、芸術学が、芸術一般の本質についての原理的考察の学であるだけではなく、絵画・彫刻・音楽・演劇・文学・映画等の諸芸術の具体的芸術作品の解明に役立つ学であることが、分かるようになることも、講義の目標である。以上の点を踏まえて、美と芸術が、世界の素晴らしい本質の精華であることを、大学院レベルで厳密に理解することが、本講義の最終目標である。

### 履修上の留意点

放送大学では、学部の講義として、「芸術史と芸術理論('10)」と「社会の中の芸術('10)」、更には、「舞台芸術への招待('11)」が開講されている。これらは、学部の講義ではあるが、本講義と密接に関連しているので、是非、これらの講義も、学んで戴きたい。なお、本講義は、1997年より開講された学部講義「芸術の古典と現代」と、前半において、重複している部分があるが、この講義は、大学院が設置されていなかった時代に開講された講義であり、内容的には、大学院に相当するレベルのものを多く含んでいた講義であった。もちろん、本講義は、この学部講義と異なるものを多く含んでおり、また、重複部分においても、多くの改訂・増補がなされている。かつての「芸術の古典と現代」を受講された方は、この点に留意されて本講義を受講して戴きたい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	美と芸術について	始めに、「美」や「芸術」という言葉の語源を、日本語・ラテン語・ギリシア語において考察し、次に、「芸術」概念の誕生について述べ、その後、美学と芸術学の基本を語った後に、芸術と学問の深い関わりを明らかにし、現代芸術についても、その深い意味を明らかにする。  【キーワード】 美、芸術、美学、芸術学、学問、現代芸術、現代社会	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
2	美の本質	始めに、プラトンの美の階梯説について述べ、次に、アリストテレスの美学を考察し、その後、バウムガルテンの美学の転向について語り、デカルトに始まる近代の主観主義の問題点を明らかにして、そのデカルトと対立するライプニッツのモナド論美学を考察した後に、私自身の美学(青山美学)の一端を披瀝する。  【キーワード】 プラトン、アリストテレス、バウムガルテン、デカルト、ライプニッツ、青山昌文	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
3	芸術の本質	始めに、近代以前の時代における芸術の在り方の様々な特質について述べ、近代のイデオロギーでは古典芸術は理解できないことを明らかにする。次に、古典的芸術理論の深い意味を明らかにして、芸術と学問が、実は、同じ世界の本質に迫ろうとするものであることを明らかにする。  【キーワード】 芸術、近代、芸術のための芸術、ミーメシス、学問	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	自然美と芸術美	<p>始めに、ヘーゲルの自然美を低く見る立場の限界を指摘し、次に、プラトンとアリストテレスにおける自然の哲学的位置を明らかにして、その後、ヨーロッパにおいて、山岳美が、いかにして認知されていったかについて語る。更に、廃墟の美と、＜無限性の美学＞について語る。</p> <p>【キーワード】 ヘーゲル、プラトン、アリストテレス、山岳美、無限性の美学</p>	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
5	美術	<p>始めに、レオナルドの芸術論について語り、次に、古典主義における絵画の序列と、芸術作品の重層性について語る。その後、《ラオコーン》と《メディチのヴィーナス》を例に、古典彫刻における世界本質表現を明らかにする。</p> <p>【キーワード】 レオナルド、古典主義、絵画の序列、古典彫刻、世界本質表現、《ラオコーン》、《メディチのヴィーナス》</p>	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
6	場共生芸術――音楽・演劇――	<p>始めに、ヨーロッパ中世の＜宇宙の音楽＞美学について語り、次に、ヴァーグナーの音楽の超近代主観主義を明らかにして、音楽のコスモロジーの現代性を明らかにする。モーツァルトと現代複製音楽についても語り、最後に、演劇について、《木六駄》を例に、その本質を明らかにして、舞踊についても語る。</p> <p>【キーワード】 ＜宇宙の音楽＞、ヴァーグナー、コスモロジー、モーツァルト、現代複製音楽、《木六駄》、舞踊</p>	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
7	場超越芸術――文学――	<p>始めに、スカリジェルの＜古代人の模倣＞理論について語り、次に、ダンテのミーメシスについて明らかにして、その後、ゾラの自然主義について、その19世紀的側面と、正統的な古典的ミーメシス理論の面を明らかにする。最後に、クンデラの反近代主観主義について語る。</p> <p>【キーワード】 スカリジェル、＜古代人の模倣＞、ダンテ、ゾラ、クンデラ</p>	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
8	場超越芸術――映画――	<p>始めに、映画芸術の歴史の短さについて語り、次に、映画がかつて芸術とは認められなかったことの不当性を明らかにして、映画が芸術であることを述べ、パノフスキーの＜空間の動態化＞理論の紹介の後、《2001年宇宙の旅》と《アヴァター》を例に、映画芸術のもっている意味を明らかにする。</p> <p>【キーワード】 映画、ランゲ、バザン、パノフスキー、＜空間の動態化＞、《2001年宇宙の旅》、《アヴァター》</p>	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
9	建築	<p>始めに、ウィトルーウィウスの建築美学について語り、次に、アルベルティの建築美学、ゴシック建築のスコラ哲学性、ロココ建築の現世性について語って、その後、モダニズム建築とポストモダニズム建築の本質を明らかにする。</p> <p>【キーワード】 ウィトルーウィウス、ゴシック、モダニズム、ポストモダニズム、ヴェンチュリー、象設計集団、《名護市庁舎》</p>	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
10	芸術の体系的分類	<p>始めに、アリストテレスの芸術分類について詳しく語り、次に、ヘーゲル、カインツ、スーリオ、竹内敏雄、今道友信の芸術分類について語ったあと、私自身の芸術分類美学の一端を披瀝する。</p> <p>【キーワード】 芸術分類、アリストテレス、ヘーゲル、カインツ、スーリオ、竹内敏雄、今道友信、青山昌文</p>	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	美術館の政治性と ルーヴル美術館の歴史	始めに、都市の本質と美術館の公共性・政治性について語り、次に、ルーヴル美術館の歴史を、ルーヴル宮殿の時代から述べ、ルーヴルにおける展覧会の歴史とデイドロの美術批評について語ったあと、現代におけるルーヴル美術館の文化的表象装置としての意味を明らかにする。  【キーワード】 都市、公共性、帝冠様式、ルーヴル美術館、展覧会、デイドロ、美術批評、文化的表象装置	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
12	デイドロ美学の始源	始めに、現代の或るフランス人研究者のデイドロ美学解釈の誤りを指摘し、次に、最初期のデイドロ美学を、シャーフツベリの著書のデイドロによる自由訳において、詳しく厳密に考察する。デイドロ美学が、始めから、極めて一貫した、實在論的美学であり、＜全存在連鎖としての自然＞の哲学の上に立つ、深い、存在論的美学であることを明らかにする。  【キーワード】 デイドロ、シャーフツベリ、實在論、＜全存在連鎖としての自然＞、存在論	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
13	デイドロの関係の美学	デイドロの＜関係の美学＞を、『百科全書』の項目＜美＞において、詳しく厳密に考察する。デイドロ美学の反主観主義を明らかにして、美の超認識主観的實在性を明らかにする。更に、デイドロ美学における、＜関係＞の深い意味を論じて、デイドロ美学が、實在論的な存在充実の美学であることを明らかにする。  【キーワード】 デイドロ、＜関係の美学＞、超認識主観的實在性、存在充実	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
14	デイドロの美術批評ーシャルダンについてー	世界史上、最初の本格的美術批評を創始したデイドロの美術批評が、デイドロ美学の上に立つ、首尾一貫した美術批評であることを明らかにする。シャルダンの作品についての、デイドロの鋭い分析が、シャルダン作品の本質を明らかにするものであり、自らの＜ーにおける多の再現＞の美学に基づく、存在論的な美術批評であることを明らかにする。  【キーワード】 デイドロ、美術批評、シャルダン、＜ーにおける多の再現＞、内なる声、ミーメーシス	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)
15	デイドロの演劇美学	演劇美学史上に名高い、デイドロの『俳優に関する逆説』における演劇美学を、詳しく考察する。デイドロの無感受性演技論の真の意味を明らかにして、その演劇論が、＜理想的モデル＞のデイドロ美学に基づくことを明らかにする。スタニスラフスキー・システムの真の意味をも明らかにして、デイドロ演劇美学の、現代性と実践性を明らかにする。  【キーワード】 デイドロ、無感受性演技論、＜理想的モデル＞、スタニスラフスキー・システム、演劇実践美学、創造の美学	青山昌文(放送大学教授)	青山昌文(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2015年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8980004	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名（メディア） ＝ 日本史史料論 （'15） ＝ （R）

英文名 ＝ [ Archives of Japanese History ('15) ]

〔主任講師（現職名）：五味 文彦（放送大学教授）〕

〔主任講師（現職名）：杉森 哲也（放送大学教授）〕

【本学担当専任教員：】

### 講義概要

本科目は大学院では唯一の日本史科目である。基本的なテーマとしては、日本史研究の基礎である史料について論じる。日本史の学習・研究において、歴史研究の素材である史料を正確に読解し理解することは、最も基本的な作業である。本科目では、古代から近現代に至る日本の歴史を学習する上で最も基本的な史料を取り上げ、その特質と読解の基礎について講義を行う。

### 授業の目標

大学院における日本史の学習・研究は、単に学説の理解だけでは不十分であり、自ら史料を読解し理解することが求められる。本科目では、史料とは何かという基本的な知識を学習するとともに、史料を正確に読解し理解するための方法の基礎を習得することを目標とする。

### 履修上の留意点

大学院の歴史学科目である「東アジアの歴史と社会('10)」「アフリカ世界の歴史と文化('13)ーヨーロッパ世界との関わりー」を履修し、幅広く歴史学を学んでいただきたい。また学部の日本文学科目である「日本古代中世史('11)」「日本近世史('13)」「日本の近現代('15)」も、あわせて学習することを勧めたい。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	日本史研究と史料	日本史研究と史料との関係について、総括的に論じる。史料についての基本的な考え方に始まり、史料の種類とその性格に見合った使い方、史料の取り扱い方などを考え、海外史料の見方などにも触れる。  【キーワード】 史料学、文書、記録、歴史書、海外史料	五味 文彦 (放送大学教授)	五味 文彦 (放送大学教授)
2	古代の史料(1)ー六国史と古記録ー	古代史料のうち、六国史と古記録について論じる。日本では律令制度が整備される時代に、中国で各王朝が前王朝の歴史をまとめた史書を作成したことによって、『日本書紀』を筆頭に6つの史書が編纂された。これらの史書の特徴と、読み解くにあたって留意すべき点について論じる。また六国史の後の時代を研究する上で有用な、平安時代の貴族の日記について論じる。  【キーワード】 律令国家、歴史書、平安貴族、日記	鐘江 宏之 (学習院大学 教授)	鐘江 宏之 (学習院大学 教授)
3	古代の史料(2)ー律令法と儀式書ー	古代史料のうち、法制史料などについて論じる。編纂された成文法である律令法典は、古代社会を考える上で重要な法制史料である。律令法の体系を紹介するとともに、関連する史料を利用する上での留意点と、その読解によってわかる歴史像について論じる。また、平安時代に編纂された儀式書についても取り上げ、貴族社会について理解する上での利用について論じたい。  【キーワード】 法制史料、律令格式、政務、年中行事	鐘江 宏之 (学習院大学 教授)	鐘江 宏之 (学習院大学 教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	古代の史料(3)－文書－	古代史料のうち、文書について論じる。古代社会の実像にアプローチする上で、奈良の正倉院宝庫に伝世した正倉院文書や、寺院などに伝わる文書、さらには各地の遺跡から出土した漆紙文書は有用な史料である。これらの実例を紹介しながら、その利用について論じる。  【キーワード】 正倉院文書、漆紙文書、帳簿、売券	鐘江 宏之 (学習院大学 教授)	鐘江 宏之 (学習院大学 教授)
5	古代の史料(4)－木簡と金石文－	古代史料のうち、木簡と金石文などについて論じる。各地の遺跡から出土した木簡の実例を紹介し、その分析方法やそこから得られる歴史像について論じる。また、碑文、金属製品の銘文、墨書土器などについて概要を解説し、史料としての特性について論じる。  【キーワード】 出土文字資料、木簡、金石文、墨書土器	鐘江 宏之 (学習院大学 教授)	鐘江 宏之 (学習院大学 教授)
6	中世の史料(1)－文書－	中世史料のうち、古文書について論じる。中世史料のうち古文書はそれ自体学問として独自の発展を見てきたところから、古文書の様式に始まり、その機能や保管、利用方法に至るまで多岐にわたって解説する。  【キーワード】 古文書、文書様式論、文書機能論、紙背文書	五味 文彦 (放送大学教 授)	五味 文彦 (放送大学教 授)
7	中世の史料(2)－古記録－	中世史料のうち、古記録について論じる。中世には日記が広く書かれるようになり、日記史料に基づいて歴史書が編まれ、また歴史書として読まれた。その日記をはじめとする古記録からいかに歴史情報を探ってゆくのかを考える。  【キーワード】 日記、『吾妻鏡』、『明月記』、歴史書	五味 文彦 (放送大学教 授)	五味 文彦 (放送大学教 授)
8	中世の史料(3)－文学・絵画史料－	中世史料のうち、文学・絵画について論じる。中世には多様な史料が存在し、その多角的な扱いにより、歴史の内実に迫ることが可能である。そこで絵巻などの絵画史料や枕草子などの文学史料と文書・記録とを結びつけて歴史を探る方法について考える。  【キーワード】 絵巻、『枕草子』、『徒然草』、『一遍聖絵』	五味 文彦 (放送大学教 授)	五味 文彦 (放送大学教 授)
9	近世の史料(1)－武家史料－	近世史料のうち、武家史料について論じる。武家史料を作成・保管する主体は、幕府や藩の政庁、将軍や大名から下級の武士まで、広範囲に及ぶ。この回では、寛文4年(1664)から翌年にかけて実施された寛文印知において、将軍から大名に発給された領知判物と領知目録を取り上げる。あわせて『徳川実紀』などの幕府史料から、その実施過程についても検討する。  【キーワード】 武家史料、寛文印知、領知判物、領知目録、『徳川実紀』	杉森 哲也 (放送大学教 授)	杉森 哲也 (放送大学教 授)
10	近世の史料(2)－町方史料－	近世史料のうち、町方史料について論じる。町方史料は、江戸・京都・大坂の三都や城下町などの都市の町人地において、作成・保管される史料である。この回では、町で作成・保管される町有文書を取り上げ、その中の借屋関係の史料である「借屋借り請一件文書」について検討する。  【キーワード】 町方史料、町、町中、町有文書、借屋借り請一件文書	杉森 哲也 (放送大学教 授)	杉森 哲也 (放送大学教 授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	近世の史料(3)－仲間史料－	近世史料のうち、仲間史料について論じる。仲間史料は、商人や職人が形成している仲間で作成・保管される史料である。商人や職人の仲間の種類は多種多様で、その数も非常に多かった。この回では、京都・西陣の縮緬織屋仲間の史料を取り上げ、織屋の家の史料とあわせて検討する。 【キーワード】 仲間史料、京都・西陣、織屋、織屋仲間、縮緬織屋仲間	杉森 哲也 (放送大学教授)	杉森 哲也 (放送大学教授)
12	近代の史料(1)－公文書－	近代史料のうち、公文書について論じる。公文書はどのように管理・保存・公開されるのか。公文書の様式にはどのようなものがあるのか。どの史料保存機関にどのような公文書が所蔵されているのかななどを学ぶ。 【キーワード】 近代史料学・近代文書学、国立公文書館、外務省外交史料館、防衛省防衛研究所、アジア歴史資料センター	土田 宏成 (神田外語大学准教授)	土田 宏成 (神田外語大学准教授)
13	近代の史料(2)－政府の編纂記録－	近代史料のうち、政府の編纂記録について論じる。明治政府は歴史書の編纂を企画したが、それは挫折し、史料集の編纂となった。その他、明治天皇の伝記である『明治天皇紀』、法令等をまとめた『法令全書』・『法規分類大全』、外務省による『日本外交文書』などを取り上げ、その編纂の意図や過程を知り、その性格を理解する。 【キーワード】 修史事業、復古記、明治天皇紀、法令全書、法規分類大全、日本外交文書	土田 宏成 (神田外語大学准教授)	土田 宏成 (神田外語大学准教授)
14	近代の史料(3)－政治に関わる史料－	近代史料のうち、政治に関わる史料について論じる。政治家の日記・書簡、帝国議会議録、オーラル・ヒストリーを取り上げ、それらを活用して、政治家の思想と行動、政治的意図決定の過程を考察する方法を学ぶ。 【キーワード】 日記と書簡、斎藤隆夫、鳩山一郎、芦田均、山県有朋、桂太郎、帝国議会議録、オーラル・ヒストリー	土田 宏成 (神田外語大学准教授)	土田 宏成 (神田外語大学准教授)
15	近代の史料(4)－新聞・写真・地図－	近代史料のうち、新聞、写真、地図・空中写真について論じる。近代におけるテクノロジーの発達により、新たなメディアや記録技術が誕生した。近年のデジタル化、データベース化の進展は、これら史料の利用可能性をさらに高めている。近代特有の史料をどのように活用するかについて考える。 【キーワード】 新聞、写真、地図、空中写真	土田 宏成 (神田外語大学准教授)	土田 宏成 (神田外語大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8940541	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 東アジアの歴史と社会 ( ' 1 0 ) = ( T V )

[主任講師 (現職名) : 吉田 光男 (放送大学教授) ]

### 講義概要

中国と朝鮮を舞台にして、4人の講師が、各自の研究テーマに基づいてオムニバス形式で講義を行う。学説史・研究動向・史料的状态を基礎として、史料を用いた研究の方法を、具体的な事例の読み解き方を基礎として展開する。定説や通説を無批判に自明の理とすることなく、史料に基づき、社会学・経済学・人類学・文学など隣接諸分野を含めた新たな理論や方法論を取り入れてより豊かな歴史像を描き出す道を探求する。

### 授業の目標

講師ごとに提示される、歴史研究の多様な方法や視点を学び、東アジア史研究の最前線がどのような研究をしているのかを理解するとともに、史料批判と史料読解に基づく歴史研究の方法を身につける。また、現代の国家的枠組みにとられない、時代的実態に合わせたフレキシブルな地域理解を目標とする。

### 履修上の留意点

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	総説—東アジア史を研究する視点	本講座で検討対象とする東アジア(中国・朝鮮)史の研究 方法について、中国史・朝鮮史を専門とする4人の講師が それぞれの立場から論じる。従来の研究を基礎としながら、 第2章から始まる各論を見すえて全体像を提示し、実際の 東アジア史研究をどのように行うかについて示していく。  【キーワード】方法、史料、理論、環境	上田信(立教 大学・教授) 鶴間和幸(学 習院大学・教 授) 橋谷弘(東京 経済大学・教 授) 吉田光男(放 送大学・教 授)	上田信(立教 大学・教授) 鶴間和幸(学 習院大学・教 授) 橋谷弘(東京 経済大学・教 授) 吉田光男(放 送大学・教 授)
2	中国文明から東アジ ア文明へ—文明の多 様性と多元性	中国文明の舞台は黄河と長江が作り出した平原にある。そ の自然環境の変化と地域文化の多様性に注目しながら、 中国文明が東アジア文明として広がっていくことを見てい く。紅山遺跡の玉器と三星堆遺跡の青銅器を素材として取 り上げる。  【キーワード】黄河、長江、良渚文化、紅山文化、星堆遺跡	鶴間和幸(学 習院大学・教 授)	鶴間和幸(学 習院大学・教 授)
3	古代中華帝国の成立 —始皇帝の時代	中国史上最初の帝国と皇帝の誕生の歴史を資料に基づい て見ていく。始皇帝の秦時代の暗殺未遂事件の解明、統一 後の巡行と刻石(顕彰碑)の検討を中心に進めていく。基 本文献である『史記』への見直しでもある。  【キーワード】『史記』、画像石、統一、巡行、刻石、始皇帝 陵	鶴間和幸(学 習院大学・教 授)	鶴間和幸(学 習院大学・教 授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	隋唐帝国—東アジア 世界における古代	秦漢帝国に続く隋唐帝国を東アジア世界から見ていく。内陸の帝都長安も実は東方の平原や東アジアの海域とつながっていた。遣隋使や遣唐使の海域の海路と中国の運河の水運ネットワークの結びつきなども解明していく。  【キーワード】関隴集団、長安、運河、遣唐使、張宝高、新羅、東アジアの海	鶴間和幸(学 習院大学・教 授)	鶴間和幸(学 習院大学・教 授)
5	モンゴル帝国以後の 海域アジア史	13世紀以降、中国の歴史を、東シナ海・南シナ海・インド洋と連なる海域アジアとの交流のなかで、大局的に把握する。そこに活躍する人々の姿を、歴史として見るためには、どのような方法があるのだろうか。科学を標榜する歴史学は「英雄史観」から脱却するために、人物を描くことに消極的であった。一個の人物の多様な側面を、史料を通じて客観的に把握するめための方法を提示する。  【キーワード】生態環境史、文明の生態史観、文明の海洋史観、人格の標識	上田信(立教 大学・教授)	上田信(立教 大学・教授)
6	碑文を通してみる明 初の世界—鄭和	七回にわたる大航海をしたことで知られる鄭和は、雲南のムスリムの家にも生まれた。明軍の雲南攻略のなかで去勢され、明朝第3代の皇帝・朱棣(永楽帝)の宦官となった鄭和が、なぜ大航海の率いることになったのか。この航海がその後の中国に残したものは何だったのか。鄭和に関する碑文を読み解くことで、明らかにしてゆく  【キーワード】明朝、海禁政策、朝貢、宦官	上田信(立教 大学・教授)	上田信(立教 大学・教授)
7	武装海洋商人の世界— 王直	新安商人として知られる商人グループの故郷・徽州で生まれた王直は、なぜ倭寇の統領として名を歴史に留めることになったのか。王直本人が記したとされる上訴を読み解くことで、考察していく。明朝・ポルトガル人・日本人など、立場を異にする人々が記した史料から、日本に拠点をおいた王直の実像に迫る。また、今日における日中間の人物評価の違いにも目を向ける。  【キーワード】後期倭寇、王直上訴、種子島への鉄砲伝来	上田信(立教 大学・教授)	上田信(立教 大学・教授)
8	清朝の勃興と海域ア ジアの変容—鄭成功	日本人を母に持ち、中国海洋商人を父とする鄭成功がどのようなヴィジョンを持っていたのか、オランダ語史料に残された鄭成功が出した布告を手掛かりにして迫る。また、「実録」と呼ばれる史料の読み方を示す。  【キーワード】平戸、海洋商人、オランダ東インド会社、タイオワン、実録の読み方	上田信(立教 大学・教授)	上田信(立教 大学・教授)
9	清代行政文書から見 える社会—陳弘謀	清代を通じて最も有能な地方官僚の1人として知られる陳弘謀は、詳細な行政文書を後世に残した。この文書を読み解くことで、18世紀の人口爆発に清朝がどのように対応しようとしたのか、地方の情報を官僚がどのように把握していたのか、地方官は皇帝とどのような関係を持っていたのか、具体的に知ることができる。海域アジアに在住する華人への政策をめぐる公文書を読む。  【キーワード】科挙、地方官、人口爆発、食料輸入清代行政文書	上田信(立教 大学・教授)	上田信(立教 大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	近代世界システムと中国—ウィリアム=ジャーディン	アヘン戦争の仕掛け人として、中国史に悪名を残すジャーディンは、スコットランドで生まれ、イギリス東インド会社の船医からカントリー・トレーダーに転身、茶葉とアヘンの交易で活躍する。彼が創立したジャーディン・マセソン商会は、アジア有数の商社として、発展を遂げる。転機となったアヘン戦争を、書簡から読み解いていく。  【キーワード】イギリス東インド会社、アヘン戦争、ジェントルマン資本主義	上田信(立教大学・教授)	上田信(立教大学・教授)
11	高麗と元帝国・東アジア	モンゴルと高麗の間は、支配服属関係で語られる。しかし、高麗国王は元の王女を妻にむかえ、元王室の婿として駙馬高麗国王という特殊な地位を得た元王室の一員の地位にもあった。元の強大な軍事力による東アジアの変動の中で高麗のとった外交政策が可能だった背景を探り、朝鮮史料を中心として考察することによりし、日本・中国から見たのとは異なった東アジア史像を構想する。  【キーワード】モンゴル、元、高麗、元寇、支配、服属	吉田光男(放送大学・教授)	吉田光男(放送大学・教授)
12	東アジアの国際関係と近世の朝鮮	近世の日朝関係において、朝鮮王朝から江戸幕府に派遣されてきた通信使が注目されている。東アジアの外交現場で、お互いの利益をかけた戦いが繰り返されていた。さらに朝鮮は清に燕行使を派遣し、北方の安定化もはかっていた。それぞれがどのような思惑で国際関係を結んでいったのか、日本・朝鮮・中国の史料を対比しながら、同時代の歴史的リアリティーに迫る方法を探求する。  【キーワード】通信使、燕行使、外交、倭館、交隣、清	吉田光男(放送大学・教授)	吉田光男(放送大学・教授)
13	戸籍で見る朝鮮の近世社会	朝鮮王朝は14世紀末の創建以来、3年ごとに全国一律の住民調査を行い、戸籍大帳というかたちでまとめていた。この戸籍大帳を資料として用いて、朝鮮近世社会の実態を人口を通して探求する。また、歴史学における通説的理解のできかたと問題点、その批判と克服の方法について提示してみる  【キーワード】人口、身分、両班、通説、戸籍、歴史人口学	吉田光男(放送大学・教授)	吉田光男(放送大学・教授)
14	植民地期の朝鮮	朝鮮における植民地支配の歴史を取り上げ、欧米の植民地支配との比較、産米増殖計画、植民地工業化の意味、植民地都市の形成、皇民化政策などの問題について、史料や統計を示しながら具体的に検討する。また、解放後の歴史との関連や、現代からの視点も意識して取り入れる。  【キーワード】植民地 産米増殖計画 植民地工業化 植民地都市 皇民化政策	橋谷弘(東京経済大学・教授)	橋谷弘(東京経済大学・教授)
15	アジアNIESとしての韓国	20世紀後半の世界史特徴づけるアジア工業化の一環としての韓国の工業化の歴史を取り上げ、欧米や日本の工業化との比較、アジアNIES(新興工業経済地域)の工業化プロセスの特徴などについて、史料や統計を示しながら具体的に検討する。また、「ポストアジアNIES」ともいえる80年代以降の展開についても考察する。  【キーワード】工業化 アジアNIES 輸出志向 外資導入 開発独裁	橋谷弘(東京経済大学・教授)	橋谷弘(東京経済大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8940592	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = アフリカ世界の歴史と文化 ( ' 1 3 ) = (R)  
 -ヨーロッパ世界との関わり-

〔主任講師 (現職名) : 草光 俊雄 (放送大学教授) 〕  
 〔主任講師 (現職名) : 北川 勝彦 (関西大学教授) 〕  
 【本学担当専任教員 : 〕

### 講義概要

この科目は地域文化研究IIIを引き継ぐもので、前回ヨーロッパの歴史と文化という枠組みのなかで「旅」をキーワードとして考える科目であったが、今回は「ヨーロッパとアフリカ」という視点から、古代ギリシア・ローマの時代から現代まで、ヨーロッパとアフリカとの関係をさまざまなテーマで考えていきたい。地中海を挟んでヨーロッパとアフリカは古来、密接な関係を築いてきた。近代にはその関係が一方的な支配・被支配、奴隷制の展開、植民地化といった不幸な関係に変質していった。それぞれの時代にヨーロッパがアフリカをどう見ていたか、またアフリカがヨーロッパに対してどう関わってきたかを歴史学、文学、人類学などさまざまな分野の学問を動員して考察する。

### 授業の目標

大学院科目にふさわしく、広い視野から問題を考える、ときには当該のテーマについて深く探究する、という姿勢を学生たちが身につけてほしいと考えている。

### 履修上の留意点

学部の授業では、「南北アメリカの歴史(14)」「歴史と人間(14)」「ヨーロッパの歴史 I (15)」「ヨーロッパの歴史 II (15)」を履修することが望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	イントロダクション	アフリカ地域認識、アフリカ史研究のパラダイムの変遷、19世紀までのアフリカ史理解の枠組み、20世紀の研究動向、21世紀の新動向などを概観する。アフリカ史への導入。  【キーワード】 ヨーロッパ史中心史観、ナショナリスト史、アフリカ人ディアスポラ、ジェンダ史	草光、北川	草光・北川
2	ギリシャ・ローマ時代の アフリカ	北アフリカ(エジプトとカルタゴ)、北東アフリカ(ヌビアとエチオピア)が初期アフリカ史において果たしていた重要な役割を検討しながら、初期アフリカ文明が地中海、紅海、インド洋を舞台にして、南ヨーロッパ地域と相互に交流していたことを明らかにする。  【キーワード】 古典・古代、ローマ帝国、交易	草光	草光・北川
3	キリスト教とアフリカ～ 植民地化以前～	アフリカでは初期キリスト教が根付いており、新たな宗教の最初の改宗者として、また神学者として中心的な役割を果たしてきた。しかし19世紀にミッシヨナリーの出現によってアフリカでのキリスト教の歴史も異なってくる。  【キーワード】 キリスト教、アウグスティヌス、修道院、エジプト、ヌビア、エチオピア	石川博樹(東京外国語大学・准教授)	石川・草光・北川

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	イスラーム教の拡散と アフリカ	アフリカの多くの地域はムスリムがDar al-Islam(平和の住むところ)と呼び、イスラームが人びとの暮らしを教え導く世界の一部となってきた。イスラームのアフリカへの拡大が宗教と文化と人びとをどれほどブレンドしてきたかを考える。  【キーワード】 ムハンマド、クルアーン、ベルベル人、サハラ越え交易、ラマダーン、シャリーア	北川	北川・草光
5	「東方三博士の礼拝」 図像におけるアフリカ・黒人の表象	《東方三博士の礼拝》という図像表現におけるアフリカ,あるいは黒人の出現について,歴史的に俯瞰し,ヨーロッパキリスト教文化にとっての必然性・必要性について考えてみる。  【キーワード】 マギ、キリスト教図像学(イコノグラフィ)、プレスター・ジョン伝説とオスマン帝国、ボス、ブリューゲル、「オリエンタリズム」	宮下志朗	宮下・草光・北川
6	インド洋とアフリカ— スワヒリ都市の社会と文化—	インド洋交易は東アフリカをイスラーム世界の中心部に結びつけた。スワヒリ世界の都市国家は海洋交易で互いに競い合い、西インド洋の長距離交易を行っていた。そこには宗教と文化の統一性があった。  【キーワード】 インド洋世界、モンスーン、アザニア、ダウ船、スワヒリ、西インド洋、マダガスカル	北川	北川・草光
7	大航海時代とアフリカ	アフリカはヨーロッパの世界進出の足がかりであった。ポルトガルは東アフリカで最初の沿岸帝国を建設しようとした。強大な軍事力を背景としたヨーロッパのアフリカの破壊により海岸部の生活は大きく変化した。次にアラブ人たちの帝国が出現する。アフリカはグローバルの覇権争いのなかで大きく変化していった。  【キーワード】 サハラ交易、金、塩金交易、エンリケ航海王子、アフリカ沿岸帝国、スワヒリ都市、インド洋交易、ヴァスコ・ダ・ガマ	草光	草光・北川
8	奴隷制度とアフリカ (1)一大西洋奴隷貿易以前の奴隷制と奴隷貿易—	アフリカ人移動の歴史について大西洋奴隷貿易が注目されるが、それよりも長い歴史を持つサハラ砂漠越えとインド洋の奴隷貿易が存在していたことはあまり知られていない。二つの奴隷貿易の違いを検証し、アフリカ人にとっての奴隷貿易について考える。  【キーワード】 奴隷制、奴隷貿易、資産奴隷	北川	北川・草光
9	奴隷制度とアフリカ (2)一大西洋奴隷貿易—	奴隷化されたアフリカ人は1500年以降、新興の大西洋世界を建設する上で重要な役割を演じた。しかしアフリカにおける奴隷貿易の特質についてまだ検討の余地が残っている。それらの問題を考えていく。  【キーワード】 大西洋奴隷貿易、三角貿易、中間航海	北川	北川・草光
10	啓蒙ヨーロッパとアフリカ	ヨーロッパ啓蒙主義は宗教と古い因習を否定し相対的な文明観を近代的思考にもたらしたが、一方で歴史的段階論を唱え、未開社会から近代社会への歴史の進歩史観を定着させた。その際アフリカは未開社会の典型として描かれるようになる。啓蒙主義がアフリカに向けた眼差しを検証し、アフリカがそれから何を学んだかをあわせて考える。  【キーワード】 啓蒙主義、モンテスキュー、百科全書、ヒューム、スミス、博物学、リンネ、スバルマン、ビュフォン	草光	草光・北川

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	ヨーロッパによる植民地化(1)ーヨーロッパ人の征服とアフリカ人の対応ー	19世紀ヨーロッパの主要国による帝国主義的な世界介入・侵略の矢面に立ったのがアフリカであった。20世紀の初頭には「アフリカの略奪」が完成し、列強は制服から統治(ガバナンス)へとシフトしていく。植民地行政のシステム確立とそれによるアフリカの経済的利用である。そのためのアフリカの「平和的利用」を樹立するプロセスを検討する。 【キーワード】 アフリカ分割、ミッシヨナリ、ベルリン西アフリカ会議	北川	北川・草光
12	ヨーロッパによる植民地化(2)ー植民地統治・植民地経済・社会変化ー	列強による植民地化は合法化のプロセスであり、そのため植民地支配を「愛他主義」の観点から正当化した。アフリカの文明化を実行するヨーロッパというイメージが作り上げられた。この章では植民地統治のさまざまなモデルを検証する。 【キーワード】 間接統治、直接統治、移住植民地、プランテーション農業、小農生産、労働移動	北川	北川・草光
13	アフリカの独立とヨーロッパの対応(1)ー第二次世界大戦～70年代ー	第二次大戦の終了はグローバルな政治の新しい時代を開いた。ヨーロッパは疲弊し、それに変わるアメリカ合衆国とソ連という強国が台頭した。この2大強国を中心とした冷戦はアフリカにも壊滅的な影響をもたらした。一方第二次大戦は解放運動の時代の出現の契機ともなった。アフリカはその当事者でもあった。脱植民地化の動きである。アフリカ諸国はどのようにして独立の道を進んだのか。その過程を検証する。 【キーワード】 第二次世界大戦、民族解放、脱植民地化	北川	北川・草光
14	アフリカの独立とヨーロッパの対応(2)ー1980年代・1990年代ー	独立達成後、申請アフリカ諸国の指導者や市民は、自らが新しい挑戦すべき課題に直面した。冷戦の国際政治はアフリカ諸国をイデオロギー闘争に巻き込んでいった。新興国家はその内部で政治システムを開発するために苦闘していた。20世紀後半のアフリカの歴史は20世紀後半の政治史の勝利と悲劇に象徴されている。 【キーワード】 ポスト冷戦、低開発、崩壊国家、アフリカ連合、アフリカ文化、ジェンダー	北川	北川・草光
15	アフリカ世界の歴史と文化を学び終えてー新世紀の新展望ー	1970年代80年代はアフリカにとって経済的には「衰退の20年」政治的には「困難の20年」であった。しかし冷戦の崩壊と共にアフリカには希望の兆しが現れる。民主化の波が押し寄せ独裁政権や軍事政権は相対的に弱体化し、自立した経済復興も見られるようになる。アフリカの今後はもちろんすべてが楽観的ではないが、将来のアフリカを展望することで講義を終える。 【キーワード】 経済発展、民主化	草光・北川	草光・北川

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8940614	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 中世・ルネサンス文学 ('14) = (R)

英文名 = [ Medieval and Renaissance Literature ('14) ]

[主任講師 (現職名) : 宮下 志朗 (放送大学教授) ]

[主任講師 (現職名) : 井口 篤 (放送大学准教授) ]

【本学担当専任教員 : 】

### 講義概要

ヨーロッパ中世・ルネサンスの多種多様な文学作品を読み、これらの作品が提起する問題について批判的に考察する。時代順に作品を紹介するのではなく、いくつか重要なテーマ（「恋愛」、「言語」、「信仰」）を設け、それらのテーマとの関連の中で様々な作品を紹介していく。個々の作品は、基本的に日本語訳で紹介していくが、本文中もしくは巻末に原典を付すこともある。

### 授業の目標

ヨーロッパ中世およびルネサンスの文学作品が様々な歴史的・文化的・社会的条件の網の目の中で書かれていることを学ぶこと。また、文学作品を丁寧に読解・分析する姿勢を学ぶこと。

### 履修上の留意点

とくに履修上の制限を設けないが、例えば「世界の名作を読む ('11)」、「文学のエコロジー ('13)」、「ヨーロッパ文学の読み方-古典篇 ('14)」などは大いに参考になるであろう。

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	プロローグ「中世」と「ルネサンス」をさがして	「中世」そして「ルネサンス」ということばの歴史性について確認する。  【キーワード】 「中世」、「ルネサンス」、時代区分、進歩史観	井口篤 (放送大学准教授)	宮下志朗 (放送大学教授)、井口篤 (放送大学准教授)
2	恋愛・ジェンダー (1)ーキリスト教と禁じられた愛	中世を代表する哲学者・神学者の一人であるピエール・アベラルの『災厄の書 ( <i>Historia Calamitatum</i> )』およびエロイーズとの往復書簡を例として、中世キリスト教社会におけるジェンダー観と恋愛の諸相について論じる。  【キーワード】 ピエール・アベラル、エロイーズ、『災厄の書』、『愛の往復書簡』	横山安由美 (フェリス女学院大学教授)	横山安由美 (フェリス女学院大学教授)
3	恋愛・ジェンダー (2) アーサー王物語とかなわぬ恋	12世紀以降、ヨーロッパの各地域でアーサー王を中心とする騎士たちの伝説が人気を博した。この講義においては、中世フランス文学におけるアーサー王伝説やトリスタン物語を取り上げ、騎士道恋愛における男女関係がどのようなものであったのかについて概観する。  【キーワード】 アーサー王ロマンス、トリスタン、騎士道恋愛、『薔薇物語』	横山安由美 (フェリス女学院大学教授)	横山安由美 (フェリス女学院大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	恋愛・ジェンダー (3)—天使のような 貴婦人から恋する 女性読者まで	ダンテ・ボッカッチョ・ペトラルカなどのイタリア中世詩人の作品における恋愛とジェンダーについて考察する。精神的な恋人たる貴婦人のイメージが、ダンテやペトラルカの作品においてどのように発展するのかをたどり、恋愛抒情詩の感性の重要な原型をそこにさぐる。さらに、ボッカッチョの物語文学における女性の身体性や官能の表現と比較する。  【キーワード】 ダンテ、ボッカッチョ、ペトラルカ	村松真理子 (東京大学准教授)	村松真理子 (東京大学准教授)
5	恋愛・ジェンダー (4)—シェイクスピア作品における恋愛の諸相	ウィリアム・シェイクスピアの作品における恋愛の諸相について論じる。  【キーワード】 シェイクスピア、恋愛	河合祥一郎 (東京大学教授)	河合祥一郎 (東京大学教授)
6	言語・翻訳 (1)— 12世紀の文学とことば	第3回で見た通り、アーサー王伝説はヨーロッパ各地で書かれ、読まれていた。この回では、アーサー王伝説のラテン語から母語への翻訳や、各国語による物語の成立・伝播の諸相について講義する。  【キーワード】 アーサー王伝説、翻訳、ラテン語と母語	横山安由美 (フェリス女学院大学教授)	横山安由美 (フェリス女学院大学教授)
7	言語・翻訳 (2)— ダンテの新しいことばと新しい読者	ダンテ・アリギエーリは、母語（つまりイタリア語の原型となったフィレンツェ方言）で著作をすることに非常に意識的な詩人であった。この回においては、ダンテの著作を通じて、中世後期ヨーロッパにおけるラテン語と母語の関係の一例と、その歴史的な影響について考察したい。  【キーワード】 ダンテ、『俗語詩論』、ラテン語と母語	村松真理子 (東京大学准教授)	村松真理子 (東京大学准教授)
8	言語・翻訳 (3)— 英語を話す神：中世後期イングランドにおける聖書翻訳	中世のヨーロッパにおいて信仰の基盤となっていたのはヒエロニムスのラテン語訳聖書であったが、このラテン語聖書の翻訳をめぐる、14世紀終わりのイングランドでは一大論争が巻き起こる。オックスフォード大学の神学者ジョン・ウィクリフと彼の追隨者たちの運動を軸に、中世後期における聖書翻訳の諸問題について考える。  【キーワード】 ラテン語、俗語、ウィクリフ、翻訳、検閲	井口篤（放送 大学准教授）	井口篤（放送 大学准教授）
9	言語・翻訳 (4)— シェイクスピア作品における言語の問題	シェイクスピアの作品には言語という概念がどのようににたち現れてくるかについて概観する。  【キーワード】 シェイクスピア、言語、翻訳、レトリック	河合祥一郎 (東京大学教授)	河合祥一郎 (東京大学教授)
10	信仰 (1)—知と愛と幸福	ダンテの『神曲』は、魂の救済が切実なテーマであった中世末期の知の大全かつ、「愛」と「救済」をテーマとした壮大な作品である。14世紀前半の社会的文化的な変動をうつつ、近代への分水嶺とも言える表現であり、カソリックの中世の世界観とともに、当時の知性のかかえる危うさを語っていると解釈もある。信仰と知性との関わりから、『神曲』の語るものをひらいてみたい。  【キーワード】 ダンテ、『神曲』、救済	村松真理子 (東京大学准教授)	村松真理子 (東京大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	信仰 (2) — 中世後期イングランドの神秘主義文学	中世後期イングランドにおける神秘主義について概観する。特にリチャード・ロウルやノリッチのジュリアンなどに着目しながら、カトリック教会において「神と出会う」ことがどのような意味をもっていたのかについて考える。  【キーワード】 神秘主義、俗語、「魂の判断」、「中道的生き方」	井口篤 (放送大学准教授)	井口篤 (放送大学准教授)
12	信仰 (3) — 「精神の湯浴み」としての笑い	中世・ルネサンス文学における信仰と笑いについて考える。ウンベルト・エコの小説『薔薇の名前』から話題を引き出すことから始めて、ペトラルカ、ラブレー、モンテーニュまで、広く論じてみたい。  【キーワード】 機知あふれる笑い、信仰と笑い、メランコリー、精神の解放	宮下志朗 (放送大学教授)	宮下志朗 (放送大学教授)
13	信仰 (4) — 16世紀の出版と「検閲」について	印刷術という大量複製技術は、新たな思想を運ぶメディアとして大きな役割をはたし、宗教改革を支えた。そうした「危険な書物」を規制する「検閲」や「発禁」というシステムについて考え、「禁書目録」を具体的に検討する。  【キーワード】 特認、納本、禁書目録、検閲	宮下志朗 (放送大学教授)	宮下志朗 (放送大学教授)
14	信仰 (5) — シェイクスピア作品における信仰の問題	エリザベス朝演劇における信仰の問題について考察する。  【キーワード】 宗教改革、カトリシズム	河合祥一郎 (東京大学教授)	河合祥一郎 (東京大学教授)
15	エピローグ — ユマニズムの原点とは、ユマニズムの本質とは	ルネサンスの文化や思想は、しばしば「ユマニズム」(英語では「ヒューマニズム」)と組み合わせられて論じられるが、このユマニズム(人文主義)の原点と本質について考えてみたい。  【キーワード】 フマニタス、リベラル・アーツ、コスモポリタニズム、ユマニズムと手職の人々、「16世紀科学革命」	宮下志朗 (放送大学教授)	宮下志朗 (放送大学教授)、井口篤 (放送大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8940606	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = ことばとメディア ( ' 1 3 ) = ( R )  
 - 情報伝達の系譜 -

[主任講師 (現職名) : 宮本 徹 (放送大学准教授) ]  
 [主任講師 (現職名) : 大橋 理枝 (放送大学准教授) ]  
 【本学担当専任教員 : 】

### 講義概要

ヒトは、ことばによるやり取りに、様々なメディアを用いることで、その範囲を拡大・多様化してきただけでなく、本質的な変革を多岐にわたって成し遂げてきた。  
 ヒトが用いてきた、そして今用いている様々なメディアの実際例を取り上げ、それを、ことばによるやり取りという観点から分析・解説し、メディアとことばの関係を示すことによって、ヒトとヒトの間の伝達の様々な容体の本質を考え、ことばによって支えられてきた、社会や文化の一端を考える手がかりを提供する。

### 授業の目標

様々な時代のメディアの実際例とその特質を理解し、そこで行われることばによるやり取りの本質を考え、ことばによって支えられてきた、社会や文化の一端を考える手がかりを提供することが、本科目の主なねらいである。

### 履修上の留意点

「メディア」という言葉が科目名に入っているが、マス・コミュニケーションを中心的に扱う科目ではなく、様々な媒体 (=メディア) とことばの関係を扱う科目である。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	様々な情報伝達メディア	この科目における「情報伝達メディア」の考え方を提示し、各回を担当する講師それぞれが情報伝達メディアをどのように捉えているかを示す。  【キーワード】 情報、伝達、メディア、文字、ことば、媒体	宮本徹(放送大学准教授)・佐藤卓己(京都大学大学院准教授)・井口篤(放送大学准教授)・大橋理枝(放送大学准教授)	宮本徹(放送大学准教授)・佐藤卓己(京都大学大学院准教授)・井口篤(放送大学准教授)・大橋理枝(放送大学准教授)
2	書物の「胚胎」	東洋の代表として、中国における書物誕生以前の状況について述べる。 メディアとしての書物が成立するより前、いかなるメディアによりどのような情報伝達がなされたかを考察する。  【キーワード】 甲骨文、金文、口頭言語、書物化、押韻規則	宮本徹(放送大学准教授)	宮本徹(放送大学准教授)
3	書物の「誕生」	竹簡や帛書から始まった中国における書物化は、やがて紙へとそのメディアを変えていく。その中で誕生した韻書という書物と、それが持つ規範性の変容について考察する。  【キーワード】 紙、反切、五家韻書、切韻、規範性	宮本徹(放送大学准教授)	宮本徹(放送大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	書物の「成長」	<p>書物が写本から版本へとそのメディアを「成長」させる過程において、書物自身も成長を遂げた。その具体的な様相を切韻系韻書を例に考察する。</p> <p>【キーワード】 写本、版本、韻書、切韻、広韻</p>	宮本徹(放送大学准教授)	宮本徹(放送大学准教授)
5	中世ヨーロッパの写本文化	<p>手書きの書物、とくに西洋中世における写本を見ることで、西洋の前近代におけるメディア・情報伝達の特質について考える。</p> <p>【キーワード】 写本、句読点の導入、音読と黙読、修道院、ラテン語と母語、識字率</p>	井口篤(放送大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)
6	メディアとしての大学	<p>大学を知・情報を媒介するメディアととらえ、とくに中世ヨーロッパの大学に焦点を当てて、黎明期にあった大学における情報伝達のあり方について考える。</p> <p>【キーワード】 大学の誕生、スコラ哲学、自由学芸、12世紀ルネサンス、ジョン・ウィクリフ</p>	井口篤(放送大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)
7	カトリック教会—神と人のメディア—	<p>中世ヨーロッパにおいて神と人間を媒介するメディアとして機能していたカトリック教会の特質について解説する。とくに説教と演劇について詳しく説明し、これらの情報伝達手段がどのようにして中世ヨーロッパのカトリック信仰を形成していたのかについて概観する。</p> <p>【キーワード】 カトリック教会、説教、演劇、プロパガンダ、検閲、正統信仰の統制</p>	井口篤(放送大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)
8	印刷文化とヨーロッパ	<p>15世紀後半にヨーロッパにおいて導入された印刷技術が初期近代ヨーロッパの社会にどのような社会的・文化的影響を及ぼしたかについても概観する。</p> <p>【キーワード】 印刷術、グーテンベルク、母語、識字率、宗教改革、愛国心、ヒューマニズム、ルネサンス</p>	井口篤(放送大学准教授)	井口篤(放送大学准教授)
9	書籍・雑誌	<p>文字情報を大量発信する形態である書籍や雑誌の歴史を振り返りつつ、それらの在り方や影響について考える。</p> <p>【キーワード】 書籍、雑誌、出版</p>	大橋理枝(放送大学准教授)	佐藤卓己(京都大学大学院准教授) 及び 大橋理枝(放送大学准教授)
10	新聞	<p>幾つかの国における新聞発達の歴史を概観しながら、一元化された情報を紙面上の文字を使って大量に発信する新聞の在り方を考える。</p> <p>【キーワード】 新聞、文字情報、大量発信、政論、報道</p>	大橋理枝(放送大学准教授)	佐藤卓己(京都大学大学院准教授) 及び 大橋理枝(放送大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	電信・電話	19世紀末期頃以降、電氣的な手段による情報伝達の技術が確立され、遠隔・同時・多数への同報、等々、情報伝達は質的に大きな変化を遂げた。有線電信・有線電話・無線電信・無線電話～放送、各々の基本的な構成と技術の特色をを概観し、送り手からの情報を核になる局に集約して受け手に再配信する情報伝達システムの本質を考える。  【キーワード】 電信、電話、有線、無線、放送、局	大橋理枝(放送大学准教授)	大橋理枝(放送大学准教授)
12	ラジオ	「声」から「文字」へと発展してきたメディア文化は、電気通信技術を媒介により二次的な「声の文化」を生み出した。この「ラジオ文明」の意義を1920年代の議論から考える。その上で、ラジオが黄金時代を迎えた1930-40年代を中心に音声メディアにおけることばの政治的機能とその効果を考える。  【キーワード】 ラジオ放送、ラジオ文明、場所感覚の喪失、ラジオ人、ファシスト的公共性、総力戦体制	分担講師 佐藤卓己(京都大学大学院准教授)	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)
13	テレビ	ラジオ放送は国境を越えたが「言葉の壁」までは超えられなかった。音声に映像が加わったテレビにおいて、ようやく「言葉の壁」は絶対的なものではなくなった。しかし、その代わりにテレビ方式による「政治の壁」が立ちはだかっていた。音声と映像が一体化した最後の「国民化メディア」における言葉を教育(国民再生産)の視点で考える。  【キーワード】 テレビ放送、教育型テレビ、一億総白痴化、ビデオ革命	分担講師 佐藤卓己(京都大学大学院准教授)	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)
14	インターネット	電信電話からラジオ、テレビを経てテレ・コミュニケーションはインターネットに到達した。双方向性を重視して公共性を放棄した電話と、公共性を重視して双方向性を放棄した放送は、インターネット時代に再び融合する。情報が瞬時に国境を越える「地球村」において、ソーシャル・メディアと電子書籍の普及とは、ことばと文字テキストにどのような影響を与えるのかを考える。  【キーワード】 WWW、地球村、SNS、ウェブ2.0、ソーシャル・メディア、電子ブックス	分担講師 佐藤卓己(京都大学大学院准教授)	佐藤卓己(京都大学大学院准教授)
15	情報の伝達	「情報を伝達する」ことの意味(歴史的観点、伝達の背後にある意図など)や、文字に記すことの意味と文字に記さないまま伝達することの意味を考えることを通じて、情報伝達媒体としてのことばを考える。  【キーワード】 情報、伝達、メディア、もの、西洋的(キリスト教的)観点、東洋的(儒教的)観点	宮本徹(放送大学准教授)・佐藤卓己(京都大学大学院准教授)・井口篤(放送大学准教授)・大橋理枝(放送大学准教授)	宮本徹(放送大学准教授)・佐藤卓己(京都大学大学院准教授)・井口篤(放送大学准教授)・大橋理枝(放送大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8970068	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 21世紀メディア論 ('14) = (TV)

英文名 = [ Media Studies for the 21st Century ('14) ]

〔主任講師 (現職名) : 水越 伸 (東京大学大学院教授) 〕

【本学担当専任教員 : 秋光 淳生 (放送大学准教授) 】

### 講義概要

19世紀後半以降に登場した電話、ラジオ、テレビといった電気・電子メディアの数々は、20世紀を通じて著しく発達し、アメリカを中心とする先進資本主義諸国のマス・コミュニケーション型、大量生産大量消費型の社会様式を生み出した。私たちは現在、20世紀的な様式を部分的に引き継ぎつつ、インターネットやモバイルに象徴される新たな様式をほらんだデジタル・メディアが環境化した21世紀のメディア社会を生活している。国家や共同体、文化やリテラシーのあり方が大きく変貌する混沌としたこの社会のなかで、メディアに焦点をあて、過去を振り返りつつ、未来を目指すための批判的で実践的な知を育むこと、すなわちメディア論的想像力を養うことが、この授業の大きな目的である。授業ではまず19世紀以降のメディアの歴史を跡づけ、次に理論や思想を押さえる。後半では現代的なメディア社会の諸問題を浮き彫りにし、それらを克服するための実践的活動のあり方を具体的に検討していく。

### 授業の目標

(1)メディアに視点を置いて人間や社会をとらえていくというメディア論の基礎的素養を培うこと。(2)現代のメディア社会が抱えるさまざまな問題を構造的にとらえられるようになること。(3)メディア社会に積極的に参画し、そのあり方をデザインしていくための学際的で、実践的な知を身につけること。

### 履修上の留意点

日常生活で当たり前のように思われていることから、微細なことから批判的にとらえなおすことができるセンスを持つ学生、および学問をたんなる知識の習得による「勉強」としてとらえるのではなく、現実社会に対して働きかけるための実践知、デザイン知としてとらえる覚悟を持つ学生、およびそれらの資質の基本として学際的な素養を持つ学生の履修を期待している。

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	メディア論の視座	講師の自己紹介などの後、コミュニケーションの媒(なかだち)や媒介性に着目するメディア論の意義や、メディアをめぐる問題の所在をしめす。放送大学というメディアを通してメディア論を学ぶという特殊な状況を活かした授業の構成、スタイルや道具立てを説明する。  【キーワード】 日常生活、コミュニケーション、メディア、情報技術、社会	水越 伸 (東京大学大学院教授)	水越 伸 (東京大学大学院教授)
2	19世紀の電気情報化爆発	19世紀半ば以降の電信、電話、無線、ラジオの発達を概説し、いわゆるマスメディア論、マスコミ論には収まらない、情報技術とメディアと人間、社会を関連させたメディア史のパースペクティブを学ぶ。  【キーワード】 電気情報化、近代、電信電話、無線、ラジオ、放送	水越 伸 (東京大学大学院教授)	水越 伸 (東京大学大学院教授) ゲスト:長谷川 一(明治学院大学教授)
3	20世紀型メディアの生成	19世紀後半に現れた情報技術が20世紀型マスメディアとして生成展開していく過程を、ラジオ・テレビの社会的生成過程を中心に概説する。  【キーワード】 ラジオ、テレビ、大衆消費社会、マス・コミュニケーション	水越 伸 (東京大学大学院教授)	水越 伸 (東京大学大学院教授) ゲスト:長谷川 一(明治学院大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	20世紀型メディアの確立	新聞、放送など20世紀型マスメディアの形成と確立、それと平行するマスコミュニケーション研究の発達を、日本の状況を中心に概説する。  【キーワード】 新聞、放送、マスメディア、マス・コミュニケーション研究	水越 伸 (東京大学大学院教授)	水越 伸 (東京大学大学院教授)
5	21世紀デジタル情報化の混沌	ネットやモバイルに代表される21世紀のデジタル・メディアが普及しつつある混沌とした社会状況から、トピックを取り上げて解説し、問題の構図を明らかにする。  【キーワード】 デジタル情報化、インターネット、モバイル、ソーシャル・メディア	水越 伸 (東京大学大学院教授)	水越 伸 (東京大学大学院教授)
6	メディア論の系譜I	まず、19世紀末から20世紀初頭に現れたメディアと人間、社会をめぐる思想や理論の系譜をたどる。次に、戦争宣伝研究、ラジオ研究などから発展したマス・コミュニケーション研究の発展過程を概観し、それへの異議申し立てとして現れたトロント学派のメディア論、カルチュラル・スタディーズを跡づける。  【キーワード】 マス・コミュニケーション研究、トロント学派、カルチュラル・スタディーズ	水越 伸 (東京大学大学院教授)	水越 伸 (東京大学大学院教授)
7	メディア論の系譜II	第6回を踏まえつつ、21世紀前半の社会・技術状況の中でメディア論がかかえる諸問題をあきらかにする。それらを克服するために、能動的に実践に参画しつつ批判的な知見を手に入れられるような、新しいメディア論の必要性を論じる。  【キーワード】 マス・コミュニケーション研究、トロント学派、カルチュラル・スタディーズ、批判的人類学、デザイン、批判的メディア実践	水越 伸 (東京大学大学院教授)	水越 伸 (東京大学大学院教授)
8	メディアの生態系をデザインする	批判的で実践的なメディア論のあり方を概説し、メディアの生態系を一般の人々自らがデザインすることの必要性と、そのための思想や素養のありかたを学ぶ。メディア・ビオトープ(生態学の用語)という考え方をしめす。  【キーワード】 ビオトープ、生態系、批判的メディア実践、リテラシー、遊び、デザイン	水越 伸 (東京大学大学院教授)	水越 伸 (東京大学大学院教授)
9	メディア・リテラシーの覚醒	メディア・ビオトープの中核には、メディアを批判的に受容すると同時に、メディアで能動的に表現する素養としてのメディア・リテラシーがある。新しいメディア社会を生み出すためのリテラシーの試みを紹介し、その可能性と課題を論じる。  【キーワード】 メディア・リテラシー、学び、批判、表現、ワークショップ	水越 伸 (東京大学大学院教授)	水越 伸 (東京大学大学院教授)
10	メディア遊びの挑発	メディア・ビオトープの基層には、メディアの体制的で当たり前のあり方を異化し、それをとらえなおすきっかけを与えるような営みとしての、メディア遊びがある。新しいメディア社会を生み出すための遊びやアートの試みを紹介し、その可能性と課題を論じる。  【キーワード】 メディア遊び、メディア・アート、異化、周縁、子ども	水越 伸 (東京大学大学院教授)	水越 伸 (東京大学大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	マスメディアと市民: 対決と対話	第4回を受けるかたちで、新聞や放送など20世紀型マスメディアの構造的瓦解現象をもたらす光と影を指摘する。そのうえで市民参加型マスメディアへのリ・デザインの試みを紹介していく。  【キーワード】 マスメディア、産業、制度、パブリック・アクセス、メディア表現	水越 伸 (東京大学大学院教授)	水越 伸 (東京大学大学院教授)
12	モバイル・メディアと 身体、共同体	第5回を受けるかたちで、とくにケータイをはじめとするモバイル・メディアの普及がもたらす光と影を指摘する。そのうえで「情報があふれかえる社会」から「表現が編みあがる社会」へのメディア・デザインの試みを紹介していく。  【キーワード】 モバイル、ネット、公共性、共同体、アイデンティティ、身体、物語	水越 伸 (東京大学大学院教授)	水越 伸 (東京大学大学院教授)
13	グローバルな「生態系」 のデザイン	グローバル化する世界のなかでアジアの映画、ポピュラー音楽、アニメをはじめとするポピュラー文化がどのように生産・流通・消費されているかを探る。そうした現状がはらむ課題を克服するための実践的な試みも紹介していく。  【キーワード】 グローバル・メディア、ナショナリズム、ポピュラー文化、ステレオタイプ、異文化コミュニケーション	水越 伸 (東京大学大学院教授)	水越 伸 (東京大学大学院教授)
14	ローカルな「生態系」 のデザイン	日本のローカルメディア、市民メディアなどに焦点をあてつつ、それらの可能性と課題をあきらかにしていく。また日本に多様なメディアの生態系を育むための実践的な試みも紹介していく。  【キーワード】 ローカル・メディア、市民メディア、デジタル・ストーリーテリング	水越 伸 (東京大学大学院教授)	水越 伸 (東京大学大学院教授)
15	21世紀メディア社会 をどう生きるか	授業全体をふり振り返り、メディア論の構図を整理したうえで、残された課題を示す。そして最後に、21世紀メディア社会をいかに生きるか、そのための参考になる提言をおこなう。  【キーワード】 批判的メディア実践、メディア・ビオトープ、21世紀、市民参加	水越 伸 (東京大学大学院教授)	水越 伸 (東京大学大学院教授)



回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	音楽を感じる脳は変化を感じる脳	生物学的な視点から音楽情報を捉え直すとともに、音楽に必須である音の変化を捉える脳内メカニズムについて学ぶ。音楽と人間の脳機能との関係という観点から注目すべき事例として、絶対音感を支える脳の仕組みについて学ぶ。これらを通して、音楽を感じるために必要な脳の情報処理のメカニズムについて、基本的な知識を身につける。  【キーワード】 楽音、非正常音、絶対音感	本田 学 (国立精神・神経医療研究センター部長)	本田 学 (国立精神・神経医療研究センター部長)
5	音の情報構造を可視化する手法	音のマクロな情報構造を可視化する古来の手法である楽譜、定常的な周波数構造を描き出す高速フーリエ解析、瞬間的に生起消滅する現象の周波数構造を捉えるウェーブレット解析、ミクロな時間領域での変化を描き出す最大エントロピースペクトルアレイ法等、音(音楽)の情報構造を可視化する手法について学ぶ。  【キーワード】 情報構造、楽譜、FFT、最大エントロピースペクトルアレイ法	仁科 エミ (放送大学教授)	仁科 エミ (放送大学教授)
6	感性脳を活性化する超知覚情報	人間に聴こえる周波数の上限は20キロヘルツを超えない。ところがこの知覚限界をこえる超知覚情報が可聴音と共存すると脳深部を活性化し、心身にポジティブな効果をもたらす。音楽・情報・脳を結ぶ本格的な研究アプローチが稔った典型的な事例といえるこの現象＝ハイパーソニック・エフェクトの発見の経緯を辿りながら、脳を活性化する超知覚情報について学ぶ。  【キーワード】 高周波成分、ハイパーソニック・エフェクト、感性脳	仁科 エミ (放送大学教授)	仁科 エミ (放送大学教授)
7	音楽に使われる音の多様性	音楽に使われる音の多様性を、音のもつ情報構造という新しい切り口から概観する。たたく、振る・ゆする、はじく、こする、吹く、歌うなど、さまざまな方法で作りだされる地球上のさまざまな音を、人間の知覚閾をこえる物理構造をも視野にいれて俯瞰する視点を学ぶ。  【キーワード】 音分類、発音原理、周波数スペクトル	八木 玲子 (東京成徳短期大学准教授)	八木 玲子 (東京成徳短期大学准教授)
8	日本伝統音楽の超知覚構造	日本伝統音楽では、音楽を構成する音そのものが独自の進化と成熟を遂げてきた。いくつかの日本の伝統楽器を対象に、その演奏音の情報構造を精密に可視化する。なかでも人間の知覚閾をこえる物理構造に着目し、西欧の楽器との比較を通じて、日本伝統楽器の変遷と楽器の進化、その基盤となる固有の音文化の表現戦略について考察する。  【キーワード】 日本伝統音楽、琵琶、尺八、超知覚情報	八木 玲子 (東京成徳短期大学准教授)	八木 玲子 (東京成徳短期大学准教授)
9	共同体を支える音楽	「音楽の形式は、それを生み出した社会の構造を映し出す」と言われる。緊密な絆で結ばれた優れた伝統的共同体では、音楽が共同体を成立させる土台となっている場合が多い。共同体を支える音楽の多様な姿を紹介し、共同体と音楽との間の一体性を築く仕組みの一端に、情報そして脳という切り口からふれる。  【キーワード】 音楽、共同体、インターメディア性、全員参加可能性	河合 徳枝 (公益財団法人国際科学振興財団研究主幹)	河合 徳枝 (公益財団法人国際科学振興財団研究主幹)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	人類の遺伝子に約束された快感の情報	<p>共同体の絆となってきた優れた音楽やそれと一体化している表現行動には、初めて触れる人をも感動させるものが存在する。感性情報を受容する脳の仕組みに注目しながら、文化伝搬の形跡が認められない共同体の間に共通して見いだされる、学習を必要としない快感のシグナルと推定される表現情報について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 脳の階層性、報酬系、快感誘起性情報要素、威嚇のシグナル</p>	河合 徳枝 (公益財団法人国際科学振興財団研究主幹)	河合 徳枝 (公益財団法人国際科学振興財団研究主幹)
11	音楽による共同体の自己組織化	<p>高等動物の行動は、脳の報酬系および懲罰系神経回路の働きによって制御されている。とりわけ、感性情報が働きかけ快感を発生させる脳の報酬系は、きわめて強く動物の行動を誘発誘導する。こうした神経回路の働きを活かし、共同体構成員の自律的行動を促してその自己組織化を実現させる叡智を、バリ島共同体の音楽を主題にして学ぶ。</p> <p>【キーワード】 自己組織化、報酬系、ガムラン、ケチャ</p>	河合 徳枝 (公益財団法人国際科学振興財団研究主幹)	河合 徳枝 (公益財団法人国際科学振興財団研究主幹)
12	トランスの脳科学～感性情報は人類をどこまで飛翔させるか	<p>共同体の絆となる音楽の自己組織化力の射程は、脳の行動制御回路の中の報酬系をどこまで活性化し、いかに強力な快感と陶酔を共同体構成員に体感させるかにかかるといえる。バリ島の共同体を事例に、祝祭の極致で発生するトランス(意識変容)とそれを誘起する音楽そして音の力を共同体の自己組織化に活かす叡智について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 祝祭、トランス、フィールド計測、脳波</p>	河合 徳枝 (公益財団法人国際科学振興財団研究主幹)	河合 徳枝 (公益財団法人国際科学振興財団研究主幹)
13	コンピューターと音楽	<p>コンピューターとネットワークの発展によって、作曲・演奏・収録・配信など、音楽をめぐる技術環境は大きく変貌しつつある。コンピューターによる音楽制作システム、音楽情報を記述するMIDI言語、それらによって作られた音楽や音に関わるメディア規格について、これまでの講義を踏まえて概観する。</p> <p>【キーワード】 コンピューター音楽、MIDI、デスクトップミュージック、メディア規格</p>	仁科 エミ (放送大学教授)	仁科 エミ (放送大学教授)
14	人類本来のライフスタイルと音楽	<p>人類本来のライフスタイルを今日まで伝えているといわれる狩猟採集民ムブティ人は合唱をはじめとする音楽の達人として知られる。一方、調性を破壊した十二音技法による現代音楽は、その対極にあるものといえる。両者を対比することを通じて、音楽における“本来”と“適応”を論じる。</p> <p>【キーワード】 狩猟採集民、十二音音楽、本来、適応</p>	仁科 エミ (放送大学教授)	仁科 エミ (放送大学教授)
15	情報学がひらく音楽の新しい可能性	<p>今後の情報学や脳科学の発展が音楽にもたらす可能性を論じ、講義をまとめる。</p> <p>【キーワード】 音楽、情報学、脳科学</p>	仁科 エミ (放送大学教授)	仁科 エミ (放送大学教授) 河合 徳枝 (公益財団法人国際科学振興財団研究主幹)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8970041	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = ソフトウェア工学 ( ' 1 3 ) = ( R )

〔主任講師 (現職名) : 玉井 哲雄 (法政大学教授) 〕  
 〔主任講師 (現職名) : 中谷 多哉子 (筑波大学大学院准教授) 〕  
**【本学担当専任教員 : 川合 慧 (放送大学教授) 】【**

### 講義概要

今や情報システムは、電気・ガス・水道から交通システム、通信システム、あるいは経済関係の活動まで、ありとあらゆるものを支えるものとなっているが、その本質は、情報処理機械、すなわちコンピュータの中で稼働しているソフトウェアが担っている。ここでソフトウェアは一種の抽象概念であり、目に見えるものではないために、その存在は、その作成や運用に携わっている人々以外にはほとんど意識されることがない。ましてやその複雑さや構築の困難さに思いが及ぶこともないのが実情である。本科目では、このように特殊な存在であるソフトウェアをどのように作ればよいかという問題と対峙している「ソフトウェア工学」について学ぶ。

まず最初にソフトウェアの作成が「工学」を必要とする程に難しいタスクであることを学んだ後、ソフトウェア工学の概要をその発展の様子を含めて理解する。

情報学プログラムの学生を主なターゲットとするが、ソフトウェアやソフトウェア工学に関心を寄せる他コース・プログラムの学生も興味をもって理解できるように、先端的な内容も含めて平易に解説する。

### 授業の目標

情報システムの本質であるソフトウェアについて、その原理的な構成方法を通じてその性質を理解する。それから、ソフトウェアの構築についての様々な方法論を学び、ソフトウェア構築についての明確な視点を涵養する。

### 履修上の留意点

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	ソフトウェアとは	ソフトウェアの基本的な性質とは何か。現代のさまざまなソフトウェアの特徴を、ビジネス系や組込み系などの種類とともに概観する。サービス指向、クラウド・コンピューティングなどの最近の話題にも触れる。  【キーワード】 ソフトウェアの語源、ビジネス・ソフトウェア、組込みソフトウェア	玉井哲雄 (法政大学教授)	玉井哲雄 (法政大学教授), 中谷多哉子 (筑波大学准教授)
2	ソフトウェアの不具合がもたらす社会的影響	ソフトウェアが社会にもたらすインパクトを、とくに不具合が生じた場合にもたらされる影響の具体例を挙げて解説する。そしてソフトウェアに求められる信頼性や安全性について議論する。  【キーワード】 ソフトウェアの不具合、信頼性、安全性	玉井哲雄 (法政大学教授)	玉井哲雄 (法政大学教授), 中谷多哉子 (筑波大学准教授)
3	ソフトウェア工学の意義と方法	ソフトウェアを体系的な方法に基づいて開発するためのソフトウェア工学について、その意義を明らかにし、またこれまでの歴史を概観する。  【キーワード】 ソフトウェア工学の歴史、ソフトウェア工学の方法	玉井哲雄 (法政大学教授)	玉井哲雄 (法政大学教授), 中谷多哉子 (筑波大学准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	ソフトウェアプロセス	ソフトウェア工学の研究と実践の対象となるのは、プロダクトとプロセスである。そのプロセスに焦点を当て、ソフトウェアのライフサイクルという考え方や、プロセスモデルの記述と実行などについて学ぶ。  【キーワード】 ライフサイクル・モデル、プロセス記述	玉井哲雄 (法政大学教授)	玉井哲雄 (法政大学教授), 中谷多哉子 (筑波大学准教授)
5	要求分析	ソフトウェアのライフサイクルの最初のフェーズとしての、要求分析の方法について学習する。要求についてはその抽出から要求仕様の記述、要求の管理と追跡まで幅広く扱う。  【キーワード】 要求工学, 要求仕様	中谷多哉子 (筑波大学准教授)	玉井哲雄 (法政大学教授), 中谷多哉子 (筑波大学准教授)
6	モデル化技法とUML	本講座ではソフトウェア工学の中で中心となるモデル化技法について、統一的な視点で扱うことを一つの特徴とする。ここではモデルとは何かをまず議論し、さらにモデルの記述方法、とくに図式記法としてのUMLに焦点を当てる。  【キーワード】 モデル化技法, UML, グラフ表現	玉井哲雄 (法政大学教授)	玉井哲雄 (法政大学教授), 中谷多哉子 (筑波大学准教授)
7	制御とデータのモデル	モデルの具体例としてデータの流れモデルと制御の流れモデルを取り上げ、さらにそれらのモデルを用いたソフトウェアの開発手法について学ぶ。  【キーワード】 データの流れ, 制御の流れ, 構造化分析	玉井哲雄 (法政大学教授)	玉井哲雄 (法政大学教授), 中谷多哉子 (筑波大学准教授)
8	動的振る舞いのモデル	モデルの具体例として、ここでは状態遷移モデルを中心としたシステムの振る舞いを記述するものを取り上げ、またそのモデルを用いたソフトウェアの開発手法について学ぶ。  【キーワード】 状態遷移モデル, メッセージ交換, 並行動作	玉井哲雄 (法政大学教授)	玉井哲雄 (法政大学教授), 中谷多哉子 (筑波大学准教授)
9	オブジェクト指向開発	オブジェクト指向モデルを取り上げ、オブジェクト・モデルに基づくソフトウェア開発手法を学ぶ。ユースケースを用いた分析から、オブジェクトの同定、オブジェクト間の関係と相互作用の明確化、などを扱う。  【キーワード】 オブジェクト指向, ユースケース, クラス図	中谷多哉子 (筑波大学准教授)	玉井哲雄 (法政大学教授), 中谷多哉子 (筑波大学准教授)
10	形式手法	数学や論理学で使われる形式記述に基づいたソフトウェアの仕様定義と、それを用いた厳密な開発・検証手法を学ぶ。  【キーワード】 形式仕様, 正当性の証明, プログラムの自動生成	玉井哲雄 (法政大学教授)	玉井哲雄 (法政大学教授), 中谷多哉子 (筑波大学准教授)

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	設計技法	ソフトウェア・システムの設計手法として、アーキテクチャ設計、設計パターン、フレームワークの利用などを学ぶ。とくにWebシステムの開発を例として取り上げる。  【キーワード】 アーキテクチャ設計、コンポーネント、フレームワーク	中谷多哉子 (筑波大学准教授)	玉井哲雄 (法政大学教授), 中谷多哉子 (筑波大学准教授)
12	検証技術	ソフトウェアのテスト、形式検証、見直し、などの検証技術を解説する。それにより、正しいソフトウェアが作られているか、およびソフトウェアが正しく作られているか、を検証する方法を学ぶ。  【キーワード】 テストケースの生成、デバッグ、静的/動的解析	玉井哲雄 (法政大学教授)	玉井哲雄 (法政大学教授), 中谷多哉子 (筑波大学准教授)
13	開発環境とツール	ソフトウェアの実装を含めた開発過程全般で用いられる環境を、代表的なツールとともに概観する。  【キーワード】 ソフトウェア開発環境、構成管理、ツール	中谷多哉子 (筑波大学准教授)	玉井哲雄 (法政大学教授), 中谷多哉子 (筑波大学准教授)
14	保守と発展	ソフトウェアの保守・発展プロセスと、そこで必要となる技術について議論する。ハードウェアと比べた場合のソフトウェア保守の特徴と、スライシング、回帰テストなど保守に固有の手法について学ぶ。  【キーワード】 保守の分類、スライシング、回帰テスト	玉井哲雄 (法政大学教授)	玉井哲雄 (法政大学教授), 中谷多哉子 (筑波大学准教授)
15	プロジェクト管理	ソフトウェア開発プロジェクトの管理手法とそこで用いられるツールについて学ぶ。品質管理、コスト見積り、開発組織などを対象とする。  【キーワード】 ソフトウェアの品質管理、要員管理、コスト見積り、開発計画	中谷多哉子 (筑波大学准教授)	玉井哲雄 (法政大学教授), 中谷多哉子 (筑波大学准教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8970050	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 研究のためのICT活用 ('13) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 高橋 秀明 (放送大学准教授) 〕

〔主任講師 (現職名) : 柳沼 良知 (放送大学教授) 〕

【本学担当専任教員 : 〕

### 講義概要

大学(院)の研究において、インターネット等の情報通信技術(ICT: Information Communication Technology)を活用することは必須の時代になっている。本科目では、情報学分野を中心に、研究の方法論を講ずる中で、研究のプロセスのさまざまな場面で役立つ情報通信技術を紹介する。研究とは何か？研究方法論とは何か？ということ絶えず意識しながら、各種の技術やツールの意味について考察を加えたい。

### 授業の目標

修士論文や卒業論文作成に役立つ情報通信技術ならびに研究方法論を習得する。

### 履修上の留意点

学部科目「デジタル情報の処理と認識('12)」・「情報機器利用者の調査法('12)」を履修しておくことが望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	研究とは	情報系の研究は学際的な領域に属している。研究は、問題意識を持つことから、論文を書いて公表するまで長く険しいプロセス(過程)を経る。そのプロセスにおいてさまざまな情報通信技術を利用することができる。それらの技術は、研究の理論と方法論との両方にかかわっている。以上を、本講義全体の狙いと内容を紹介します。【キーワード】 研究のプロセス、情報通信技術、理論と方法論	高橋秀明・准教授 柳沼良知・教授	高橋秀明・准教授 柳沼良知・教授
2	論文とは	科学は常に変化している。研究の成果は論文という形で結実する。研究は、大学(院)あるいは学会という組織によって正統化されており、論文も同様に、大学(院)あるいは学会によって決められた内容とスタイルとを有している。学会の査読について説明し、科学と非科学の違い、科学の理論と方法論との関係について考察する。【キーワード】 論文、学会、論文のスタイル、査読	高橋秀明・准教授	高橋秀明・准教授
3	問題意識を持つ	研究は問題意識を持つことから始まる。問題意識は、仕事や家庭での日常生活を営む中で育まれる。広く深く問題意識を持ち続けつづけると研究も豊かになる。問題意識は、科学で使われる用語や概念に読み替えることが必要になる。自分の研究の問題を導出し、研究計画を立ててから、第4回の先行研究調査に進むことを説明する。【キーワード】 問題意識、日常生活、科学の用語・概念、研究計画書	高橋秀明・准教授	高橋秀明・准教授

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	先行研究を集める	先行研究とは、自分の研究が依って立つ基盤となるような過去の研究を指す。先行研究を調べることによって、自分の研究テーマに関して、すでに何が明らかにされており、どんな課題が解明されずに残されているのかを知ることができる。第4回では、学術文献の流通の仕組みを理解した上で、ICTを活用して自分の研究テーマに関連した文献を効率的・効果的に集める方法を学ぶ。 【キーワード】 先行研究、文献調査、図書館、データベース	三輪眞木子・ 教授	三輪眞木子・ 教授
5	先行研究をレビューする	研究論文を執筆する際には、その領域やテーマに関する過去の知見を要約し、自分の研究の必要性、意義、新規性を示すために、先行研究をレビューする。第5回では、先行研究レビューの目的と意義を考えながら、先行研究の評価方法と、先行研究レビューのまとめ方を学ぶ。先行研究レビューを効率的に進めるための、文献管理ソフトウェアの使い方も紹介する。 【キーワード】 先行研究レビュー、学術論文、批判的に読む	三輪眞木子・ 教授	三輪眞木子・ 教授
6	システムを開発し評価する	特に情報系の論文を書く場合、新たにシステムやツールの開発を行い、その評価によって論文を書く場合もある。第6回では、このようなシステムの設計方法や、スタンドアロンで動作するアプリケーションの開発、Web上で動作するアプリケーションの開発などについて述べる。 【キーワード】 システム開発、スタンドアロンアプリケーション、Webアプリケーション	柳沼良知・教 授	柳沼良知・教 授
7	多様なデータを扱う ～多次元データとテキストマイニング～	第7回では、開発したシステムやツールなどを用いることで得られたデータの分析方法について述べる。具体的には、多次元データをどのように分析するかについて述べるとともに、多量のテキストデータを分析するためのテキストマイニングの概要などについて述べる。 【キーワード】 多次元データ、テキストマイニング	柳沼良知・教 授	柳沼良知・教 授
8	多様なデータを扱う ～テキスト・音声データ～	研究を進めるにあたって、テキストデータや音声、画像、映像など、様々な形式のデータを利用する場合もある。第8回では、文書やWebページの作成などの際に必要なテキストデータの編集や、音声データを利用した実験やシステム開発などの際に必要な音声データの処理について述べる。 【キーワード】 テキストデータ、音声処理	柳沼良知・教 授	柳沼良知・教 授
9	多様なデータを扱う ～画像・映像データ～	研究を進めるにあたって、テキストデータや音声、画像、映像など、様々な形式のデータを利用する場合もある。第9回では、論文の図などを作成するための画像処理、実験やシステム開発などで必要となる映像編集や3Dデータの利用について述べる。 【キーワード】 画像処理、映像編集、3Dデータ	柳沼良知・教 授	柳沼良知・教 授
10	ユーザを調査する ～データ収集～	情報系の研究においては、第6回で扱ったシステムやツールの開発とその評価だけでなく、そのシステムやツールを利用する人間(ユーザ)を対象にしたユーザ調査を行うことも必要になる。人間を対象にしたデータを収集する方法は、心理学の研究法が参考になる。そこで具体的に、観察、実験、質問紙、インタビューなどの方法とそれぞれに利用できるツールなどを紹介する。 【キーワード】 ユーザ、観察、実験、質問紙、面接	高橋秀明・准 教授	高橋秀明・准 教授

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	ユーザを調査する ～データ分析～	ユーザ調査において得られたデータを分析する方法について紹介する。量的なデータと質的なデータとを分析する方法の初歩を説明する。あわせて、データ分析のためのツールについても述べる。  【キーワード】 量的分析、質的分析、データ分析ツール	高橋秀明・准教授	高橋秀明・准教授
12	結果をまとめ考察する	データ分析の結果は、通常図や表の形で表現するのがわかりやすい。そのための方法や注意点、ツールについて述べる。研究の結果をまとめたら次には、研究目的に照らして研究の結果を考察する。そのための方法や注意点について説明する。  【キーワード】 図表、結果と考察	高橋秀明・准教授	高橋秀明・准教授
13	研究を発表する	研究活動の過程では、論文として成果を公表する他に、研究会や学会の場で口頭発表やポスター発表を行う。このような活動は、発表者と聞き手の相互作用により、研究成果を深めたり、広げたりすることに役立つ。聞き手にわかりやすい研究発表の方法、およびプレゼンテーションソフトウェアの効果的な活用方法を説明する。  【キーワード】 研究発表、口頭発表、プレゼンテーション、プレゼンテーションソフトウェア、コミュニケーション	高橋秀明・准教授	高橋秀明・准教授
14	論文を書く	研究は論文という形になって初めて意味のあるものになる。論文を書くための方法や論文執筆支援ツールについて述べる。第2回で説明したとおり、論文のスタイルは大学(院)や学会が決めたスタイルがあるが、代表的な論文スタイルについても紹介する。  【キーワード】 論文執筆、論文スタイル	高橋秀明・准教授	高橋秀明・准教授
15	研究を振り返る	研究の最後には、研究を振り返ることが肝要である。そこで、研究プロセスを管理する方法について説明するとともに、科学コミュニケーション、研究倫理についても検討する。最後に、研究を円滑に進める方法について説明し、研究を振り返るための方法・観点を補足する。  【キーワード】 研究評価、研究倫理、科学コミュニケーション、研究を円滑に進める	高橋秀明・准教授 柳沼良知・教授	高橋秀明・准教授 柳沼良知・教授

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8970025	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 情報学の新展開 ('12) = (R)

- [主任講師 (現職名) : 川合 慧 (放送大学教授) ]
- [分担講師 (現職名) : 指宿 信 (成城大学教授) ]
- [分担講師 (現職名) : 松原 仁 (公立はこだて未来大学教授) ]
- [分担講師 (現職名) : 仁科 エミ (放送大学教授) ]
- [分担講師 (現職名) : 近藤 智嗣 (放送大学教授) ]

### 講義概要

情報社会と呼ばれる現代社会は、情報科学、情報工学という基盤の上に、情報システム学、情報社会学、情報経済学といった人間社会を扱う学問体系と、認知科学、生理学、人間科学などの人間の行動と特性を扱う学問、さらに国際社会や法体系、芸術分野の学問までの、幅広い知識体系に支えられている。現実的には、これらを基礎とした多種多様な情報環境が構築されてきており、私達の生活や社会を変えつつある。本科目ではこのような状況についての偏りのない教養を身につけるために、種々の事例を基本原理とともに解説し、広義かつ高度な情報リテラシーを学ぶ。

### 授業の目標

情報社会を支える種々の要素を可能な限りブラックボックスとしてではなく理解するとともに、相互の関連性を把握し、社会全体の動きを主体的に理解することを目的とする。具体的な理解軸としては、情報処理技術の基礎、人工知能の考え方と応用、情報メディアと人間社会・法、人間の認知作用と情報システム、情報と現実との融合、生命・生体科学と情報のそれぞれについて基本的な理解と認識とを目指す。

### 履修上の留意点

「コンピューティング('15)」「情報のセキュリティと倫理('14)」「情報の世界('10)」などが強く関連する科目である。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	情報学とその動向	コンピュータはももとは数値的な計算を高速かつ正確に実行することを目的として発明されたが、実世界を符号化する柔軟かつ汎用的な方式の使用により、人間が扱うほぼすべての領域にその処理を適用することができるようになった。この状況を情報処理技術の発展を交えて概観的に学ぶ。 【キーワード】 情報、情報の表現、符号化、情報の処理、情報学	川合慧 (放送大学教授)	川合慧 (放送大学教授)
2	情報処理技術とシステムの進展	現代のコンピュータが社会に应用されている主な要因について、情報処理の社会応用の観点から考察する。具体的には、処理の速度と装置の小型化、符号化と計算方法のくふう、通信と入出力などについて見る。また、機械と人間の思考方法の違い、情報システムの有効性と限界についても学ぶ。 【キーワード】 処理速度、装置の小型化、機械と人間の情報処理、システムの有効性と限界	川合慧 (放送大学教授)	川合慧 (放送大学教授)
3	人工知能の展開 ー歴史と概要ー	人工知能はコンピュータを人間のように知的にする、あるいはコンピュータを道具として知能について探求することを目指した研究領域である。人工知能研究のこれまでの経緯、提唱された理論、人工的に知能を実現する際の難問などについて学ぶ。 【キーワード】 チューリングテスト、論理、物理記号仮説、フレーム問題、記号接地問題	松原仁 (公立はこだて未来大学教授)	松原仁 (公立はこだて未来大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	人工知能の展開 ー実際の応用ー	人間のような知能を持ったコンピュータを作るという人工知能の究極の目標はまだ達成されていないが、いくつかの領域ではコンピュータが人間の専門家を越える能力を持つにいたり、人工知能の成果が世の中で広く使われるようになっていく。その応用の様子について学ぶ。 <b>【キーワード】</b> エキスパートシステム、ゲーム、ワープロ、情報検索、データマイニング	松原仁 (公立はこだて未来大学 教授)	松原仁 (公立はこだて未来大学 教授)
5	知能ロボットの展開	人間のような知能をコンピュータに持たせるためには身体が必要であることがわかり、一方でロボットの技術が進んで以前はソフトウェアの研究であった人工知能と連携が進んで知能ロボットの研究が盛んになってきた。知能ロボットは知能を持った(動く)コンピュータであるという立場から知能ロボットの基礎と応用を学ぶ。 <b>【キーワード】</b> 身体性、行動に基づく知能、ロボカップ、不気味の谷、ヒューマノイド	松原仁 (公立はこだて未来大学 教授)	松原仁 (公立はこだて未来大学 教授)
6	人間の認知作用と情報システム	情報システムやデジタルコンテンツ等を開発する際には、人間の認知作用を理解し、それに基づいたインタフェースを設計する必要がある。このことは、誰もが情報発信できる今日では学生の基礎知識としても必須であるため、人間の認知作用をシステムデザイン、ヒューマンインタフェースと関連づけて学ぶ。 <b>【キーワード】</b> 認知作用、情報システム、ヒューマンインタフェース	近藤智嗣 (放送大学教 授)	近藤智嗣 (放送大学教 授)
7	情報と現実との融合	バーチャルリアリティ技術は、既に幅広い分野に応用されつつあり、その技術が実空間と融合したミクストリアリティも身近な技術となりつつある。これらの技術の主要な応用例とそのシステムを構成する要素技術を取り上げ、これまでの研究成果が人間生活の向上に寄与していることを学び、今後の動向について考察する。 <b>【キーワード】</b> バーチャルリアリティ、ミクストリアリティ、拡張現実感	近藤智嗣 (放送大学教 授)	近藤智嗣 (放送大学教 授)
8	生命と情報	生命現象からみると、生命を生命たらしめるソフトウェアこそ「情報」だといえる。私たちの生存は体内における情報活動によって維持されており、情報を抜きにして生命の本質を知ることはできない。遺伝子発現、ホルモン伝達、神経伝達など、生体内での情報ののはたらきと、それにもとづく新しい生命概念について考察する。 <b>【キーワード】</b> 遺伝子、化学伝達、神経伝達	仁科エミ (放送大学教 授)	仁科エミ (放送大学教 授)
9	脳と情報	情報処理の中核である脳は、精神活動を司ると同時に、生体制御の中核でもある。しかも脳では、精神活動と生体制御とが密接に関連していることがわかってきた。このような新しい観点から脳の理解を深めるとともに、脳における感覚感性情報処理についての新しい知見を紹介する。 <b>【キーワード】</b> 基幹脳、言語脳・非言語脳、視聴情報処理	仁科エミ (放送大学教 授)	仁科エミ (放送大学教 授)
10	文化芸術と情報	情報技術によって私たちは世界各地の多様な文化芸術に接することが可能になった。さらに、コンピュータの普及は芸術のあり方そのものを大きく変えつつある。それら多様化する文化芸術情報を受容する人間の側から捉え直し、美と快を発生させる感性情報とその文化ごとの特徴について考察する。 <b>【キーワード】</b> 感性脳、文化の多様性、メディアアート、ハイパーソニック・エフェクト	仁科エミ (放送大学教 授)	仁科エミ (放送大学教 授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	情報メディアと人間	<p>人類の文化や歴史と情報メディアがいかに密接に結びついているかについて、活版印刷技術と宗教革命のかかわり、電子テキストと図書館や学問のあり方、検索技術によるビジネスへの影響、電子メールとコミュニケーションのあり方など様々な例を用いて学ぶ。</p> <p>【キーワード】 グーテンベルグ、グーグル、電子テキスト、検索、コミュニケーション</p>	指宿信 (成城大学教授)	指宿信 (成城大学教授)
12	情報と法・政策	<p>ネットワーク社会の登場によって生まれたサイバースペースと財のデジタル化は、既存の法体系を揺るがす問題を生みだし、国境を越えて広がるネットワークは法的解決をおこなうことを困難にしている。情報の収集・保有・発信・媒介にかかわる法的問題を例に、情報化社会の進展と法的対応の重要性を理解する。</p> <p>【キーワード】 インターネット、サイバースペース、デジタル化、P2P、著作権</p>	指宿信 (成城大学教授)	指宿信 (成城大学教授)
13	情報と政治・社会	<p>様々な社会問題をICTの力によって解決し、経済や社会の発展にICTを活用するためには、情報政策が重要である。他方で、グローバルなネットワーク環境によって登場した仮想的な社会は国際政治にも大きな影響を与えている。そうしたICTに関わる政策形成のあり方やグローバル社会と情報コミュニケーションについて学ぶ。</p> <p>【キーワード】 ネットワーク、ガバナンス、通信政策、u-Japan、仮想地球社会</p>	指宿信 (成城大学教授)	指宿信 (成城大学教授)
14	教育と情報	<p>従来の視聴覚機器に代わり、さまざまな情報技術が教育に取り入れられている。その取り入れられ方は、学習理論の歴史的な変遷および情報技術の革新によっても変化してきた。特にインターネットやモバイル技術は、学習環境を大きく進展させている。こうした教育の情報化と期待される効果などについて学ぶ。</p> <p>【キーワード】 e-Learning, LMS, オーサリング, 携帯電話, 博物館展示</p>	近藤智嗣 (放送大学教授)	近藤智嗣 (放送大学教授)
15	情報学の新展開	<p>情報学の現状とその将来動向について、各講師がそれぞれの立場から述べる。具体的な項目は、機械の利用と責任、現実の拡張、芸術と情報、クラウドコンピューティングと法、などである。</p> <p>【キーワード】 情報学</p>	川合慧 (放送大学教授)	松原仁(公立ほこだて未来大学教授)・指宿信(成城大学教授)・近藤智嗣(放送大学教授)・仁科エミ(放送大学教授)・川合慧(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8970017	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = データベースと情報管理 ('12) = (TV)

[主任講師 (現職名) : 三輪 眞木子 (放送大学教授) ]

[主任講師 (現職名) : 柳沼 良知 (放送大学教授) ]

【本学担当専任教員 : 】

### 講義概要

テキスト・画像・音声・映像を含む多様な形態の電子情報が、インターネット等のネットワークを通じて広く流通しており、こうしたマルチメディアの電子情報を効率よく蓄積・検索できるデータベースの構築と活用が重要になってきている。本科目では、多様な形態の電子情報を効果的・効率的に活用するために必要な知識と技術の習得と、テキスト・画像・音声・映像を含むマルチメディア・ドキュメントの電子化・蓄積・組織化・検索を含むデータベース構築技術の習得を目指す。

### 授業の目標

多様なメディアの電子情報をデータベースとして管理する方法と、それらの電子情報を効果的・効率的に活用する方法、およびデータベース・サービスの評価方法を学ぶ。

### 履修上の留意点

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	データベースとは	データベースは情報の組織化、蓄積、検索の部分を担当する情報管理手法である。本章では、データベースの発展の歴史を振り返るとともに、多種多様なデータベースを分類する枠組みを論じる。さらに、データベース管理ソフトウェアであるデータベース管理システム(DBMS)の機能と、搭載するデータの論理構造を表す主要なデータモデルを紹介する。 <b>【キーワード】</b> 情報管理、データベース、データベース管理システム、DBMS、データモデル	三輪 眞木子 (放送大学・教授)	三輪 眞木子 (放送大学・教授)
2	リレーショナルデータベース技術	まとまりのある一連のデータを効率的に扱うために、データベースが構築される。データベースの構築手段として、コンピュータ上で動作するデータベース管理システムが用いられることが多い。このうち、最も重要なリレーショナルデータベースについて概観する。リレーショナルデータベースの基礎知識を習得し、SQLによるデータ定義とデータ操作の方法を学ぶ。 <b>【キーワード】</b> リレーショナルデータベース、SQL	森本 容介 (放送大学・准教授)	森本 容介 (放送大学・准教授)
3	文献データベースの構築	私たちの身近にある図書、新聞、雑誌論文などの文献データベースがどのように発展してきたかを概観する。また、文献データベースの構築の手順と、検索におけるメタデータの役割を論じ、メタデータ標準の具体例を示す。さらに文献検索において重要な課題である主題表現の考え方や方法を紹介する。 <b>【キーワード】</b> 文献データベース、情報検索、メタデータ、主題表現	三輪 眞木子 (放送大学・教授)	三輪 眞木子 (放送大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	文献データベースの利用	文献データベースを使って情報を検索するプロセスを、文献とクエリのマッチングとしてとらえる伝統的な情報検索モデルを紹介し、その問題点を考える。また、ユーザの情報探索行動の一部として情報検索を捉えるユーザ志向の情報探索の考え方を学ぶ。さらに、情報検索におけるユーザの心理を捉えるために、意思決定と問題解決における心の動きを捉える。 【キーワード】 検索技法、情報探索プロセス	三輪 眞木子 (放送大学・教授)	三輪 眞木子 (放送大学・教授)
5	テキスト検索	検索インデックスを用いた高速なテキスト検索の一連の流れを学ぶ。テキスト検索の応用例として、インターネットの検索エンジンを取り上げる。 【キーワード】 全文検索、検索インデックス、形態素解析、N-gram、検索エンジン	森本 容介 (放送大学・准教授)	森本 容介 (放送大学・准教授)
6	文献データベースの評価	文献検索システムの評価基準として使われている適合性の概念と、適合性に基づく評価指標である再現率と精度を考える。これらの指標を用いて文献検索システムを評価する検索実験を紹介する。一方、ユーザが文献データベースをどのように評価しているかを考える。また、文献データベースを包括的に評価する視点である、費用対効果および費用対便益の考え方を学ぶ。 【キーワード】 適合性、検索実験、システム志向、ユーザ志向、費用対効果、費用対便益	三輪 眞木子 (放送大学・教授)	三輪 眞木子 (放送大学・教授)
7	多様なメディアとデータベース	私たちは、文字情報以外に画像や映像などさまざまなメディアによる情報を活用している。3つの観点から多様なメディアとデータベースについて考える。①コンピュータやネットワーク上でどのようなメディアを活用しているのか。②さまざまなメディアの中でなぜ画像情報は重要なのか。③多様なメディアによるデータベースが発展してきた要因は何か。 【キーワード】 メディア、画像情報、コンピュータ技術、メディア技術、情報基盤	川淵 明美 (元放送大学・准教授)	川淵 明美 (元放送大学・准教授)
8	画像処理の基礎	様々なメディアの中で静止画像を取り上げる。画像をコンピュータ上で扱うには、画像データのデジタル化や加工、符号化などの処理が必要である。画像データの仕組み、画像データの加工、画像データの保存の基本技術を学ぶ。 【キーワード】 画像データ、デジタル化、色、画像ファイル	川淵 明美 (元放送大学・准教授)	川淵 明美 (元放送大学・准教授)
9	画像データベースの管理と活用	美術館・博物館の所蔵品データベースやオンラインショッピングでの商品データベースなどWeb上で画像データベースを利用する機会が増えてきている。画像データベースの構成、画像情報の管理、画像検索の方法から画像データベースの仕組みを学ぶ。また、デジタルアーカイブにおける画像データベースの管理と活用事例から、画像データベースの有効性を考える。 【キーワード】 画像データベース、画像ファイル、メタデータ、画像検索	川淵 明美 (元放送大学・准教授)	川淵 明美 (元放送大学・准教授)
10	映像データの取得	映像データをデータベース化する際に必要となる、映像データの取得や編集方法について概説する。また、映像の処理技術の例として、情報量が大きな映像を効率的に扱うために用いられる、映像の変わり目(シーンチェンジ)の検出手法についてもあわせて述べる。 【キーワード】 A/D変換、映像フォーマット、映像編集、シーンチェンジ	柳沼 良知 (放送大学・教授)	柳沼 良知 (放送大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	映像データの配信	映像データの配信手法として、Webサーバを使ったダウンロード配信やビデオポッドキャスト、専用の映像サーバを用いたストリーミング配信等の配信手法について述べる。また、映像配信の際の要素技術の1つである、映像要約の概要についてもあわせて述べる。  【キーワード】 ビデオポッドキャスト、ストリーミング、映像要約	柳沼 良知 (放送大学・教授)	柳沼 良知 (放送大学・教授)
12	映像データの「こんな検索」	画像検索や映像検索は、利用者の検索意図に基づき、検索したい画像のイメージを明確に表現できる場合に対応する「こんな検索」と、検索したい画像のイメージを明確に表現できない場合に対応する「あんな検索」の2つに分類することができる。本章では、「こんな検索」における検索キーの抽出手法や検索システムの実現について述べる。  【キーワード】 映像検索、画像検索、検索キー、「こんな検索」	柳沼 良知 (放送大学・教授)	柳沼 良知 (放送大学・教授)
13	映像データの「あんな検索」	画像検索や映像検索は、利用者の検索意図に基づき、検索したい画像のイメージを明確に表現できる場合に対応する「こんな検索」と、検索したい画像のイメージを明確に表現できない場合に対応する「あんな検索」の2つに分類することができる。本章では、「あんな検索」における検索キーの抽出手法や検索システムの実現について述べる。  【キーワード】 映像検索、画像検索、検索キー、「あんな検索」	柳沼 良知 (放送大学・教授)	柳沼 良知 (放送大学・教授)
14	3次元データの処理	近年のハードウェアの発達により、3次元データが科学、医療、教育、エンタテインメントなど、様々な分野で利用されるようになってきている。本章では、3次元ポリウムデータや3次元ポリゴン(多面体)のデータ形式や構造について学習する。また、3次元データベースを効果的に扱うために必要な類似形状検索技術とその応用について学習する。  【キーワード】 3次元データ、ポリウムデータ、ポリゴン、類似形状検索	鈴木 一史 (放送大学・准教授)	鈴木 一史 (放送大学・准教授)
15	データベースの運用	長期的視野に立ってデータベースを運用していくために必要な、セキュリティ管理や障害対策、著作権の管理について述べる。利用者にとって使いやすいデータベースサービスを提供するために必要な、インターフェイス設計や利用者支援のあり方を考える。最後に、時間や空間の枠を超えてデータベースを発展させていくための方法について論じる。  【キーワード】 セキュリティ管理、障害対策、著作権管理、データベースの更新、利用者支援	柳沼 良知 (放送大学・教授) 三輪 眞木子 (放送大学・教授)	柳沼 良知 (放送大学・教授) 三輪 眞木子 (放送大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2012年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8970009	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = eラーニングの理論と実践 ( ' 1 2 ) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 青木 久美子 (放送大学教授) 〕  
 〔主任講師 (現職名) : 〕  
 【本学担当専任教員 : 〕

### 講義概要

インターネット等の情報通信技術を活用した教育方法として現在普及しつつあるeラーニングの概要、国内外の実践状況、背景となる学習理論、基礎となる技術、設計プロセス、運営方法、評価、質保証等について説明し、現在のeラーニングの状況と将来の方向性を展望する。

### 授業の目標

- ・eラーニングの歴史的背景や現状を理解し、その背景となる理論や技術について説明できるようになる。
- ・eラーニングの諸課題に関する理解を深め、eラーニングの設計において考えなければいけない要因について助言ができるようになる。

### 履修上の留意点

インターネット接続が可能であること。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	eラーニングとは	eラーニングという用語の意味、その歴史的背景、さまざまな形態の分類、eラーニングを実施する利点について検討する。また、海外(ここでは、米国、英国、韓国)の高等教育機関におけるeラーニングの活用状況、そして、企業・学校・予備校・生涯学習、といった分野においてeラーニングがどのように活用されているかについても説明する。 【キーワード】 eラーニングの定義、ブレンデッドラーニング、ハイブリッドラーニング、フルオンライン	青木久美子 (放送大学・教授)	同左
2	eラーニングの活用事例	国内外のeラーニングがどのように行われているかについて、組織的・技術的など様々な観点から概説する。特に、「日本国内においてはどのようにeラーニングが行われているのか」・「海外のeラーニングとはどのような違いがあるのか」・「現在のeラーニングにおける課題は何か」について本センターの調査結果や事例を踏まえながら説明する。 【キーワード】 eラーニング活用状況、eラーニングの国際比較	辻靖彦(放送 大学・准教 授)	同左
3	eラーニングの学習理論	ここでは、eラーニングの一般的な特性を考えるとともに、eラーニングを設計・実施・受講する際に前提となる学習理論について理解を深める。ここでは、学習理論を、行動主義論・認知主義論・構成主義論の3つに分類して、eラーニングにおける歴史的変遷を鑑みながら、それぞれの学習理論におけるeラーニングの特性について検討する。 【キーワード】 学習理論、行動主義、認知主義、構成主義、教育目標分類	青木久美子 (放送大学・教授)	同左

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	動機づけと自己制御 学習	eラーニングにおける学習への動機づけを高め維持する技法について、ケラーによって提唱されているARCSモデルとその活用例とを紹介する。あわせて、自己調整学習について学習方略との関係に注目しつつ言及する。 <b>【キーワード】</b> 動機づけ、ARCSモデル、自己制御学習、学習方略	高橋秀明(放送 大学・准教 授)	同左
5	マルチメディア学習	メイヤーによって提唱されているマルチメディア学習の理論と方法論とを紹介し、eラーニングの設計に応用可能な原理・原則を説明する。あわせて、その問題点や限界についても言及する。 <b>【キーワード】</b> マルチメディア学習、ことば、絵、情報処理モデル	高橋秀明(放送 大学・准教 授)	同左
6	eラーニングの基盤技 術	eラーニングはどのような技術を用いて行われているのか、基盤となる技術について解説する。具体的にはTCP/IP、HTTP、Webなどネットワークやインターネットの技術及び、学習管理システム(LMS/CMS)などの具体的なシステムについて概念的な説明を行う。 <b>【キーワード】</b> ネットワーク、TCP/IP、Web、インターネット、LMS	辻靖彦(放送 大学・准教 授)	同左
7	eラーニング教材の技 術	eラーニングでは実際にどのような形式の教材が用いられているのか、また、用いられている教材にはどのような技術が用いられているのかについて説明を行う。教材の形式としては、ビデオ形式、スライド形式、テキスト形式、Flash形式、クイズ形式、書籍形式など一連の教材のタイプを取り上げ、さらに、学習者の進捗履歴状況や点数などを扱う標準化技術であるSCORMについて説明を行う。 <b>【キーワード】</b> eラーニング教材、SCORM	辻靖彦(放送 大学・准教 授)	同左
8	学習オブジェクト:学 習コンテンツの共有・ 再利用	eラーニングの特長の1つは、学習者の特性や学習の進捗状況に応じて最適な学習コンテンツを提供できることである。しかし、その都度コンテンツを、教員や教育機関が一から作成したのでは無駄も多く質の保証もできない。そこで、高品質な素材や部品を共有し再利用するための「学習オブジェクト(learning object)」モデルが生まれた。今回は、いくつかの基本的概念、技術的要件、活用事例、特に国際的なコミュニティにおける学習コンテンツ共有の試みについて解説する。 <b>【キーワード】</b> 学習コンテンツ、学習オブジェクト、メタデータ、検索、機関リポジトリ、国際標準化	山田恒夫(放送 大学・教 授)	同左
9	eラーニングを支える 専門家	従来の学校教育では教師が計画から評価までを一貫して行うことが多いが、eラーニングでは教育内容以外の様々な専門性が必要となってくるために、専門性を持った人たちと協働で行われるのが普通である。この回では、eラーニングの企画・運営にはどのような役割を果たす専門家が必要で、そのためにどのような知識/技能が必要とされるかを解説する。 <b>【キーワード】</b> インストラクショナルデザイナー、チューター、メンター、システム管理者、スキル、コンピテンシー	加藤浩(放送 大学・教授)	同左
10	インストラクショナル デザイン理論	ここでは、インストラクショナルデザインの歴史的背景、そしてインストラクショナルデザインの主流となっている2つのプロセスモデル、ADDIEモデルとディックとケリーのモデルについて説明する。また、本章最後には、このモデルの限界についても考察する。 <b>【キーワード】</b> インストラクショナルデザイン、ADDIEモデル、ディックとケリーのモデル	青木久美子 (放送大学・ 教授)	同左

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	インストラクションの設計	ここでは、eラーニングコース開発のプロジェクトの規模についてまず考え、それから前回で説明したADDIE(分析・設計・開発・実施・評価)モデルに沿って、実際にeラーニングを開発するにあたって、どのようにインストラクションを設計して実施するのかを順を追って考えていく。それぞれの段階において、何に気をつけたらよいのか、どのようなことを考えればよいのか、を説明する。  【キーワード】 インストラクショナルデザイン、ADDIEモデル	青木久美子 (放送大学・教授)	同左
12	協調学習と学習コミュニティ	近年、学習における社会的相互作用が重視されるようになってきているが、その背景には、学習が個人の頭の中で起こることとみなす学習観へのアンチテーゼとして、社会文化的な学習観が台頭してきたことがある。この回では、学習の社会的側面を重視する立場の学習観の中から主要なものを紹介する。また、学習活動の中に、他者との社会的交流が取り入れられるようになってきているが、そういった場面でよく用いられるツール類についても紹介する。  【キーワード】 正統的周辺参加、実践コミュニティ、活動理論、社会構築主義、学習コミュニティ、BBS、SNS、	加藤浩(放送大学・教授)	同左
13	ラーニングデザイン	インストラクションデザインが主に米国で盛んに謳われたのに対し、欧州や豪州で始まったラーニングデザインの理論と実践について論じる。ラーニングデザインの分野での研究アプローチや、研究開発されているツールを幾つか紹介する。  【キーワード】 ラーニングデザイン、アフォーダンス、IMS-LD、デザインベースの研究、教育パターン	青木久美子 (放送大学・教授)	同左
14	eラーニングにおける学習評価	eラーニングや遠隔教育において、学習活動や内容の基本的な評価法が大きく異なるわけではない。しかし、遠隔で個別に、自律的に行われるという特徴から、いくつかの留意すべきポイントがある。eラーニングの特長を引き出すものとして、形成的評価、eポートフォリオ、コンピテンシーモデル、eラーニングにおける固有の問題として、個人認証、コンピュータ適応型テストについて概説する。  【キーワード】 eテスト、総括的評価、形成的評価、eポートフォリオ、コンピュータ適応型テスト、項目反応理論、個人認証	山田恒夫(放送大学・教授)	同左
15	eラーニングの質保証	ここでは、eラーニングの制度的な質保証について、高等教育を重点において説明する。教育の質というものの方、また、諸外国でみられる様々な施策を紹介し、eラーニングの質の評価方法について言及する。最後に、eラーニングの特性として、時空間を超えることから、国境を越えたeラーニングの質の保証についても考察する。  【キーワード】 eラーニング質保証、ベンチマーキング、ガイドライン、国境を越えたeラーニング	青木久美子 (放送大学・教授)	同左

事務局 記載欄	開講 年度	2015年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8970084	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = コンピューティング ( ' 15 ) = ( R )

- 原理とその展開 -

英文名 = [ Computing ( ' 15 ) : Principles and Advances ]

[ 主任講師 ( 現職名 ) : 川合 慧 ( 放送大学教授 ) ]

[ 主任講師 ( 現職名 ) : 萩谷 昌己 ( 東京大学教授 ) ]

### 講義概要

情報に関する学問は極めて幅広いが、その基本的な部分は計算という概念で把握することができる。本科目では、この計算について、その原理的な定義、表現の方法、数理的な性質等々を、基礎的な部分から実際の計算機械及び実用的な計算システムまでを扱う。その際、計算のためのモデルとしていくつかを取り上げ、その基本的な理解のみならず相互的な比較を理論面と実用面の両面から行い、計算について全体的に理解する。

### 授業の目標

計算という概念及びその数理的な性質を把握するとともに、計算の理論的な振舞と実際の動きについて理解する。計算を記述し解析するためには計算をモデル化する必要があるが、主要な計算モデルのうち、状態遷移モデル、命令型計算モデル、関数型計算モデル、チューリング機械、ラムダ計算について理解する。現実世界での計算および計算システムの役割についても理解を深める。

### 履修上の留意点

計算論( ' 10 )、情報の世界( ' 10 )、計算事始め( ' 13 )などが強く関連する科目である。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	コンピューティングと状態遷移	本科目の全体的な内容と構成を紹介した後、状態の考え方を使って問題をモデル化することによって、変化や振舞の理論的な解析が可能であることを学ぶ。以降で取り上げるオートマトンやチューリング機械、命令型計算モデルの基礎となる。 【キーワード】 問題解決、計算、状態、状態遷移	川合 慧 (放送大学教授)	川合 慧 (放送大学教授) 萩谷 昌己 (東京大学教授)
2	オートマトン	状態と状態遷移のシステムを明確化したオートマトンの振舞の様子や理論的性質を考え、オートマトンが受理する言語の定義を見た後、言語の階層について学ぶ。次回のチューリング機械への導入と、DNA分子に触発された計算モデルを紹介する。 【キーワード】 オートマトン、受理、形式言語、DNA	萩谷 昌己 (東京大学教授)	川合 慧 (放送大学教授) 萩谷 昌己 (東京大学教授)
3	チューリング機械	入出力を無限長のテープを使って行ない、テープ上に与えられた問題の計算結果を再びテープに書き出すチューリング機械について、その構成方法や性質、実行できる計算とその能力、及び他のチューリング機械をシミュレートする万能チューリング機械、さらに計算可能性と不可能性について学ぶ。 【キーワード】 チューリング機械、テープ、万能チューリング機械、計算可能性	萩谷 昌己 (東京大学教授)	川合 慧 (放送大学教授) 萩谷 昌己 (東京大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	計算と論理	<p>計算と論理とは相互に密接に関係しているので、計算のとくに理論的側面の理解のためには論理における様々な扱いが適用できる。ここではその様子を、演繹体系やペアノ算術、ゲーデルの不完全性定理、及びゲンツェンの無矛盾性証明などを通じて学ぶ。</p> <p>【キーワード】 演繹体系, ペアノ算術, 不完全性定理, 無矛盾性証明</p>	萩谷 昌己 (東京大学教授)	川合 慧 (放送大学教授) 萩谷 昌己 (東京大学教授)
5	命令型計算モデル	<p>読み書きできる部分に変数の集合である命令型の計算モデルを見る。変数は、直接にアクセスできるセルの集合体上に確保され、その値が書き変えてゆくことで計算が進行する。現実のコンピュータとの対応にも触れ、実際の計算機構造において重要なメモリとCPUの様々な構成方法も学ぶ。</p> <p>【キーワード】 変数, 制御構造, ボトルネック, スループット, キャッシュ</p>	川合 慧 (放送大学教授)	川合 慧 (放送大学教授) 萩谷 昌己 (東京大学教授)
6	ホーア論理	<p>命令型計算モデル上のプログラムにおける、連接、選択、反復などが満たす論理的性質を表現するホーア論理について、その概略と実際のプログラム構築との関係を学ぶとともに、現実のシステムにおけるホーア論理の発展的な応用を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 ループ不変条件, ループ変動式, プログラム導出, 分離論理</p>	川合 慧 (放送大学教授)	川合 慧 (放送大学教授) 萩谷 昌己 (東京大学教授)
7	並列・分散計算	<p>現代では、理論的にも実際的にも並列に動作する複数の計算機構を扱う。ここではその原理的な事項として、マルチプロセッサとマルチプロセス、排他制御と同期、分散計算の問題点、分散計算用プロトコル等を学び、最後に分散システムに関わる共有知識について考える。</p> <p>【キーワード】 並列処理, 分散処理, 排他制御, 同期, 通信, 共有知識</p>	萩谷 昌己 (東京大学教授)	川合 慧 (放送大学教授) 萩谷 昌己 (東京大学教授)
8	ラムダ計算	<p>関数プログラミングの基礎にある関数型計算モデルの代表格であるラムダ計算について学び、ラムダ計算とチューリング機械が、互いに他をシミュレートすることによって同一の関数族を計算できるという意味で等価であることを理解する。また、高階関数を利用したステージ化計算の考え方も見る。</p> <p>【キーワード】 ラムダ項, 簡約, 高階関数, カリー化, 継続, ステージ化計算</p>	萩谷 昌己 (東京大学教授)	川合 慧 (放送大学教授) 萩谷 昌己 (東京大学教授)
9	関数プログラミング	<p>関数プログラミングについて、宣言的記述、ソフトウェア高品質化、並列計算などの優れた点について概観した後、その要因となっている参照透明性、高階関数、遅延評価などの特徴について学ぶ。型の概念にも触れる。また MapReduce と呼ばれる超並列計算のフレームワークについても見る。</p> <p>【キーワード】 参照透明性, 高階関数, 遅延評価, MapReduce</p>	萩谷 昌己 (東京大学教授)	川合 慧 (放送大学教授) 萩谷 昌己 (東京大学教授)
10	計算の複雑さ	<p>計算にともなう手間を抽象化した概念である計算量について、その定義、実際的な様々なアルゴリズムでの導出方法などを学ぶ。小さな計算量から大きな計算量までの実際に触れるとともに、大きな計算量を必要とする計算の例としてゲームプログラミングを見る。</p> <p>【キーワード】 時間計算量, 空間計算量, 計算量のオーダー, ゲーム情報学</p>	川合 慧 (放送大学教授)	川合 慧 (放送大学教授) 萩谷 昌己 (東京大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	計算量の理論	<p>実際的な問題についての計算量のいろいろとその階層性について学ぶ。理論的な話題として、多項式計算量を必要とする問題の集合(<math>P</math>)と非決定的多項式計算量を必要とする問題の集合(<math>NP</math>)について見る。大きな計算量を必要とする実用計算である線形計画法についても学ぶ。</p> <p>【キーワード】 多項式オーダー, 指数オーダー, <math>P</math>と<math>NP</math>, 線形計画法</p>	川合 慧 (放送大学教授)	川合 慧 (放送大学教授) 萩谷 昌己 (東京大学教授)
12	いろいろな計算機構	<p>現実のコンピュータはそのほとんどが電気信号の処理をその基本としているが、その他にも自然現象に含まれる種々の計算要素を利用した計算モデルについての研究が活発に行なわれている。ここではその具体化状況を、分子計算と量子計算を例にとりて学ぶ。</p> <p>【キーワード】 自然計算, 分子計算, 量子計算</p>	萩谷 昌己 (東京大学教授)	川合 慧 (放送大学教授) 萩谷 昌己 (東京大学教授)
13	数値の計算	<p>現実世界の量をモデル化すると、物理世界や人間の経済活動などについての計算を行なうことができる。ここではモデルとしての数値の世界と、そのコンピュータによる処理の概略を見た後、実際の問題に適用されている大規模な計算とその有用性、及び留意すべき諸点を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 浮動小数点, 精度, 桁落ち, IEEE754, スーパーコンピュータ</p>	川合 慧 (放送大学教授)	川合 慧 (放送大学教授) 萩谷 昌己 (東京大学教授)
14	現代のソフトウェア開発	<p>現代のソフトウェア開発では、計算に関する様々な理論を具体化することによって、人間に優しく、かつ生産性が向上する支援システムが使用されている。ここでは実際の場面で利用されているこの種のシステムの機能の概略を見る。</p> <p>【キーワード】 言語処理系, エディタ, コンパイラ, 統合開発環境</p>	萩谷 昌己 (東京大学教授)	川合 慧 (放送大学教授) 萩谷 昌己 (東京大学教授)
15	コンピューティングの未来	<p>現実世界では様々な方式による種々の計算がいろいろな仕組みとさまざまな環境で実行されており、その目的もさまざまである。そのいくつかの項目について学び、実際の計算の様子やその応用のされ方、さらには近未来の社会における計算の役割について考える。</p> <p>【キーワード】 ユビキタス, サイバーフィジカル, シンギュラリティ</p>	萩谷 昌己 (東京大学教授)	川合 慧 (放送大学教授) 萩谷 昌己 (東京大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8970076	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 知的創造サイクルの法システム ('14) = (R)

英文名 = [ Law Systems of Intellectual Creation Cycles ('14) ]

[主任講師 (現職名) : 児玉 晴男 (放送大学教授) ]

[主任講師 (現職名) : ]

【本学担当専任教員 : 】

### 講義概要

本講義は、知的財産の創造、保護、活用に関する法システムを取り上げます。知的創造活動が知的財産権法制で保護される前後を含め、知的財産権法の二つの法体系の著作権法と産業財産権法と適宜に不正競争防止法等を比較対照しながら、知的創造サイクルの中における権利(人格的権利と経済的権利)のライフサイクルの関係から解説します。本講は、知的財産権法の個別法を逐条解説する手法をとらずに、知的財産権法制を広義にとらえた知的創造サイクルの法システムを鳥瞰します。

### 授業の目標

本授業は、知的財産の創造・保護・活用の好循環のための広義の知的財産権法制を全体包括的な観点から理解することを目的とする。

### 履修上の留意点

この科目の内容は、当然に、情報学の領域に留まるものではなく、法学、経済経営学、自然科学、そして人文学などに直接、間接に関連するものであり、各プログラムの履修者も対象としています。

	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	知的創造保護の潮流	知的創造を保護する知的財産権法の枠組みは、19世紀末から3世紀をまたぐ国際条約(ベルヌ条約、パリ条約)に始まる。その国際条約は、いわゆる南北問題により閉塞状態となり、他方、経済摩擦やデジタル環境への対応等で新たな国際的な枠組みも形成されている。本講は、それらの経緯を踏まえて、知的創造保護の潮流について考える。  【キーワード】 複製技術、デジタル化・ネットワーク化、ソフトウェア、生物多様性、ソフトロー	児玉 晴男 (放送大学教授)	児玉 晴男 (放送大学教授)
2	知的創造保護に関する法システム	知的創造サイクルは、知的財産権の法体系の主要な著作権法と産業財産権法に関わる。それらは、1990年代の半ばまで二分されてきたが、相互に関連をもつに至っている。本講は、知的創造保護の潮流を踏まえて、知的財産基本法、知的財産権法制の著作権法、産業財産権法およびその他の法律ならびに不正競争防止法もしくは国際条約から知的創造サイクルに関わる法体系を考える。  【キーワード】 知的財産基本法、著作権法、産業財産権法、不正競争防止法、ベルヌ条約、ローマ条約、パリ条約、WIPO条約	児玉 晴男 (放送大学教授)	児玉 晴男 (放送大学教授)
3	知的創造の始原	知的創造は、無から生まれるものではない。それは、知的財産権法制で直接に保護されない対象を活用してなされることがある。それらは、世界遺産、無形文化遺産および生物多様性などに求められる。本講は、遺伝資源、伝統的文化表現、伝統的知識および原産地表示と地理的表示について説明し、それら知的創造の始原と知的財産権法制との関わりについて考える。  【キーワード】 世界遺産、無形文化遺産、遺伝資源、伝統的文化表現、伝統的知識、原産地表示・地理的表示	児玉 晴男 (放送大学教授)	児玉 晴男 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	知的創造	<p>知的創造は、オリジナリティが求められる。他方、そのオリジナリティは、模倣を伴うことがある。それを言い換えれば、オリジナリティと模倣の関係は芸術の基点となる。また、発見・発明に対するインスピレーション等によつたらえ方または先人の肩に乗ってちよつと先を見通すことによるとの見方がある。その観点から、本講は、芸術的創造と科学的発見との関連から知的創造について考える。それらの知的創造は、いずれにしても、先取権と先使用権と連結し、知的財産権法制へ展開する。</p> <p>【キーワード】</p> <p>オリジナリティ、模倣、芸術的想像、科学的発見、セレンディピティ、インスピレーション、暗黙知、世界人権宣言</p>	児玉 晴男 (放送大学教授)	児玉 晴男 (放送大学教授)
5	知的創造の客体 創作物	<p>知的財産権法制は、知的創造を保護する。その著作権法制における著作権創造の客体は、著作物とデジタルコンテンツになる。産業財産権法制における発明創造の客体は、発明、考案、意匠になる。本講は、著作物創造、発明創造、その他の知的創造の客体として、植物の新品種、半導体集積回路の回路配置、そして営業秘密を含め創作物について考える。</p> <p>【キーワード】</p> <p>著作物、発明・考案・意匠、植物の新品種、半導体集積回路の回路配置、営業秘密、創作物</p>	児玉 晴男 (放送大学教授)	児玉 晴男 (放送大学教授)
6	知的創造に準ずる行為の客体 準創作物	<p>知的財産権法制には、創作物だけでなく、創作物を伝達する行為も保護の対象にしている。その行為とは、無体物である創作物の伝達機能になる。本講は、著作物を伝達する行為、標識を付した商品・役務(サービス)を伝達する行為、原産地表示・地理的表示によって農林水産物を伝達する行為に着目して考える。</p> <p>【キーワード】</p> <p>著作物を伝達する行為、商品・サービスを伝達する行為、原産地表示・地理的表示、準創作物</p>	児玉 晴男 (放送大学教授)	児玉 晴男 (放送大学教授)
7	知的創造の主体 創作者	<p>知的創造の主体は、知的創造に直接的に寄与する者になる。それは、著作者、発明者・考案者・意匠の創作者、育成者、回路配置の創作者である。そして、営業秘密の保有者は、著作者、発明者・考案者・意匠の創作者、育成者、回路配置の創作者となりうる。本講は、知的創造の主体である創作者を、先取権または先使用権を有する者、すなわち創作時からとらえることにする。</p> <p>【キーワード】</p> <p>著作者、発明者・考案者・意匠の創作者、育成者、回路配置の創作者、営業秘密の保有者</p>	児玉 晴男 (放送大学教授)	児玉 晴男 (放送大学教授)
8	知的創造に準ずる行為の主体 準創作者	<p>知的財産権法制の中では、創造性が関係することから、知的創造に準ずる行為の主体は、準創作者といえよう。その準創作者は、著作物を伝達する行為をなす者(著作隣接権者)と商品・サービスを伝達する行為による商標(標章)の使用者になろう。本講は、わが国では著作隣接権者とはされていない出版者と、まだ規定されていない自動公衆送信事業者も含め、準創作者について考える。</p> <p>【キーワード】</p> <p>実演家、レコード製作者、放送事業者・有線放送事業者、出版者、自動公衆送信事業者、商標の使用者</p>	児玉 晴男 (放送大学教授)	児玉 晴男 (放送大学教授)
9	知的創造の権利と関連権の構造	<p>知的創造とそれに準ずる行為の権利の発生は、無方式主義と方式主義により分けられる。また、方式主義には、先願主義と先発明主義がある。無方式主義と方式主義の権利の発生の違いは、それぞれ著作権法および産業財産権法等に見ることができる。本講は、先取権と先使用権を起点にして、知的創造の権利と関連権の構造を人格的権利と経済的権利との関係から考える。</p> <p>【キーワード】</p> <p>無方式主義、方式主義、著作権と関連権、特許等を受ける権利、発明者等掲載権、産業財産権、育成者権、回路配置利用権</p>	児玉 晴男 (放送大学教授)	児玉 晴男 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	知的創造の権利と関連権の帰属	<p>知的財産権は、移転・譲渡できる。他方、創作者および一部の準創作者の人格的権利は、一身専属性により、移転することはできない。そして、著作権法、産業財産権法、種苗法、半導体集積回路配置法等において、人格的権利と経済的権利の帰属関係は異なっている。本講は、知的創造の権利と関連権における人格的権利と経済的権利の非対称的な帰属関係から考える。</p> <p>【キーワード】</p> <p>人格的権利、一身専属制、経済的権利の移転・譲渡、物権的権利、債権的権利</p>	児玉 晴男 (放送大学教授)	児玉 晴男 (放送大学教授)
11	知的創造の権利と関連権の制限	<p>知的創造とそれに準じる行為の活用の観点から、知的創造の権利と関連権の制限が規定されている。その知的創造の権利と関連権の使用の形態が異なることにより、著作権法と産業財産権法における権利の制限の態様は異なっている。本講は、著作権法と産業財産権法における権利の制限について考察し、知的財産のオープン化とそれによって想定される知的財産権法制の権利の制限について考える。</p> <p>【キーワード】</p> <p>著作権等の制限、産業財産権の制限、知的財産家の制限、人格的権利の制限、経済的権利の制限、コモンズ</p>	児玉 晴男 (放送大学教授)	児玉 晴男 (放送大学教授)
12	知的創造の権利と関連権の範囲	<p>知的創造の権利と関連権の帰属と制限は、領域的および時間的な関係からの知的創造の権利と関連権の及ぶ範囲を明確にする必要がある。それは、権利の及ぶ範囲、権利の始期と終期、そして有体物に化体した知的財産の権利の消尽になる。本講は、知的創造の権利と関連権に関して、保護の範囲の同一性と類似性、保護期間、保護期間内の権利の消尽について考える。</p> <p>【キーワード】</p> <p>同一性、類似性、保護期間、均等論、消尽理論</p>	児玉 晴男 (放送大学教授)	児玉 晴男 (放送大学教授)
13	知的創造の権利と関連権の管理	<p>権利管理は、権利者の義務であるが、創作者が個人であるときは、困難な状況がある。その権利管理には、登録制度と信託制度がある。権利発生要件および第三者対抗要件の登録制度になり、著作権等管理事業および信託業法の信託制度になる。本講は、著作権等の管理と産業財産権の管理および知的財産権の管理について考える。</p> <p>【キーワード】</p> <p>登録、権利発生要件、第三者対抗要件、信託、著作権等管理事業者</p>	児玉 晴男 (放送大学教授)	児玉 晴男 (放送大学教授)
14	知的創造の権利と関連権の不服申立てと訴訟	<p>知的創造の権利と関連権の発生の態様は、著作権法と産業財産権法等と異なる。方式主義をとる産業財産権法には、出願等の手続きに伴う行政処分に対する不服申立手続きがある。そして、訴訟による権利侵害に対する救済は、民事および刑事に分かれる。本講は、行政処分に対する不服申立ておよび権利侵害に対する民事的救済と刑事的救済について考える。</p> <p>【キーワード】</p> <p>行政処分、不服申立て、間接侵害、差止請求、損害賠償請求、原状回復措置、信用回復請求、刑罰、両罰規定</p>	児玉 晴男 (放送大学教授)	児玉 晴男 (放送大学教授)
15	知的創造サイクルの好循環システム	<p>知的創造サイクルは、知的財産権法制の枠内では、創作物の同一性が保持された創作者の人格的権利と財産権のライフサイクルの関係になる。そのライフサイクルは、創作物(準創作物)と創作者(準創作者)の人格的権利と経済的権利が関与する。本講は、知的財産権法制のソフトロー的なオートポエティックな法システムの見方から、遺伝資源と伝統的文化表現および伝統的知識ならびに先取権と先使用権との接点から知的創造サイクルの好循環システムについて考える。</p> <p>【キーワード】</p> <p>知的創造、人格的権利、経済的権利、同一性の保持、オートポイエーシス</p>	児玉 晴男 (放送大学教授)	児玉 晴男 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8960585	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 現代生物科学 ( ' 14 ) = (TV)  
-生物多様性の理解-

英文名 = [ Modern Concepts of Biology ( ' 14 ) ]

[主任講師 (現職名) : 松本 忠夫 (放送大学客員教授) ]

[主任講師 (現職名) : 二河 成男 (放送大学教授) ]

【本学担当専任教員 : 】

### 講義概要

現代の生物学の進展はめざましいものがあり、その全貌を掴むのは容易ではない。生物が持つ特性の中で、他の物質系に無いものとして、遺伝情報の伝達、エネルギー代謝、物質収支の動的平衡、そして自然選択による進化などがある。本科目では、「生物多様性」のキーワードの元に、分子、細胞、器官、個体、個体群、群集、生態系といった「生物界の諸階層」の様相を説明する。また、現代の生物学と人間生活との関連について説明する。

### 授業の目標

「生物多様性」および「生物界の階層性」そして「生物進化」を基本にすえて、現代生物学を大学院修士レベルで理解させる。また、生物的自然と人間との関係における「環境問題」を題材にして理解させる。

### 履修上の留意点

学部における科目の、初歩からの生物学、生物圏の科学、動物の科学、植物の科学、生命分子と細胞の科学、生物界の変遷などを履修しておくことが望ましい。

回	テ ー マ	内 容	執 筆 担 当 講 師 名 (所属・職名)	放 送 担 当 講 師 名 (所属・職名)
1	生物多様性とは	今日の生物の多様性が生じた理由は実にさまざまであるが、特に大きな理由として無機環境への適応性、生活資源の獲得力、そして生物間の相互作用がある。ここでは、生物多様性の階層性を、生物の進化との関係で説明する。また、生物を分類するとはどのようなことかを説明する。さらに、多様性の基盤となる生物が獲得するエネルギーおよび物質について述べる。 【キーワード】 生物多様性、生物界の階層性、生物進化、生物分類、分類体系	松本忠夫・放送大学客員教授	松本忠夫・放送大学客員教授
2	生命分子が創出する生物多様性	生物を構成する有機物は、糖、脂肪酸、アミノ酸、ヌクレオチドなど、ごく限られた種類の小さな構造物からなる。これらの構造物は巨大分子のサブユニットであり、同じ種類のサブユニットが多数結合して、多糖や脂肪、タンパク質、核酸等の巨大な分子となり、細胞内で様々な機能を示す。ここでは、生物体を構成する巨大分子の基本構造、機能、その細胞内での合成機構について学ぶ。 【キーワード】 分子、タンパク質、脂質、糖、核酸、酵素、遺伝子、転写、翻訳	二河成男・放送大学教授	二河成男・放送大学教授
3	細胞レベルで見た生物多様性	細胞は自身の持つ遺伝情報を利用して、機能を発現している。ヒトの細胞では、全く同じ遺伝情報を持つにも関わらず、200種類以上の異なる細胞へと分化している。これら細胞の機能の違いは、発現している遺伝子の違いに大きく依存している。細胞の基本的な特徴と、多様な細胞を生み出す基盤となる遺伝子発現調節のしくみについて学ぶ。 【キーワード】 遺伝子、細胞、分化、遺伝子発現	二河成男・放送大学教授	二河成男・放送大学教授

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	多様な微生物の世界	<p>遺伝子情報解読の技術革新により、これまでの技術で培養や同定の困難であった微生物を、遺伝子の塩基配列情報を利用して、同定できるようになった。その結果、極めて多様な微生物が、様々な地球環境中に存在することが明らかになった。ここでは、細菌や古細菌のあらたな検出方法、生物種の多様性、生態的特性について学ぶ。</p> <p>【キーワード】</p> <p>細菌、古細菌、リボソームRNA、独立栄養生物</p>	二河成男・放送大学教授	二河成男・放送大学教授
5	植物の多様な繁殖様式	<p>植物では、動物とは個性が大きく異なり、動物にはみられない多様な性表現が存在する。ここでは、被子植物にみられる性表現と受粉様式の進化を解説するとともに、それには動物の影響が大きかったことを紹介する。また、植物が動物からの摂食に耐えるためのさまざまな適応戦略を説明する。</p> <p>【キーワード】</p> <p>性表現、被子植物、受粉様式、適応戦略</p>	大原雅・北海道大学教授	大原雅・北海道大学教授
6	植物の個体発生と環境適応	<p>植物は固着生物なので、環境に対して柔軟に適応する能力が進化の過程で発達した。中でも植物の生活を支えている光合成に関しては、環境適応が必須のため、光合成器官である葉の発生は、外界の環境に適応して実に大きな可塑性を発揮する。葉の発生の可塑性と生態環境への適応との関係について、発生を制御する遺伝子の働きも含めて、現在の理解を紹介する。</p> <p>【キーワード】</p> <p>環境適応、光合成、葉、生態環境、発生、可塑性</p>	大原雅・北海道大学教授	大原雅・北海道大学教授
7	動物の多様な繁殖様式	<p>通常の動物は雌雄の性があり、それらが出す配偶子によって有性生殖を行うが、中には性を必要としない単為生殖、多胚生殖、幼形生殖などを行うものがある。また、親による子の保護様式と関係して、卵生、卵胎生、胎生などが見られる。そして哺乳類では雌親による妊娠、授乳が発達している。本章では、このように多様な動物の繁殖様式を説明する。</p> <p>【キーワード】</p> <p>有性生殖、親による子の保護、卵生、胎生、繁殖様式</p>	松本忠夫・放送大学客員教授	松本忠夫・放送大学客員教授
8	動物個体の発生と環境適応	<p>動物の中には、発生・発育過程において環境の影響を受けて、その形態や性質が大きく変化するものたちがいる。生存のための環境適応と解釈される。また、繁殖における戦略として性転換をする魚類、さらには昆虫類の環境適応としての多型現象にもふれる。そして、そのような多様な形態や性質をもたらす進化的要因および体内メカニズムについて説明する。</p> <p>【キーワード】</p> <p>個体発生、性転換、多型現象、環境適応、可塑性</p>	三浦徹・北海道大学准教授	三浦徹・北海道大学准教授
9	動物の多様な社会	<p>動物社会がいかにして成立しているのかについて、特に環境との関連で説明する。真社会性生物は、集団の中に少数の生殖者そして多数のワーカーや兵隊など非生殖者といったカースト分化が見られることを特徴としている。ここではカースト分化がもたらされた進化的要因およびカースト分化の分子生物学的メカニズムについておもにシロアリを例にして説明する。</p> <p>【キーワード】</p> <p>動物社会、真社会性生物、カースト分化、シロアリ</p>	三浦徹・北海道大学准教授	三浦徹・北海道大学准教授
10	植物群落の動態	<p>大地に固着した植物は同種および異種個体が群落を形成するが、その特徴を説明する。植物群落が時間経過とともに変化して行く様相を遷移というが、それがなぜ起こるのかについて解説する。さらに、植物遷移の知見の応用例として、生態系の再生について説明する。</p> <p>【キーワード】</p> <p>植物群落、遷移、生態系再生</p>	大原雅・北海道大学教授	大原雅・北海道大学教授

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	動植物と微生物との共生関係	共生とは異種の生物と一緒に暮らしている現象をいう。特に他の生物体内に別の生物が入り込んでいる場合は、内部共生といい、その生物間相互作用は興味深いものが多い。ここでは植物や動物と微生物の間の共生を例にとり、共生関係にある生物間の利害関係と、異種生物からの新規な生物機能の獲得について学ぶ。 【キーワード】 内部共生、細胞内共生、根粒菌、腸内細菌、共生細菌	二河成男・放送大学教授	二河成男・放送大学教授
12	動物群集の多様性と、人類による生物相の攪乱	動物は摂食、繁殖、防衛などのさまざまな行動することで、生態系の中で多様な位置を占めている。動物間の食う食われる関係は、食物連鎖とそして食物網を形成し、その中に位置する個々の動物は、厳しい生存競争の中で次第に進化して多様化した。島嶼や、環境のモザイク性で隔離された地域では生物相の固有化が進む。人類は生物相が固有化した地域へ動物を移動させたが、その結果、在来の生物相に大きな影響が生じた。 【キーワード】 動物群集、摂食、食性、外来種、侵略的外来種	松本忠夫・放送大学客員教授	松本忠夫・放送大学客員教授
13	ランドスケープの構造と生物多様性	生物の生息・生育の有無や程度は、個々の場所における条件だけでは決まらない。その場所を取り巻く空間のあり方にも影響を受ける。ここでは、ランドスケープ・エコロジーの観点に基づく空間のとらえ方について紹介し、どのような性質を備えた空間が生物の生息地として適しているかを、最近の研究成果に基づいて解説する。 【キーワード】 パッチ、コリドー、マトリクス、連結性、景観(ランドスケープ)	加藤和弘・放送大学教授	加藤和弘・放送大学教授
14	生物群集の種多様性と種組成の分析方法	生物多様性の保全を行う際には、生物多様性と生息環境との関係を明らかにすることが重要である。ここでは、生物の種多様性を評価する手法を紹介するとともに、生物の種組成のデータから種組成の変化のパターンを抽出し、種組成の変化に関与する環境条件や人間活動を明らかにするための分析について解説する。 【キーワード】 種多様性、生物指数、多変量解析、分類、序列化	加藤和弘・放送大学教授	加藤和弘・放送大学教授
15	生物多様性と人類の存続	現在の地球における生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性に対しての人為の影響はたいへん大きい。そして、近代では非常に多数の生物が絶滅し、現在も絶滅の危機に瀕している生物が多い。特に熱帯多雨林域における森林群集全体の喪失は、生物多様性を一気に著しく減少させてしまうので重大問題である。ここでは、そのような生物絶滅の様相を説明し、絶滅をくい止める方策について考える。生物多様性の価値についても改めて考える。人類は地球上の生物多様性を著しく阻害していることを説明する。 【キーワード】 生物多様性、生物絶滅、熱帯雨林、サバンナ、人類の存続、ケニア、マダガスカル	松本忠夫・放送大学客員教授	松本忠夫・放送大学客員教授

事務局 記載欄	開講 年度	2013年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8960577	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 現代物理学の論理と方法 ('13) = (R)

〔主任講師 (現職名) : 米谷 民明 (放送大学教授) 〕  
 〔主任講師 (現職名) : 〕  
 【本学担当専任教員 : 〕

### 講義概要

物理学は、物質と時空を研究対象として、普遍的な法則性の理解を深めてきた。その過程で、特定の研究対象だけに限らず、対象の空間・時間スケールを超えて異なるスケールで有効な様々な物の見方(論理)や方法論が発展した。本科目では、従来の科目の一般的分類にとらわれずに、広い範囲で有効性を持つ物理学の基礎的な考え方・方法論とその具体的応用に焦点を当て、物理学の基礎としての現代物理学の神髄について最先端の成果や将来の展望も含めて、大学院科目ではあるが、初学者が入門しやすいように工夫した講義を行う。

### 授業の目標

体系的な一般論や数学的な厳密さの追求は強調せず、具体例や単純化されたモデルに基づき、本質を直観的に理解できるような講義内容とする。履修者が自分の頭で考え、発見を体験しつつ学び、それぞれ自分なりの応用や創意工夫へと動機づけられるような科目を目指す。

### 履修上の留意点

物理学全般について、放送大学学部共通科目の「物理の世界」程度以上の理解があることを最低限の前提とする。また、放送大学学部専門科目、「力と運動の物理」等を履修したのと同レベル以上の知識や運用力があるのが望ましい。

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	物理学の基礎概念と方法1 物理学の発展	第1回から5回までは、6回以降の様々なテーマに進むための準備として、物理学の基礎的概念と方法について、導入的な解説を行う。第1回は、物理学の歴史的発展を概観することを通じて、自然科学のなかでの現代物理学の位置づけを把握し、物理学の最も基礎的な概念(時間と空間、座標系、力、運動、場、など)のいくつかについて復習する。  【キーワード】 力、運動、時間、空間、座標系、場	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
2	物理学の基礎概念と方法2 保存則と対称性	物理学を具体的な問題に応用するとき、普遍的に役立つ知見の1つは、取り扱う現象において保存する物理量が何かを見極めることだ。本章ではこの保存量と対称性の関係を変分原理を通じて整理する。また量子力学における対称性と保存則についても概略を述べる。  【キーワード】 保存則、対称性、対称性の自発的破れ	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
3	物理学の基礎概念と方法3 確率とゆらぎ	多数の要素が関与する複雑な現象を解析し、有用な解釈をするには、物理学に限らず、確率とゆらぎの概念、および、それらを扱うための統計的方法が欠かせない重要な役割を果たす。典型的例を通じて、確率と統計の方法が果たす役割を通じて統計力学の考え方を学ぶ。さらに、量子力学における確率概念の特質を概観する。  【キーワード】 確率、ゆらぎ、正準分布、状態の重ね合わせ、混合状態	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	物理学の基礎概念 と方法4 現象とモデル	モデルの構築は、現象の本質をえぐりだすのに必要な最小限の要素だけに対象を切り落として単純化することや、複雑な現象を整理してモデルから理解することなど、を通じて自然界の普遍的な性質を取り出すのに有効な方法である。モデルの有効性と限界を具体例でみる。 <b>【キーワード】</b> プランクの公式、ボーアの原子模型、分子間力、揺らぎと力	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
5	物理学の基礎概念 と方法5 数理的方法と近似	物理学において、個別の対象によらず共通に役立つ数理的見方と方法として典型的で、対称性の扱いに役立つ群論の考え方を整理し、応用例を解説する。また、線形と非線形の違い、それぞれの特徴について述べる。 <b>【キーワード】</b> 対称群、点群、回転群、空間反転、時間反転、線形、非線形	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
6	形の物理	自然界に現れる「形」はさまざまであるが、共通して現れる形があり、背後には普遍的な形成原理がある。この講義では水玉やシャボン膜にはたらく表面張力を例として、形の形成原理の1つである面積極小という数理的方法論を学ぶ。マクロ世界で現れるこの面積極小の考え方はマイクロ世界の自己組織化構造である共連続相にも現れる。共連続相の対称性である空間群についても述べる。 <b>【キーワード】</b> 形、表面張力、極小曲面、自己組織化、共連続相、空間群	堂寺知成(近畿大学理工学部教授)	堂寺知成(近畿大学理工学部教授)
7	マイクロとマクロ	原子や分子が主役となるマイクロ世界の空間尺度は1億分の1センチメートル程度であり、われわれが普段生活しているマクロ世界とは8桁以上離れている。空間尺度の大きな差の結果として、素朴には想像できない普遍的な法則がマクロ世界で成り立ち、その根拠がマイクロ側のある様相に求められる。「ゴム」を例題にして、この論理の本質的部分を学ぶ。 <b>【キーワード】</b> 熱と力学の統合、スケールの分離、大数の法則、等重率の原理、エントロピー力	佐々真一(京都大学・大学院理学研究科教授)	佐々真一(京都大学・大学院理学研究科教授)
8	平衡と非平衡	平衡条件下にある系では、エントロピー増大則に代表されるように、「変化の向きに関する制約」が法則化される。その一方、生物をはじめとして、生き生きと活動しているように見える系は、非平衡条件下で作動している。平衡と非平衡の違いは何か、それぞれにおける変化の向きの制約は何か、また、それらの違いは何に由来して生じるのか。「ファインマンの歯車」と呼ばれる思考実験を例題にして、これらの基本的考え方を学ぶ。 <b>【キーワード】</b> エントロピー増大則、非平衡環境、ゆらぎと散逸、輸送、可逆と不可逆	佐々真一(京都大学・大学院理学研究科教授)	佐々真一(京都大学・大学院理学研究科教授)
9	超伝導とボース・アインシュタイン凝縮	量子論の特徴的性質であるボース・アインシュタイン凝縮について学ぶ。特に、典型的例の一つとして、物質の量子的性質がマクロに現れる超伝導現象を取り上げ、マクロ的な取り扱いや、マイクロな立場からのメカニズムの理解に関して基礎的な考え方や方法を学ぶ。 <b>【キーワード】</b> ボース統計、超流動、超伝導、レーザー	氷上忍(沖縄科学技術大学院大学教授)	氷上忍(沖縄科学技術大学院大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	相転移とはどういうものか	物質の通常の状態から超伝導状態への変化は、相転移と呼ばれる現象によって起る。相転移は、身近にもよく起こっているし、宇宙から素粒子までにわたって普遍的に起こる現象である。相転移を取り扱うのに有効な考え方のいくつかを、典型的な凝縮系での例をもとに、まずマクロな立場から学ぶ。 【キーワード】 磁性体、イジング模型、ギンツブルグ・ランダウハミルトニアン	氷上忍(沖縄科学技術大学院大学教授)	氷上忍(沖縄科学技術大学院大学教授)
11	臨界現象と繰り込み群	物質の相転移をミクロな立場から理解するには、繰り込み群の考えが有効性を発揮する。その初歩をいくつかの具体的例により学ぶ。繰り込み群は量子論における場の理解にも欠かせない重要な概念である。それらについても触れる。 【キーワード】 スケールリング則、繰り込み群方程式、臨界指数、異常次元	氷上忍(沖縄科学技術大学院大学教授)	氷上忍(沖縄科学技術大学院大学教授)
12	力とゲージ場	マックスウェルの電磁場理論は量子論と組み合わせ、力についてのより根源的な理解を支えるゲージ場という概念を生んだ。ゲージ場は、素粒子相互作用だけではなく、マクロな凝縮系でもミクロのレベルから対称性とその破れに基づき物質を理解するのに役立つ普遍的概念の一つである。ゲージ場とは何か、その意味、特徴、役割を具体例で述べる。 【キーワード】 ゲージ変換、ゲージ不変性、AB効果、磁気単極子	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
13	素粒子物理と相転移	素粒子レベルにおいては、真空そのものが、ただの空っぽではなく、素粒子が絶えず生成消滅を繰り返している複雑な系である。基本相互作用の統一には、真空の相構造の理解が重要である。第1章で強調した基本相互作用の場の理論であるゲージ理論の相構造について解説する。 【キーワード】 量子色力学、電弱統一理論、粒子と反粒子、真空の相転移	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)
14	初期宇宙論と相転移	現代宇宙論は、インフレーションと呼ばれる急膨張時代があったことを突き止め、大域的に一様等方で、かつ豊かな階層構造を持つ私たちの宇宙に進化するための初期条件の起源を明らかにした。そこには、相互作用の分化と相転移という概念が重要な役割を果たしていること、また、宇宙の起源を理解するために不可欠な、「ゆらぎ」の概念について解説する。 【キーワード】 宇宙の相転移、インフレーション宇宙論、宇宙の創生、ゆらぎ	横山順一(東京大学・大学院理学研究科教授)	横山順一(東京大学・大学院理学研究科教授)
15	現代物理学の課題	最終章として全体のまとめを行う。広い分野で普遍的に用いられるエントロピーの概念を改めて整理し、最先端の研究に関わる問題としてブラックホールの場合を解説する。最後にさらなる普遍性の探求と課題について述べる。 【キーワード】 エントロピー、H定理、ブラックホール、生命の起源、宇宙の起源	米谷民明(放送大学教授)	米谷民明(放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8960593	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 物質環境科学 ('14) = (TV)

英文名 = [ Material Environment Science ('14) ]

[主任講師 (現職名) : 濱田 嘉昭 (放送大学教授) ]

[主任講師 (現職名) : 花岡 文雄 (学習院大学教授) ]

【本学担当専任教員 : 】

### 講義概要

自然あるいは自然環境問題を考える場合、それを構成している物質の種類・量・性質およびそれらの間の相互作用の考察を抜きには成立しない。この講義では、地球上の環境を基本的に規定している地球科学的な基礎知識を確認した上で、環境パラメータを測定する方法とデータの考察の仕方を学ぶ。その上で、地球上の生物の環境の状況を生態学の立場から考察し、さらに人を含めた生物と物質との関わりを中心に考察する。環境問題の扱う範囲は広く複雑であるが、それらを全体として考える基礎を学ぶことを目的としている。

### 授業の目標

化学的な観点からの物質理解および環境問題や生命・健康にかかわる課題を明らかにし、現代科学の到達点と将来予測を示し、さまざまな状況に基づく課題解決への指針を与えることを目標とする。

### 履修上の留意点

複雑で未解決、そして現代的な環境問題そのものを解説するというより、それらの基礎にある知識を整理したいと考える。したがって、自然科学の広い基礎知識をもっていることが望ましい。特に、化学を中心とした物質に関する理解が重要である。放送大学の教材としては、「初歩からの化学」、「基礎化学」、「生活と化学」などを予め履修しておくことが良い。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	物質の循環と移動	講義を始めるにあたり、環境の定義を確認しておく。環境は周辺との相互作用で捉えることが重要である。また、自然現象を大きな空間・時間スケールで考えることの重要性を指摘する。地球上での自然現象に深く関係する物質循環について、水、炭素、窒素を例にして考える。  【キーワード】 環境の定義・意味、物質循環、水の循環、炭素の循環、窒素の循環	濱田嘉昭 (放送大学・ 教授)	濱田嘉昭 (放送大学・ 教授)  花岡文雄 (学習院大 学・教授)
2	地球の成り立ちと運動	地球は太陽系の一員であり、太陽から膨大なエネルギーを受け取っている。また、太陽磁場により、さらに外側の宇宙空間からの放射線の暴露から守られている。大地は活発な活動をしている。これらは、空間的・時間的に大きなスケールで地球の自然環境を規定していることを学ぶ。  【キーワード】 太陽活動とエネルギー、磁場の役割、大地の運動	濱田嘉昭	濱田嘉昭
3	大気と海洋	生物が生活する空間は大気と海洋、および土壌である。そこで大きな自然現象と言えば、大気と海洋の運動であろう。これらについての概略を理解しておくことは、この講義の後半のより詳細あるいは個別の理解にも役立つであろう。  【キーワード】 大気の構成と運動、大気環境問題(地球温暖化、二酸化炭素、オゾン層)、海洋の構成と運動	濱田嘉昭	濱田嘉昭

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	生態系の基盤となる 植生	生物は、地球上と水中の約20 kmの生物圏に生息・生育している。生物圏を支えているのは光合成を行う植物・植生であり、ひいては人間環境の基盤にもなっている。さらに自然環境と植生の相互作用を理解し、植生が地上の環境を総合的に指標していることを学ぶ。環境の一要因でもある人間と植生とのかかわりと、人間にとっての植生が持つ機能や生態系サービスを理解する。 【キーワード】 生物圏、生態系、植生、生態系サービス	藤原一繪 (横浜国立大 学 名誉教授)	藤原一繪 (横浜国立大 学 名誉教授)
5	地上の生物を支える 土壌動物	人類は宇宙空間にまで進出したが、足元数センチメートルの世界については、ほとんど理解していない。そこは植物・植生を育てる基盤であり、ほとんどは未知の微生物や土壌動物が住む空間である。そして、地上の生物は知らずして土壌中の生物との相互作用によって生きている。この未知の世界がどこまで理解できているかを学ぶことにする。 【キーワード】 土壌、生物多様性、環境指標生物、分解者、ダニ	藤原一繪	藤原一繪 ゲスト:青木淳一(横浜国立 大学 名誉教 授)
6	分析で何がわかるの か	物質環境科学の基礎は、環境因子を物質レベルで理解することから始まる。地球環境保全には、環境因子の挙動を精査し、生態系への影響評価が不可欠であるが、これを可能とするのが物質の定性と定量である。試料を分析して得られる分析値は、試料に隠されている情報を反映する客観的な物差しとなる。ここでは、どのような分析法を用いれば、どのような情報が得られるのかについて学ぶ。 【キーワード】 環境因子、生態系、分析、定性、定量、同定、分析化学	中村 洋 (東京理科大 学薬学部嘱 託教授)	中村 洋 (東京理科大 学薬学部嘱 託教授)
7	分析によって見える 地球環境	46億年という長い地球の歴史の中で生物が生まれ、環境に順応しながら様々な生物種が進化してきた。長い時間をかけて作られた地球環境の乱れが環境汚染であり、火山噴火、落雷による山林火災などの自然災害を除けば、その大部分は産業革命以降の人類の活動に起因する。大気、土壌、水を汚染する代表的な化学物質を取り上げ、それらの分析法と汚染の実態を学習する。 【キーワード】 環境汚染物質、有害金属、環境ホルモン、多環芳香族炭化水素	中村 洋	中村 洋
8	環境と遺伝子変化	生物が種を存続するためには、その遺伝子は安定に保たなければならない。しかし一方では、様々な環境の変化に対応して遺伝子を変化させることが種を維持するために必須である。このバランスをうまくとることの出来た生物が現在、この地球上に繁栄している。環境によって遺伝子がどう変化するか、そして進化はどのように起こるのかを学ぶ。 【キーワード】 環境の変化、遺伝子の安定性、遺伝子変化、進化	花岡文雄	花岡文雄
9	遺伝子損傷の修復	遺伝子DNAは、様々な外的な要因および内的な要因によって常に損傷というべき変化を受けている。遺伝子の損傷は、複製や転写を阻害し、その結果、細胞死や突然変異をもたらす。老化やがん化の原因となる。生物はそうしたことを避けるため、DNAの損傷を修復する様々な機構を進化の過程で獲得した。 【キーワード】 遺伝子損傷、DNA複製、転写、修復、老化、がん化	花岡文雄	花岡文雄

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	環境と化学物質	我々の身の回りには膨大な種類の化学物質が存在している。あるものは天然に存在するものを人類が見つけた、またあるものは人類が何らかの方法で作出したものである。そしてそれらは医薬品、農薬、食品添加物、工業用材料など、様々な形で人類に役立っている。それらはまた「毒」にもなりうる。 【キーワード】 医薬品、農薬、食品添加物、生物濃縮、ダイオキシン	花岡文雄	花岡文雄
11	紫外線と健康	昔から一定程度の太陽紫外線を浴びることは健康上よいことだと考えられてきた。それは骨の形成に重要なビタミンD3を皮膚で作るために紫外線が有用だからである。しかし紫外線は皮膚細胞DNAに損傷を起し、皮膚がんを誘発する。したがってそのバランスに留意しなければならない。 【キーワード】 太陽紫外線、骨形成、ビタミンD3、皮膚がん	花岡文雄	花岡文雄
12	放射線の生物影響	人類は、自然放射線、人工放射線いずれの恩恵にも浴びてきた。しかし、原発事故などが起こると健康影響が最大の懸念となり、大きな社会問題となる。放射線によって生体分子に化学変化(損傷)が生じると、細胞の死や突然変異誘発を誘発し、最終的には、組織・臓器の障害やがん化などを起こす可能性がある。これらの過程を抑制する仕組みについても学び、生物影響の理解を深める。 【キーワード】 自然放射線、人工放射線、被ばく事故、組織・臓器の障害やがん化	谷田貝文夫 (早稲田大学 理工学術院 非常勤講師)	谷田貝文夫 (早稲田大学 理工学術院 非常勤講師)
13	活性酸素と健康影響	地球上の生物は、ほとんどすべてが酸素を利用してエネルギーを得ており、その副産物として活性酸素が生じる。活性酸素は極めて反応性の高い分子で、DNAに対して酸化的損傷を与える。その結果、突然変異を起し、老化や発がんをもたらす。生物はこのような生体影響を軽減するためのいくつかの仕組みを獲得し、進化してきた。酸化的損傷の生成やその影響を軽減する仕組みについて学ぶ。 【キーワード】 活性酸素、DNAの酸化的損傷、突然変異、修復、進化	谷田貝文夫	谷田貝文夫
14	宇宙環境の健康影響	地球環境の問題やエネルギー問題を解決するための一つの方策として、太陽発電衛星の建設が検討されている。このように、人類が宇宙に進出する機会が増え、宇宙に滞在する期間も長くなることが予想される。宇宙で安全に生活するには、微小重力環境による骨密度の減少、筋力の低下、さらには、宇宙放射線による被ばくなど対処すべき問題が多い。これらの問題について考察する。 【キーワード】 微小重力環境、宇宙放射線、骨密度の減少、筋力の低下	谷田貝文夫	谷田貝文夫
15	持続可能な自然環境の構築に向けて	今や狭くなった地球上で、これからも持続的に人類と他の生物が共存していくためには何が未解決の問題かを考えたい。多くの場合、物質的な対応をするための基礎知識と技術は既に存在している場合が多い。むしろ問題は、人類の政治・経済・社会との関連であると思われる。そのためにも、いわゆる理系・文系の相互理解・交流が必要であり、異分野を理解できる教養がますます重要になっていることを指摘したい。 【キーワード】 持続可能性、グリーンケミストリー、環境基準、リスク	濱田嘉昭	濱田嘉昭 花岡文雄

事務局 記載欄	開講 年度	2014年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8960607	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 宇宙・自然システムと人類 ('14) = (TV)  
 英文名 = [ Humankind in the Universe-Nature System ('14) ]  
 [主任講師 (現職名) : 海部 宣男 (国立天文台名誉教授、放送大学客員教授) ]  
 [主任講師 (現職名) : 杉山 直 (名古屋大学大学院教授) ]  
 [主任講師 (現職名) : 佐々木 晶 (大阪大学大学院教授) ]  
 【本学担当専任教員 : 吉岡 一男 (放送大学教授) 】

※この科目は「物質環境科学Ⅱ('08)」の一部改訂科目です。  
 改訂回は1, 2, 3, 5, 6, 9, 13回です。

#### 講義概要

地球、生命、および人類とその文明は、膨張する宇宙で進んできた自然の営みから生まれたものである。これら宇宙・自然システムの創生をもたらしたその存続を支えている、物質やエネルギーの源泉はなにか。また、その転化・変遷・循環のしくみは、どのようなものなのか。本講義では、地球生命と人類文明を支える環境の基盤とその現代的課題とを、科学および自然史的視点からグローバルに考察する。人類文明はいま、存続の可能性すら問われるに至っている。当面する問題やその背後にあるエネルギー・物質の本質を複合的な科学的視点でとらえ、宇宙の中の人類とその文明大きな時間・空間にわたる宇宙・自然システムの中に位置づける試みである。

#### 授業の目標

私たちが生き、活動しているこの世界(自然)環境について、その本質と歴史、変化のしくみを物理学、天文学、地球惑星科学、環境生物学にもとづいて全体的・重層的に理解することが、本講義の第一の目標である。そうした宇宙・自然システムの科学的理解を基盤として、人類が活動する基盤である地球や、人類自身の活動がいまや脅かしつつある地球環境、そして人類と文明の未来について、有効かつ長期的な視点をもって深く考えることのできる視座を獲得することが、本講義の第二の、そして最終の目標である。

#### 履修上の留意点

本講義は2008年度開講の『物質環境科学Ⅱ』の部分改訂版である。過去の事情を反映して不明確だったタイトルを改め、内容を明確にした。放送授業も伴う大幅な改訂を行ったのは、1章、2章、3章、5章、6章、9章、13章であるが、その他の章も印刷教材では章タイトルも含めて新しい状況に即した内容に改めた。宇宙・地球という時間・空間の大きなシステムについて人間とのかかわりを中心に総合的な理解を深めようとする授業だから、地球、太陽系、宇宙に関する基本的な知識は学部等である程度身につけてから学ぶことが望ましい。放送大学の教養学部講義では、基礎科目『自然科学はじめの一步』、一般科目『宇宙を読み解く』、『惑星地球の進化』、専門科目『太陽系の科学』、『宇宙とその進化』などが基礎となる。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	人類環境と宇宙 【改訂回】	本講義の総論である。20世紀中盤における環境概念の形成からはじめてその現代的な意味、そして地球と人類を生み出した宇宙環境などを概観し、さらに環境についての物理学的な考察も行って、講義全体の準備と展望を与える。  【キーワード】	海部 宣男 (国立天文台 名誉教授、放 送大学客員教 授)	海部 宣男 (国立天文台 名誉教授、放 送大学客員教 授)
2	宇宙の環境とそこに存在するエネルギー 【改訂回】	宇宙に存在するエネルギーの形態について解説する。ビッグバンのエネルギー、宇宙の巨大な構造が持っている重力のエネルギー、電磁波によって観測されるガスの熱エネルギー、さらには、星の生み出す核エネルギーまで、宇宙の多様な構造をエネルギーの面からシステムとして考察する。  【キーワード】	杉山 直 (名古屋大学 大学院教授)	杉山 直 (名古屋大学 大学院教授)
3	宇宙における物質生成 【改訂回】	ビッグバンにおける力の分離、そして反物質消滅について対称性の観点を中心に解説する。さらには宇宙での元素合成について解説し、我々を取り巻く物質世界がどのように構築されてきたのかについての物理学的理解を与える。  【キーワード】	杉山 直 (名古屋大学 大学院教授)	杉山 直 (名古屋大学 大学院教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	恒星進化と物質・エネルギーの流れ	恒星進化論を概説し、恒星で起きる元素合成、化学反応とそれらの放出過程を踏まえながら、恒星活動による物質とエネルギーの転換、その銀河システムへの影響をまとめる。  【キーワード】	有本 信雄 (国立天文台教授)	有本 信雄 (国立天文台教授)
5	超新星による銀河環境への影響 【改訂回】	超新星爆発について現在の理解の到達点をまとめ、超新星爆発が銀河の物質・エネルギー環境にどのような影響を及ぼしてきたかを考察する。特に、わが太陽系の形成において及ぼしたと考えられる影響(物質組成、トリガなど)にも触れる。  【キーワード】	有本 信雄 (国立天文台教授)	有本 信雄 (国立天文台教授)
6	星間物質からの太陽系・地球環境の形成 【改訂回】	恒星が生成した元素からの星間分子雲＝暗黒星雲の誕生、星間分子雲からの太陽系と地球の形成の過程を概説する。いまや無数の恒星の大多数が惑星を持つことが明らかとなり、太陽系と地球の位置付けも大きく変わりつつある。これを踏まえ、生命環境を持つ太陽系外惑星の可能性について延べる。  【キーワード】	海部 宣男 (国立天文台名誉教授、放送大学客員教授)	海部 宣男 (国立天文台名誉教授、放送大学客員教授)
7	太陽	太陽の表面活動、内部構造、さらには11年周期の起源などについて最新の観測からの知見を交えて解説し、地球へのエネルギー供給システムとしての太陽の理解を与え、その地球環境への影響についてまとめる。  【キーワード】	櫻井 隆 (国立天文台教授)	櫻井 隆 (国立天文台教授)
8	初期の地球のエネルギー	惑星のひとつとして形成された地球について、原始状態からのエネルギー史を概説する。また、太陽系のほかの惑星との簡略な比較、さらに考え得る「太陽系外地球型惑星」における仮想的エネルギー史と地球との比較を提示する。  【キーワード】	佐々木晶 (大阪大学大学院教授)	佐々木晶 (大阪大学大学院教授)
9	地球・惑星の物質循環 【改訂回】	惑星のひとつとして形成された地球において始まったグローバルな物質循環とその変遷について概説する。それは過去どのように変わってきたか、現在どのような状況にあるか。とくに、水や二酸化炭素の循環について、火星や金星と比較して概説する。生命活動が及ぼした影響(二酸化炭素の固定など)にも、詳細は第12章に譲るが触れておく。火星は過去には温暖で水が表面に存在したと考えられる。現在の火星は寒冷であるが、地下水の流出と考えられる現象が発見されている。  【キーワード】	佐々木晶 (大阪大学大学院教授)	佐々木晶 (大阪大学大学院教授)
10	地球型惑星の環境のエネルギーバランス	金星、地球、火星の気候がどのようなエネルギーバランスで作られているのかを概説する。とくに温室効果、大気循環、気象現象の役割について比較惑星学視点で論じる。地球の気候の特殊性がどこにあるのかを理解する。  【キーワード】	今村 剛 (宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所准教授)	今村 剛 (宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所准教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	生物関連元素の循環 -微生物との共進化-	過去35億年にわたる生命活動が地球環境をどう変えてきたか、可能な限り定量的かつ歴史的に考察・解説する。微生物による海洋の酸化還元状態の変化、光合成生物による酸素濃度増加、植物被覆による浸食の減少など、具体的な問題も挙げる。生命活動によるインパクトに対して地球の環境システムのバランスがどう変化し、またどう保たれてきたかについても触れる。 <b>【キーワード】</b>	小池 勲夫 (東京大学名誉教授)	小池 勲夫 (東京大学名誉教授)
12	天体の運動と気候変動	惑星運動との相互作用により、地球の軌道や自転軸の傾きが変化することで地球の受ける太陽放射がわずかに変化する。それにより大きな気候変動が生まれるメカニズムについて最近の知識を踏まえて概説する。長期的には、地球の物質循環が、二酸化炭素量の変動や、大陸の配置の変化を通じて、気候に大きな影響をもたらす。過去の気候変動の証拠は、地球の南極氷床のコアサンプルや、火星の極冠に記録されている。火星では、過去に自転軸が大きく傾いたため気候が変動した。 <b>【キーワード】</b>	佐々木 晶 (大阪大学大学院教授)	佐々木 晶 (大阪大学大学院教授)
13	地球の環境への生命活動・人間活動のインパクト <b>【改訂回】</b>	人類の活動が地球環境に及ぼした影響を、可能な限り定量的・歴史的に考察する。人類活動は加速度的であり、地球の環境システムがバランスをとることは困難とされている事情、過去の生命活動によるインパクトとの違いについても触れる。 <b>【キーワード】</b>	小池 勲夫 (東京大学名誉教授)	小池 勲夫 (東京大学名誉教授)
14	文明と環境	文明活動に関わる物質とエネルギーの転換が環境システムに及ぼしている影響を受け、人類文明の影響下での環境システムの維持改善の試みや提案を概観するとともに、環境と開発の両立が可能かどうかという視点から、環境システムを再度考察する。 <b>【キーワード】</b>	池内 了 (名古屋大学名誉教授)	池内 了 (名古屋大学名誉教授)
15	宇宙史の中の地球・生命・人類・文明	本講義のまとめをかねて、138億年の宇宙史の中で準備され進んできた地球・生命・人類・文明の形成史を概観し、一方で進みつつある宇宙の生命の探査、さらに宇宙文明の科学的探索の試みと対比しつつ、宇宙の中での私たち人類文明の位置づけを探る。 <b>【キーワード】</b>	海部 宣男 (国立天文台名誉教授、放送大学客員教授)	海部 宣男 (国立天文台名誉教授、放送大学客員教授) 池内 了 (名古屋大学名誉教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2011年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8960569	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 現代地球科学 ('11) = (TV)

〔主任講師 (現職名) : 川上 紳一 (岐阜大学教授) 〕  
 〔主任講師 (現職名) : 藤井 直之 (名古屋大学名誉教授) 〕  
 【本学担当専任教員 : 吉岡 一男 (放送大学教授) 】

### 講義概要

惑星探査、地球史解説、高温高圧試験、リモートセンシング技術などの進歩によって、新しい地球観が生み出されている。本科目では、地球科学における最近のトピックスを取り上げ、新しい地球観の探究を進めている研究現場をレポートしつつ、最新の研究成果を解説する。高温高圧実験技術の進歩による地球内部構造の解明、天体衝突と地球環境や生物進化、気候変動のしくみ、宇宙からの地球観測による地球変動などに関する研究をもとに、地球の探究のダイナミズムや最新の地球観をわかりやすく講義する。

### 授業の目標

地球温暖化問題や地球環境問題の理解には、地球変動のしくみについて、深く理解することが大切である。本科目では、さまざまな研究手法による地球の変動とその歴史に関する研究者の発想や研究法を学び、地球環境の成り立ち、変遷に関する見方や考え方を育成することを目標としている。

### 履修上の留意点

本科目とともに学部の科目である「はじめての気象学('15)」や「惑星地球の進化('13)」や「地球のダイナミクス('10)」を履修すると地球科学分野の理解が深まる。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	新しい地球観:変動する地球システム	これまでの地球科学の発展を振り返ると、新しい観測技術の開発、新研究領域の開拓、観測データの総合化などがベースになっていることがわかる。変動する地球システムの本質的理解を目指す最近の研究トピックスを取り上げ、新しい地球観の構築へ向けた研究を概説し、本科目の内容と目標を明らかにする。  【キーワード】 地球観、観測技術、地球内部構造、テクトニクス、気候変動、生物進化	川上紳一(岐阜大学・教授)	川上紳一(岐阜大学・教授)・藤井直之(名古屋大学・名誉教授)・安成哲三(大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所・所長)・大野照文(京都大学・教授)・入船徹男(愛媛大学・教授)
2	地球内部を探る	地球のマントルや核の大部分は、人類にとってもいまだに未踏の地である。地球内部の構造や構成物質を探るために、地表の岩石や隕石の研究、地震波の伝わり方や、密度の推定といった地球物理学的研究などが行われている。こうした手法を概説するとともに、近年重要な役割を果たしている超高压実験について、原理や応用、最近の発展について紹介する。  【キーワード】 隕石、超高压実験、地震波速度、密度、第一原理計算	入船徹男(愛媛大学・教授)	入船徹男(愛媛大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
3	地球内部の物質と構造	地球内部には、地震波速度や密度が急激に変化する地震学的不連続面が存在する。それらは、化学組成の違いによる第1級の不連続面と、鉱物の結晶構造が変化することによる第2級の不連続面に分けられる。最近の超高压実験の結果に基づいて、地球内部物質の相転移を明らかにするとともに、そのマントルダイナミクスへの影響などについて解説する。また、「地球深部からの手紙」とも称される、ダイヤモンドに関する最近の研究についても紹介する。  【キーワード】 マントル、核-マントル境界、核、相転移、プレート沈み込み、ダイヤモンド	入船徹男(愛媛大学・教授)	入船徹男(愛媛大学・教授)
4	月と地球の進化	月と地球の内部構造の違いや月の誕生の謎、初期地球の進化に関する最新の研究成果を講義する。月の起源についてはジャイアントインパクト説を詳しく解説する。地球や月の熱史の問題や地球マントルの対流についても述べる。現在の地球では、プレートテクトニクスが支配的であるが、地球の歴史を通じて、マントル対流のパターンの変化、地球表層のグローバルテクトニクスとの関連にも着目する。  【キーワード】 月、地球、起源、熱史、マントル対流、プレートテクトニクス	藤井直之(名古屋大学・名誉教授)	藤井直之(名古屋大学・名誉教授)
5	天体衝突と地球の歴史	最近の研究によって、小惑星帯での大規模天体衝突が地球や月面での天体衝突現象と関係していることが明らかになってきた。天体衝突と地球の歴史、地球の衝突構造の研究の発展を講義する。小惑星の族と軌道進化に関する最新の研究を紹介する。  【キーワード】 クレーター、小惑星、恐竜絶滅、軌道進化	川上紳一(岐阜大学・教授)	川上紳一(岐阜大学・教授)
6	氷河時代とスノーボール・アース仮説	気候変動と地球の歴史に関する講義を行う。氷河時代の発見やスノーボール・アース仮説の成立の鍵となった地質学的証拠について詳しく解説する。計算機シミュレーションによる研究についても紹介する。スノーボール・アース仮説を巡る論争の展開や蒸発岩による画期的な検証など、最近のトピックスを紹介する。  【キーワード】 気候変動、スノーボール・アース、氷河堆積物、古地磁気学	川上紳一(岐阜大学・教授)	川上紳一(岐阜大学・教授)
7	多細胞動物への進化の道のり	原生代末の最古の多細胞動物について、論争のあるエディアカラ化石生物群も含めて紹介する。さらに、多細胞動物進化の前史について、現在明らかにされつつある真核生物の系統との関連で述べる。また、真核生物の出現やそれに重要な役割を果たした酸素濃度の変遷についても、最新の地質学的、地球化学的証拠を含めて概説する。  【キーワード】 生命の起源、シアノバクテリアと酸素、真核生物、ドウシャンツオの動物化石、エディアカラ化石生物群	大野照文(京都大学・教授)	大野照文(京都大学・教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
8	多細胞動物の爆発的 多様化事件	多細胞動物の起源と進化については、分子生物学的研究が進んでいる。多様な姿や生態を示す現生の多細胞動物について、形態や遺伝子解析の研究成果をもとに、分類と系統関係について、最新の知見を講義する。これらをふまえて古生代カンブリア紀に起こった多細胞動物の多様な分類群の出現を示す化石を紹介するとともに、それらの爆発的出現の原因を探る。  【キーワード】 多細胞動物の分類と系統、チェンジャン・バージェス化石生物群、ホックス遺伝子、進化の大停滞、シュラム偏位	大野照文(京都大学・教授)	大野照文(京都大学・教授)
9	地球史と気候変動	地球における気候変動の復元の方法を述べ、気候の変遷について概観する。過去6億年については、超大陸の形成や分裂と気候が相関している。第三紀になると徐々に気候は寒冷化へ向かうが、5500万年前に一時的に突発的に温暖化した。その原因を考察する。過去500万年間には、氷期-間氷期サイクルが顕著になるが、そのペースメーカーとなっているのが、ミランコビッチサイクルである。ミランコビッチサイクルのメカニズムを述べ、その周期性が地層の縞模様として記録していることを述べる。10万年周期の謎など、まだ解明されていない事象が残されている。  【キーワード】 氷期-間氷期サイクル、ミランコビッチサイクル、地球史、超大陸、気候変動	川上紳一(岐阜大学・教授)	川上紳一(岐阜大学・教授)
10	地球の気候とその変動のしくみ	地球の気候状態はさまざまな要素が複雑に関わって変動しており、気候を支配する要素全体を気候システムと呼んでいる。気候システムを構成するサブシステムについて解説し、サブシステム間の相互作用における、主なフィードバックメカニズムについて説明する。地球の歴史とともに気候システムが変化してきたことを、具体的な事例をもとに概説する。  【キーワード】 気候システム、気候変動、フィードバック	安成哲三(大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所・所長)	安成哲三(大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所・所長)
11	地球気候におけるアジアモンスーン	日本列島周辺の気候は、アジアモンスーンの影響を強く受けているが、その影響はアジアに限らず世界の気候にまで及んでいる。アジアモンスーンについて概説し、新生代におけるその変動がヒマラヤ山脈の隆起と深く関わっていることを、研究現場からレポートする。  【キーワード】 アジアモンスーン、ヒマラヤ山脈、大気大循環	安成哲三(大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所・所長)	安成哲三(大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所・所長)
12	近年の「地球温暖化」と異常気象	20世紀後半以降、地球の気候は急速に温暖化しつつあり、人間活動によるCO2などの温室効果ガスの増加に起因する「地球温暖化」の可能性が大きな社会問題ともなっている。これに関連して、豪雨や干ばつなどの異常気象の頻度も世界中で増加している。この問題について、最近のIPCC(気候変動に関する政府間パネル)の報告なども含め、今後の予測やその問題点について講義する。  【キーワード】 地球温暖化、温室効果ガス増加、異常気象	安成哲三(大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所・所長)	安成哲三(大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所・所長)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
13	地震と火山のしくみ	<p>日本では防災・減災の立場から地震や火山などに対する問題が大きな課題となっている。地震や火山の活動は、プレート境界に特徴的な固体地球の変動である。近年の観測システムの進歩によって、最近発見された地震発生や火山活動に伴う現象について述べる。自然災害に関わる地震の発生や火山噴火の事例を紹介するとともに、最近の地球観測技術の進歩によって明らかにされてきた沈み込み帯のスロースリップや火山噴火に伴う局所的な地殻変動のモニタリング研究について概説する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 地震発生、リアルタイム地震学、カルデラ形成、長周期パルス、スロースリップ、非火山性深部微動</p>	藤井直之(名古屋大学・名誉教授)	藤井直之(名古屋大学・名誉教授)
14	宇宙からの地球観測	<p>地球科学の進展に大きな貢献をしている最近の宇宙からの地球観測について講義する。とくに、宇宙からの地球観測の技術的進歩は目覚しく、気候変動や地震・火山活動などについて、全地球規模でリアルタイムのデータを取得して、地球環境のモニタリングに貢献する課題から、いくつかの話題を取り上げる。地球環境のモニタリングの進展を概説するとともに、全地球測位システム(GPS)、面的に地殻変動を捉える合成開口レーダー干渉法(InSAR)、重力観測衛星(GRACE)などについて、やや詳しく解説する。</p> <p><b>【キーワード】</b> リモートセンシング、地球観測衛星、GPS観測網、合成開口レーダー干渉法、地球変動の検出、重力探査衛星</p>	藤井直之(名古屋大学・名誉教授)	藤井直之(名古屋大学・名誉教授)
15	地球観測技術と新しい地球観	<p>観測技術の革新的な進歩とそれに刺激された新しい地球観によって、地球科学は常に大きな飛躍を遂げてきた。そして、私たち人類の今後の展望において、変動する地球や多様な生物との共存を目指して、地球環境の変遷と生物進化の理解が不可欠であることを確認する。これまでの講義内容を振り返り、今後の地球科学の研究の方向性や課題について考える。</p> <p><b>【キーワード】</b> 地球観、観測技術、地球内部構造、テクトニクス、気候変動、生物進化</p>	藤井直之(名古屋大学・名誉教授)	藤井直之(名古屋大学・名誉教授)・川上紳一(岐阜大学教授)・安成哲三(大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所・所長)・大野照文(京都大学・教授)・入舩徹男(愛媛大学・教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2015年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8960623	履修 制限	有	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 数理科学 ('15) = (R)  
- 離散モデル -

英文名 = [ Mathematical Sciences ('15) : Discrete Models ]

[ 主任講師 (現職名) : 石崎 克也 (放送大学教授) ]

【 本学担当専任教員 : 】

### 講義概要

数理科学現象を理解するために、構造や生成過程を数学的手法を拠り所としてモデル化することは近年盛んに行われてきた。本講義では、離散方程式に注目し、数理モデルの中で数学的発想がどのように生かされているかを考察する。数学的理論の理解のために、応用例を多く取り入れたり、定理の可視化に数式処理ソフトMathematicaなどを利用したグラフィックスを組み込みながら、それぞれの数理モデルや数学的理論を解説する。離散方程式の高度な知識を仮定せずとも取り組めるように、微分方程式との比較をしながら議論を進める。

### 授業の目標

数理モデルの中で数学がどのような役割を演じているかを理解し、さらに一般的なモデルを構築する場合にどのような数学が必要か考える習慣を身につけることを目指す。講義の中では、離散方程式の数学の理論構築を体験する場面もあるが、具体例や、微分方程式と比較しながら地に足を付けた学習を身につけることを目標とする。考え方を整理する際の図式化などの工夫や、定理や命題を可視化するよう心がける。

### 履修上の留意点

本講義では、かなり基本的な数学的内容にも言及する。数学に不慣れな受講者も自ら手を動かして、理論と理論の間の計算を補うよう心がけていただきたい。同時に、考え方を図式化してみることも推奨する。また、フラクタル図形など基本的な操作の反復合成で記述されるものは、ノートの上やPC上で可視化していただきたい。この講義をきっかけに興味の対象となった数学的内容は学部の講義科目の中にもあるはずである。受講者が希求力を高めて、改めて学部の内容を復習することも期待している。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	離散方程式・実数の性質	基本的な数理モデルの紹介をして、本講義の流れや問題意識を解説する。反復合成によって描かれるフラクタル図形やMathematicaによるグラフィックスなどを紹介する。本節の後半では、実数変数関数を取り扱うために必要な実数の基本性質を学ぶ。 <b>【キーワード】</b> 離散方程式、漸化式、植物の繁殖モデル、フラクタル図形、Mathematicaの利用、実数の連続性、数列	石崎 克也 (放送大学教授)	石崎 克也 (放送大学教授)
2	差分法	離散方程式の学習のための第一歩として、差分法の演算について学ぶ。微分法との比較を心がけ、類似点や相違点を整理する。差分法における、差分演算子表現とシフト表現を体験する。線形関数方程式論で重要な関数の一次独立性について学ぶ。 <b>【キーワード】</b> 微分法、導関数、差分法、シフト、高階差分、微分方程式、差分方程式、関数の一次独立性、関数行列式、線形方程式	石崎 克也 (放送大学教授)	石崎 克也 (放送大学教授)
3	級数・ポアンカレの方程式	1章で学んだ数列の無限和(級数)を考える。離散的な独立変数をもつ関数方程式として知られる数列の漸化式は、微分方程式やq-差分方程式における形式級数解の係数問題で登場し、ポアンカレの方程式に含まれる。ポアンカレの方程式の解法や解の性質について学ぶ。 <b>【キーワード】</b> 数列、級数、正項級数、絶対収束、収束判定法、調和級数、広義積分、ベキ級数、形式級数解、ポアンカレの方程式、線形微分方程式	石崎 克也 (放送大学教授)	石崎 克也 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	和分法	<p>差分法の逆演算として和分法を学ぶ。微分積分学に現れる性質との類似点と相違点の把握につとめる。特に、和分法で重要な役割を果たすガンマ関数、プサイ関数の性質を理解する。また、1階線形微分方程式と比較しながら1階線形差分方程式の解法を説明する。</p> <p>【キーワード】 和分公式、多項式の和分、ガンマ関数、プサイ関数、有理関数の和分、1階線形差分方程式、定数変化法</p>	石崎 克也 (放送大学教授)	石崎 克也 (放送大学教授)
5	離散変数の数理モデル	<p>離散変数関数(数列)を解に持つ差分方程式で記述される数理モデルを取り扱う。平衡値や安定性などを学習し、解の大域的性質を特徴づける方法を学ぶ。たとえば、種の単一モデルなどはその典型的なものである。モデルでは種を取り巻く環境変数などを調節することで、安定した状況を作り出せることを学ぶ。また、人口の増加・減少を記述するモデルや、景気循環のモデルも紹介する。</p> <p>【キーワード】 平衡値、安定性、人口モデル、繁殖モデル、景気循環モデル</p>	石崎 克也 (放送大学教授)	石崎 克也 (放送大学教授)
6	連続変数の差分方程式	<p>微分方程式と差分方程式の関係を考察する。それぞれの方程式性質を損なわないように他方の方程式を導き出すことを問題意識におく。ゲージ変換を用いて、リッカチ方程式から差分リッカチ方程式を導き出す方法を紹介する。また、連続極限法を用いて差分パルヴェ方程式からパルヴェ方程式を導く操作を学習する。</p> <p>【キーワード】 微分方程式の差分化、ゲージ変換、リッカチ方程式、パルヴェ方程式、ランダウの記号、連続極限</p>	石崎 克也 (放送大学教授)	石崎 克也 (放送大学教授)
7	複素関数論からの準備	<p>離散方程式の解の性質、関数の反復合成による軌道の振る舞いを調べるために、複素関数論からの準備を行う。複素数平面上で関数の微分積分、ベキ級数やローラン展開による関数の表現や、孤立特異点の分類や解析接続を学習する。</p> <p>【キーワード】 複素数、複素数平面、極座標、正則関数、複素積分、積分定理、関数の展開、孤立特異点、ローラン展開、解析接続</p>	石崎 克也 (放送大学教授)	石崎 克也 (放送大学教授)
8	関数の近似と増大度	<p>超越関数の表現にベキ級数展開があり、ある点の近くで、多項式で超越関数が近似できる。微分方程式では、ベキ級数を利用することは、解の構成の有力な手段のひとつである。差分方程式の取り扱いに有効な展開として、2項級数を学ぶ。古典的なヴィーマン-バリロン理論を再構築し差分方程式に適用できるように試みる。複素平面での関数のとりうる値を記述したネバンリンナ理論を学習し、差分作用素に対応した形への理論構築も学習する。</p> <p>【キーワード】 ヴィーマン-バリロン理論、中心指数、2項級数、整関数の表現、ネバンリンナ理論</p>	石崎 克也 (放送大学教授)	石崎 克也 (放送大学教授)
9	線形方程式とニュートンの折れ線	<p>微分、差分、<math>q</math>-差分の3種類の多項式係数複素線形方程式を概説する。これらの方程式は、係数の多項式から定まるニュートンの折れ線の傾きによって解の性質が運命づけられている。図形的な性質と整関数解の増大度について、3種類を比較しながら分析する。</p> <p>【キーワード】 線形方程式、整関数の増大度、整関数の位数、凸包、ニュートンの折れ線、線形微分方程式、線形差分方程式、線形<math>q</math>差分方程式</p>	石崎 克也 (放送大学教授)	石崎 克也 (放送大学教授)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	超・超越性	<p>有理関数, 指数関数, 三角関数などの初等関数は代数的微分方程式を満たす。一方, ガンマ関数は1階の差分方程式を満たすが, いかなる代数的微分方程式も満たさない。このような性質を超・超越性といって, 新しい超越関数を見いだす時のひとつの指標になる。ここでは, ガンマ関数を通して, 超・超越性を解説する。</p> <p>【キーワード】 代数的方程式, 許容解, ガンマ関数, 超・超越性, ヘルダーの定理, ペー関数, リットの定理, ルーベルの問題</p>	石崎 克也 (放送大学教授)	石崎 克也 (放送大学教授)
11	非線形差分方程式	<p>リッカチ方程式は, 非線形微分方程式の中で最も基本的なものの一つである。特に, 線形2階同次微分方程式との関わりは重要である。この章では, 微分方程式論と比較しながら, 差分リッカチ方程式と線形2階同次差分方程式の関係を学ぶ。また, 代数的常微分方程式の中で解の存在と次数の関係をあたえるマルムクイストの定理に対応する非線形差分方程式論の中での議論を学習する。</p> <p>【キーワード】 リッカチ方程式, 線形2階同次微分方程式, 差分リッカチ方程式, 線形2階同次差分方程式, マルムクイスト-ヨシダの定理, 非線形高階差分方程式, 差分パンルヴェ方程式</p>	石崎 克也 (放送大学教授)	石崎 克也 (放送大学教授)
12	フラクタル図形	<p>部分が全体であり, 全体が部分からなっている自己相似図形(フラクタル図形)について解説する。このような図形は, 自然界にも多く存在する。また, 複素平面上のグラフィックスを利用して, 複素関数の反復合成で描くことのできるフラクタル図形も紹介する。</p> <p>【キーワード】 フラクタル図形, カントールの3進集合, コッホの雪片, フラクタル次元, 複素力学系, マンデルブロー集合</p>	石崎 克也 (放送大学教授)	石崎 克也 (放送大学教授)
13	複素関数の反復合成	<p>複素関数で描かれるフラクタル図形は, 幾何学的美しさのみならず, 数学としての研究対象としてもきわめて重要である。ここでは, 有理関数と超越整関数のジュリア集合やファトウ集合をとりあげ, そこにある興味深い問題を紹介する。</p> <p>【キーワード】 複素力学系, リーマン球面, 正規族, 漸近値, ファトウ集合, ジュリア集合, 発散点集合</p>	石崎 克也 (放送大学教授)	石崎 克也 (放送大学教授)
14	合成関数方程式	<p>複素力学系を議論する上で, 重要な役割を演じる周期点を分類する。複素関数の反復合成で記述される軌道の振る舞いを, 関数方程式を利用して解き明かしていく。後半では, ファトウ集合の特徴づけを行い, 関数列の極限関数と, これに対応するジュリア集合の関係を見ていく。</p> <p>【キーワード】 周期点, シュレーダーの方程式, 周期点の分類, 不変正分, 集合列の収束, 遊走領域</p>	石崎 克也 (放送大学教授)	石崎 克也 (放送大学教授)
15	複素関数の振る舞いの可視化	<p>実関数はグラフを用いてその振る舞いを可視化することが可能である。しかしながら, 複素関数においては必ずしも容易ではない。2つの複素関数がある関数方程式で結ばれている場合の両者の複素力学系的性質を考察する。また, 関数に含まれる媒介の変化によるジュリア集合などの変化をグラフィックスを通して観察する。</p> <p>【キーワード】 准共役, 合成関数方程式, 複素関数の准共役, 准共役な関数のジュリア集合, 分岐図</p>	石崎 克也 (放送大学教授)	石崎 克也 (放送大学教授)

事務局 記載欄	開講 年度	2010年度	科目 区分	大学院科目	科目 コード	8960534	履修 制限	無	単位 数	2
------------	----------	--------	----------	-------	-----------	---------	----------	---	---------	---

科目名 (メディア) = 計算論 ('10) = (R)

[主任講師 (現職名) : 隈部 正博 (放送大学教授) ]

### 講義概要

まず、言語、文法とは何かを定義する。次にチョムスキーの定義した様々な形の文法を学び、それによってどんな言語が生成されるかをみる。次に計算という概念について初歩から解説する。言語を構成(計算)するための機械であるオートマトンの定義から始め、様々な種類のオートマトンの形を学ぶ。その後チューリング機械の定義をする。そして多くの計算が、チューリング機械の形で書くことができることを理解する。最後にアルゴリズムとは何かを考える。

### 授業の目標

計算という概念を、様々な種類に分けて解説し、最終的には計算機の数学的モデルといわれる、チューリング機械がどのような構造を持っているかを理解する。また文法によって生成される(形式)言語がどのようなものか理解し、様々な文法と言語との関わりを理解する。このとき、文法によって生成される言語と、オートマトンによって計算される言語、これらの関連性を理解するのが目標である。

### 履修上の留意点

予備知識は仮定しない。計算や言語という概念について、論理的立場から解説するが、数学のみならず、コンピューターや言語に興味のある学生向けの授業でもある。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	準備	これから授業を進めるにあたって必要な予備知識に付いて解説する。  【キーワード】 数学的帰納法、集合、関数	隈部正博	隈部正博
2	言語	言語、文法とは何か、定義する。そして様々な例を通してこれらの概念を理解する。  【キーワード】 言語、文法	隈部正博	隈部正博
3	チョムスキーの階層	チョムスキーの階層といわれる、様々な文法や言語の種類について、例を挙げながら学ぶ。  【キーワード】 チョムスキーの階層、文脈依存文法、文脈自由文法、正規文法	隈部正博	隈部正博

回	テ ー マ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	オートマトン	<p>言語を計算する一つの形である、オートマトンとは何か、その定義を述べ、簡単な例を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 オートマトン、遷移関数</p>	隈部正博	隈部正博
5	オートマトンによって 受理される言語	<p>様々なオートマトンの例を通して、どのような言語が作られるかをみる。</p> <p>【キーワード】 受理される言語</p>	隈部正博	隈部正博
6	非決定性オートマトン	<p>機械が次のステップで行う動作が一つに限らない、非決定性オートマトンを定義し、いくつかの例を考える。</p> <p>【キーワード】 決定性オートマトン、非決定性オートマトン</p>	隈部正博	隈部正博
7	決定性オートマトンと 非決定性オートマトン	<p>非決定性オートマトンによって受理される言語は、決定性オートマトンによっても受理されることを示す。</p> <p>【キーワード】 等価、状態の道</p>	隈部正博	隈部正博
8	正規文法とオートマトン	<p>正規文法で生成される言語と、オートマトンによって受理される言語が等しいことを示す。これを例を挙げながら解説する。</p> <p>【キーワード】 正規文法</p>	隈部正博	隈部正博
9	2方向オートマトン	<p>今まで定義したオートマトンを改良し、機械のヘッドが左右に動く、2方向オートマトンについて、その定義を述べ、いくつかの例を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 2方向オートマトン</p>	隈部正博	隈部正博
10	1方向オートマトンと2 方向オートマトン	<p>2方向オートマトンによって受理される言語が、1方向オートマトンによって受理される言語が等しいことを、例を使って解説しながら示す。</p> <p>【キーワード】 1方向オートマトン、2方向オートマトン、等価</p>	隈部正博	隈部正博

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
11	$\epsilon$ -動作を含むオートマトン	非決定性オートマトンの定義をさらに改良して、ヘッドが動かず機械の状態のみを変化させるような動作を追加した、非決定性オートマトンの定義をする。この $\epsilon$ -動作を含む非決定性オートマトンと、含まない非決定性オートマトンが等価であることをみる。  【キーワード】 $\epsilon$ -動作	隈部正博	隈部正博
12	正規表現	言語を式で表すことを考え、正規表現とは何か解説する。そして正規表現で定義される言語がオートマトンによって受理される言語に等しいことを見る。  【キーワード】 正規表現	隈部正博	隈部正博
13	チューリング機械	コンピューターの数学的モデルである、チューリング機械とは何かについて考える。幾つかの例を通して理解を深める。  【キーワード】 チューリング機械、時点表示	隈部正博	隈部正博
14	様々なチューリング機械	さまざまなチューリング機械の例を考える。また複数のテープを備えた多テープチューリング機械を定義する。そして、多テープチューリング機械とチューリング機械が等価であることを示す。  【キーワード】 多テープチューリング機械、非決定性チューリング機械	隈部正博	隈部正博
15	アルゴリズムの概念	非決定性チューリング機械を定義し、これが決定性チューリング機械と等価であることを示す。次にチューリング機械と、文法の概念が等しいことをみる。最後にアルゴリズム、計算とは何か、考察する。  【キーワード】 アルゴリズム、計算、チャーチの提唱	隈部正博	隈部正博

この冊子に掲載した 2015 年度新規開設科目の講義内容は、教材の原稿等を作成する時点で主任講師等が執筆しており、実際に印刷教材及び放送教材を制作する時点で内容等を組み替えていることもあり、必ずしも最終的な印刷教材・放送教材と一致していない部分がありますので、ご容赦ください。

なお、放送大学ホームページに掲載されている講義内容については、最新の内容にリアルタイムで更新しております。





古紙配合率100%再生紙を使用しています